

令和6年度（2024年度）
男女共同参画に関する市民意識・実態調査
報告書

令和7年（2025年）1月
吹 田 市

目 次

I	調査概要.....	1
1.	調査目的.....	1
2.	調査方法.....	1
3.	調査内容.....	1
II	調査結果の分析.....	4
1.	回答者自身のことについて	4
2.	男女の平等や地域生活について	6
3.	働くことについて	36
4.	教育について	52
5.	防災対策・災害復興対策について	56
6.	セクシュアル・ハラスメントや配偶者等からの暴力について.....	60
7.	男女共同参画社会の実現について	87
8.	吹田市立男女共同参画センター デュオについて	93
9.	困難な問題を抱える女性への支援について	98
10.	自由意見.....	101
11.	アンケートの結果からわかる傾向や課題について	103
資料	調査票.....	105

I 調査概要

1. 調査目的

吹田市では、行政・市民・事業者が協働して男女共同参画社会を実現するための基盤として、平成 14 年（2002 年）に「吹田市男女共同参画推進条例」を制定し、この条例の目指すところを実現するために、5 次 にわたる「すいた男女共同参画プラン」を策定してこれに基づく事業を推進してきました。

この調査は、第 5 次すいた男女共同参画プランの推進状況を検証するとともに、第 6 次すいた男女共同参画プラン策定に向けた基礎資料とするために実施しました。

2. 調査方法

調 査 地 域：吹田市全域

調 査 対 象：市内に在住する 18 歳以上の市民 2,000 人（令和 6 年（2024 年）7 月 31 日現在）

調 査 方 法：調査対象を無作為抽出し、郵送による配付・回収（インターネット回答含む）を行いました。

有 効 回 答 数：848 人（有効回収率 42.4%） 郵送回答：62.3% インターネット回答：37.7%

調 査 期 間：令和 6 年（2024 年）8 月 23 日(金)～9 月 17 日(火)

3. 調査内容

	調査項目
1. 回答者自身のことについて	問 1 性別
	問 2 年代
	問 3 結婚
	問 4 家族構成
	問 5 職業
2. 男女の平等や地域生活について	問 6 (1)～(8) 各分野における男女の地位について
	問 7 (1)～(6) 結婚・育児に関する意見について
	問 8 「男は仕事、女は家庭」という考え方について
	問 9 (1)～(10) 家庭内の仕事の担当について
	問 10 (1)～(3) 家事、育児、介護に要する時間について
	問 11 「仕事」「家庭生活」などの優先度の希望と現実について
	問 12 社会・地域活動に参加しようとする時のさまたげになることについて
	問 13 男性が家事、子育てなどに参加するために必要なことについて
3. 働くことについて	問 14 女性が職業を持つことについて
	問 15 女性管理職の割合を増やすために必要なことについて
	問 16 (1)～(9) 職場における性別による差について
	問 17 女性が働き続けるために必要なことについて
	問 18 再就職を希望する女性に必要なことについて
	問 19 男性による育児休業や介護休業の取得促進に必要なことについて

	調査項目
4. 教育について	問 20 子供の学歴について
	問 21 学校で必要と考える取り組みについて
5. 防災対策・災害復興 対策について	問 22 災害時に配慮が必要なことについて
	問 23 災害時に必要な配慮を実現するために必要なことについて
6. セクシュアル・ハラス メントや配偶者等か らの暴力について	問 24 (1)～(8) セクシュアル・ハラスメントに関する被害経験について
	問 25 同性間でのセクシュアル・ハラスメントについて
	問 26 (1)～(8) 配偶者・パートナー間の暴力と考えられることについて
	問 27 (1)～(6) 配偶者からされたことについて
	問 28 (1)～(6) 交際相手からされたことについて
	問 28-1 交際相手からされたことの時期について
	問 29 配偶者や交際相手からされたことの相談した先について
	問 29-1 相談しなかった理由について
	問 30 DV相談窓口として知っているものについて
	問 31 DVを防ぐために必要なことについて
7. 男女共同参画社会の実 現について	問 32 女性の人権が尊重されていないと感じることについて
	問 33 男女共同参画社会推進のために力をいれていくべきことについて
8. 吹田市立男女共同参画 センター デュオにつ いて	問 34 (1)～(15) 「ことば」や「ことがら」の認知度について
	問 35 吹田市立男女共同参画センター デュオ（以下、デュオ）の認知度について
	問 35-1 デュオの利用経験について
	問 35-2 デュオを利用したことがない理由について
9. 困難な問題を抱える女 性への支援について	問 36 デュオの講座で実施してほしいテーマについて
	問 37 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律の認知度について
	問 38 困難な問題を抱える女性を支援するための必要な取り組みについて

この報告書の表示について

○グラフ内の数字は特記のない限り、百分比(%)であり、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。このため、百分比の合計値が100.0にならないことがある。

○グラフ内の「n」は、100%にあたる回答数（基数）である。

○図表などではスペースの都合上、選択肢の文言を簡略化して表示している場合がある。

○得られた割合p(%)には誤差が発生する。このサンプリング誤差は以下のとおりである。（信頼度95%）

●サンプリング誤差

サンプリング誤差の単位は%

p (%)→ n (サンプル数) ↓		1	10	20	30	40	50
		99	90	80	70	60	50
総数（全体）	848	0.7	2.0	2.7	3.1	3.3	3.3
女性 18～29 歳	35	3.3	9.9	13.2	15.2	16.2	16.6
女性 30 歳代	55	2.6	7.9	10.6	12.1	12.9	13.2
女性 40 歳代	82	2.2	6.5	8.7	9.9	10.6	10.8
女性 50 歳代	125	1.7	5.3	7.0	8.0	8.6	8.8
女性 60 歳代	87	2.1	6.3	8.4	9.6	10.3	10.5
女性 70 歳以上	107	1.9	5.7	7.6	8.7	9.3	9.5
男性 18～29 歳	32	3.4	10.4	13.9	15.9	17.0	17.3
男性 30 歳代	42	3.0	9.1	12.1	13.9	14.8	15.1
男性 40 歳代	52	2.7	8.2	10.9	12.5	13.3	13.6
男性 50 歳代	60	2.5	7.6	10.1	11.6	12.4	12.6
男性 60 歳代	61	2.5	7.5	10.0	11.5	12.3	12.5
男性 70 歳以上	89	2.1	6.2	8.3	9.5	10.2	10.4

表の見方

「女性 50 歳代」の回答(p)が「30%（または70%）」であった場合、その誤差はプラスマイナス 8.0% となっている。つまり、30%という回答の値は22%（30-8.0%）と38%（30+8.0%）の間の数値を代表していることを意味する。（ということが95%の信頼度でいえる。）

比較のグラフについて

○「市前回」とあるのは、令和2年（2020年）11月に本市が実施。調査方法は、郵送法。有効回答1,068

○「大阪府」とあるのは、令和元年（2019年）8月に大阪府が実施。

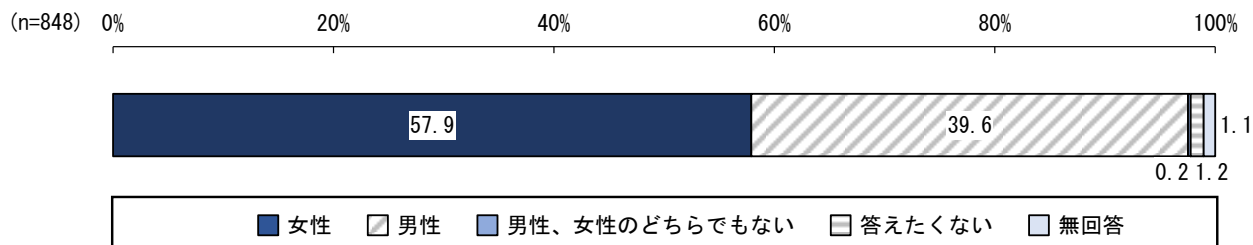
配布は郵送方式、回収は郵送方式及びWEB方式。有効回答897

○「内閣府」とあるのは、令和4年（2022年）11月に内閣府が実施。郵送法。有効回答2,847

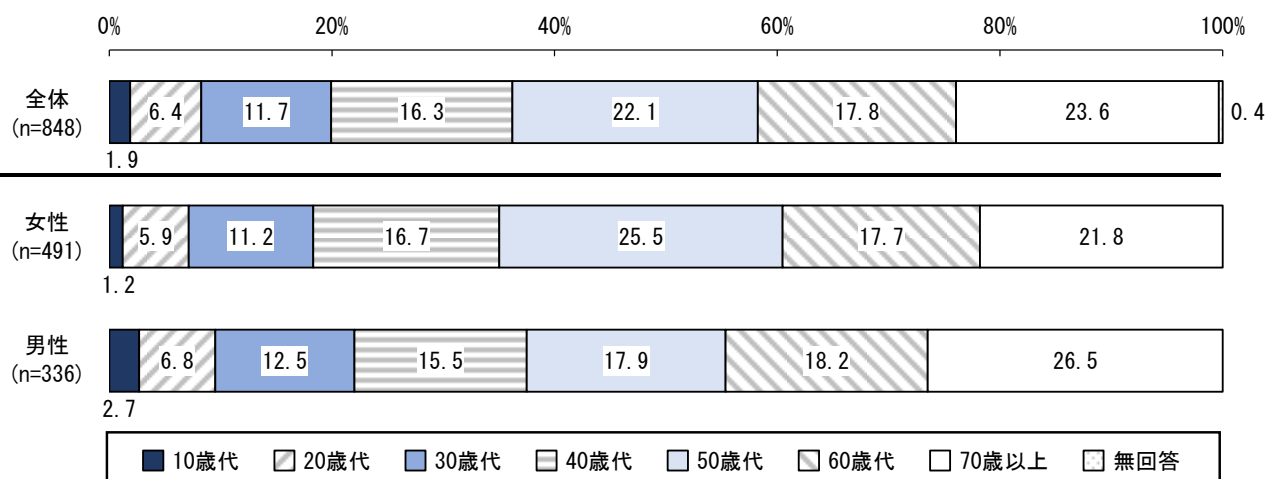
Ⅱ 調査結果の分析

1. 回答者自身のことについて

問1 性別

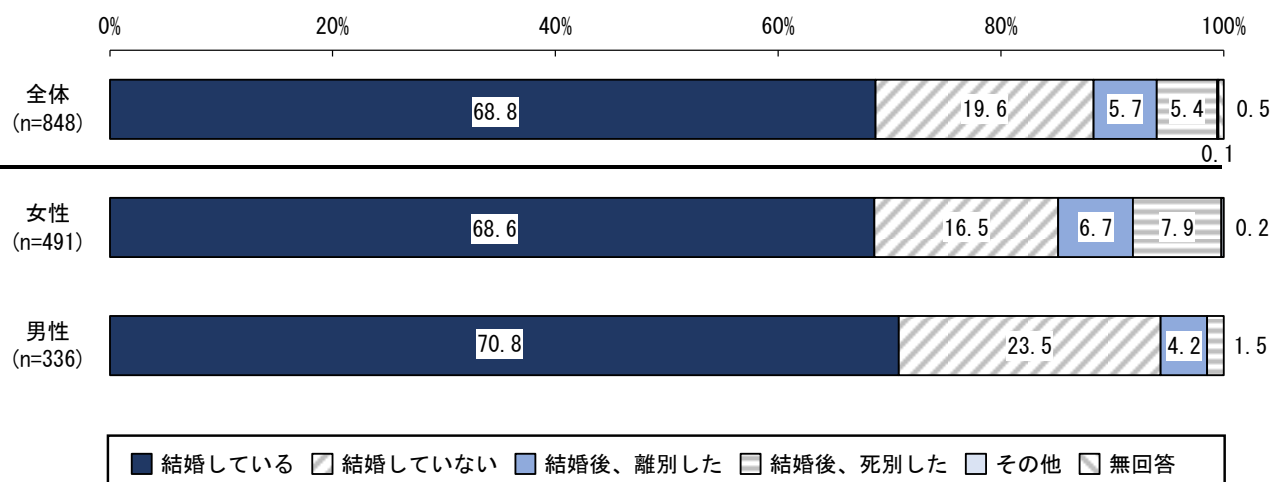


問2 年代

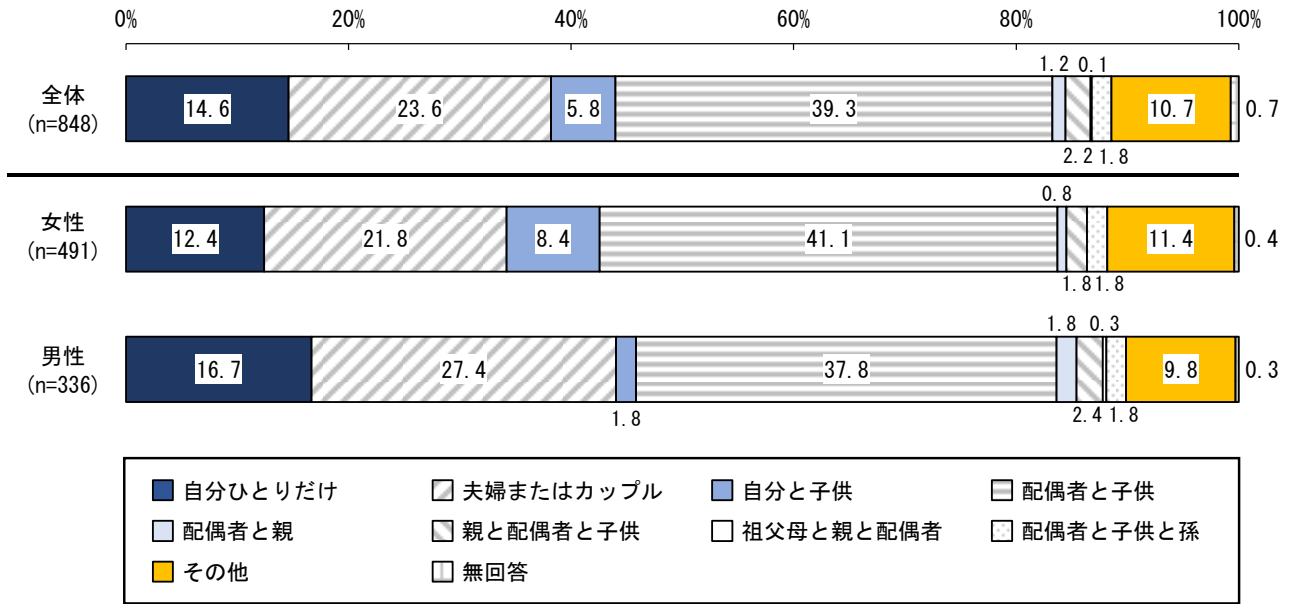


※集計上、「女性」、「男性」以外は少数のため省略している。(以下、同様)

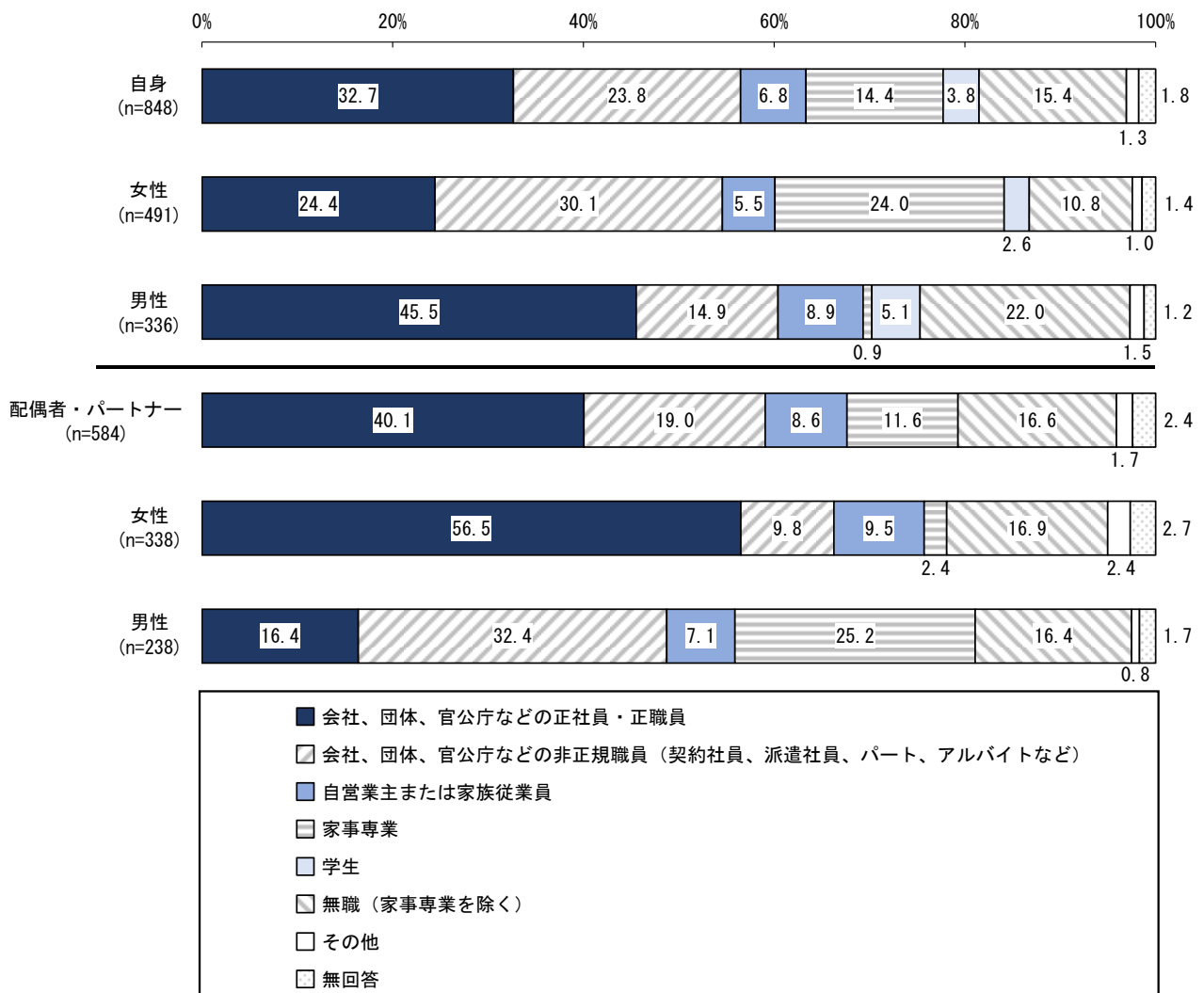
問3 結婚



問4 家族構成



問5 職業



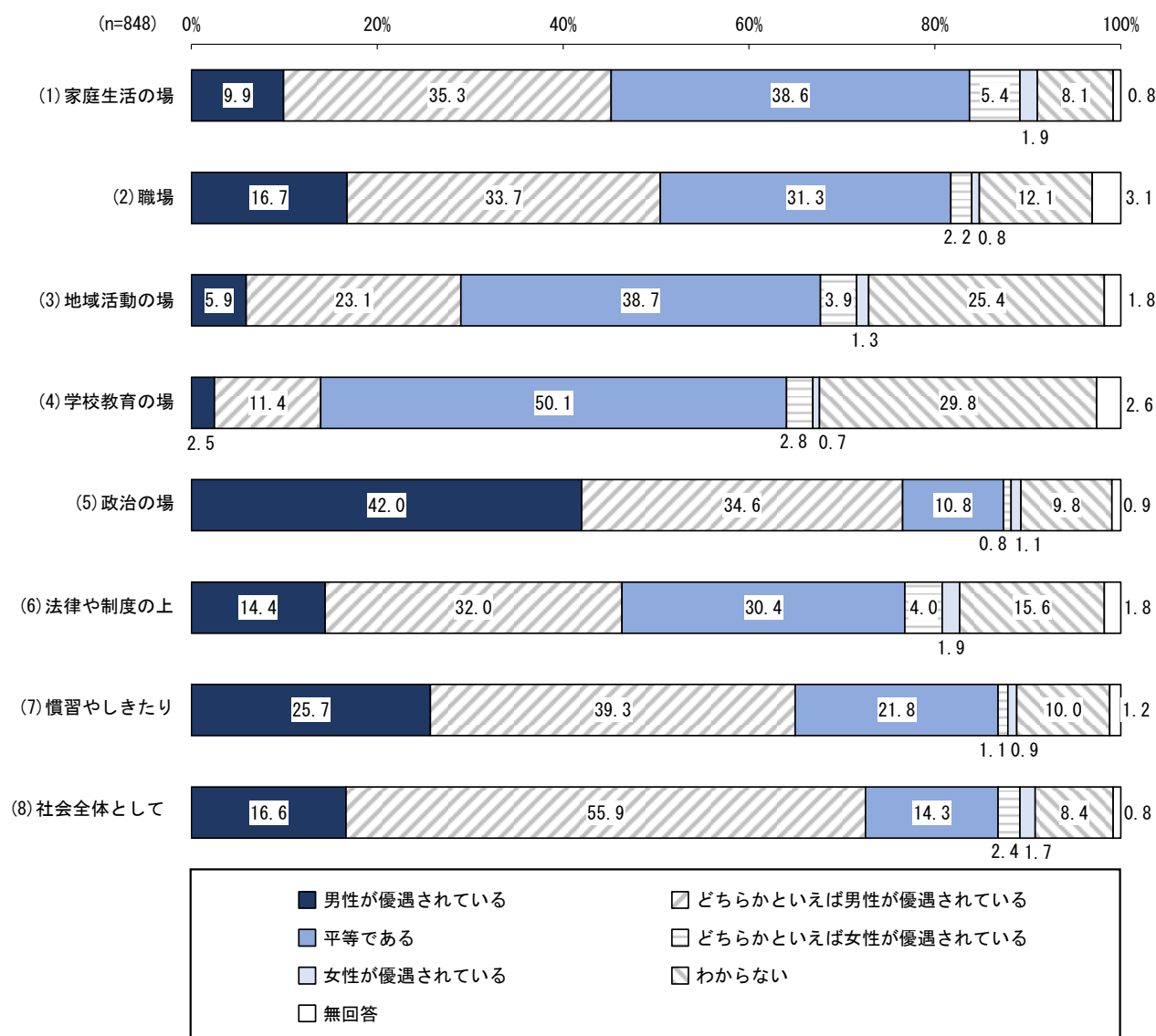
2. 男女の平等や地域生活について

問6 次の各分野において男女の地位は、どの程度平等になっていると思いますか。

〔(1)～(8)それぞれに、○は1つ〕

「男性が優遇されている」では、「(5)政治の場」が42.0%と最も高く、次いで、「(7)慣習やしきたり」が25.7%、「(2)職場」が16.7%となっている。「どちらかといえば男性が優遇されている」では、「(8)社会全体として」が55.9%と最も高く、次いで、「(7)慣習やしきたり」が39.3%、「(1)家庭生活の場」が35.3%となっている。「平等である」では、「(4)学校教育の場」が50.1%と最も高く、次いで、「(3)地域活動の場」が38.7%、「(1)家庭生活の場」が38.6%となっている。

【各分野における男女の地位 (1)～(8)】

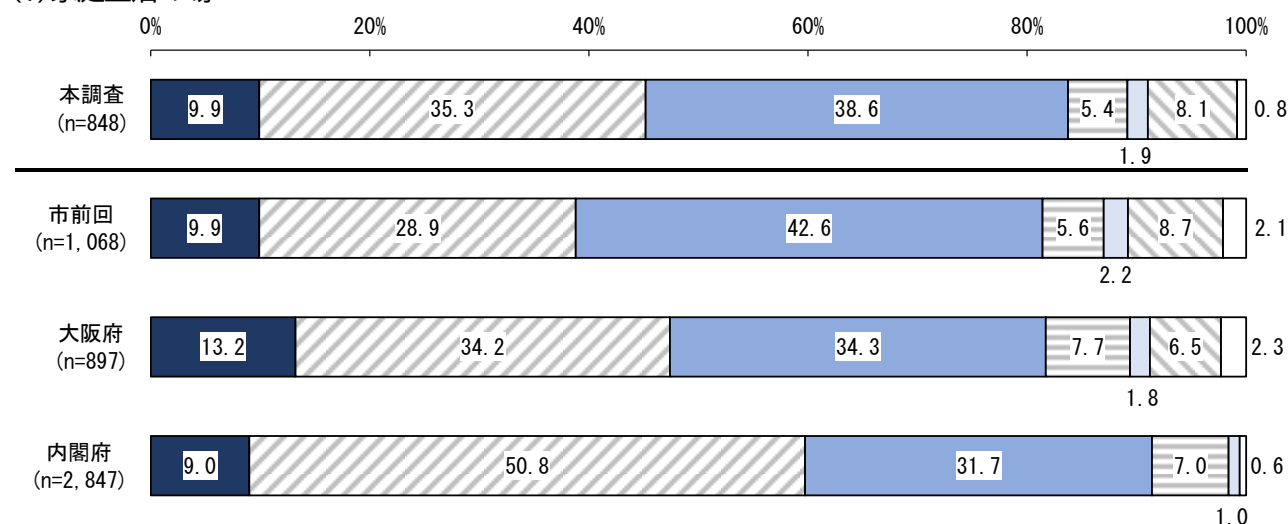


前回調査と比較すると、「(1)家庭生活の場」、「(4)学校教育の場」を除き、多くの項目で「男性が優遇されている」の割合が増加し、中でも「(5)政治の場」は7.9ポイント増加している。

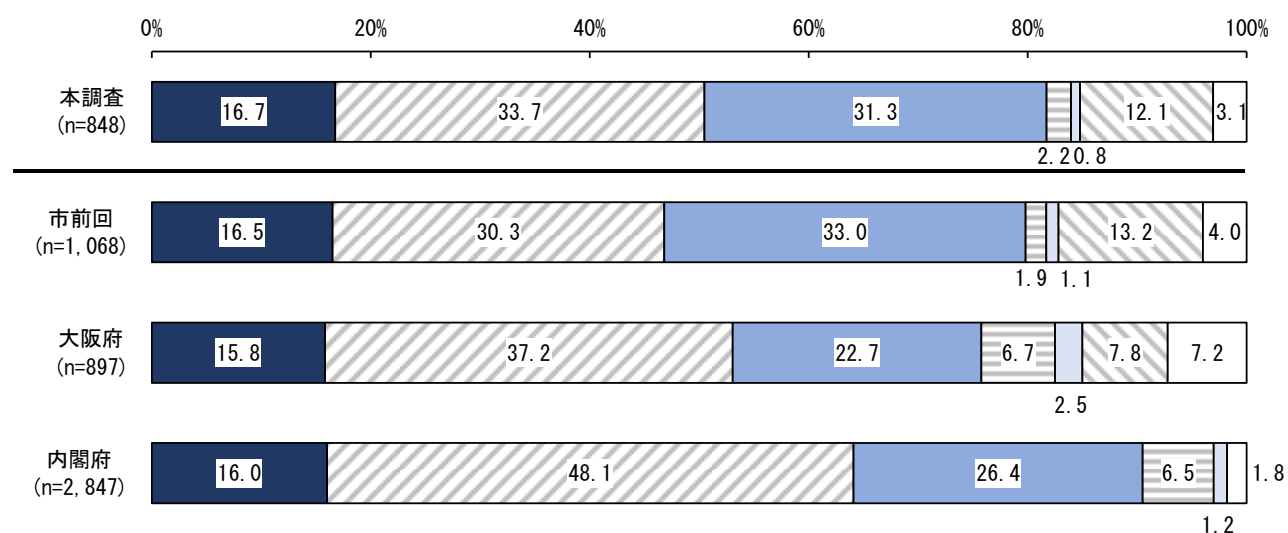
大阪府調査と比較すると、多くの項目で「平等である」が高くなっている。特に「(7)慣習やしきたり」では、10.8ポイント高くなっている。

【各分野における男女の地位 (1)～(8)】

(1)家庭生活の場

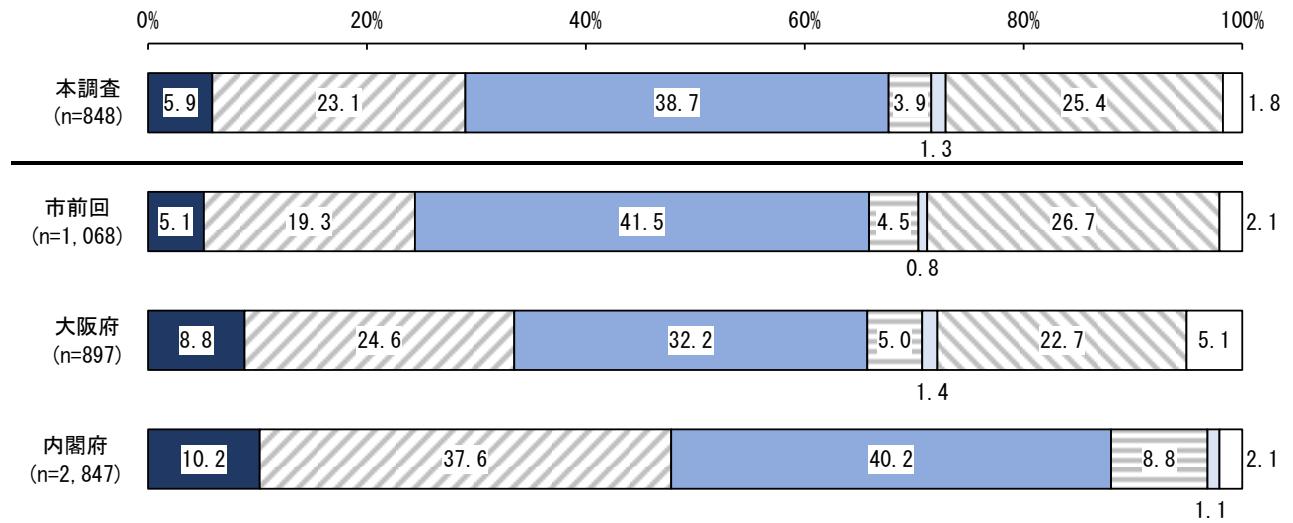


(2)職場

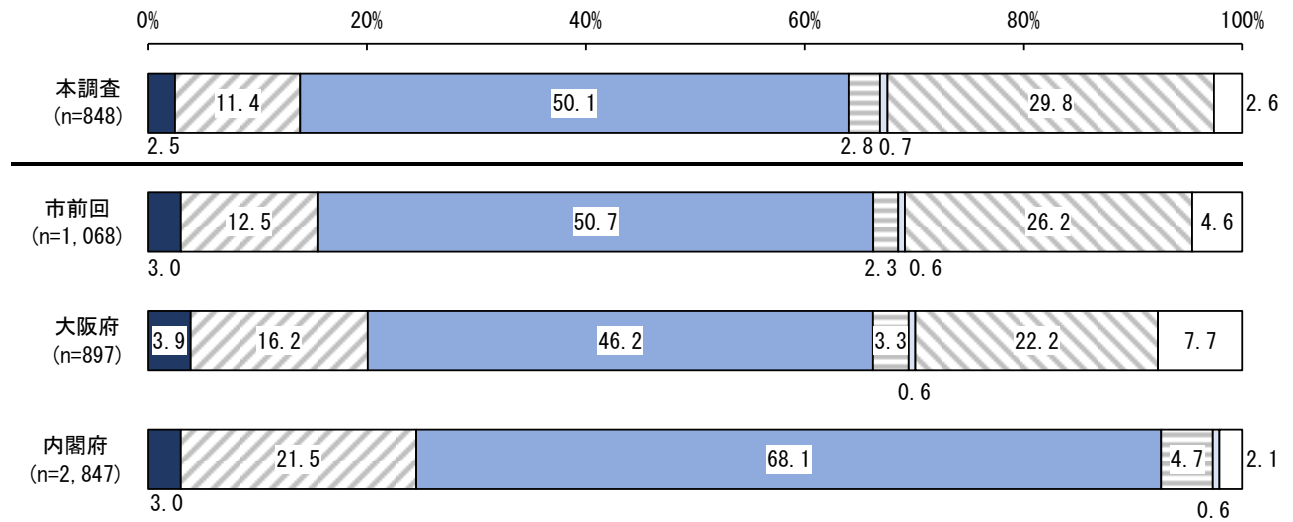


■ 男性が優遇されている □ どちらかといえば男性が優遇されている ■ 平等である
 □ どちらかといえば女性が優遇されている ■ 女性が優遇されている ■ わからない □ 無回答
 ※内閣府調査は選択肢が「男性の方が非常に優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」という表現になっているため、比較結果は参考値。また、内閣府調査は「わからない」を除いて集計。

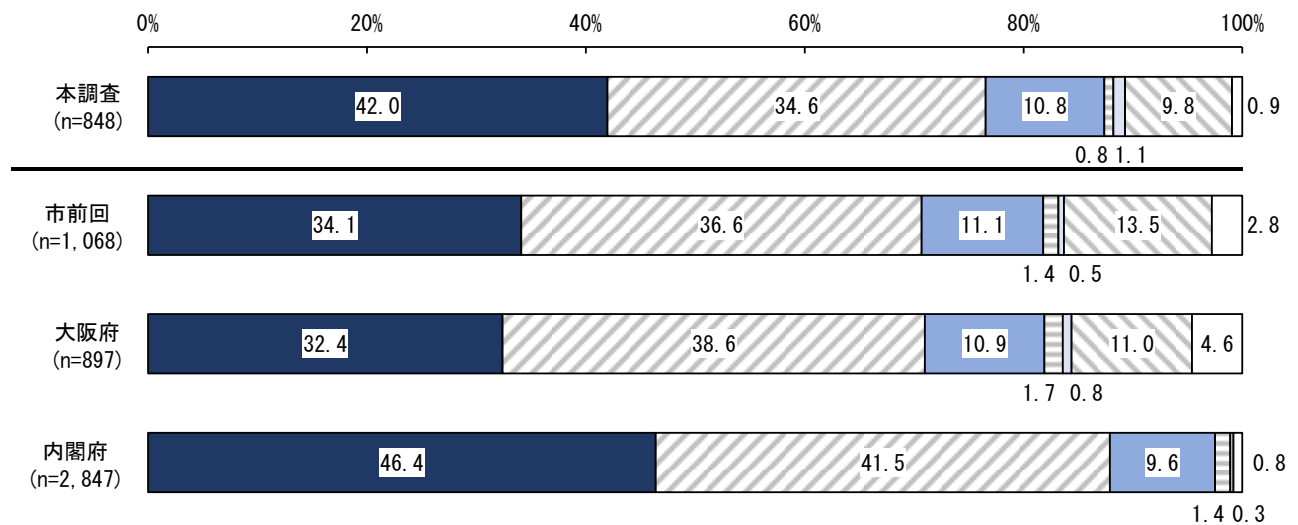
(3) 地域活動の場



(4) 学校教育の場

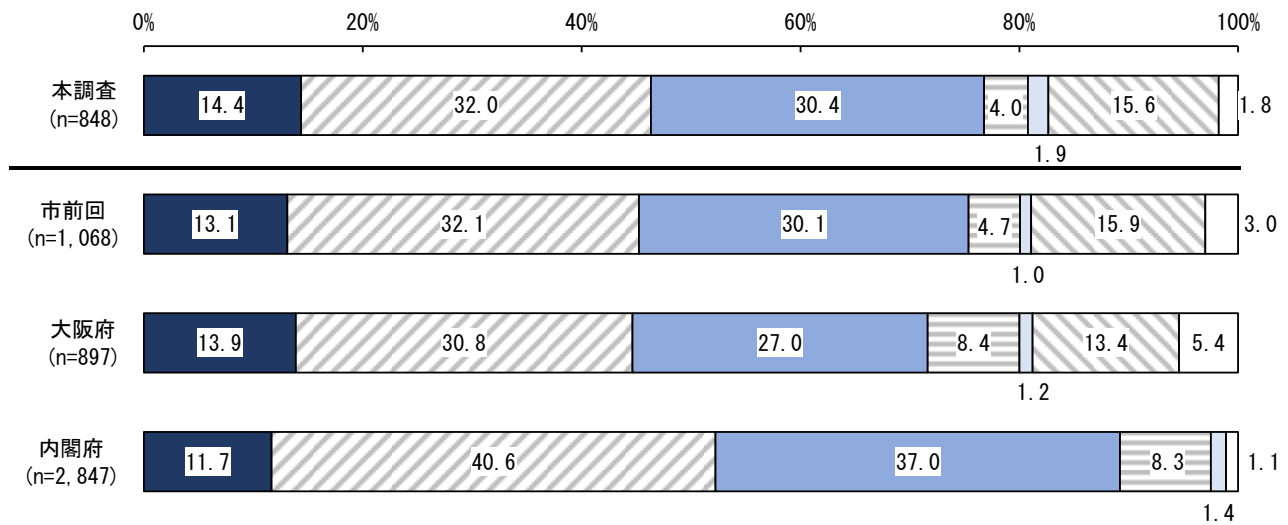


(5) 政治の場

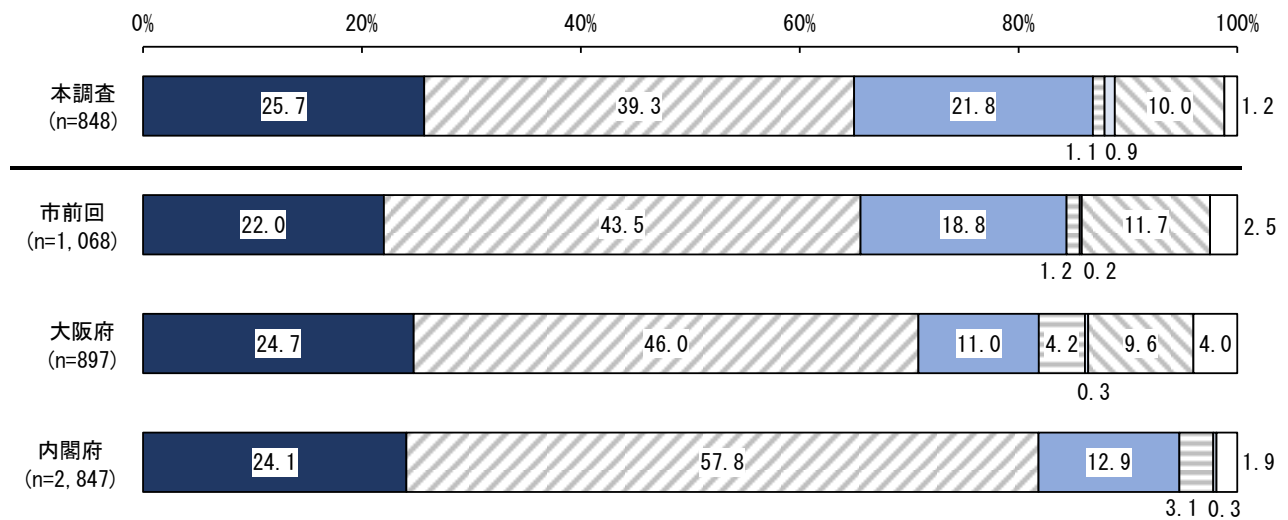


■ 男性が優遇されている □ どちらかといえば男性が優遇されている ■ 平等である
 ■ どちらかといえば女性が優遇されている ■ 女性が優遇されている ■ わからない □ 無回答
 ※内閣府調査は選択肢が「男性の方が非常に優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」という表現になっているため、比較結果は参考値。また、内閣府調査は「わからない」を除いて集計。

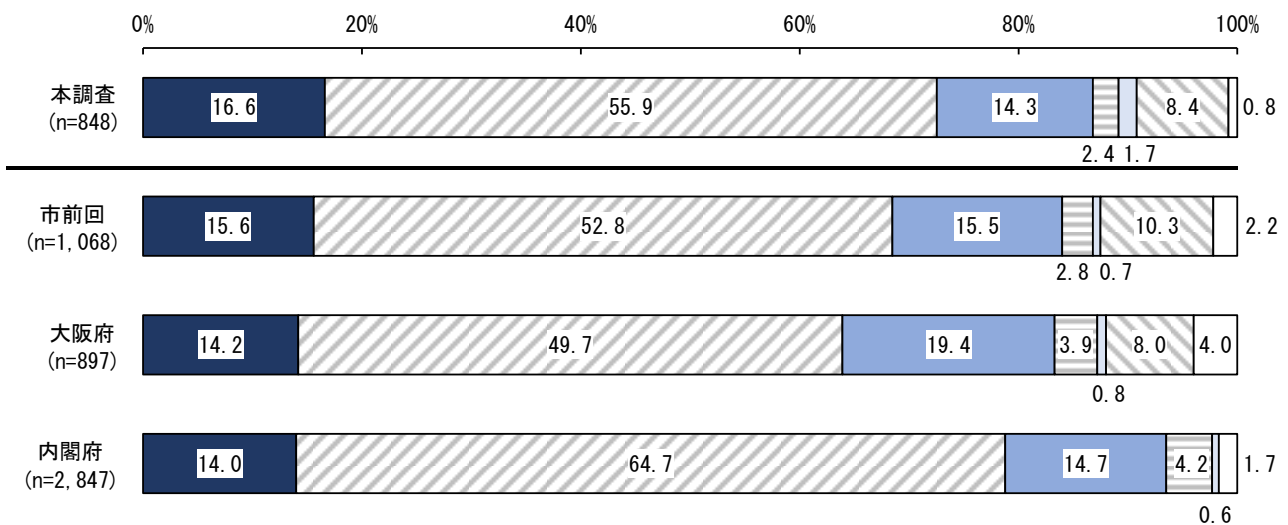
(6) 法律や制度の上



(7) 慣習やしきたり



(8) 社会全体として



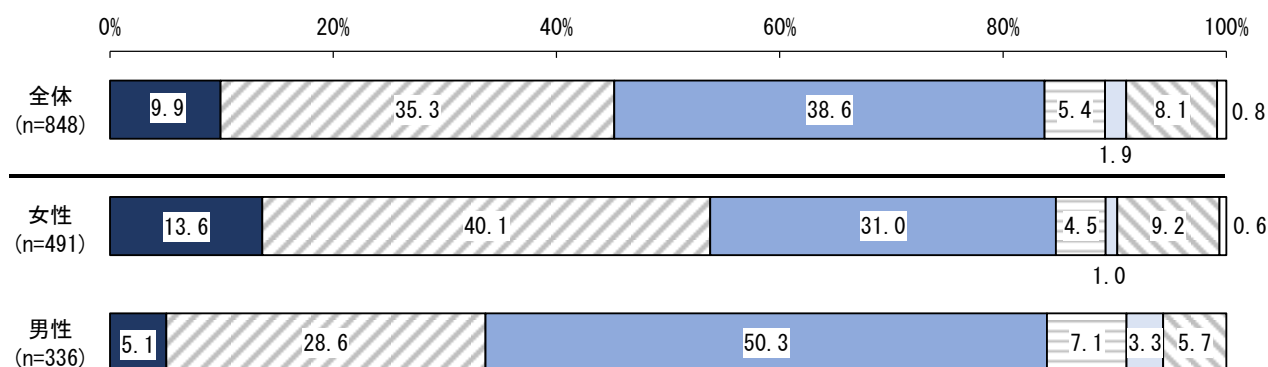
■ 男性が優遇されている □ どちらかといえば男性が優遇されている ■ 平等である
 ■ どちらかといえば女性が優遇されている ■ 女性が優遇されている ■ わからない □ 無回答
 ※内閣府調査は選択肢が「男性の方が非常に優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」という表現になっているため、比較結果は参考値。また、内閣府調査は「わからない」を除いて集計。

性別にみると、「男性が優遇されている」では、すべての項目で、男性より女性の割合が高くなっている。また、「どちらかといえば男性が優遇されている」では、「(5)政治の場」を除く項目で、男性より女性の割合が高くなっている。

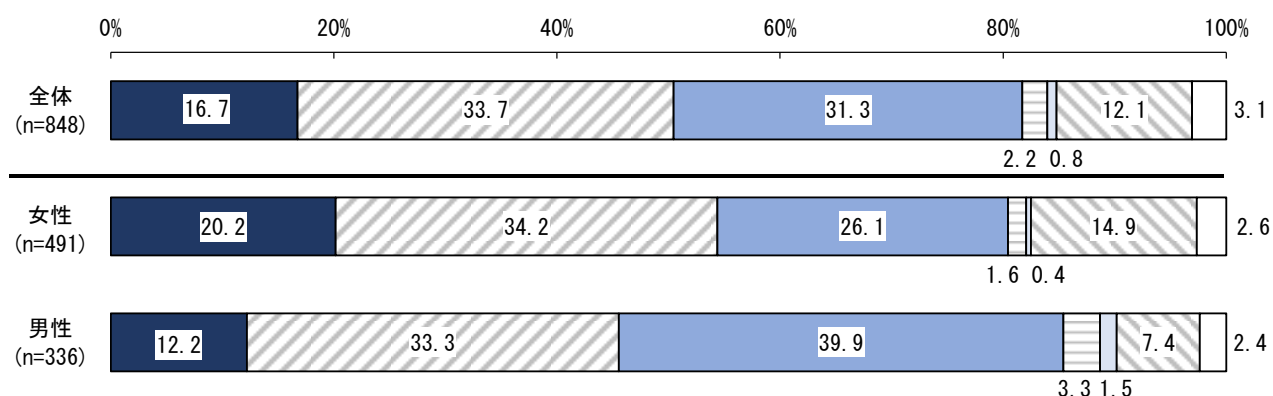
一方、「平等である」では、すべての項目で、女性より男性の割合が高くなっており、中でも、「(1)家庭生活の場」、「(6)法律や制度の上」は、約 20.0 ポイント高くなっている。

【各分野における男女の地位 (1)～(8)】

(1)家庭生活の場

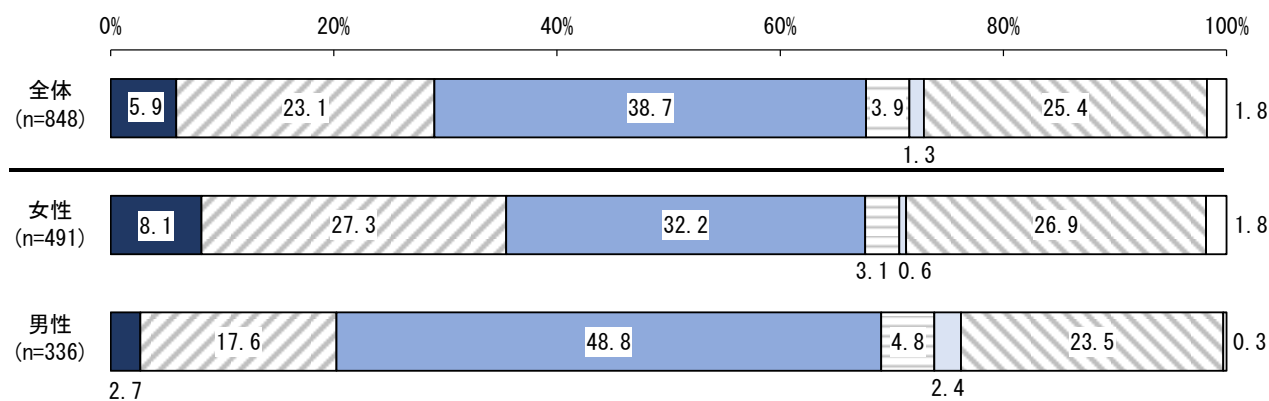


(2)職場

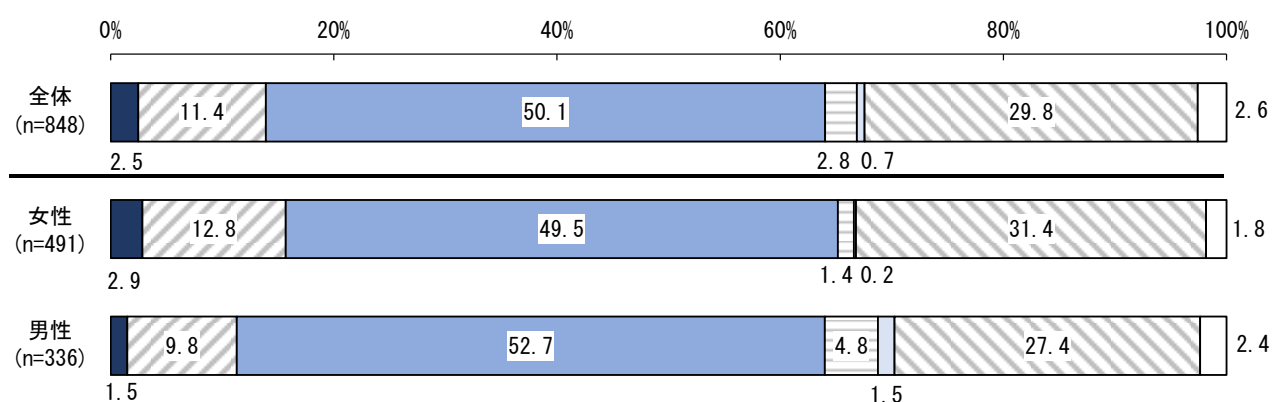


男性が優遇されている
 どちらかといえば男性が優遇されている
 平等である
 どちらかといえば女性が優遇されている
 女性が優遇されている
 わからない
 無回答

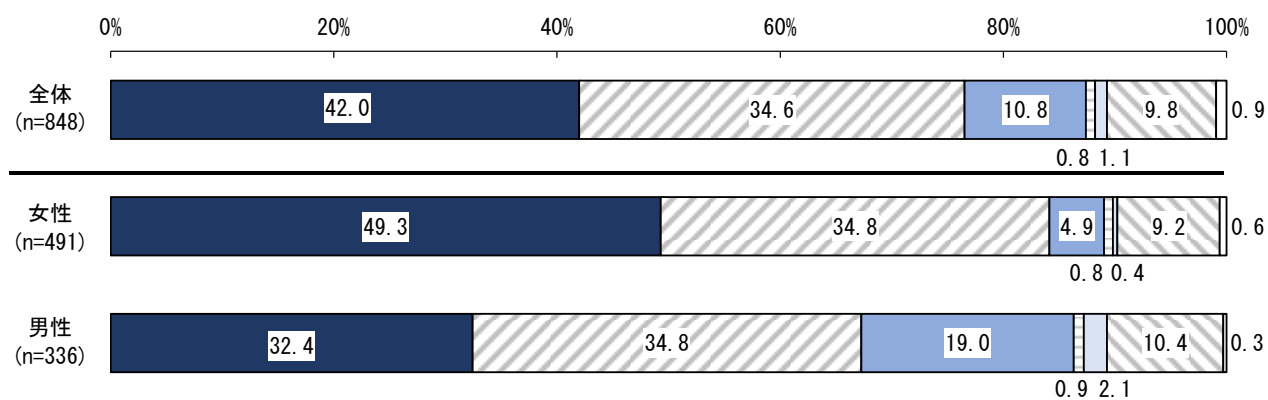
(3) 地域活動の場



(4) 学校教育の場

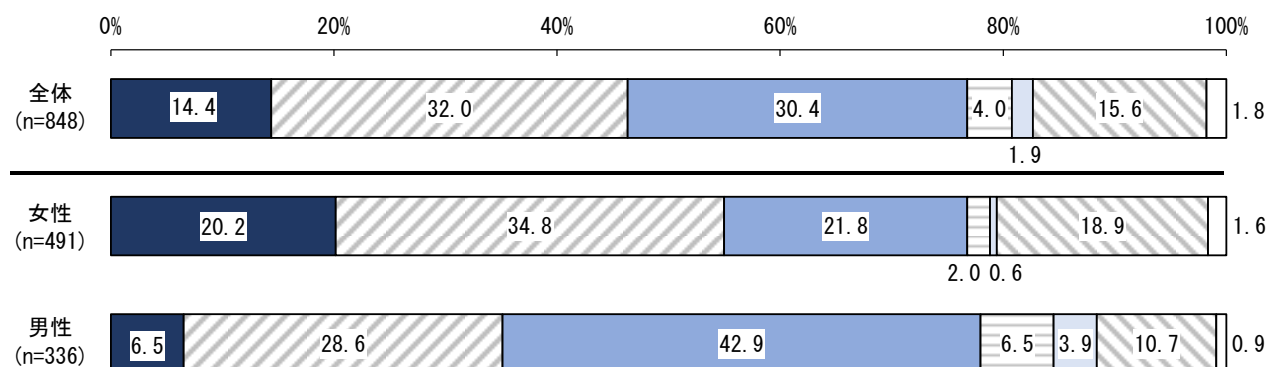


(5) 政治の場

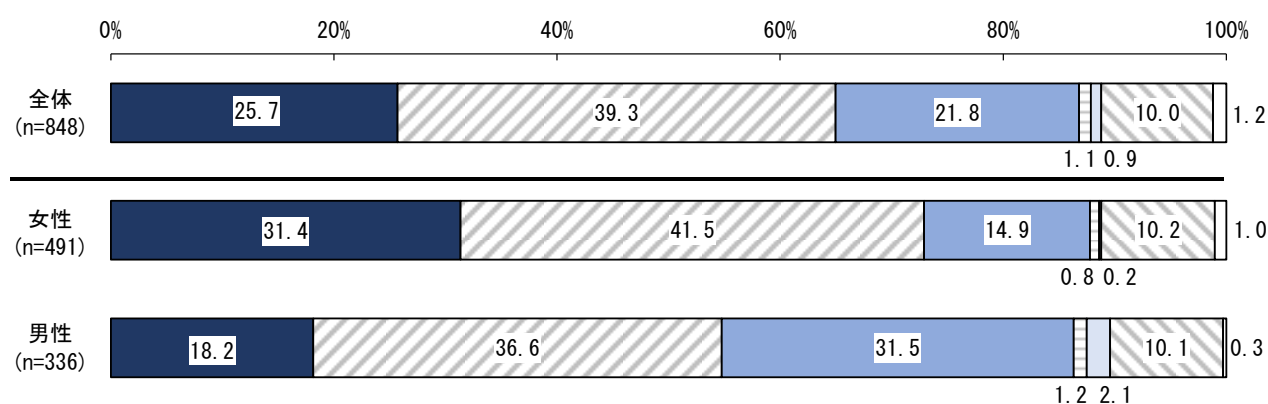


男性が優遇されている
 どちらかといえば男性が優遇されている
 平等である
 どちらかといえば女性が優遇されている
 女性が優遇されている
 わからない
 無回答

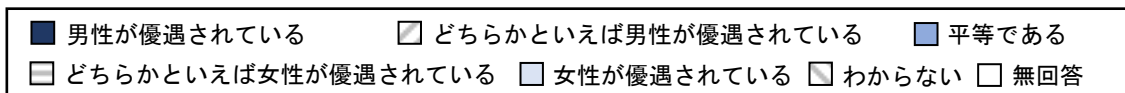
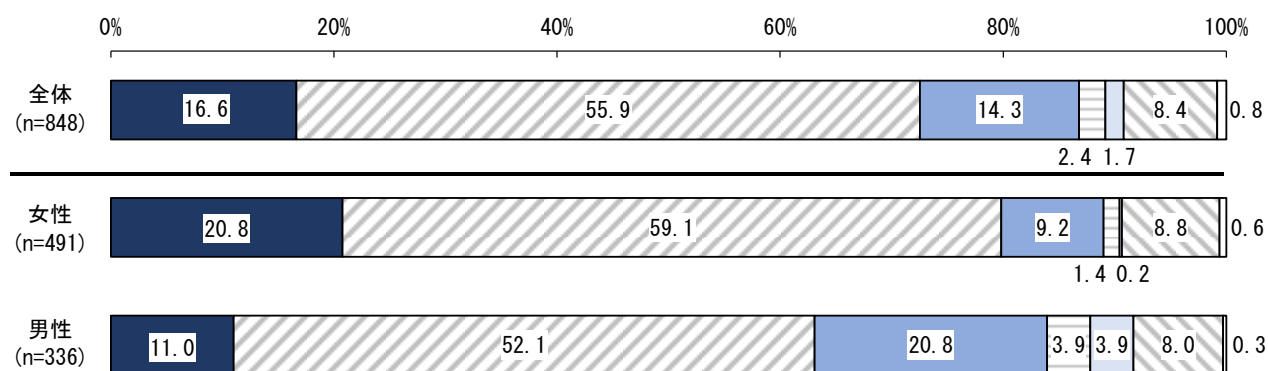
(6) 法律や制度の上



(7) 慣習やしきたり



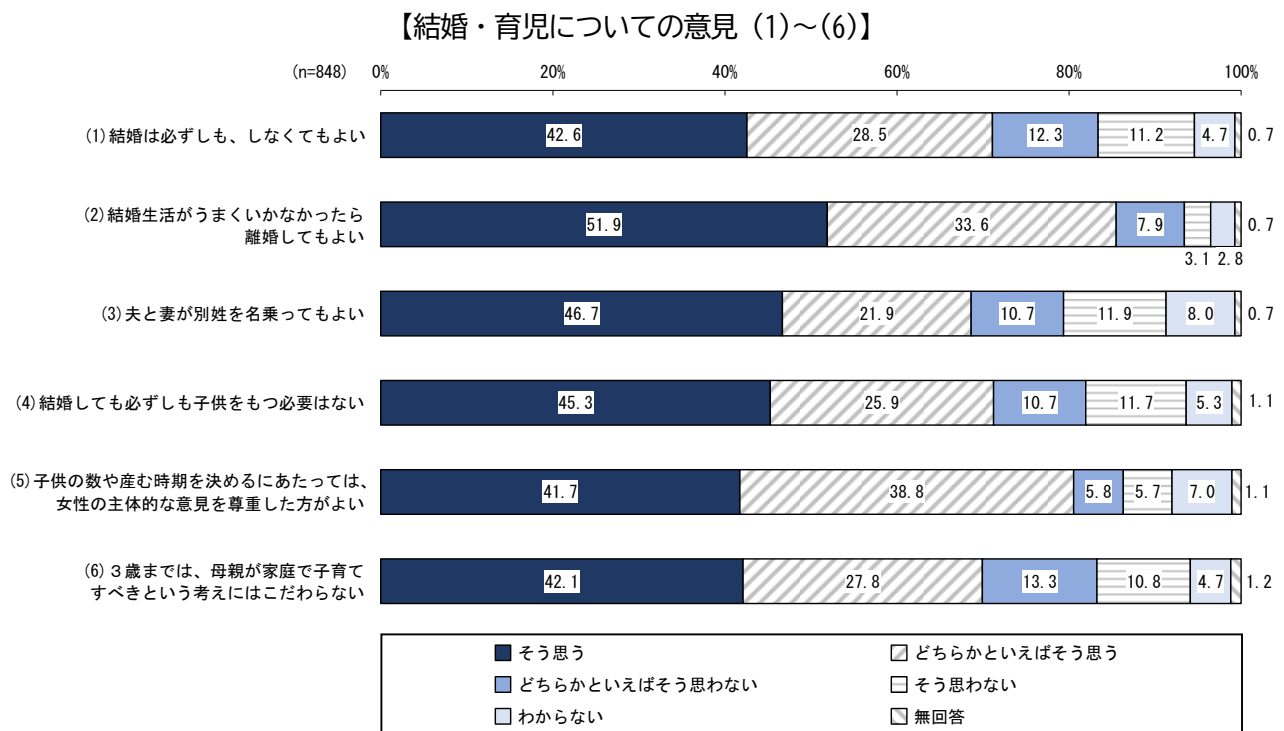
(8) 社会全体として



問7 次のような結婚・育児についての意見をどう思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。
 [(1)～(6)それぞれに、○は1つ]

「そう思う」では、「(2)結婚生活がうまくいかなかったら離婚してもよい」が51.9%と最も高く、次いで、「(3)夫と妻が別姓を名乗ってもよい」が46.7%、「(4)結婚しても必ずしも子供をもつ必要はない」が45.3%となっている。

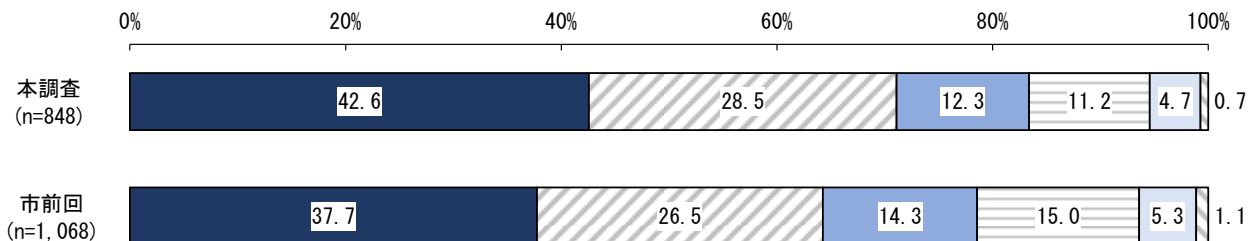
一方、「そう思わない」では、「(3)夫と妻が別姓を名乗ってもよい」が11.9%と最も高く、次いで、「(4)結婚しても必ずしも子供をもつ必要はない」が11.7%、「(1)結婚は必ずしも、しなくてもよい」が11.2%となっている。



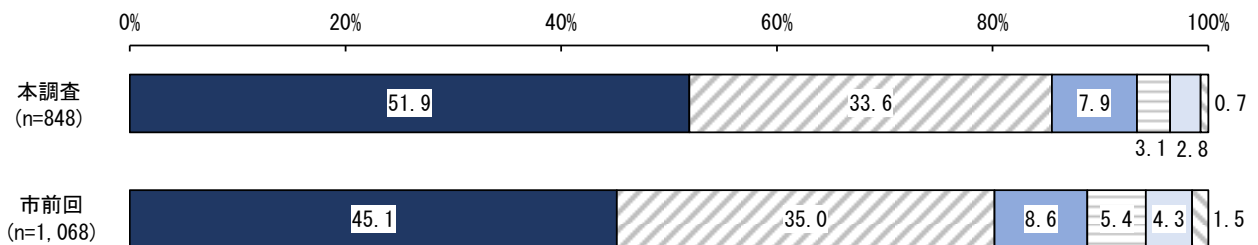
前回調査と比較すると、すべての項目で「そう思う」が増加しており、中でも、「(2)結婚生活がうまくいかなかったら離婚してもよい」では6.8ポイント増加している。

【結婚・育児についての意見 (1)～(6)】

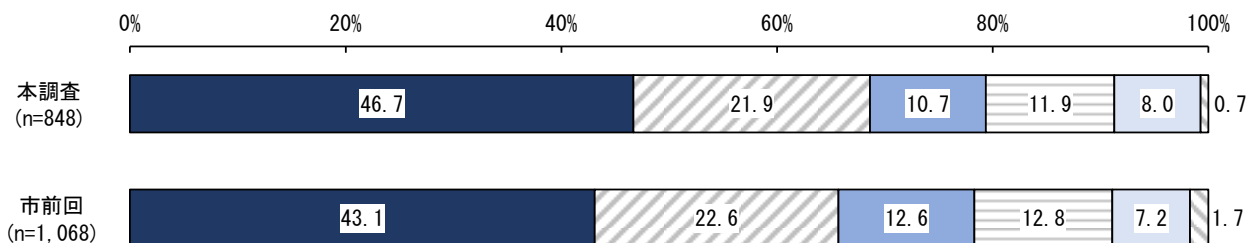
(1)結婚は必ずしも、しなくてもよい



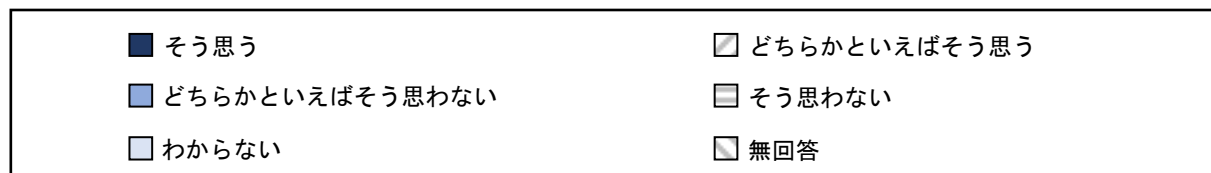
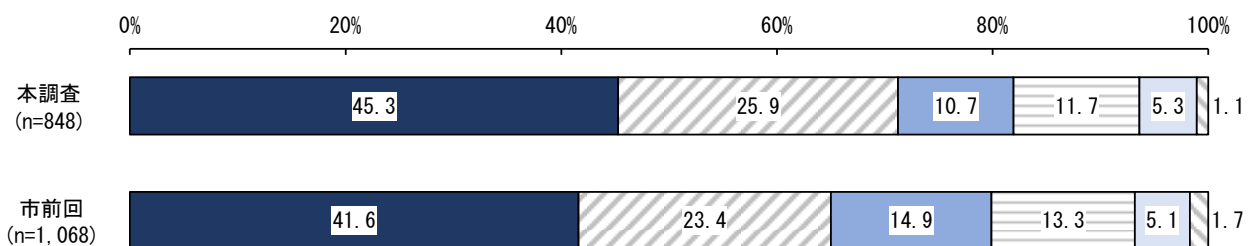
(2)結婚生活がうまくいかなかったら離婚してもよい



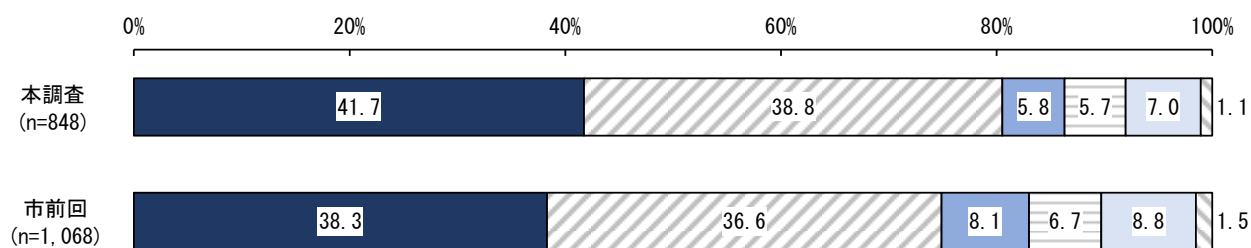
(3)夫と妻が別姓を名乗ってもよい



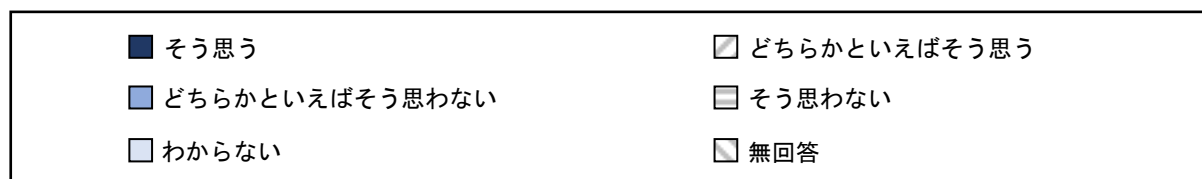
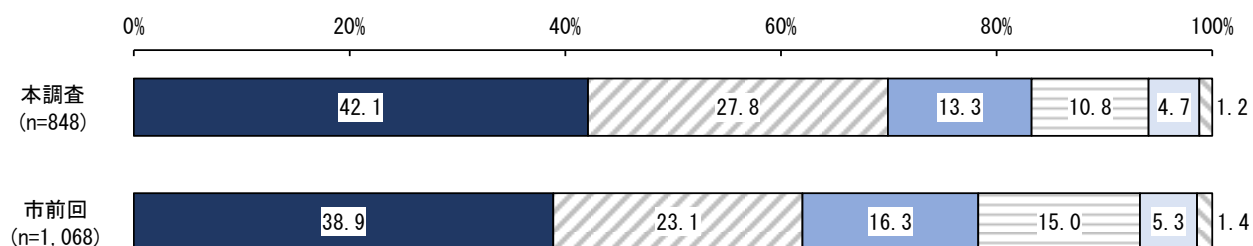
(4)結婚しても必ずしも子供をもつ必要はない



(5) 子供の数や産む時期を決めるにあたっては、女性の主体的な意見を尊重した方がよい



(6) 3歳までは、母親が家庭で子育てすべきという考えにはこだわらない



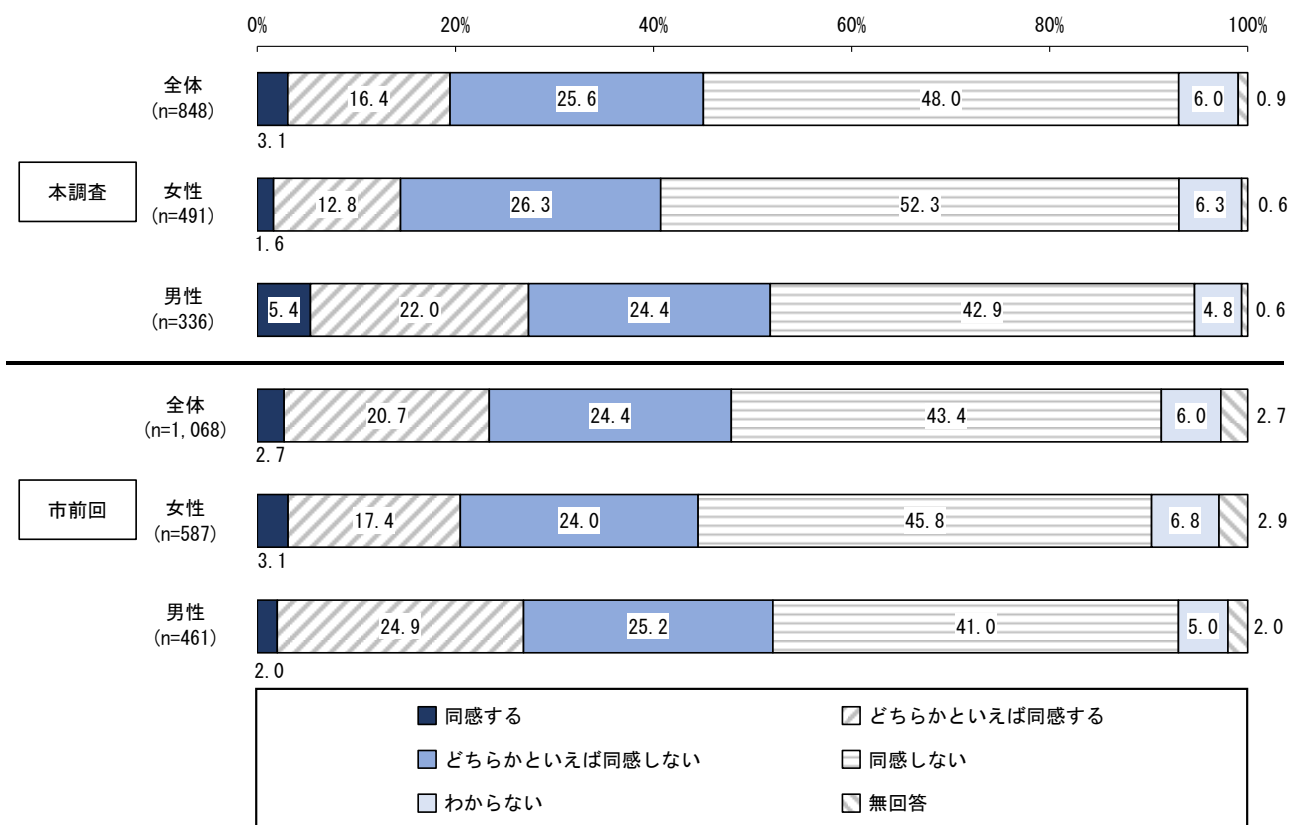
問8 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。[○は1つ]

「同感する」と「どちらかといえば同感する」を合わせた『同感する』が19.5%、「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」を合わせた『同感しない』が73.6%となっている。

性別でみると、男女ともに「同感しない」が最も高く、女性は52.3%と半数を超えている。

前回調査と比較すると、「同感する」と「どちらかといえば同感する」を合わせた『同感する』が3.9ポイント減少し、「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」を合わせた『同感しない』が5.8ポイント増加している。

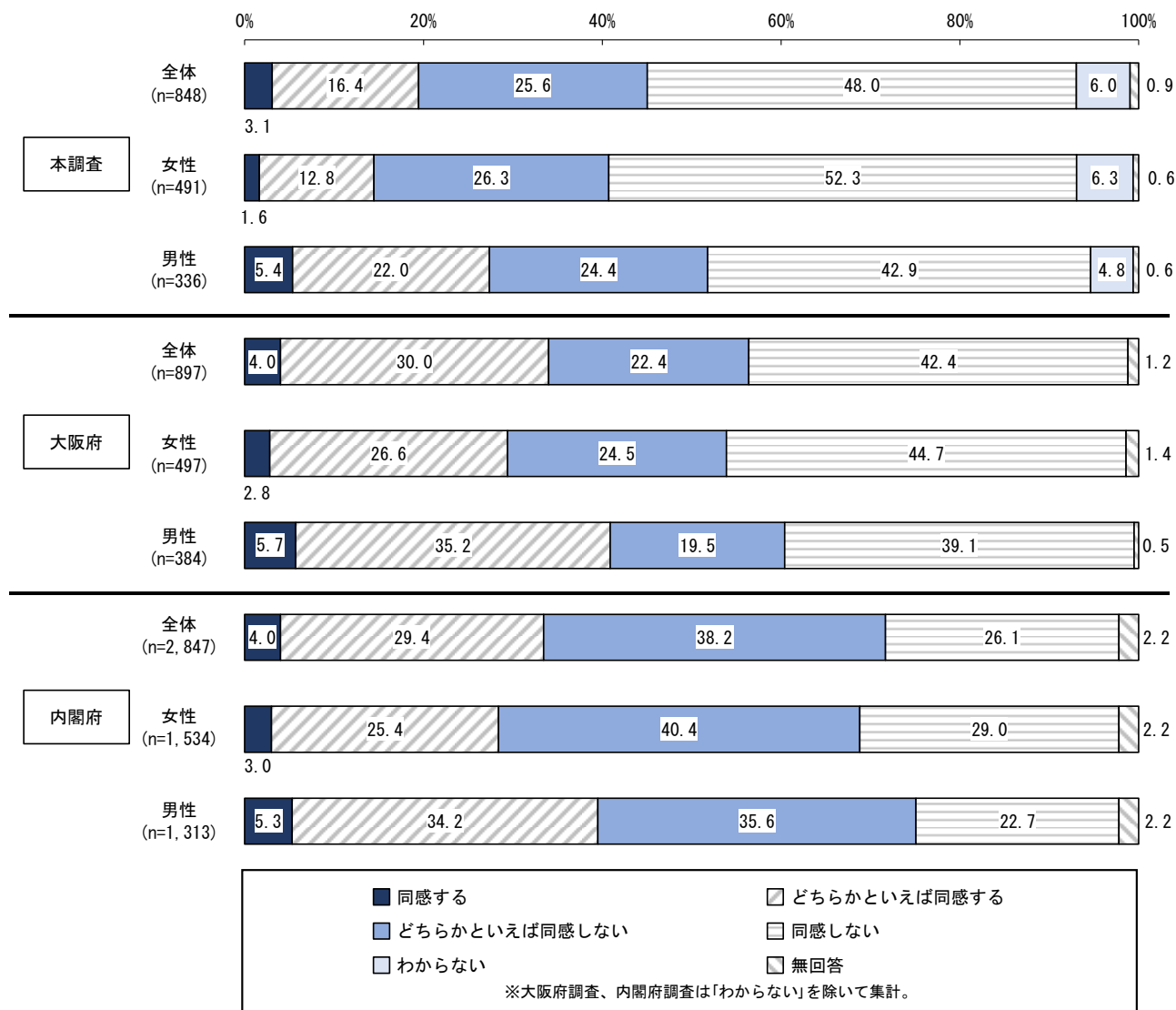
【「男は仕事、女は家庭」という考え方】



大阪府調査と比較すると、「同感する」では、全体で0.9ポイント低くなっており、「同感しない」では、全体で5.6ポイント高くなっている。

内閣府調査と比較すると、「同感する」では、全体で0.9ポイント低くなっており、「同感しない」では、全体で21.9ポイント高くなっている。

【「男は仕事、女は家庭」という考え方】



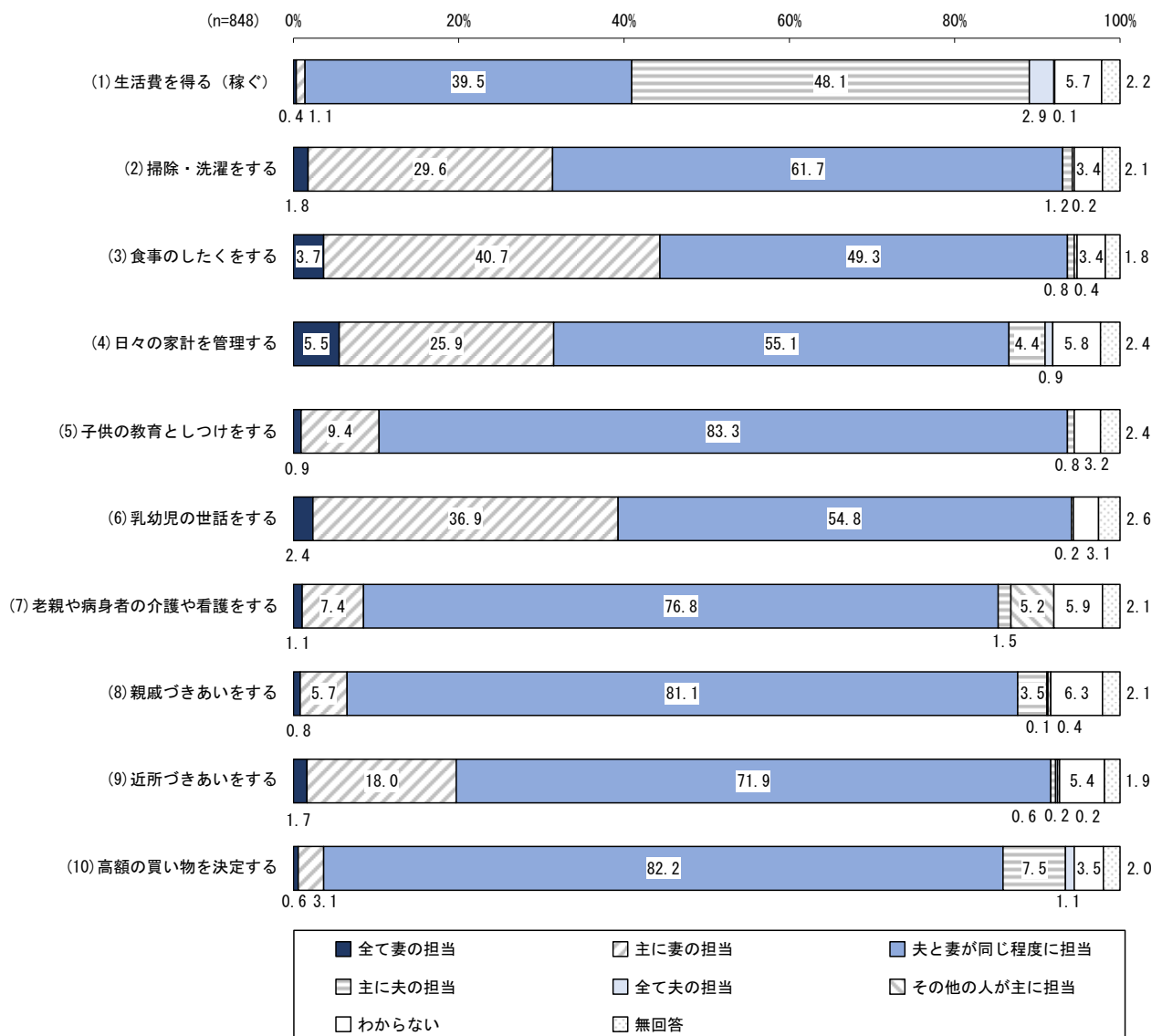
問9 次の家庭内の仕事について、どのように担当するのが望ましいとお考えですか。配偶者・パートナーがいない方も、仮にしていると想定してお答えください。〔(1)～(10)それぞれに、○は1つ〕

「全て妻の担当」と「主に妻の担当」を合わせた『妻の担当が望ましい』と考える人の割合は、「(3)食事のしたくをする」が44.4%と最も高く、次いで、「(6)乳幼児の世話をする」が39.3%、「(2)掃除・洗濯をする」、「(4)日々の家計を管理する」が31.4%となっている。

一方、「全て夫の担当」と「主に夫の担当」を合わせた『夫の担当が望ましい』と考える人の割合は、「(1)生活費を得る（稼ぐ）」が51.0%と最も高くなっている。

また、「夫と妻が同じ程度に担当」では、多くの項目で、半数を超えている。

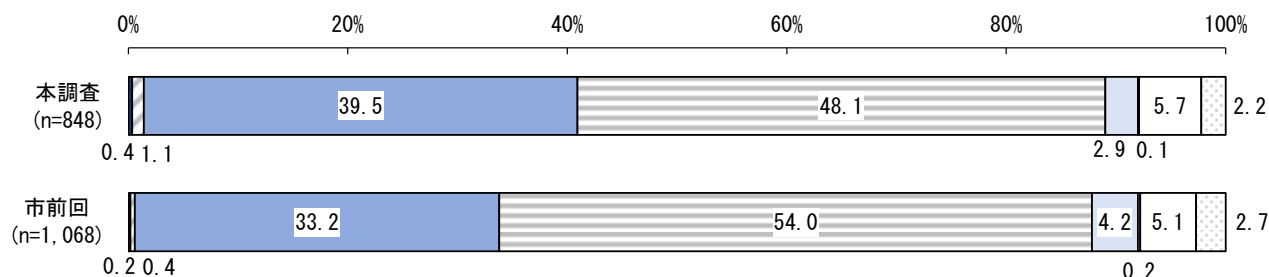
【家庭内の仕事の担当 (1)～(10)】



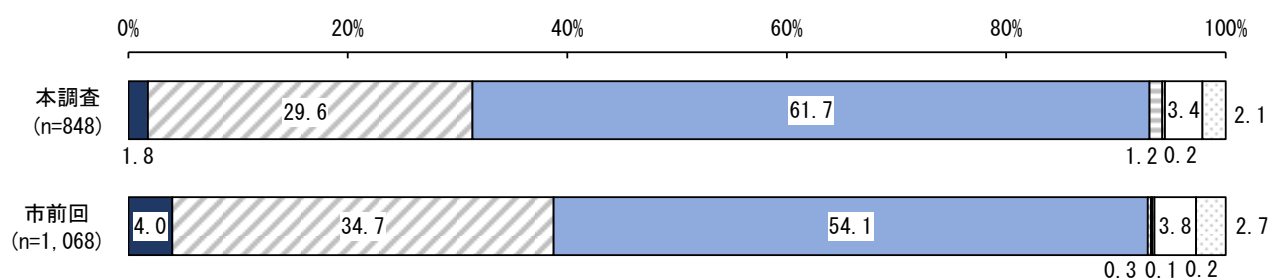
前回調査と比較すると、「夫と妻が同じ程度に担当」では、「(8)親戚づきあいをする」を除く項目で増加しており、中でも、「(4)日々の家計を管理する」は8.8ポイント、「(6)乳幼児の世話をする」は8.1ポイント増加している。

【家庭内の仕事の担当 (1)～(10)】

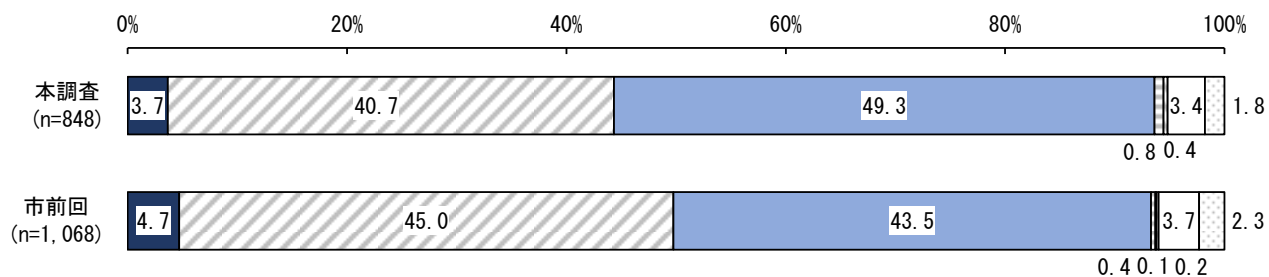
(1)生活費を得る（稼ぐ）



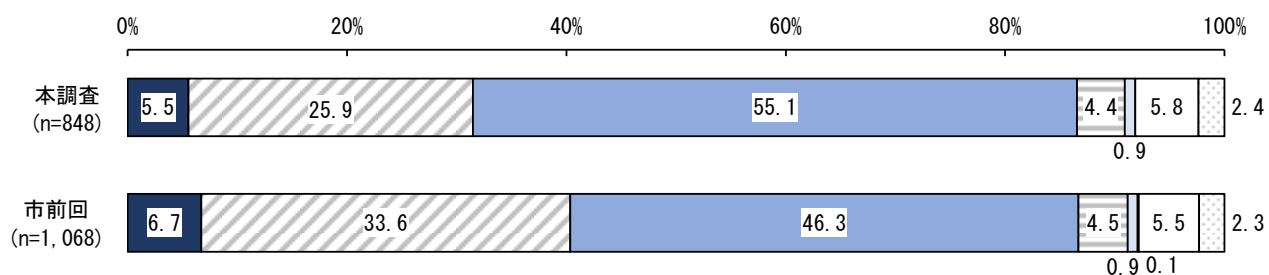
(2)掃除・洗濯をする



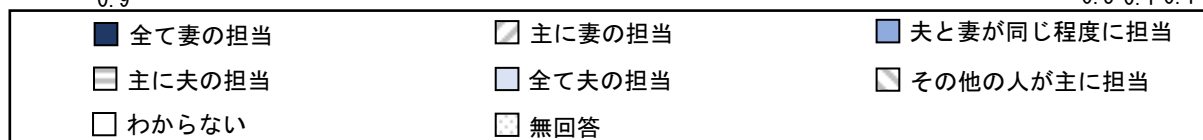
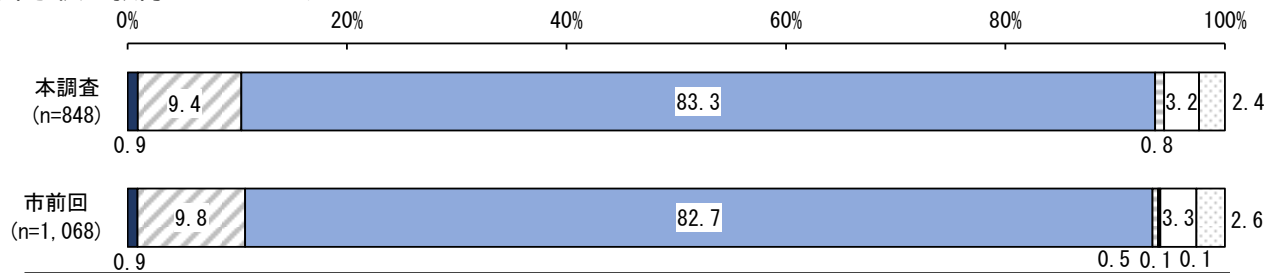
(3)食事のしたくをする



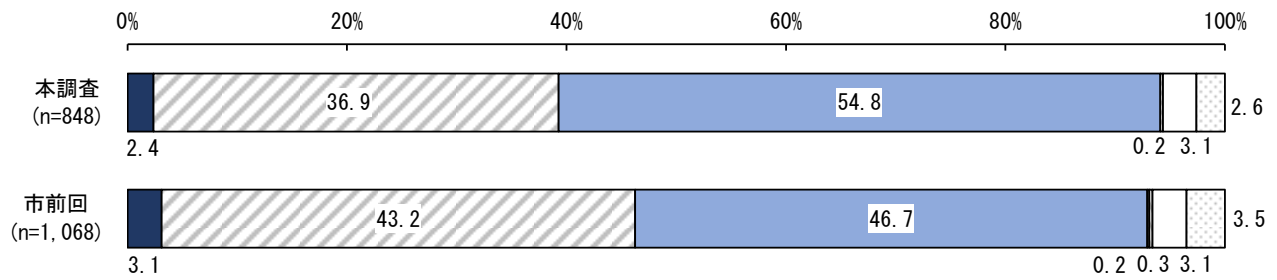
(4)日々の家計を管理する



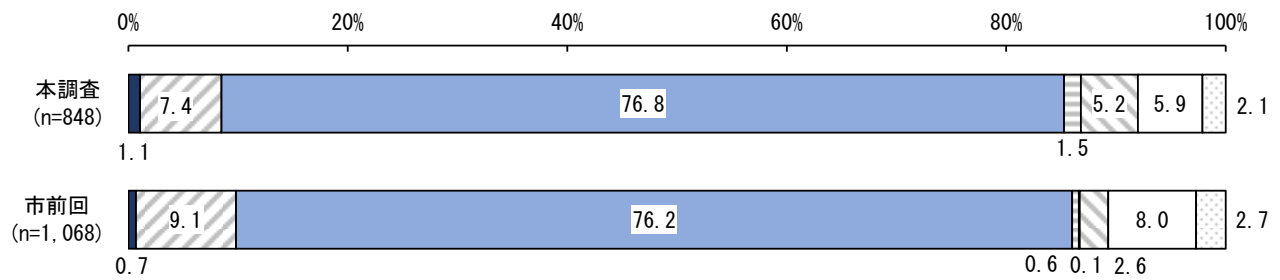
(5)子供の教育としつけをする



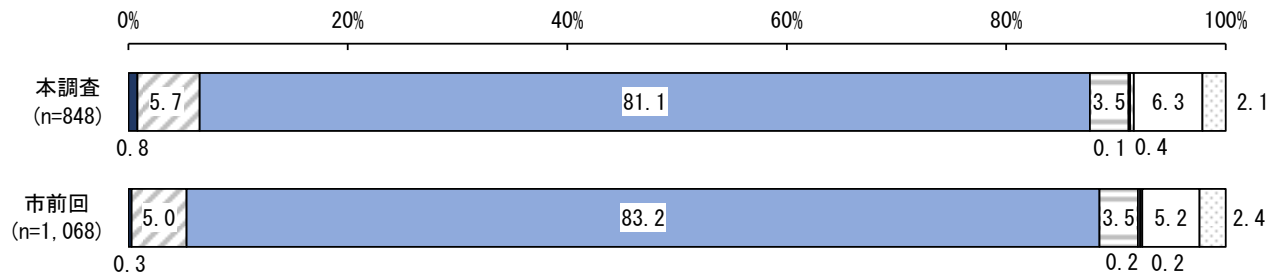
(6)乳幼児の世話をする



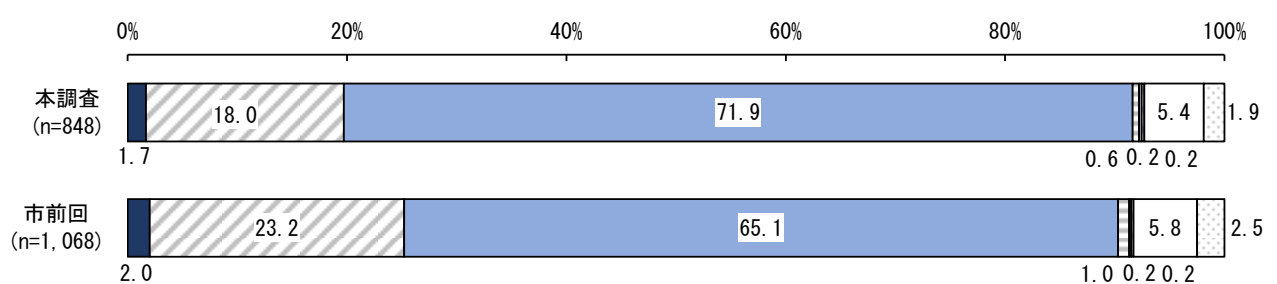
(7)老親や病身者の介護や看護をする



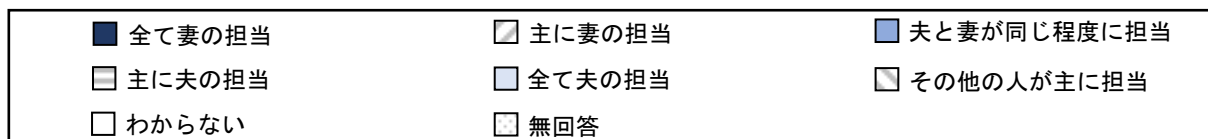
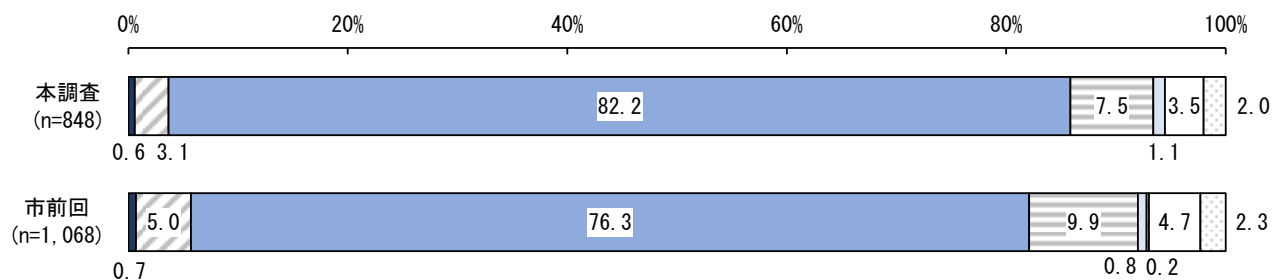
(8)親戚づきあいをする



(9)近所づきあいをする



(10)高額の買い物を決定する

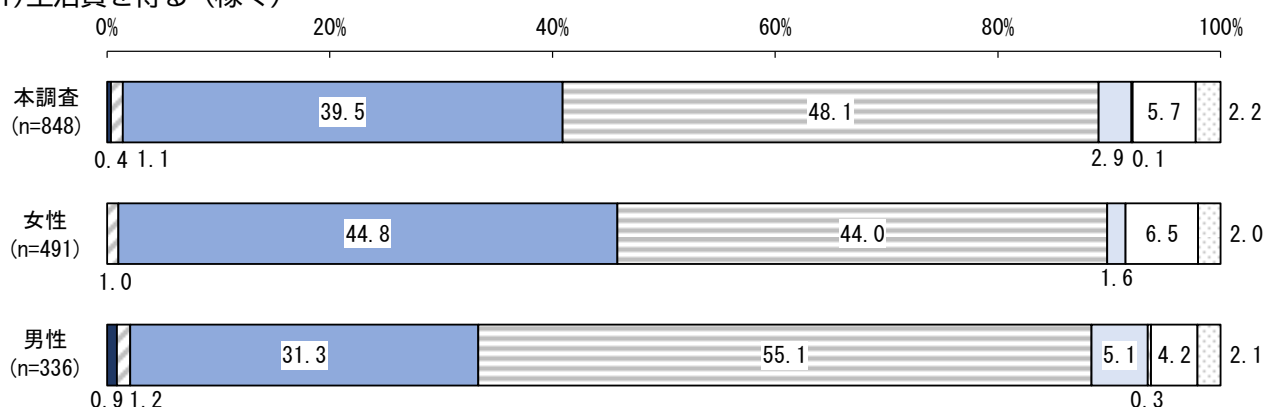


性別にみると、「夫と妻が同じ程度に担当」では、すべての項目で男性より女性の割合が高くなっており、中でも「(3)食事のしたくをする」は15.0ポイント差となっている。

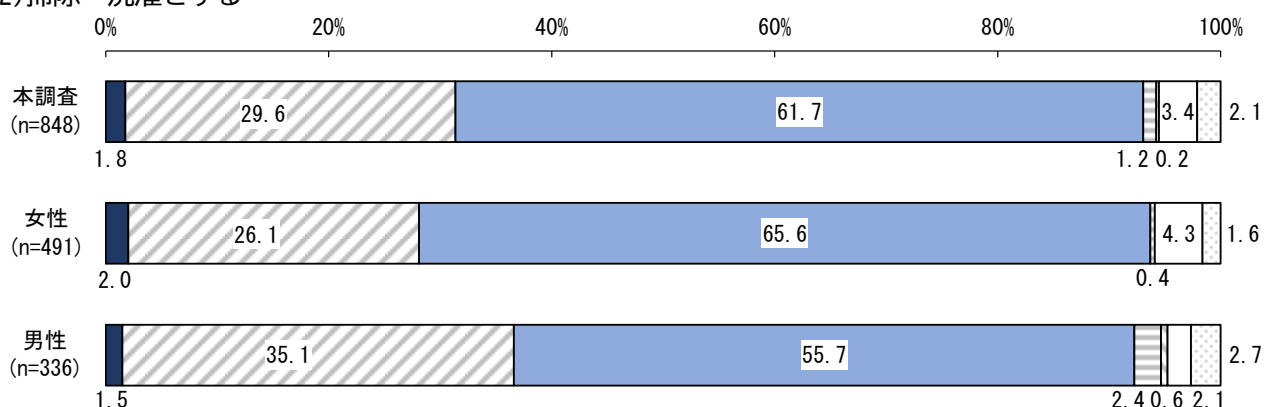
「全て妻の担当」と「主に妻の担当」を合わせた『妻の担当が望ましい』と考える人の割合は、ほとんどの項目で男性の方が高くなっているが、「(8)親戚づきあいをする」と「(9) 近所づきあいをする」は女性の方が高くなっている。一方、「全て夫の担当」と「主に夫の担当」を合わせた『夫の担当が望ましい』と考える人の割合は、すべての項目で男性の方が高くなっている。

【家庭内の仕事の担当 (1)～(10)】

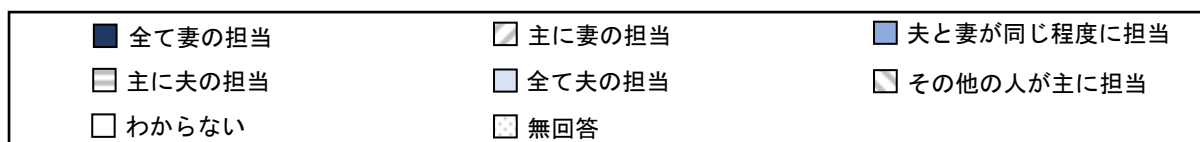
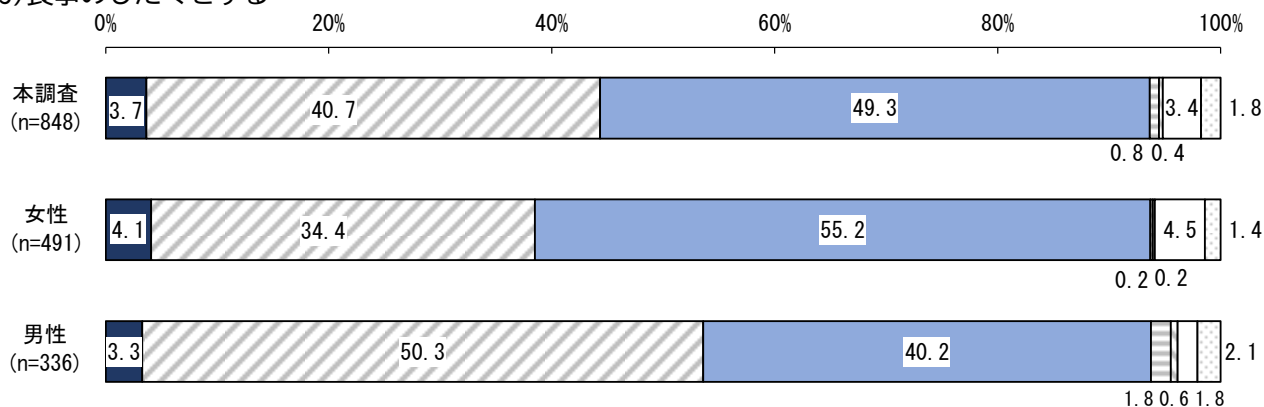
(1)生活費を得る（稼ぐ）



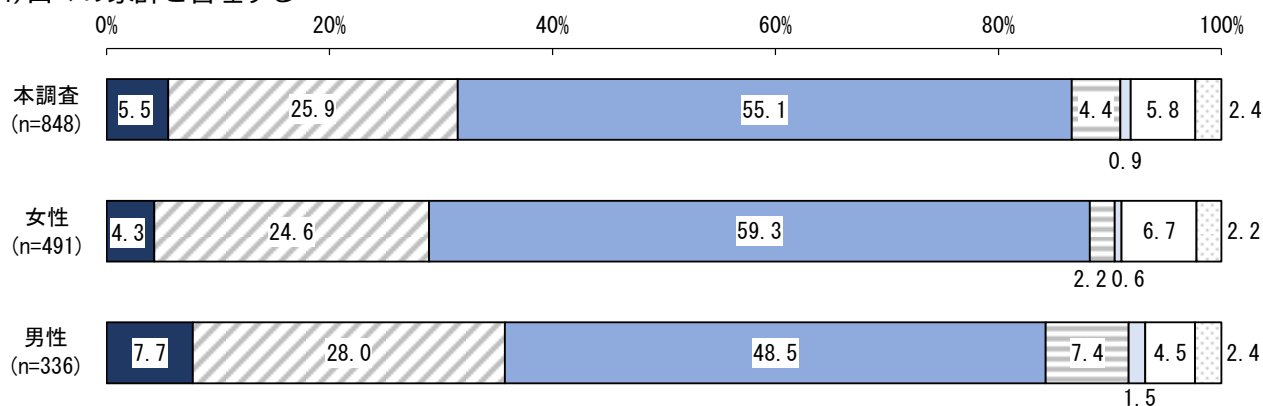
(2)掃除・洗濯をする



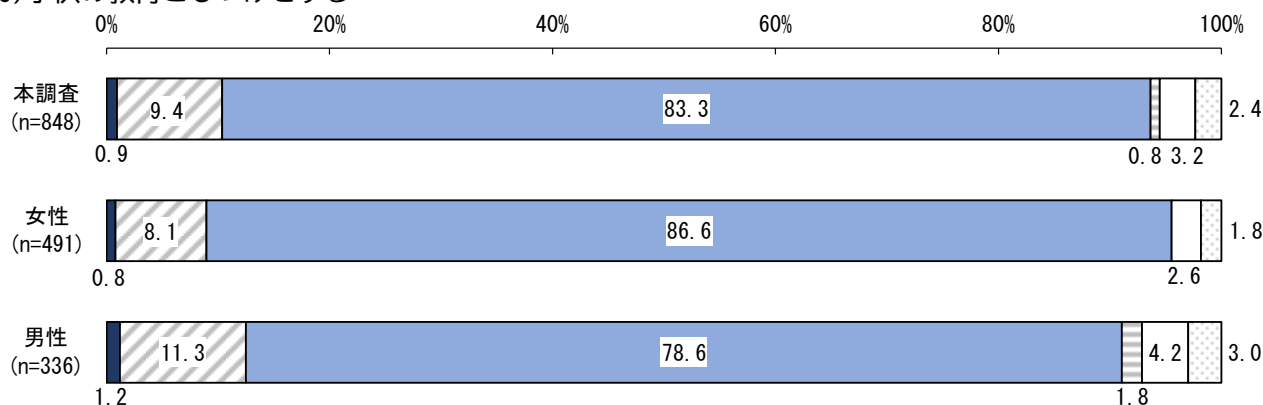
(3)食事のしたくをする



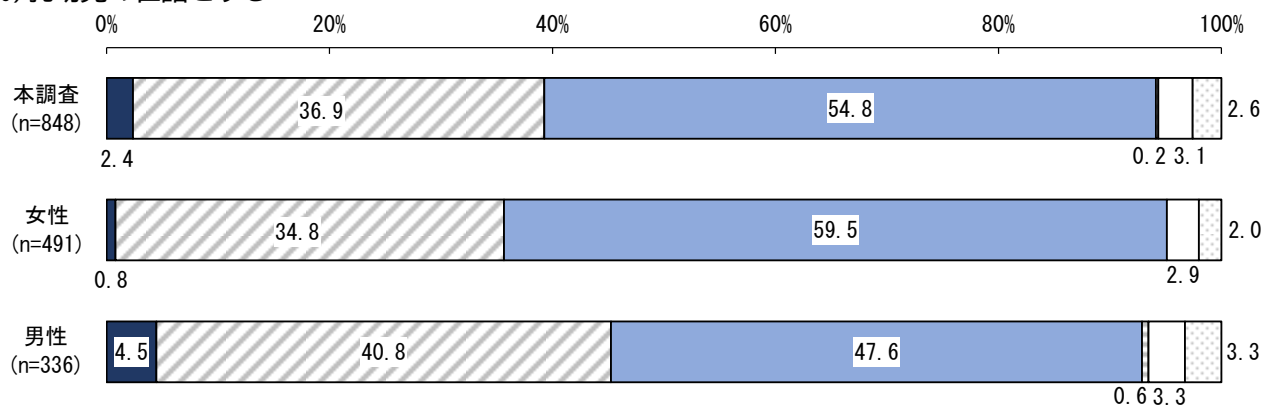
(4) 日々の家計を管理する



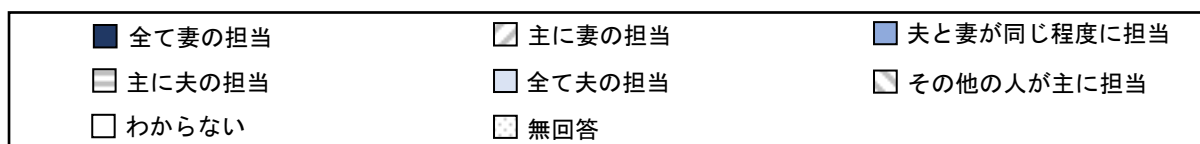
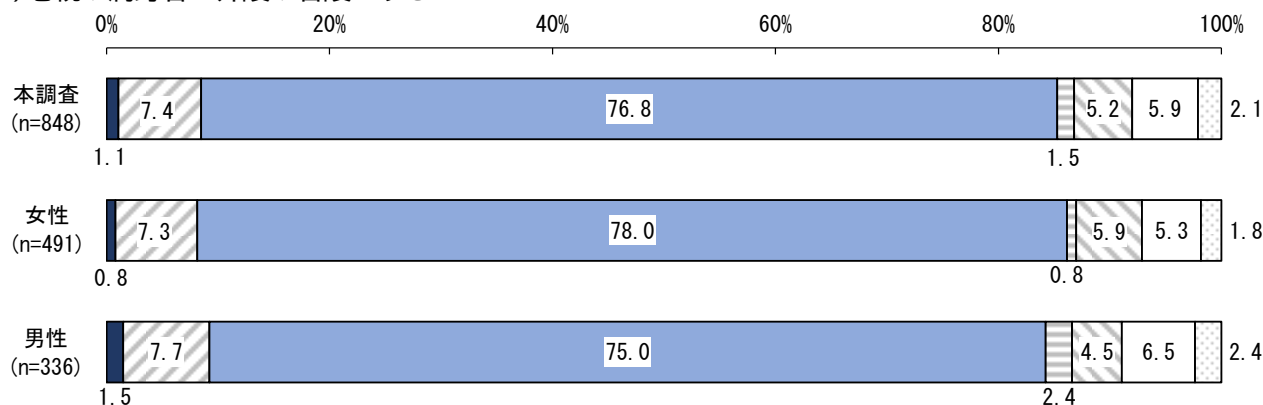
(5) 子供の教育としつけをする



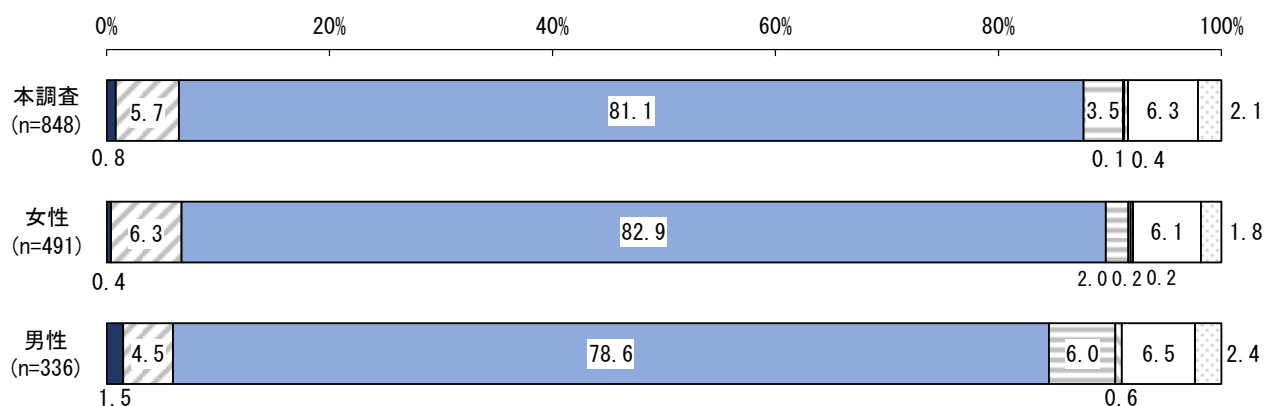
(6) 乳幼児の世話をする



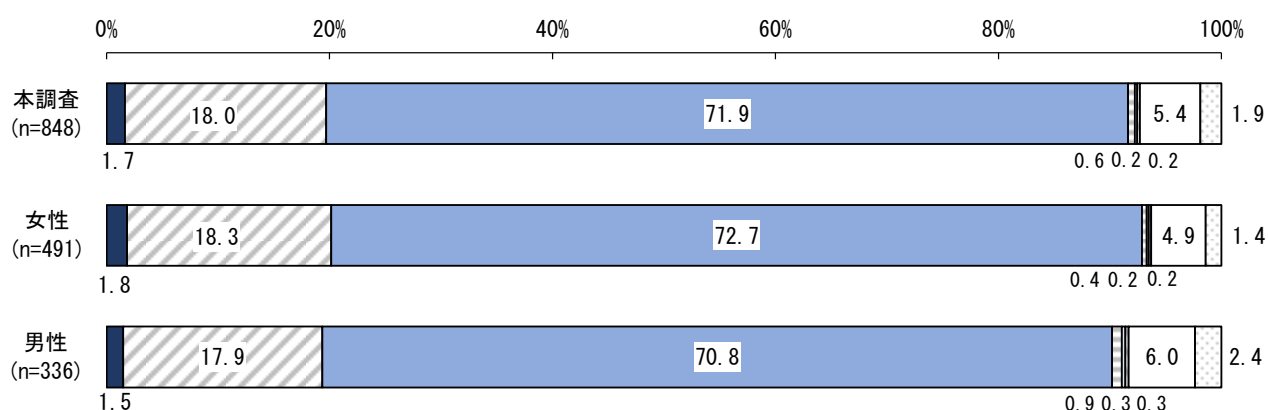
(7) 老親や病身者の介護や看護をする



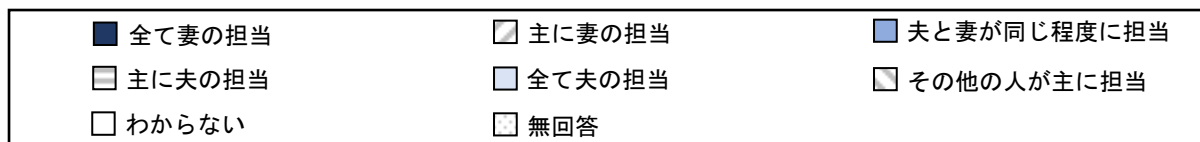
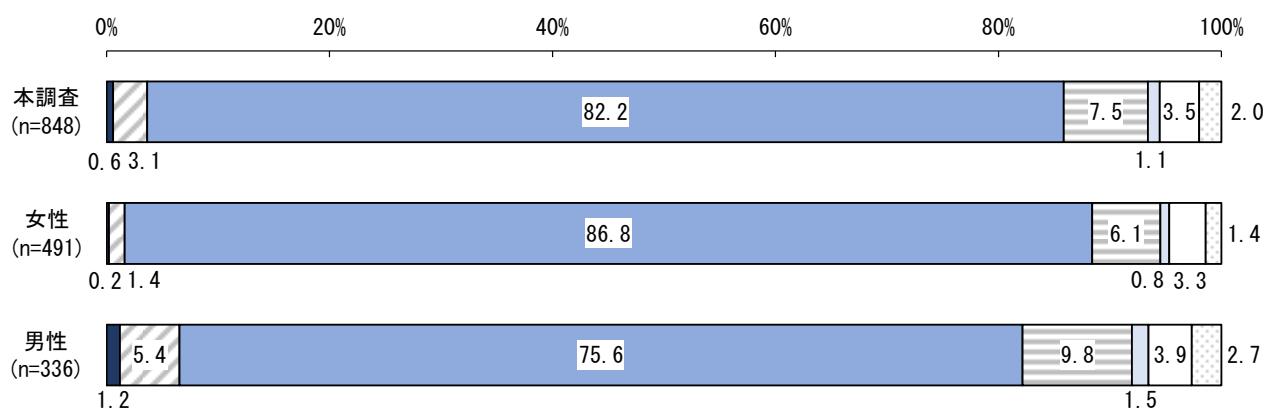
(8)親戚づきあいをする



(9)近所づきあいをする



(10)高額の買い物を決定する

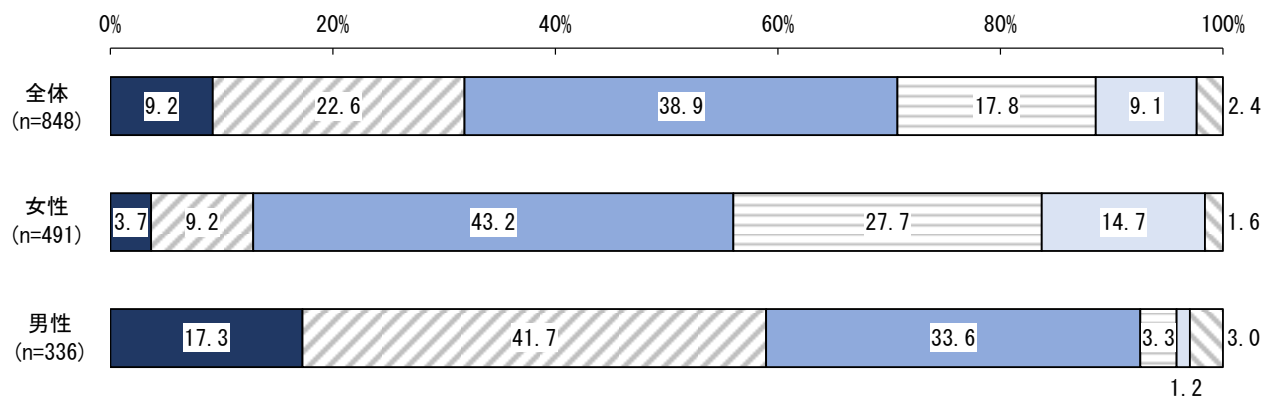


問 10 1日のうちであなたが仕事(在宅就労を含む)を除く時間で、家事、育児、介護に要する平均時間は、それぞれどのくらいですか。〔〇はそれぞれ1つ〕

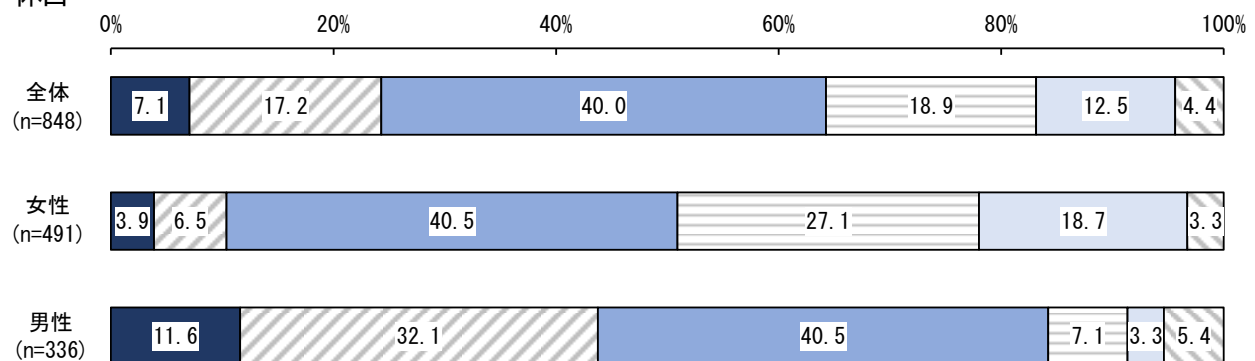
家事に要する時間は、平日、休日ともに全体で「1時間～3時間未満」が最も高い。性別にみると、女性は「1時間～3時間未満」が平日は43.2%、休日は40.5%と最も高くなっており、男性は平日では「1時間未満」が41.7%と最も高くなっているが、休日では「1時間～3時間未満」が40.5%と最も高くなっている。

【(1)家事に要する時間】

・平日



・休日



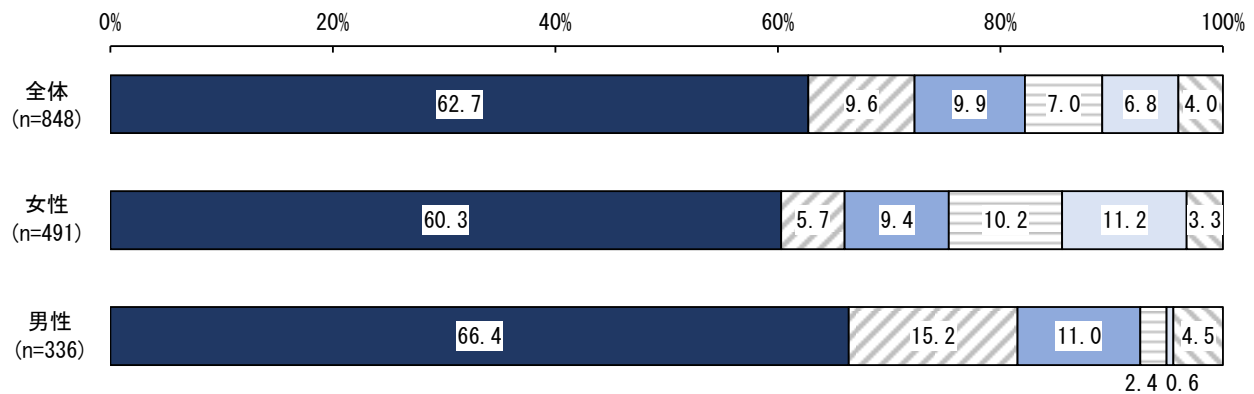
なし
 1時間未満
 1時間～3時間未満

3時間～5時間未満
 5時間以上
 無回答

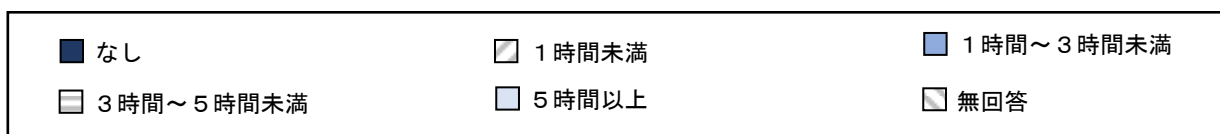
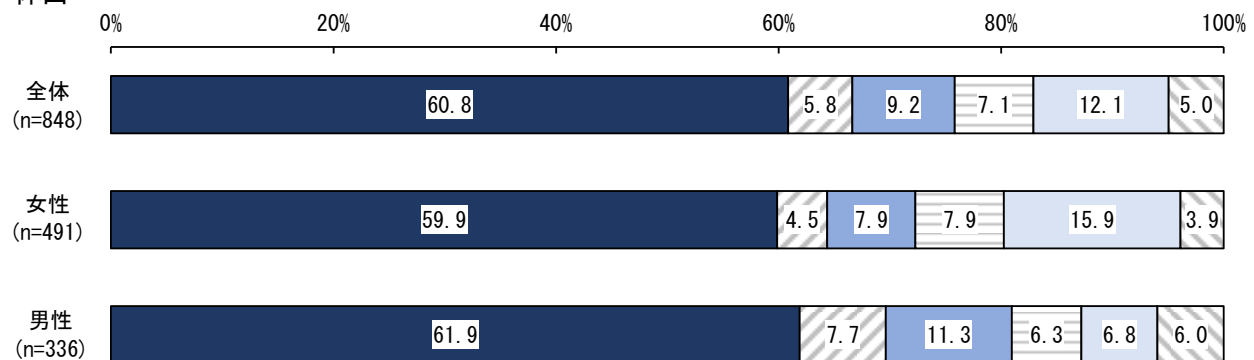
育児に要する時間は、「なし」を除くと、平日の全体では「1時間～3時間未満」が9.9%と最も高く、休日の全体では「5時間以上」が12.1%と最も高くなっている。平日の女性では「5時間以上」が11.2%と最も高く、平日の男性では「1時間未満」が15.2%と最も高くなっている。男性の「5時間以上」では、平日は0.6%となっているが、休日は6.8%と6.2ポイント増加している。

【(2) 育児に要する時間】

・平日



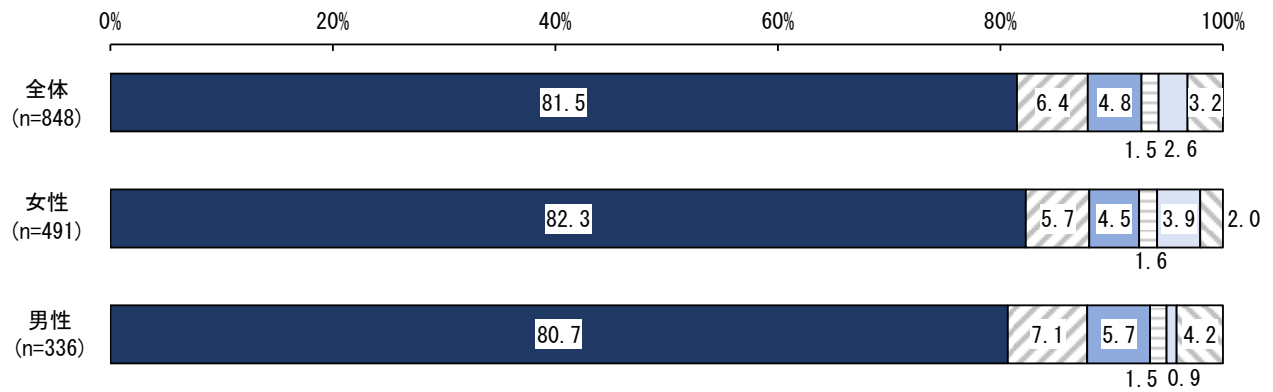
・休日



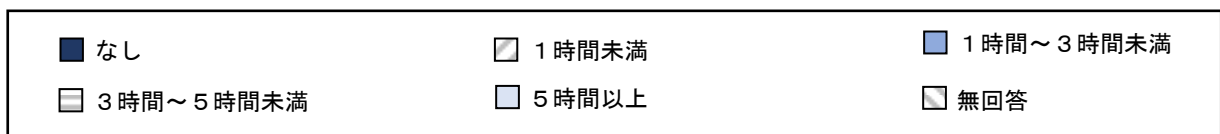
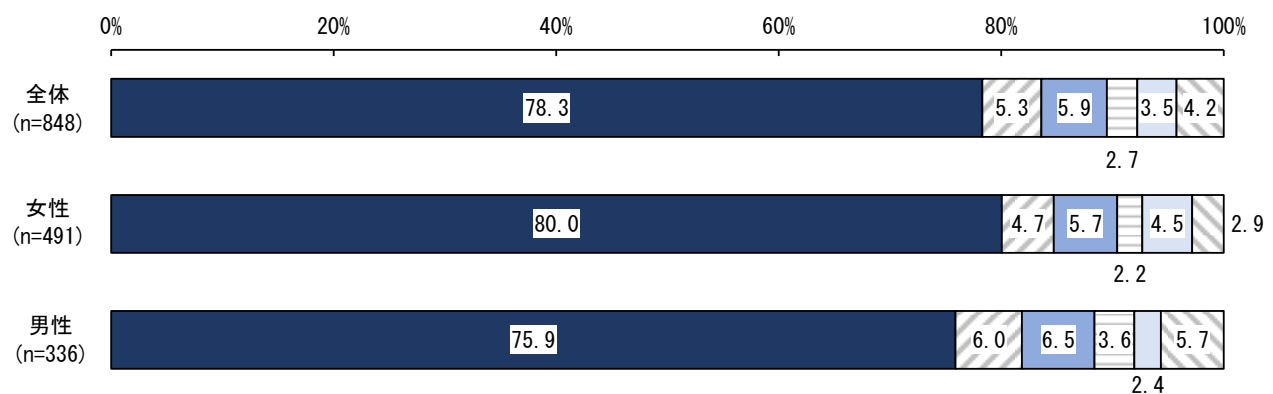
介護に要する時間は、「なし」を除くと、平日は男女ともに「1時間未満」が最も高く、女性では5.7%、男性では7.1%となっている。休日では男女ともに「1時間～3時間未満」が最も高く、女性では5.7%、男性では6.5%となっている。

【(3) 介護に要する時間】

・平日



・休日

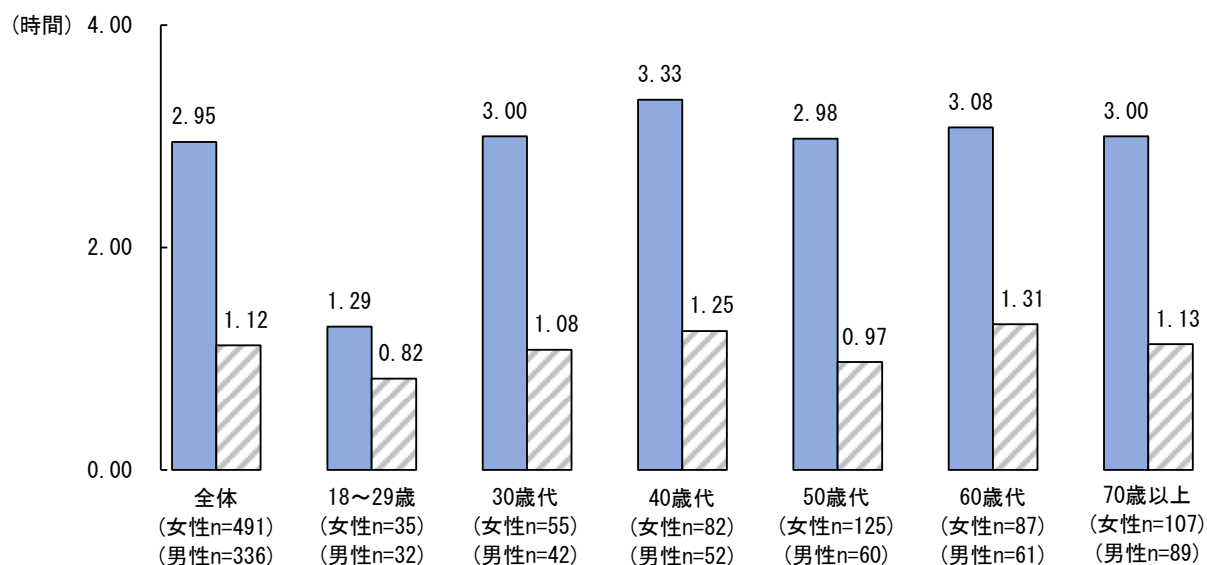


※以下のグラフは、回答1件あたりにそれぞれ、「なし」を0時間、「1時間未満」を0.5時間、「1時間～3時間未満」を2時間、「3時間～5時間未満」を4時間、「5時間以上」を6時間と設定し、これらを合計したものを、回答合計件数で除した値（平均時間）について、性・年代別に比較したものである。

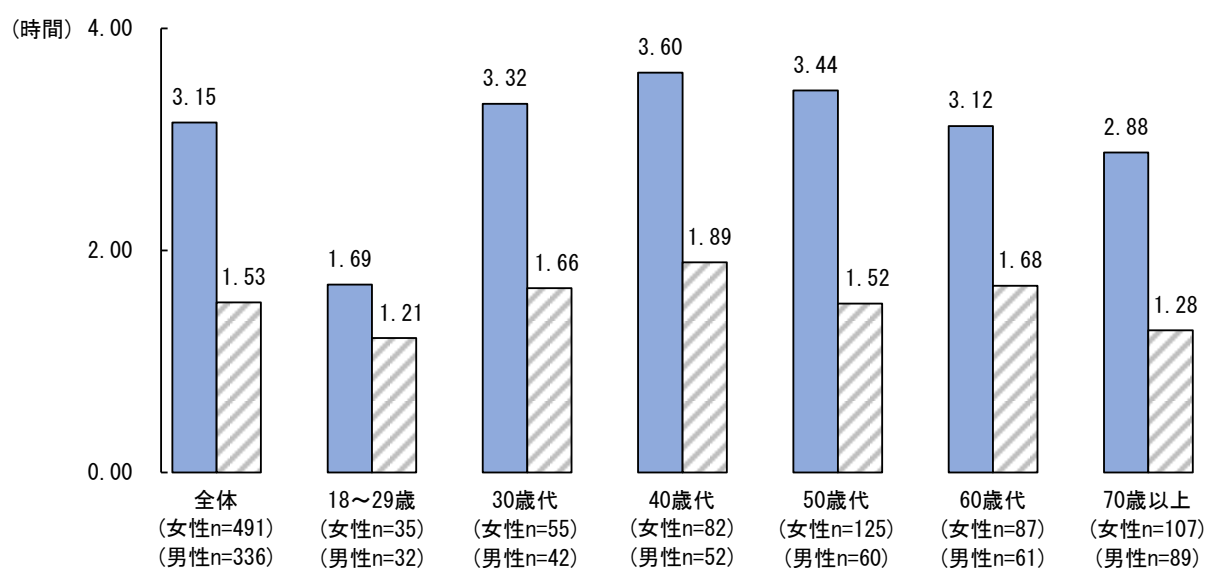
家事に要する平均時間を性・年代別にみると、平日、休日ともに、男性より女性の時間が長くなっている。男性の平日と休日の時間を比較すると、すべての年代で平日より休日の時間が長くなっている。

【(1)家事に要する平均時間】

・平日



・休日

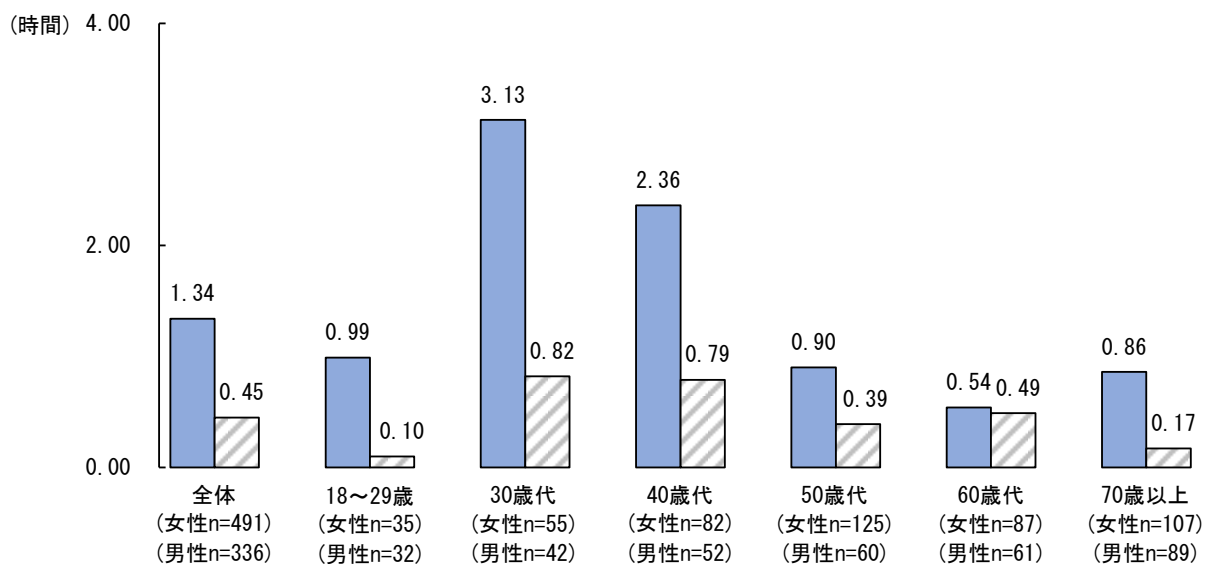


■ 女性 ▨ 男性

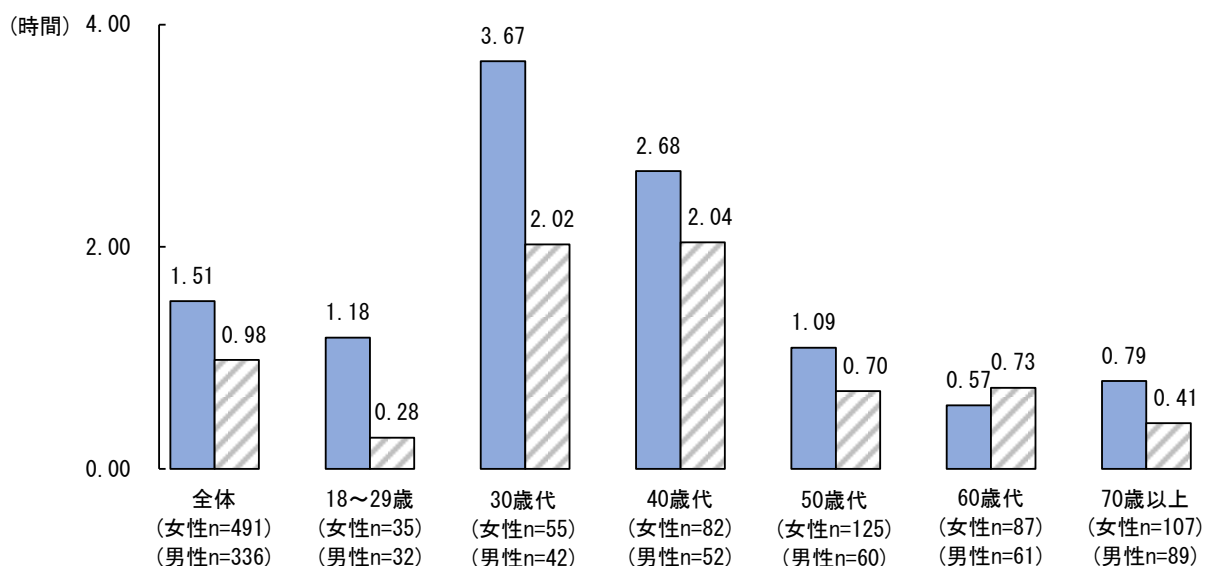
育児に要する平均時間を性・年代別にみると、平日、休日ともに、男性より女性の時間が長くなっている。休日の男性の30歳代、40歳代では、平日よりも約1時間以上長くなっている。

【(2)育児に要する平均時間】

・平日



・休日

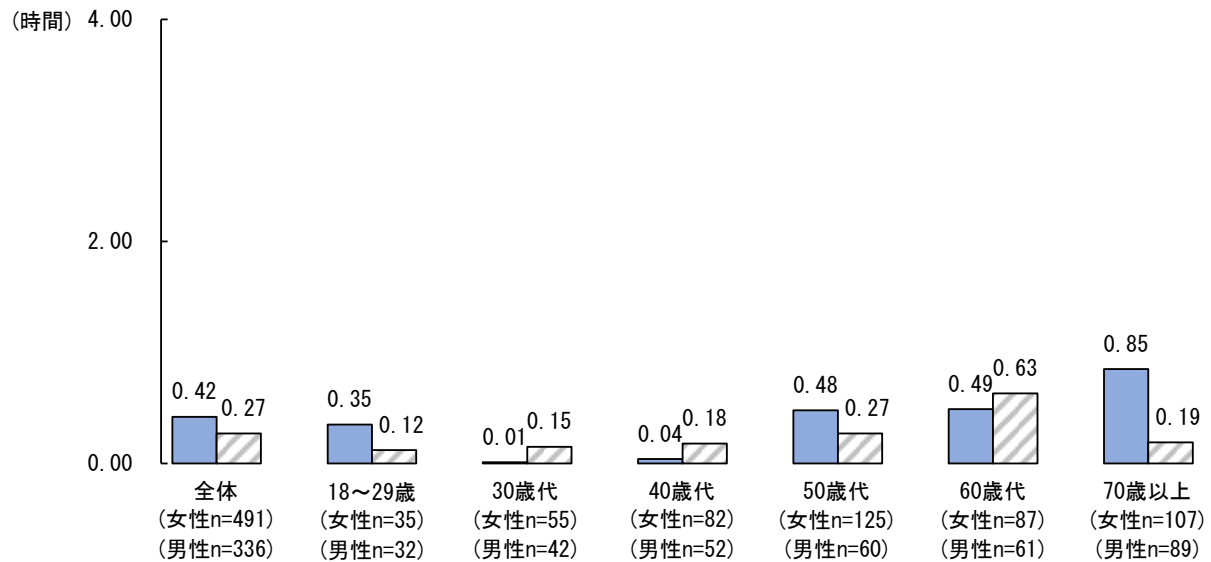


■ 女性 ▨ 男性

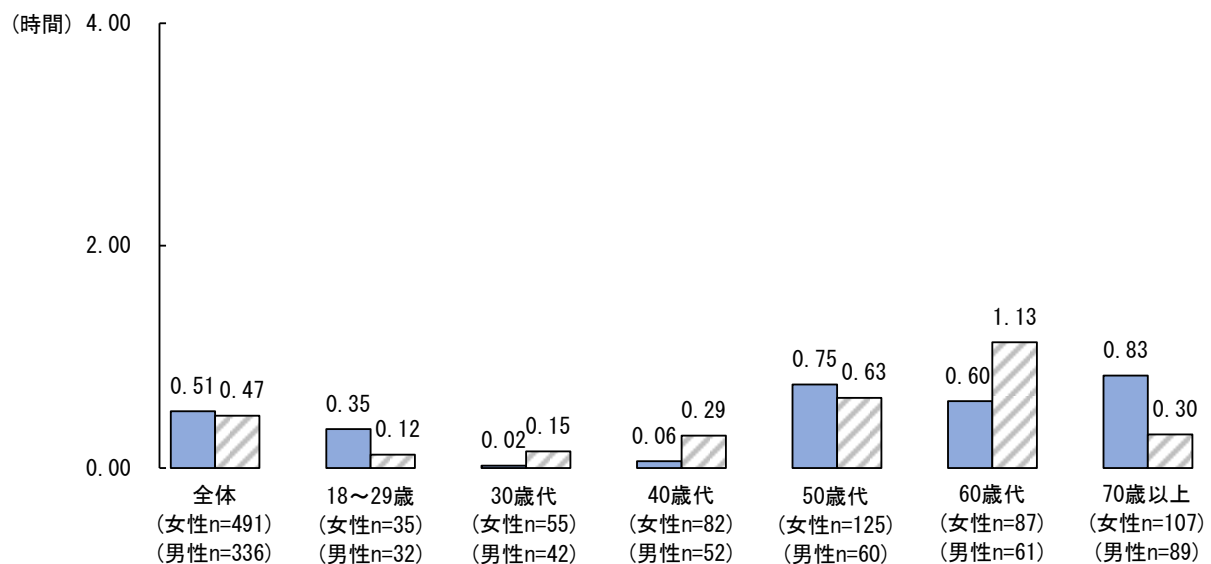
介護に要する平均時間を性・年代別にみると、平日、休日ともに全体では、男性より女性の時間が長くなっているが、30歳代、40歳代、60歳代は女性より男性が長くなっている。

【(3)介護に要する平均時間】

・平日



・休日



■ 女性 ▨ 男性

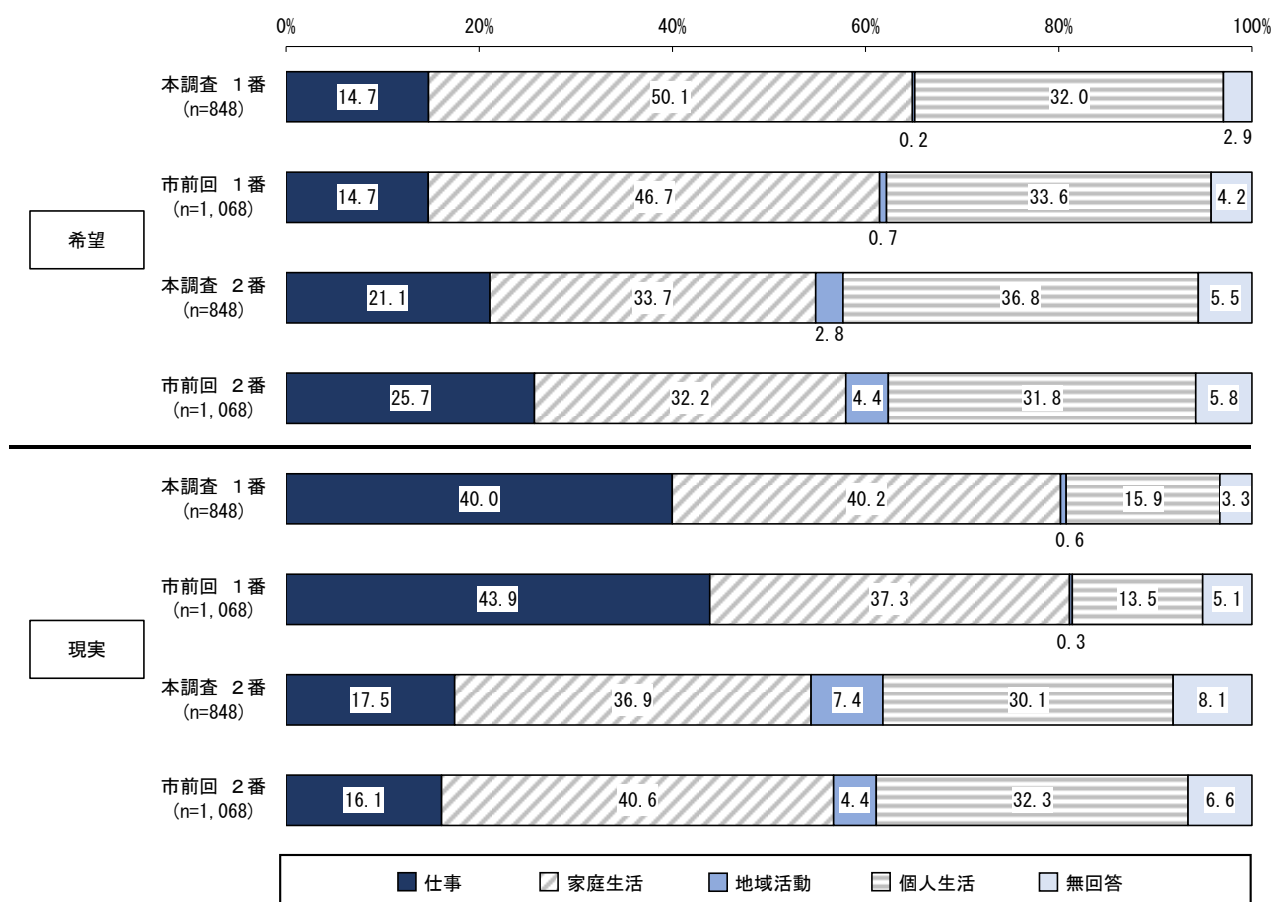
問 11 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域活動」「個人生活」の優先度についてお答えください。
あなたの希望とあなたの現実（現状）について、1 番と 2 番はどれですか。
[]内に数字を記入]

「希望（1 番）」については、「家庭生活」が 50.1%と最も高く、次いで、「個人生活」が 32.0%、「仕事」が 14.7%となっている。

一方、「現実（1 番）」については、「家庭生活」が 40.2%と最も高く、次いで、「仕事」が 40.0%、「個人生活」が 15.9%となっている。

前回調査と比較すると、「希望（1 番）」については、「家庭生活」が 3.4 ポイント増加しており、「現実（1 番）」も 2.9 ポイント増加している。

【「仕事」「家庭生活」などの優先度の希望と現実】



性・年代別でみると、「希望（１番）」については、男女ともに全体としては「家庭生活」が最も高く、女性では52.1%、男性では47.6%となっている。男女ともに18～29歳では、「個人生活」が最も高くなっている。

一方、「現実（１番）」については、女性全体では「家庭生活」が51.5%と最も高く、男性全体では「仕事」が52.1%と最も高くなっている。

【「仕事」「家庭生活」などの優先度の希望と現実（１番）】

		希望					現実				
		仕事	家庭生活	地域活動	個人生活	無回答	仕事	家庭生活	地域活動	個人生活	無回答
女性	全体 (n=491)	9.0%	52.1%	0.2%	36.5%	2.2%	32.4%	51.5%	0.2%	13.4%	2.4%
	18～29歳 (n=35)	17.1%	40.0%	0.0%	42.9%	0.0%	54.3%	17.1%	0.0%	28.6%	0.0%
	30歳代 (n=55)	5.5%	76.4%	0.0%	18.2%	0.0%	38.2%	52.7%	0.0%	9.1%	0.0%
	40歳代 (n=82)	13.4%	57.3%	0.0%	29.3%	0.0%	34.1%	59.8%	0.0%	6.1%	0.0%
	50歳代 (n=125)	8.0%	50.4%	0.0%	40.0%	1.6%	39.2%	52.0%	0.0%	7.2%	1.6%
	60歳代 (n=87)	9.2%	39.1%	0.0%	51.7%	0.0%	41.4%	47.1%	0.0%	11.5%	0.0%
	70歳以上 (n=107)	5.6%	52.3%	0.9%	32.7%	8.4%	5.6%	58.9%	0.9%	25.2%	9.3%
男性	全体 (n=336)	23.5%	47.6%	0.3%	25.6%	3.0%	52.1%	24.1%	1.2%	19.0%	3.6%
	18～29歳 (n=32)	18.8%	34.4%	0.0%	40.6%	6.3%	40.6%	9.4%	3.1%	40.6%	6.3%
	30歳代 (n=42)	14.3%	61.9%	0.0%	23.8%	0.0%	73.8%	19.0%	0.0%	7.1%	0.0%
	40歳代 (n=52)	26.9%	55.8%	0.0%	17.3%	0.0%	75.0%	19.2%	0.0%	3.8%	1.9%
	50歳代 (n=60)	28.3%	41.7%	0.0%	28.3%	1.7%	63.3%	18.3%	1.7%	15.0%	1.7%
	60歳代 (n=61)	21.3%	42.6%	0.0%	34.4%	1.6%	55.7%	23.0%	0.0%	19.7%	1.6%
	70歳以上 (n=89)	25.8%	48.3%	1.1%	18.0%	6.7%	22.5%	39.3%	2.2%	28.1%	7.9%

第1位

第2位

第3位

【「仕事」「家庭生活」などの優先度の希望と現実（２番）】

		希望					現実				
		仕事	家庭生活	地域活動	個人生活	無回答	仕事	家庭生活	地域活動	個人生活	無回答
女性	全体 (n=491)	17.3%	33.0%	3.3%	40.5%	5.9%	20.4%	30.3%	6.7%	34.8%	7.7%
	18～29歳 (n=35)	37.1%	31.4%	2.9%	28.6%	0.0%	14.3%	28.6%	17.1%	40.0%	0.0%
	30歳代 (n=55)	14.5%	21.8%	1.8%	61.8%	0.0%	29.1%	32.7%	14.5%	20.0%	3.6%
	40歳代 (n=82)	26.8%	25.6%	1.2%	45.1%	1.2%	34.1%	30.5%	7.3%	25.6%	2.4%
	50歳代 (n=125)	16.0%	38.4%	0.8%	42.4%	2.4%	25.6%	35.2%	4.8%	31.2%	3.2%
	60歳代 (n=87)	19.5%	44.8%	3.4%	26.4%	5.7%	17.2%	33.3%	2.3%	36.8%	10.3%
	70歳以上 (n=107)	4.7%	29.0%	8.4%	39.3%	18.7%	3.7%	21.5%	4.7%	50.5%	19.6%
男性	全体 (n=336)	26.8%	34.5%	2.1%	32.4%	4.2%	13.7%	46.4%	8.0%	24.4%	7.4%
	18～29歳 (n=32)	31.3%	40.6%	0.0%	21.9%	6.3%	21.9%	37.5%	18.8%	9.4%	12.5%
	30歳代 (n=42)	38.1%	23.8%	0.0%	35.7%	2.4%	14.3%	50.0%	4.8%	28.6%	2.4%
	40歳代 (n=52)	42.3%	26.9%	0.0%	28.8%	1.9%	11.5%	61.5%	7.7%	17.3%	1.9%
	50歳代 (n=60)	26.7%	40.0%	0.0%	31.7%	1.7%	15.0%	46.7%	6.7%	21.7%	10.0%
	60歳代 (n=61)	31.1%	39.3%	1.6%	24.6%	3.3%	18.0%	54.1%	6.6%	19.7%	1.6%
	70歳以上 (n=89)	7.9%	34.8%	6.7%	42.7%	7.9%	7.9%	33.7%	7.9%	37.1%	13.5%

第1位

第2位

第3位

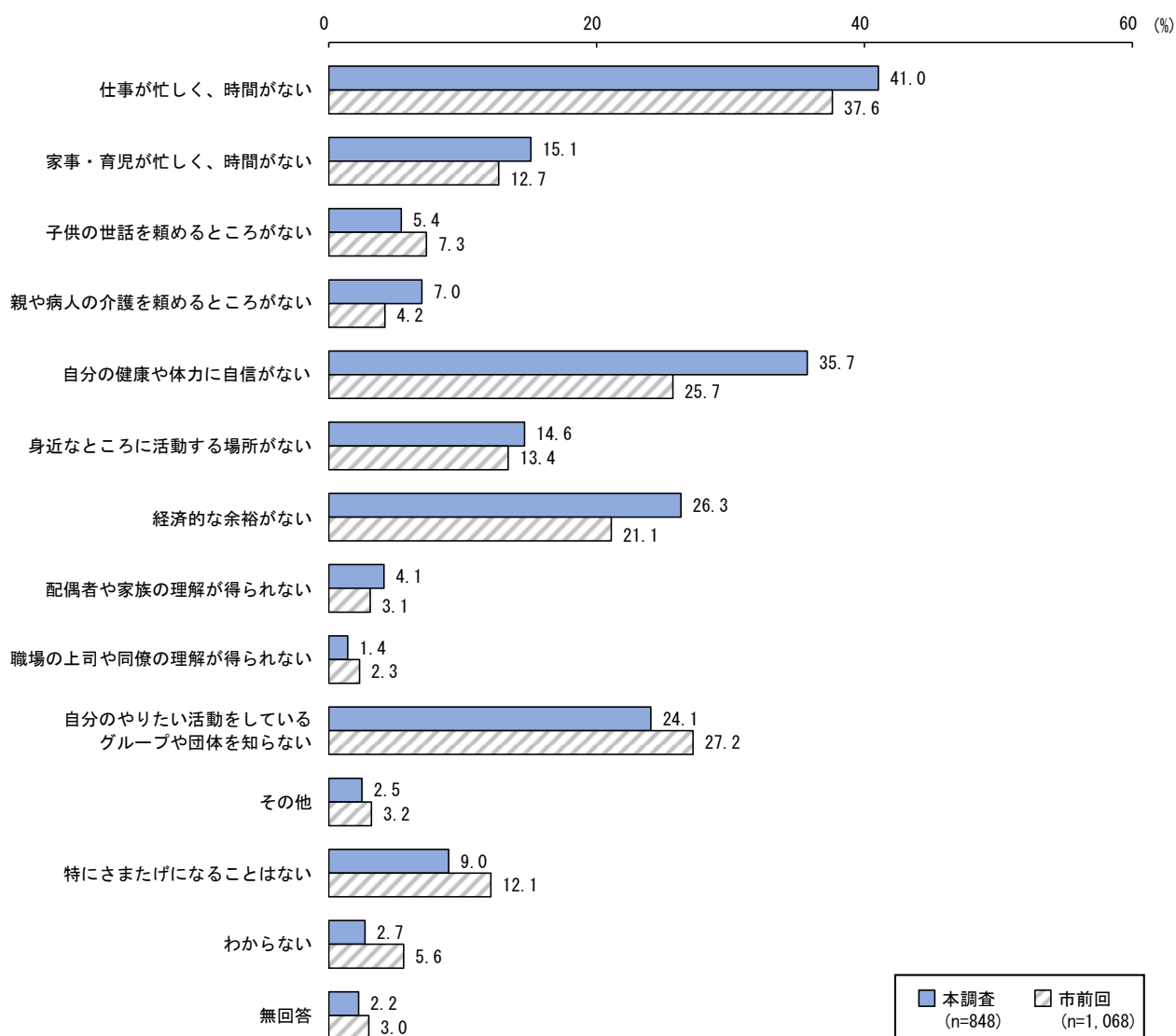
問12 あなたが、今後、社会・地域活動に参加しようとする時、何かさまたげになるようなことがありますか。〔〇は3つまで〕

「仕事が忙しく、時間がない」が41.0%と最も高く、次いで、「自分の健康や体力に自信がない」が35.7%、「経済的な余裕がない」が26.3%となっている。

前回調査と比較すると、「自分の健康や体力に自信がない」が10.0ポイント増加、「経済的な余裕がない」が5.2ポイント増加、「仕事が忙しく、時間がない」が3.4ポイント増加している。

一方、「特にさまたげになることはない」、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」が3.1ポイント減少、「子供の世話を頼めるところがない」が1.9ポイント減少、「職場の上司や同僚の理解が得られない」が0.9ポイント減少している。

【社会・地域活動に参加しようとする時のさまたげになること】



性・年代別でみると、女性全体では、「自分の健康や体力に自信がない」が39.9%と最も高くなっているが、18～29歳、30歳代、40歳代、50歳代では、「仕事が忙しく、時間がない」が最も高くなっている。男性全体では「仕事が忙しく、時間がない」が50.0%と最も高くなっている。

【社会・地域活動に参加しようとする時のさまたげになること】

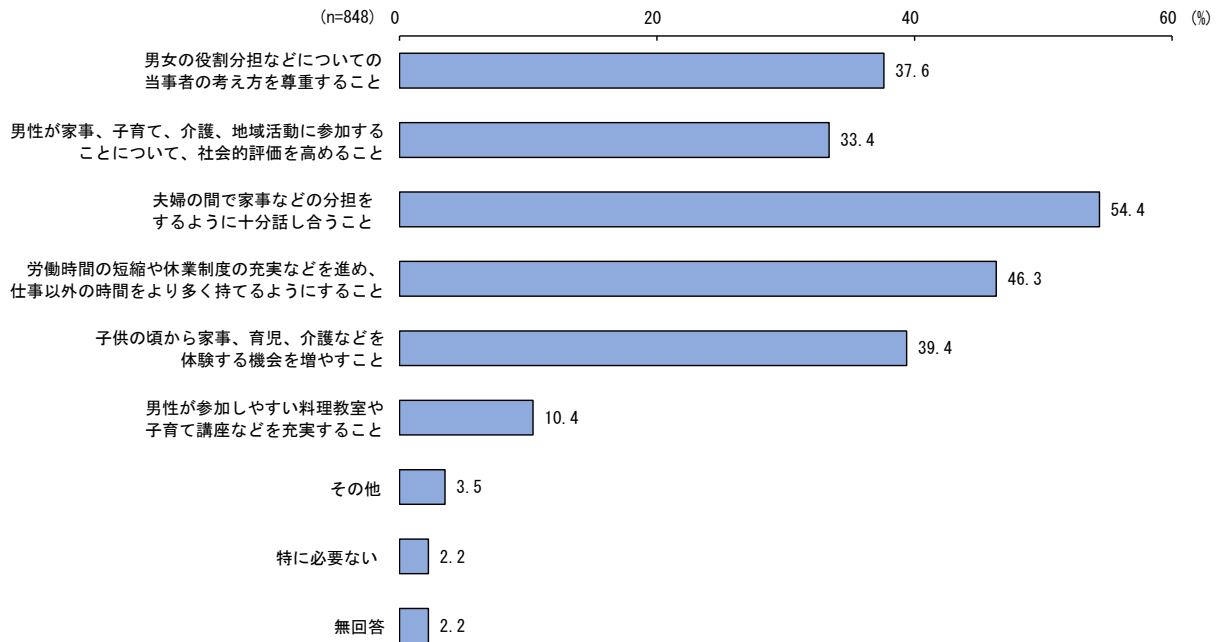
		仕事が忙しく、 時間がない	家事・育児が忙しく、 時間がない	子供の世話を頼めるところがない	親や病人の介護を頼めるところがない	自分の健康や体力に自信がない	身近なところに活動する場所がない	経済的な余裕がない	配偶者や家族の理解が得られない	職場の上司や同僚の理解が得られない	自分のやりたい活動をしていない グループや団体を知らない	その他	特にさまたげになることはない	わからない	無回答
女性	全体 (n=491)	35.4%	19.8%	6.7%	7.1%	39.9%	14.9%	27.1%	4.5%	0.6%	25.1%	2.6%	8.6%	1.6%	1.6%
	18～29歳 (n=35)	45.7%	25.7%	8.6%	0.0%	17.1%	22.9%	28.6%	0.0%	0.0%	14.3%	5.7%	17.1%	5.7%	0.0%
	30歳代 (n=55)	56.4%	54.5%	20.0%	0.0%	27.3%	14.5%	27.3%	0.0%	0.0%	16.4%	1.8%	1.8%	1.8%	0.0%
	40歳代 (n=82)	50.0%	34.1%	18.3%	4.9%	18.3%	8.5%	18.3%	3.7%	2.4%	34.1%	4.9%	9.8%	1.2%	0.0%
	50歳代 (n=125)	47.2%	14.4%	2.4%	13.6%	42.4%	11.2%	35.2%	5.6%	0.8%	27.2%	0.0%	9.6%	0.8%	1.6%
	60歳代 (n=87)	26.4%	6.9%	1.1%	11.5%	41.4%	20.7%	27.6%	9.2%	0.0%	34.5%	0.0%	8.0%	0.0%	1.1%
	70歳以上 (n=107)	3.7%	5.6%	0.0%	3.7%	66.4%	16.8%	23.4%	3.7%	0.0%	15.9%	5.6%	7.5%	2.8%	4.7%
男性	全体 (n=336)	50.0%	8.6%	3.6%	6.8%	29.8%	14.6%	25.0%	3.6%	2.4%	23.2%	1.8%	9.8%	4.2%	2.7%
	18～29歳 (n=32)	56.3%	18.8%	3.1%	9.4%	12.5%	18.8%	25.0%	3.1%	3.1%	18.8%	0.0%	3.1%	6.3%	6.3%
	30歳代 (n=42)	73.8%	28.6%	19.0%	4.8%	14.3%	9.5%	26.2%	0.0%	0.0%	23.8%	0.0%	11.9%	4.8%	0.0%
	40歳代 (n=52)	78.8%	19.2%	5.8%	7.7%	19.2%	9.6%	25.0%	3.8%	5.8%	23.1%	0.0%	1.9%	3.8%	0.0%
	50歳代 (n=60)	70.0%	0.0%	0.0%	10.0%	20.0%	21.7%	25.0%	1.7%	3.3%	26.7%	3.3%	3.3%	3.3%	1.7%
	60歳代 (n=61)	49.2%	1.6%	0.0%	8.2%	31.1%	16.4%	16.4%	6.6%	1.6%	23.0%	1.6%	14.8%	0.0%	3.3%
	70歳以上 (n=89)	6.7%	0.0%	0.0%	3.4%	55.1%	12.4%	30.3%	4.5%	1.1%	22.5%	3.4%	16.9%	6.7%	4.5%

第1位	第2位	第3位
-----	-----	-----

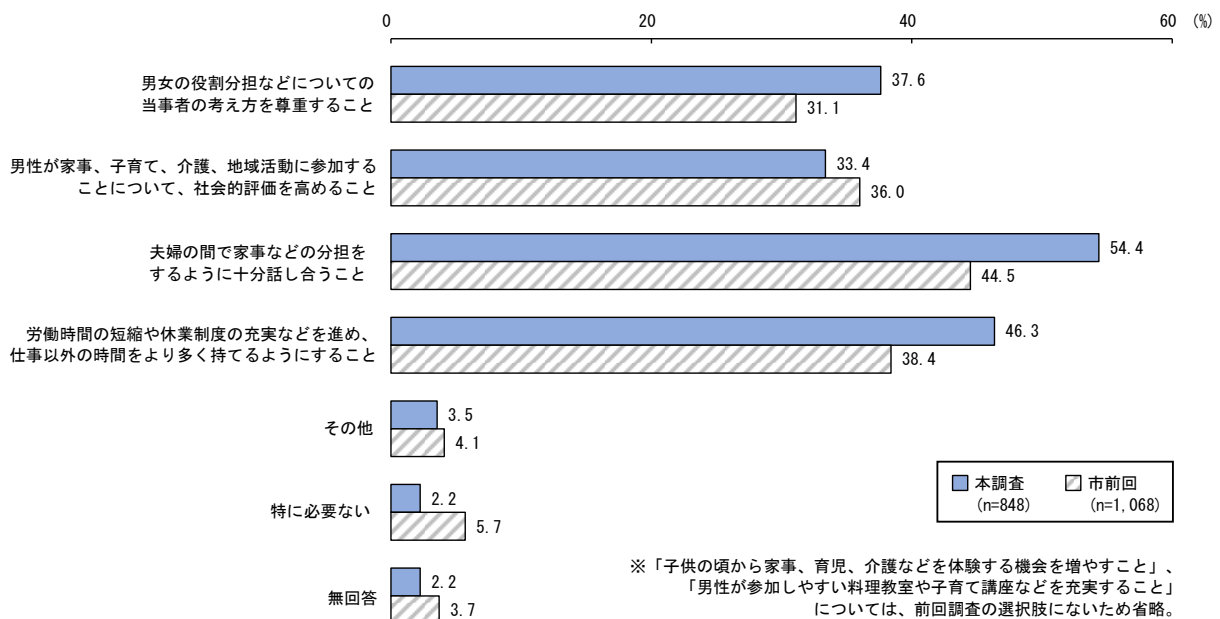
問13 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。〔〇は3つまで〕

「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が54.4%と最も高く、次いで、「労働時間の短縮や休業制度の充実などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が46.3%、「子供の頃から家事、育児、介護などを体験する機会を増やすこと」が39.4%となっている。

【男性が家事、子育てなどに参加するために必要なこと】



前回調査と比較すると、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が9.9ポイント増加、「労働時間の短縮や休業制度の充実などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が7.9ポイント増加、「男女の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」6.5ポイント増加している。



性・年代別でみると、男女ともに全体で「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が最も高く、女性では55.6%、男性では52.1%となっているが、男性の18～29歳から50歳代では「労働時間の短縮や休業制度の充実などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が最も高くなっている。

【男性が家事、子育てなどに参加するために必要なこと】

		男女の役割分担などについてのこと	男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること	夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと	労働時間の短縮や休業制度の充実などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	子供の頃から家事、育児、介護などを体験する機会を増やすこと	男性が参加しやすい料理教室や子育て講座などを充実すること	その他	特に必要ない	無回答
女性	全体 (n=491)	33.4%	36.3%	55.6%	47.0%	48.5%	9.4%	3.9%	1.4%	2.6%
	18～29歳 (n=35)	34.3%	28.6%	60.0%	57.1%	42.9%	8.6%	5.7%	0.0%	0.0%
	30歳代 (n=55)	38.2%	36.4%	54.5%	70.9%	40.0%	7.3%	9.1%	0.0%	0.0%
	40歳代 (n=82)	40.2%	39.0%	51.2%	50.0%	47.6%	7.3%	2.4%	1.2%	3.7%
	50歳代 (n=125)	26.4%	41.6%	51.2%	51.2%	52.8%	10.4%	5.6%	0.8%	0.8%
	60歳代 (n=87)	33.3%	35.6%	63.2%	46.0%	57.5%	10.3%	0.0%	1.1%	2.3%
	70歳以上 (n=107)	33.6%	30.8%	57.0%	25.2%	43.0%	10.3%	2.8%	3.7%	6.5%
男性	全体 (n=336)	44.9%	28.9%	52.1%	46.1%	27.1%	11.9%	3.3%	3.3%	1.2%
	18～29歳 (n=32)	43.8%	34.4%	56.3%	62.5%	28.1%	18.8%	3.1%	6.3%	0.0%
	30歳代 (n=42)	40.5%	38.1%	42.9%	66.7%	11.9%	14.3%	4.8%	2.4%	0.0%
	40歳代 (n=52)	36.5%	30.8%	44.2%	53.8%	34.6%	5.8%	3.8%	1.9%	0.0%
	50歳代 (n=60)	40.0%	28.3%	50.0%	53.3%	20.0%	10.0%	1.7%	3.3%	0.0%
	60歳代 (n=61)	54.1%	24.6%	55.7%	39.3%	31.1%	8.2%	1.6%	1.6%	0.0%
	70歳以上 (n=89)	49.4%	24.7%	58.4%	25.8%	31.5%	15.7%	4.5%	4.5%	4.5%

第1位	第2位	第3位
-----	-----	-----

3. 働くことについて

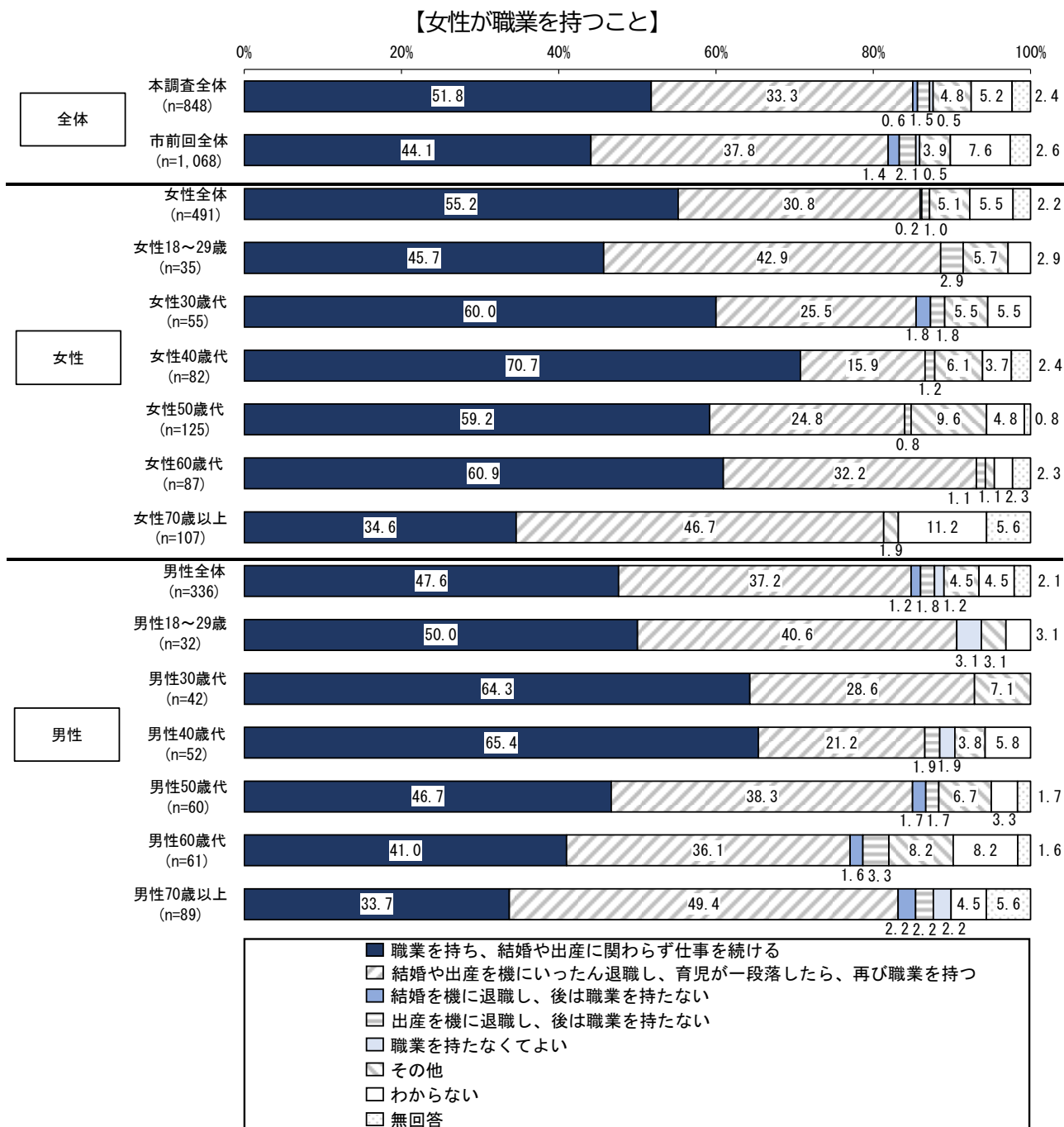
問 14 一般に、女性が職業を持つことについて、次のどれが望ましいと思いますか。〔〇は1つ〕

「職業を持ち、結婚や出産に関わらず仕事を続ける」が51.8%と最も高く、次いで、「結婚や出産を機にいったん退職し、育児が一段落したら、再び職業を持つ」が33.3%となっている。

前回調査と比較すると、「職業を持ち、結婚や出産に関わらず仕事を続ける」が7.7ポイント増加している。

性・年代別でみると、男女ともに全体で「職業を持ち、結婚や出産に関わらず仕事を続ける」が最も高く、女性では40歳代の70.7%、男性では40歳代の65.4%が最も高くなっている。

一方で、「結婚や出産を機にいったん退職し、育児が一段落したら、再び職業を持つ」は男女ともに70歳以上で最も高く、女性が46.7%、男性が49.4%となっており、また、男女ともに18～29歳で比較的高くなっている。

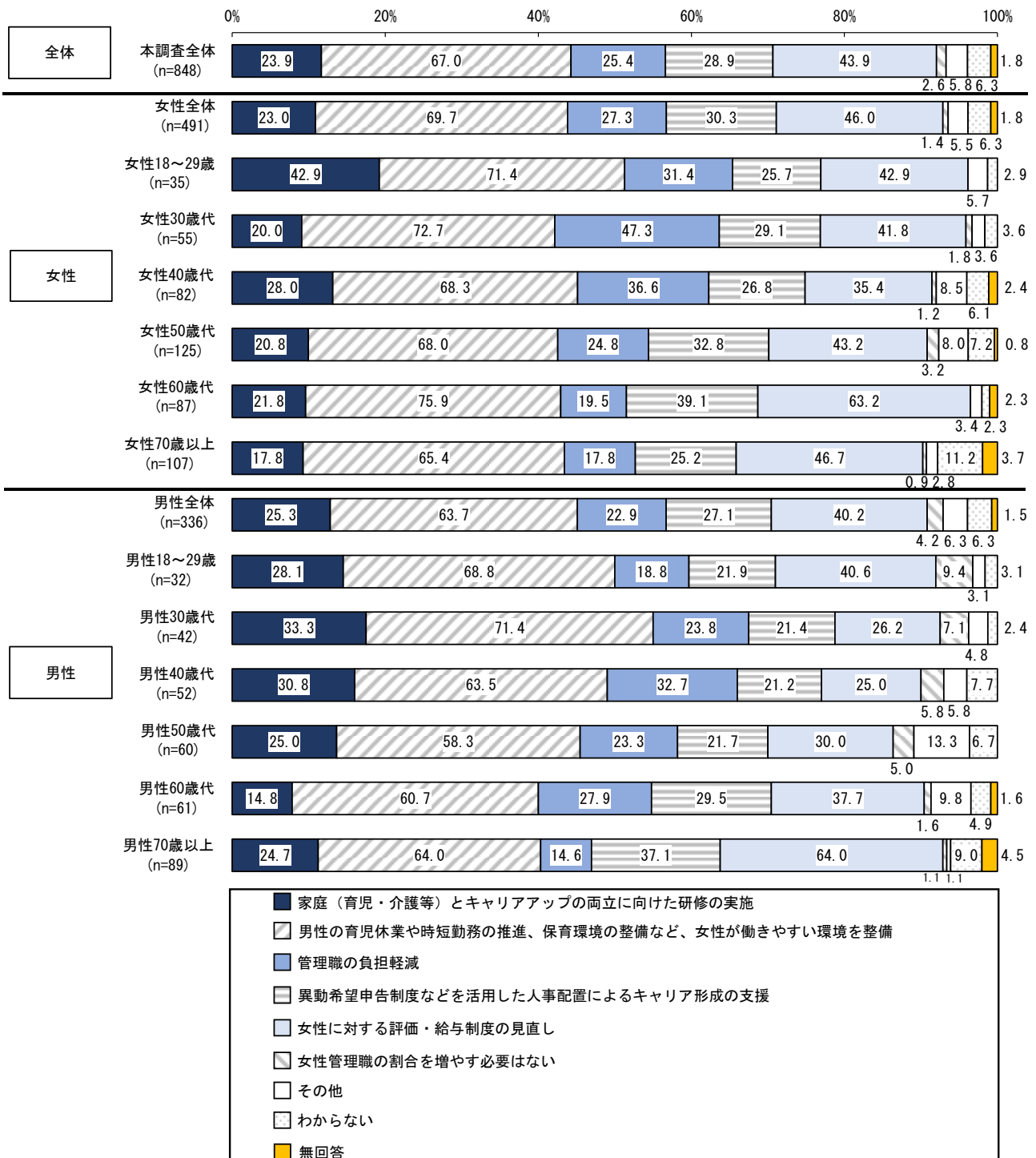


問 15 令和4年度の「管理職（課長相当職以上）に占める女性の割合」は12.7%※でしたが、女性管理職の割合を増やすために、どのようなことが必要だと思いますか。[〇は3つまで]

※出典：令和4年度雇用均等基本調査（厚生労働省）

「男性の育児休業や時短勤務の推進、保育環境の整備など、女性が働きやすい環境を整備」が67.0%と最も高く、次いで、「女性に対する評価・給与制度の見直し」が43.9%、「異動希望申告制度などを活用した人事配置によるキャリア形成の支援」が28.9%となっている。

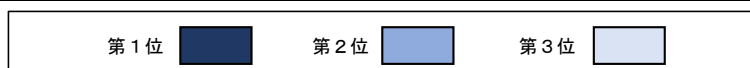
【女性管理職の割合を増やすために必要なこと】



性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「男性の育児休業や時短勤務の推進、保育環境の整備など、女性が働きやすい環境を整備」が最も高く、女性では 69.7%、男性では 63.7%となっており、半数を超えている。

【女性管理職の割合を増やすために必要なこと】

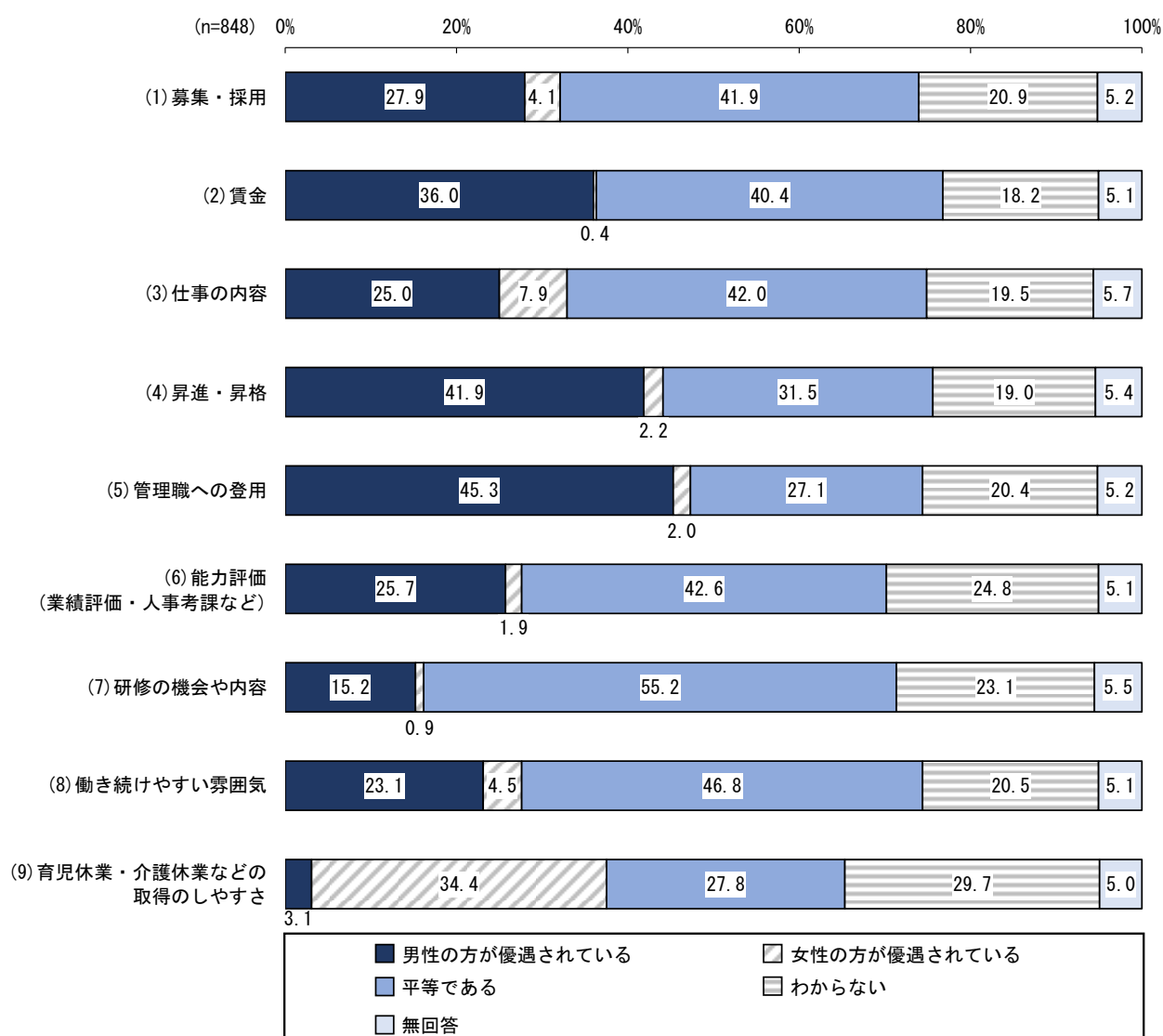
		家庭 キャリアアップの両立に向けた研修の実施	男性の 育児休業や時短勤務の推進、 保育環境の整備など、女性が働きやすい環境を整備	管理職の負担軽減	異動希望申告制度などを活用した 人事配置によるキャリア形成の支援	女性に対する評価・給与制度の見直し	女性管理職の割合を増やす必要はない	その他	わからない	無回答
女性	全体 (n=491)	23.0%	69.7%	27.3%	30.3%	46.0%	1.4%	5.5%	6.3%	1.8%
	18～29歳 (n=35)	42.9%	71.4%	31.4%	25.7%	42.9%	0.0%	5.7%	2.9%	0.0%
	30歳代 (n=55)	20.0%	72.7%	47.3%	29.1%	41.8%	1.8%	3.6%	3.6%	0.0%
	40歳代 (n=82)	28.0%	68.3%	36.6%	26.8%	35.4%	1.2%	8.5%	6.1%	2.4%
	50歳代 (n=125)	20.8%	68.0%	24.8%	32.8%	43.2%	3.2%	8.0%	7.2%	0.8%
	60歳代 (n=87)	21.8%	75.9%	19.5%	39.1%	63.2%	0.0%	3.4%	2.3%	2.3%
	70歳以上 (n=107)	17.8%	65.4%	17.8%	25.2%	46.7%	0.9%	2.8%	11.2%	3.7%
男性	全体 (n=336)	25.3%	63.7%	22.9%	27.1%	40.2%	4.2%	6.3%	6.3%	1.5%
	18～29歳 (n=32)	28.1%	68.8%	18.8%	21.9%	40.6%	9.4%	3.1%	3.1%	0.0%
	30歳代 (n=42)	33.3%	71.4%	23.8%	21.4%	26.2%	7.1%	4.8%	2.4%	0.0%
	40歳代 (n=52)	30.8%	63.5%	32.7%	21.2%	25.0%	5.8%	5.8%	7.7%	0.0%
	50歳代 (n=60)	25.0%	58.3%	23.3%	21.7%	30.0%	5.0%	13.3%	6.7%	0.0%
	60歳代 (n=61)	14.8%	60.7%	27.9%	29.5%	37.7%	1.6%	9.8%	4.9%	1.6%
	70歳以上 (n=89)	24.7%	64.0%	14.6%	37.1%	64.0%	1.1%	1.1%	9.0%	4.5%



問16 (働いている方に) あなたの今の職場では、性別によって差があると思いますか。
 (働いていない方に) 一般に、職場では、性別によって差があると思いますか。
 [(1)~(9)それぞれに、○は1つ]

「男性の方が優遇されている」では、「(5)管理職への登用」が45.3%と最も高く、次いで、「(4)昇進・昇格」が41.9%、「(2)賃金」が36.0%となっている。「平等である」では、「(7)研修の機会や内容」が55.2%と最も高く、次いで、「(8)働き続けやすい雰囲気」が46.8%、「(6)能力評価(業績評価・人事考課など)」が42.6%となっている。「女性の方が優遇されている」では、「(9)育児休業・介護休業などの取得のしやすさ」が34.4%と最も高くなっている。

【職場における性別による差(1)~(9)】

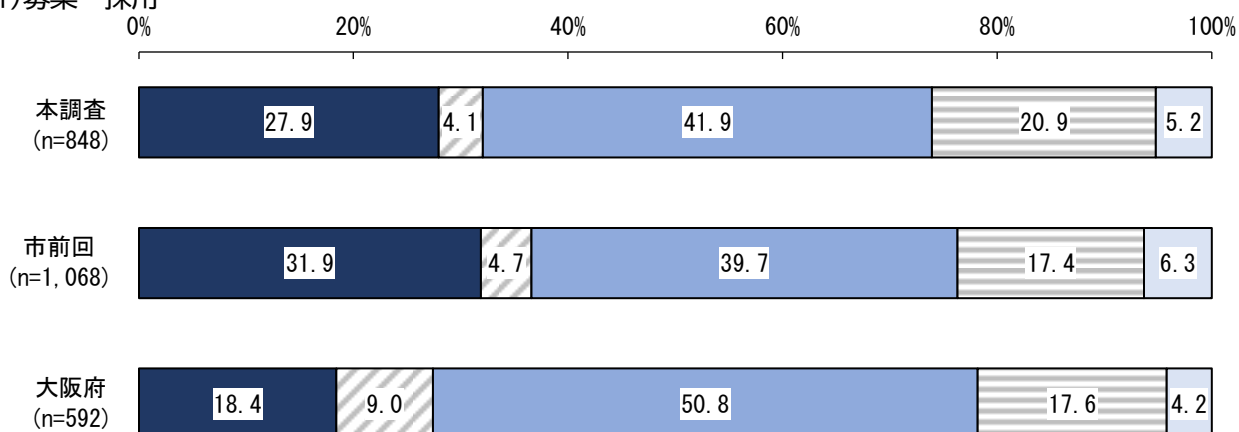


前回調査と比較すると、すべての項目で「男性の方が優遇されている」が減少し、「平等である」が増加している。

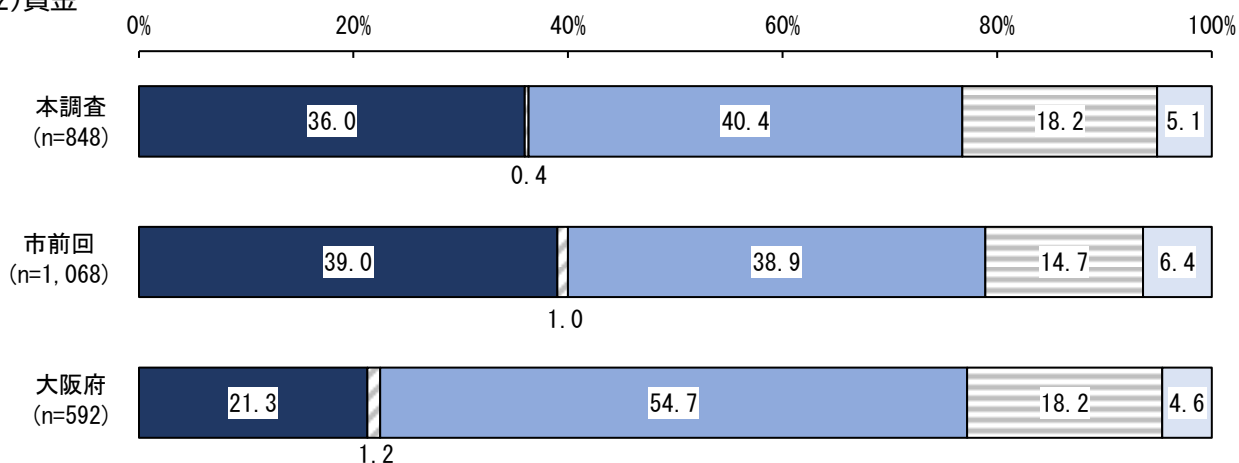
大阪府調査と比較すると、すべての項目で「男性の方が優遇されている」が高くなっている。「平等である」では、「(8)働き続けやすい雰囲気」が7.1ポイント高くなっている。

【職場における性別による差 (1)～(9)】

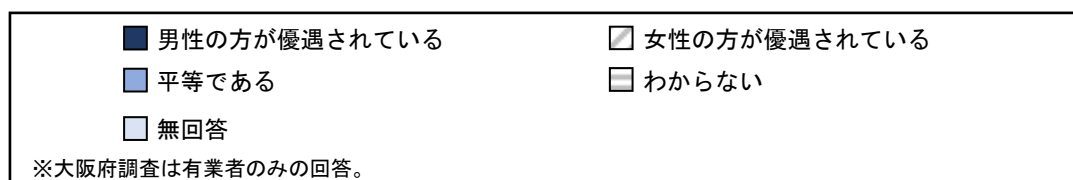
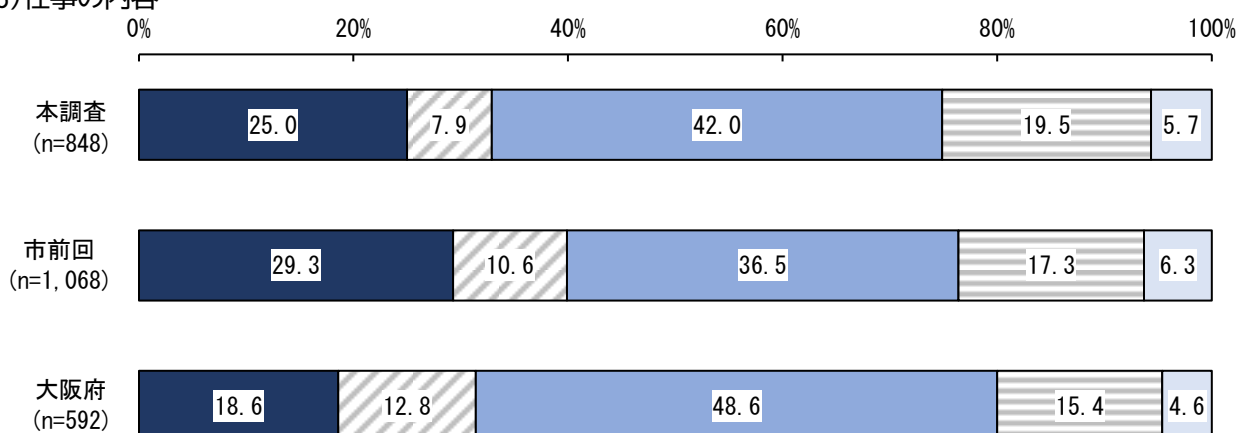
(1) 募集・採用



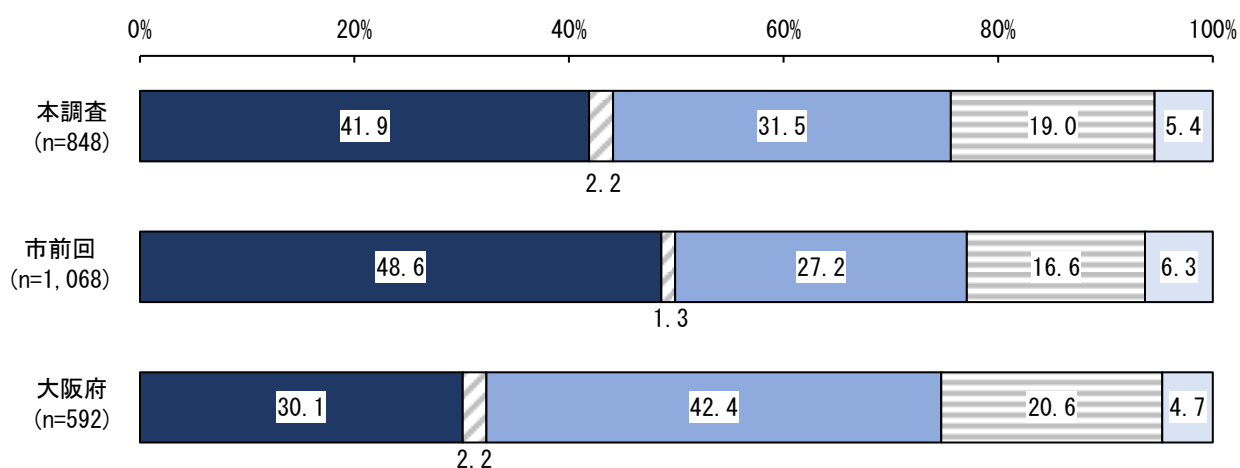
(2) 賃金



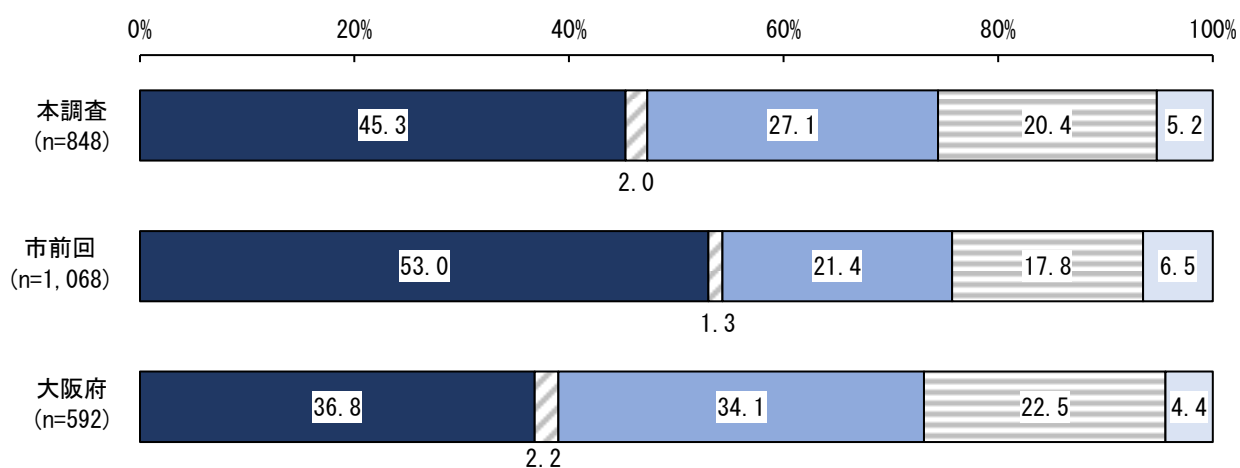
(3) 仕事の内容



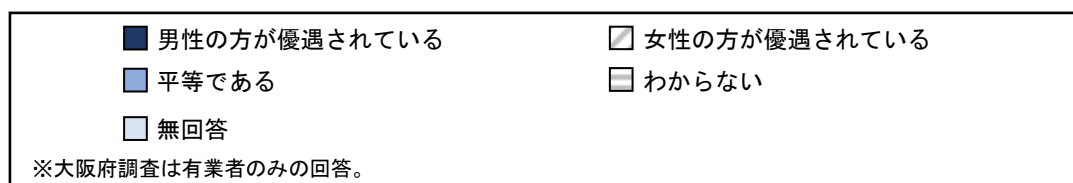
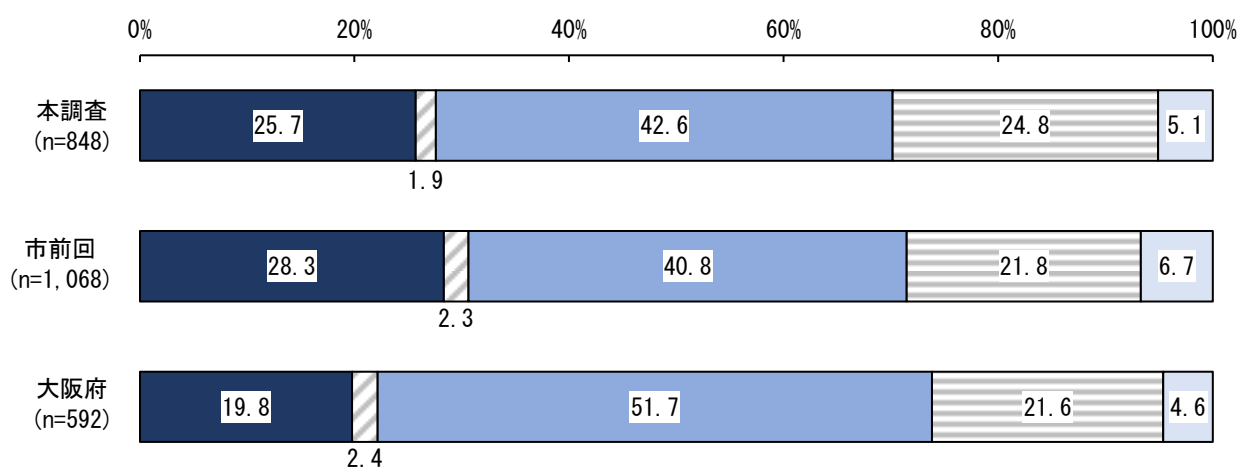
(4)昇進・昇格



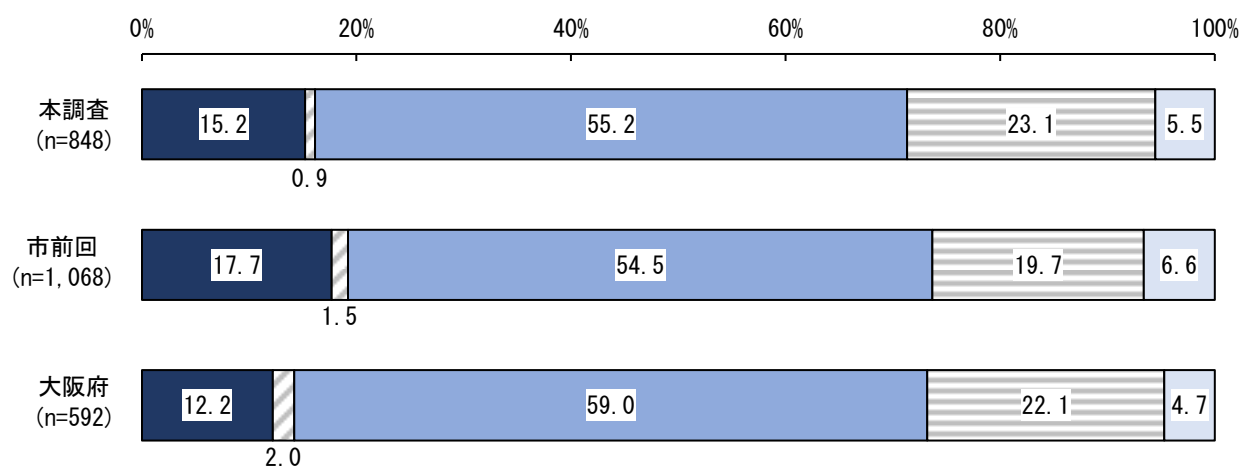
(5)管理職への登用



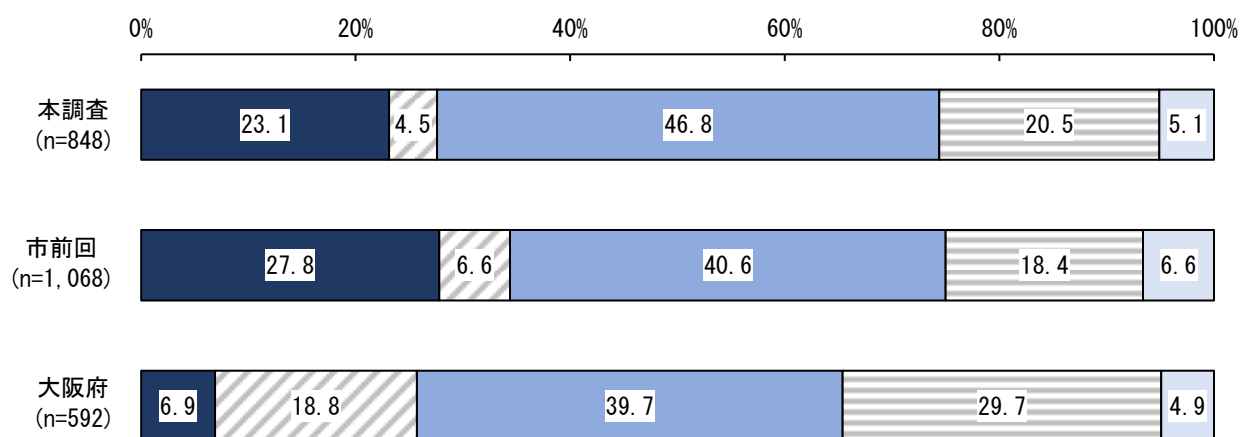
(6)能力評価（業績評価・人事考課など）



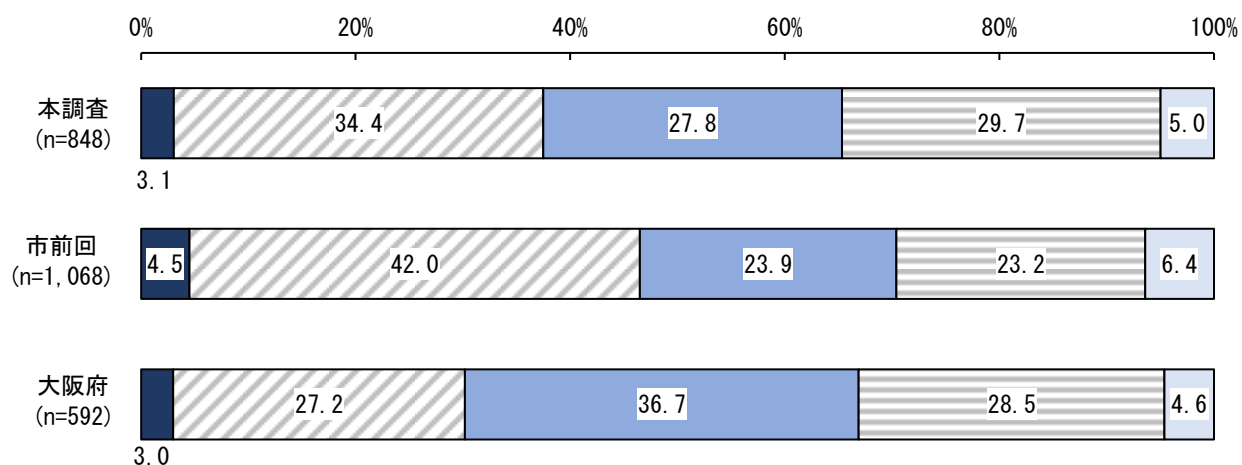
(7)研修の機会や内容



(8)働き続けやすい雰囲気



(9)育児休業・介護休業などの取得のしやすさ



■ 男性の方が優遇されている ▨ 女性の方が優遇されている
 ■ 平等である ▨ わからない
 ■ 無回答

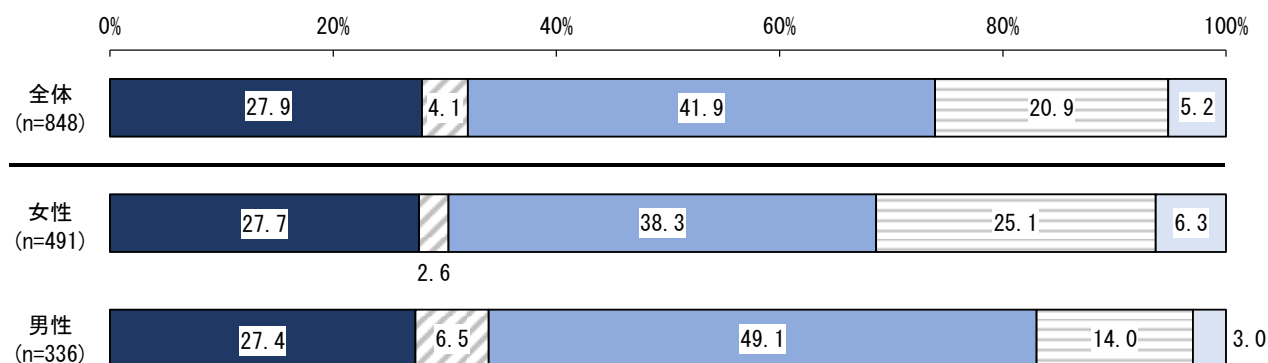
※ (8)については大阪府調査の「家庭と仕事の両立支援制度など、働き続けるための職場環境整備」との比較。
 ※大阪府調査は有業者のみの回答。

性別にみると、「男性の方が優遇されている」では、多くの項目で、男性より女性の割合が高くなっている。中でも「(4)昇進・昇格」は7.7ポイント高くなっている。

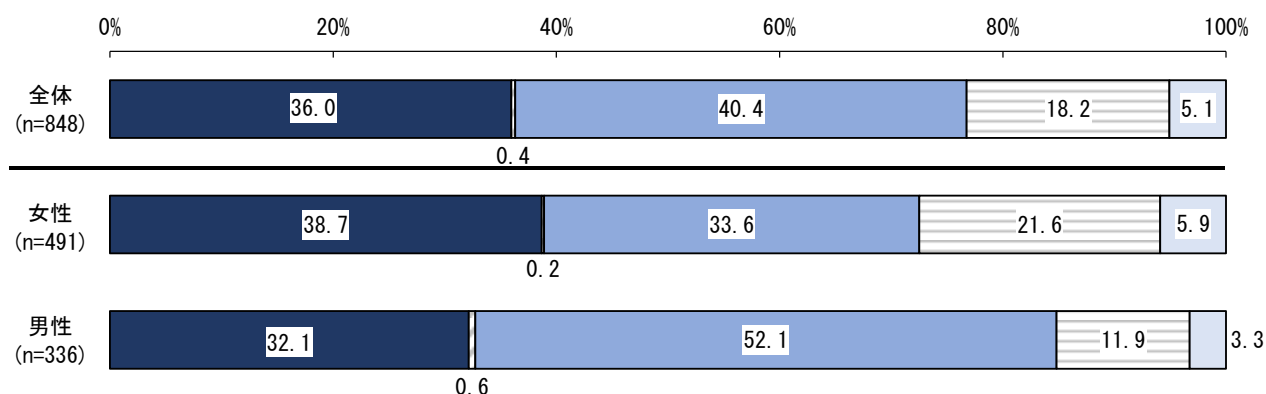
一方、「平等である」では、すべての項目で、女性より男性の割合が高くなっている。中でも、「(2)賃金」、「(6)能力評価（業績評価・人事考課など）」は、約20.0ポイント高くなっている。

【職場における性別による差 (1)～(9)】

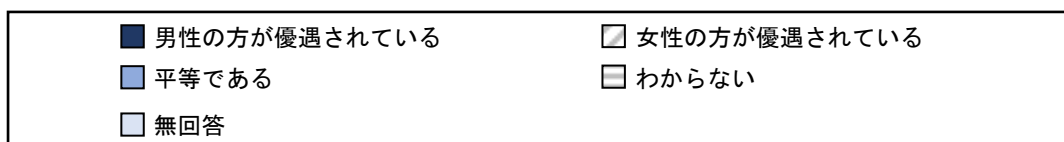
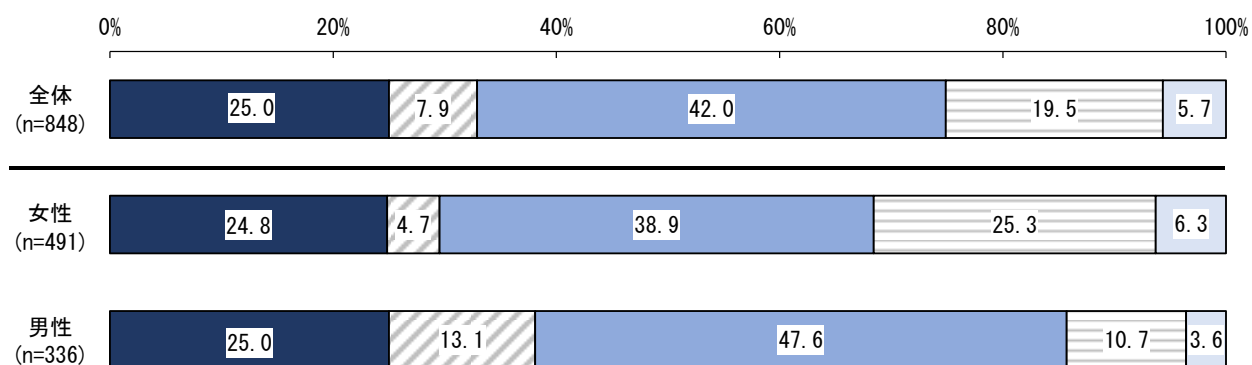
(1)募集・採用



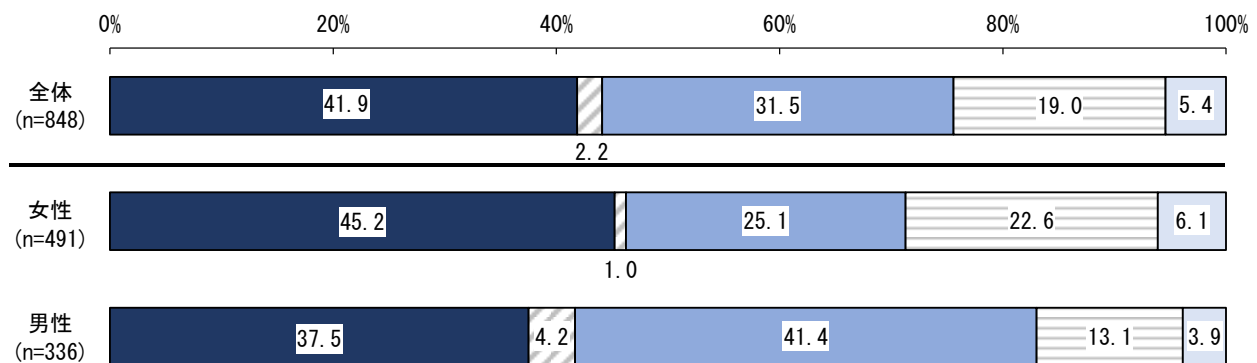
(2)賃金



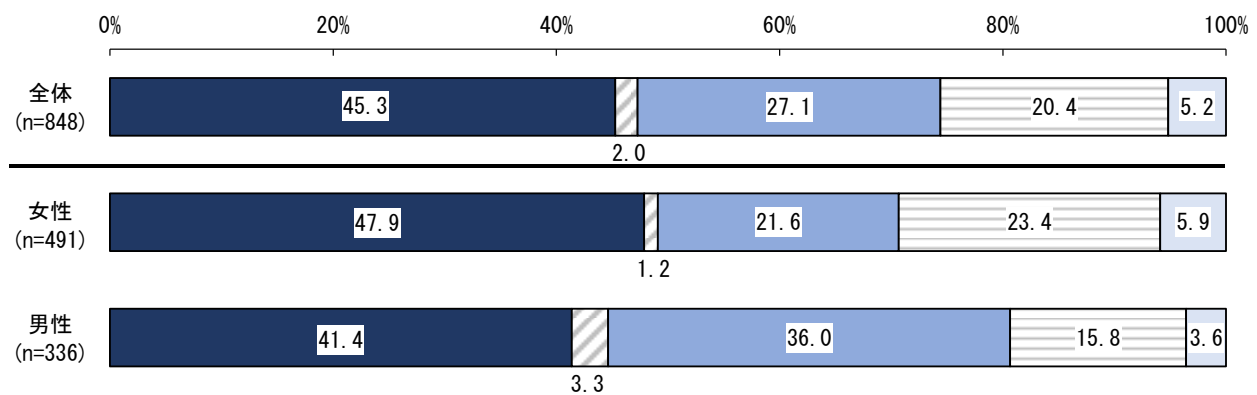
(3)仕事の内容



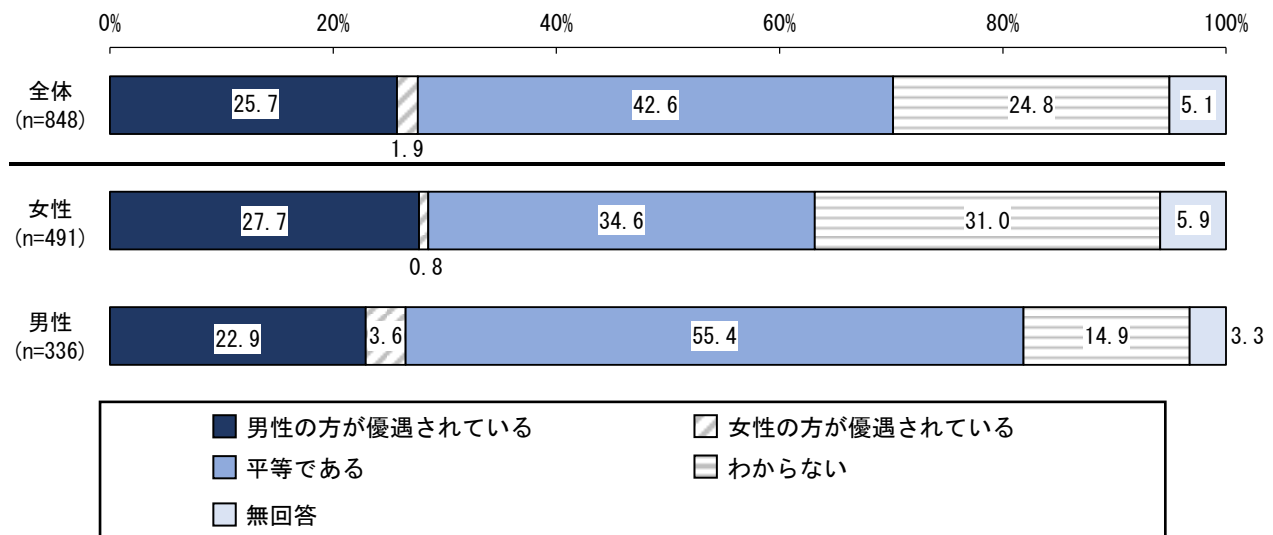
(4)昇進・昇格



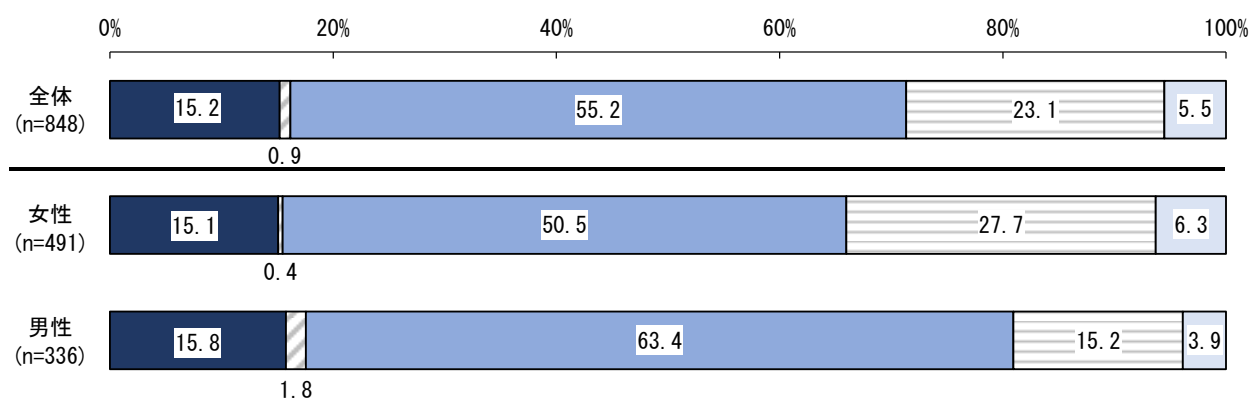
(5)管理職への登用



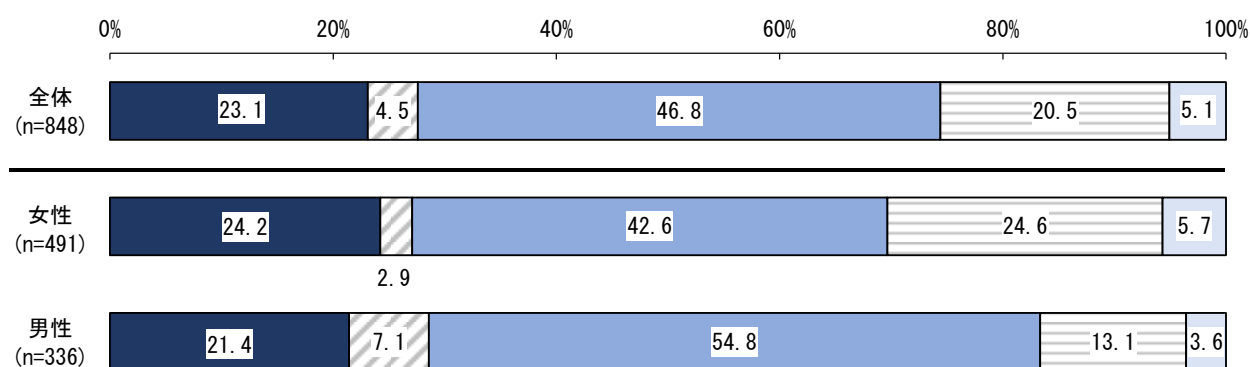
(6)能力評価（業績評価・人事考課など）



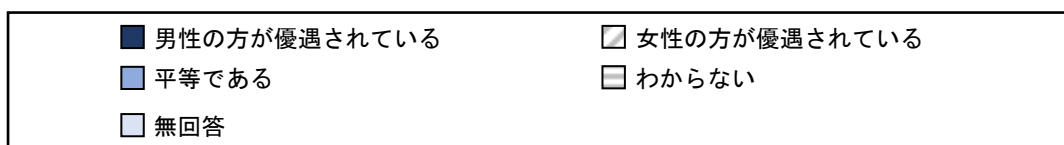
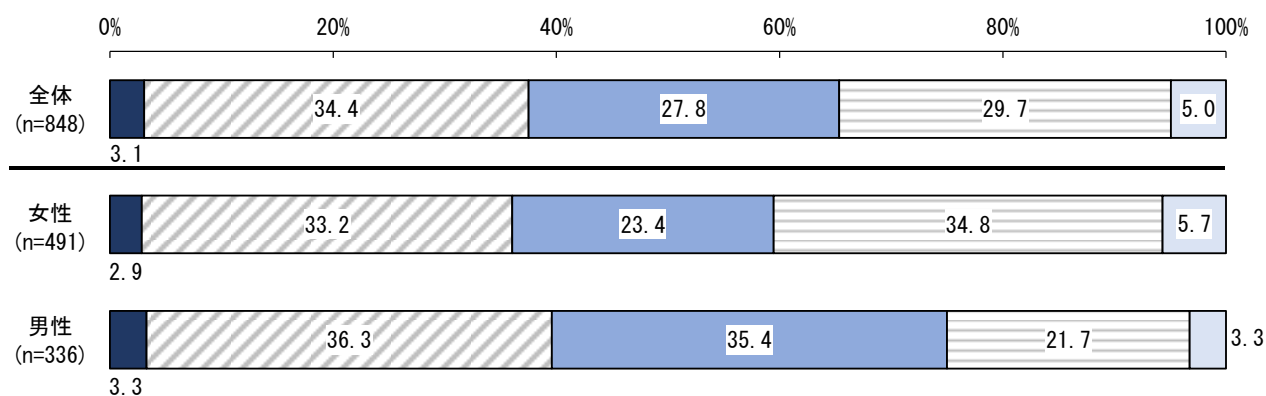
(7)研修の機会や内容



(8)働き続けやすい雰囲気



(9)育児休業・介護休業などの取得のしやすさ



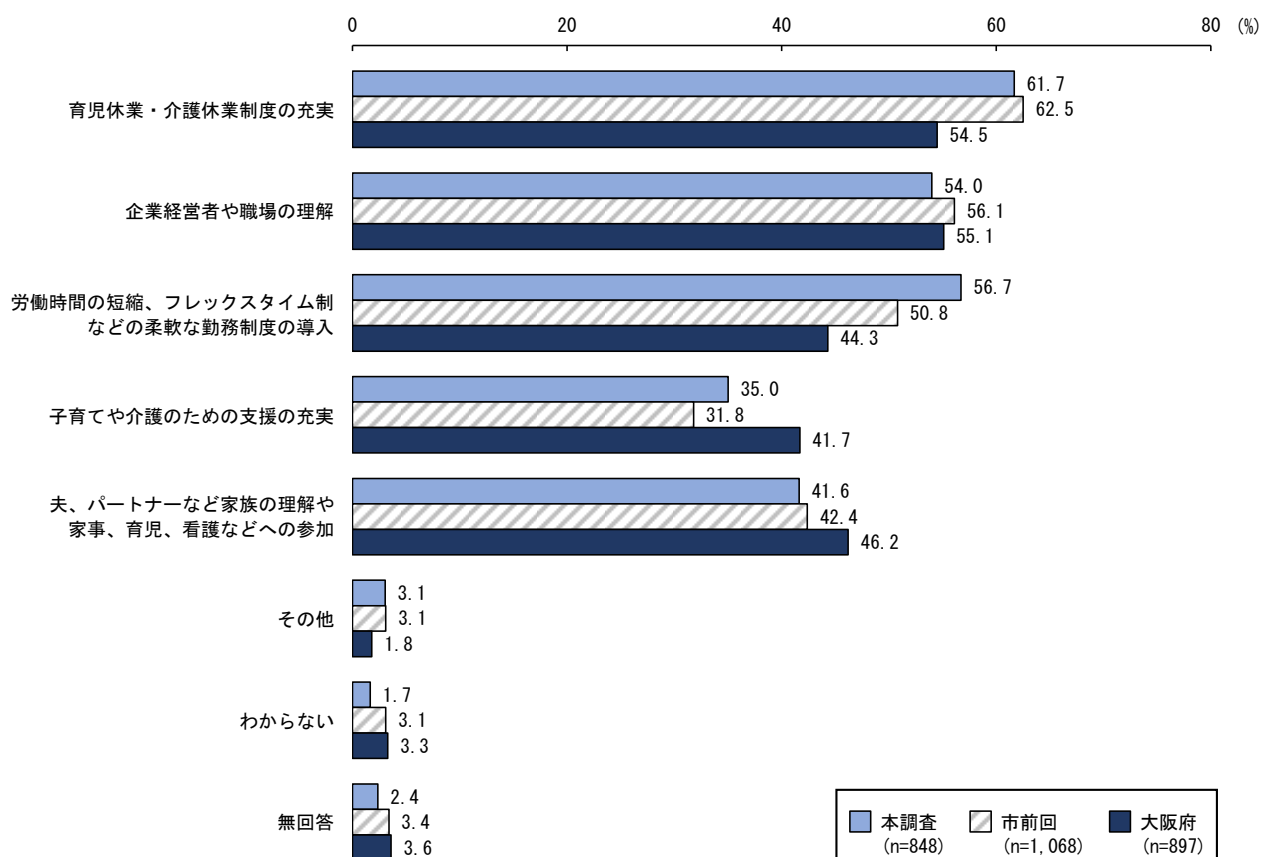
問 17 出産・子育て・介護などの理由で、女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。[○は3つまで]

「育児休業・介護休業制度の充実」が61.7%と最も高く、次いで、「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」が56.7%、「企業経営者や職場の理解」が54.0%となっている。

前回調査と比較すると、「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」が5.9ポイント増加、次いで、「子育てや介護のための支援の充実」が3.2ポイント増加している。

大阪府調査と比較すると、「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」が12.4ポイント高く、次いで、「育児休業・介護休業制度の充実」が7.2ポイント高くなっている。

【女性が働き続けるために必要なこと】



性・年代別でみると、女性全体では「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」が59.9%と最も高く、男性全体では「育児休業・介護休業制度の充実」が67.0%と最も高くなっている。また、男女ともに60歳代、70歳代では、「育児休業・介護休業制度の充実」が最も高くなっている。

【女性が働き続けるために必要なこと】

		育児休業・介護休業制度の充実	企業経営者や職場の理解	労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入	子育てや介護のための支援の充実	夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加	その他	わからない	無回答
女性	全体 (n=491)	58.5%	55.4%	59.9%	35.0%	45.2%	3.9%	1.0%	3.1%
	18～29歳 (n=35)	65.7%	45.7%	82.9%	31.4%	37.1%	2.9%	2.9%	0.0%
	30歳代 (n=55)	47.3%	50.9%	76.4%	36.4%	41.8%	10.9%	0.0%	1.8%
	40歳代 (n=82)	53.7%	62.2%	61.0%	32.9%	51.2%	4.9%	1.2%	2.4%
	50歳代 (n=125)	56.8%	56.0%	62.4%	29.6%	49.6%	4.8%	0.0%	0.8%
	60歳代 (n=87)	59.8%	52.9%	52.9%	44.8%	43.7%	2.3%	1.1%	3.4%
	70歳以上 (n=107)	66.4%	57.0%	45.8%	35.5%	41.1%	0.0%	1.9%	7.5%

男性	全体 (n=336)	67.0%	51.5%	52.7%	34.8%	37.2%	1.5%	2.4%	1.2%
	18～29歳 (n=32)	65.6%	59.4%	53.1%	31.3%	40.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代 (n=42)	78.6%	40.5%	54.8%	45.2%	38.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代 (n=52)	67.3%	55.8%	69.2%	32.7%	30.8%	1.9%	0.0%	0.0%
	50歳代 (n=60)	55.0%	41.7%	51.7%	31.7%	38.3%	5.0%	5.0%	0.0%
	60歳代 (n=61)	68.9%	50.8%	44.3%	32.8%	41.0%	0.0%	4.9%	0.0%
	70歳以上 (n=89)	68.5%	58.4%	48.3%	36.0%	36.0%	1.1%	2.2%	4.5%

第1位	第2位	第3位
-----	-----	-----

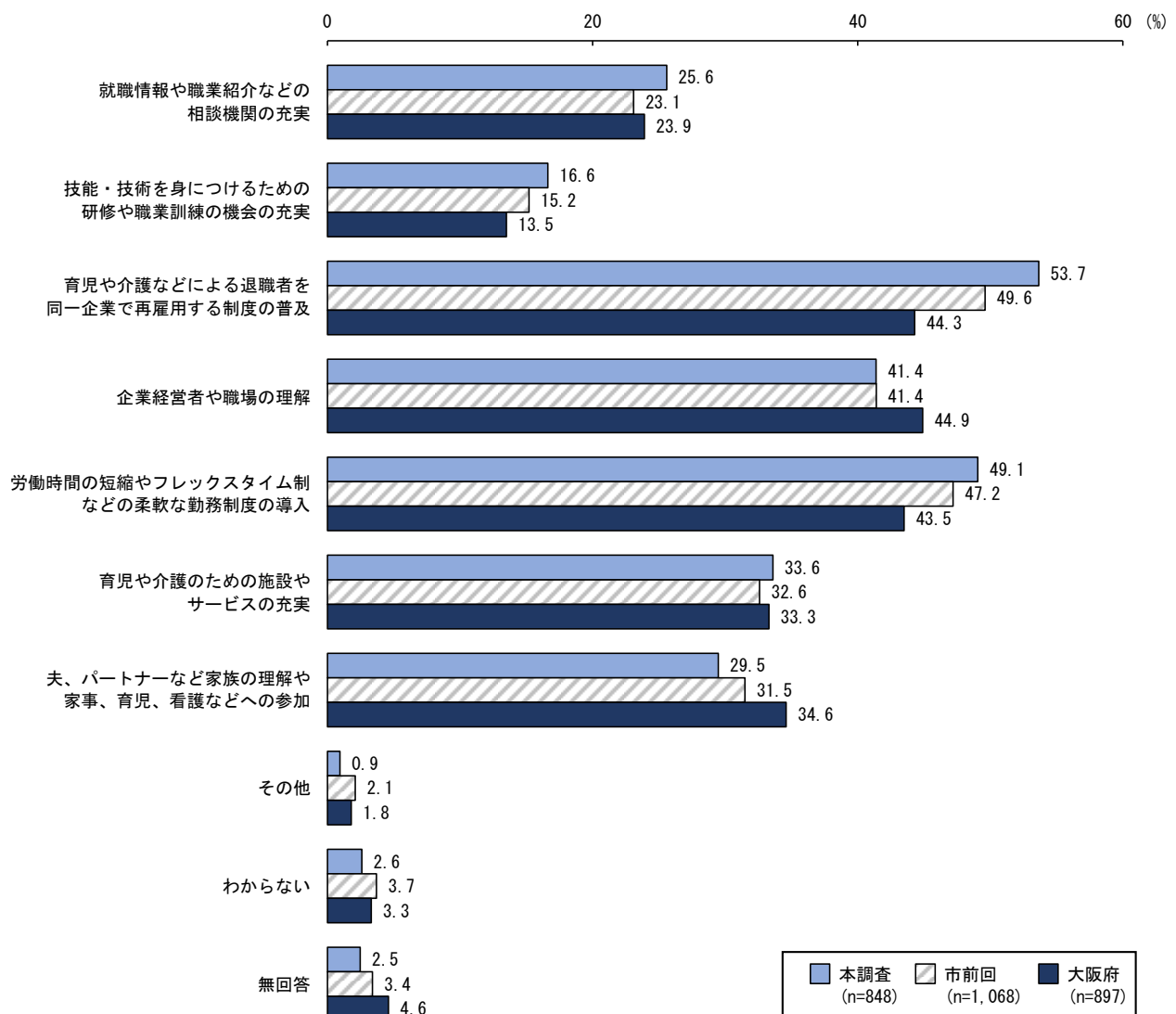
問 18 出産・子育て・介護などで仕事を辞めた後、再就職を希望する女性が、再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。〔〇は3つまで〕

「育児や介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」が53.7%と最も高く、次いで、「労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」が49.1%、「企業経営者や職場の理解」が41.4%となっている。

前回調査と比較すると、多くの項目で増加しているが、「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加」は2.0ポイント減少している。

大阪府調査と比較すると、多くの項目で高くなっているが、「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加」は5.1ポイント低く、「企業経営者や職場の理解」は3.5ポイント低くなっている。

【再就職を希望する女性に必要なこと】



性・年代別でみると、女性全体では「労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」が51.9%と最も高く、「育児や介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」も51.5%と高くなっている。男性全体では「育児や介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」が57.1%と最も高くなっている。また、男女ともに18～29歳では「育児や介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」と「企業経営者や職場の理解」が最も高くなっている。

【再就職を希望する女性に必要なこと】

		就職情報や職業紹介などの相談機関の充実	技能・研修や職業訓練の機会の実	育児や介護などによる退職者を再雇用する制度の普及	企業経営者や職場の理解	労働時間の短縮やフレックスタイム制	育児や介護のための施設やサービスの充実	夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加	その他	わからない	無回答
女性	全体 (n=491)	22.0%	15.5%	51.5%	40.1%	51.9%	36.3%	36.0%	1.2%	2.0%	3.1%
	18～29歳 (n=35)	22.9%	17.1%	51.4%	51.4%	48.6%	25.7%	37.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代 (n=55)	16.4%	18.2%	56.4%	40.0%	63.6%	36.4%	29.1%	0.0%	1.8%	1.8%
	40歳代 (n=82)	19.5%	22.0%	42.7%	35.4%	52.4%	36.6%	48.8%	2.4%	2.4%	2.4%
	50歳代 (n=125)	24.8%	14.4%	54.4%	44.0%	52.0%	30.4%	37.6%	3.2%	0.8%	0.8%
	60歳代 (n=87)	24.1%	12.6%	44.8%	39.1%	47.1%	44.8%	43.7%	0.0%	1.1%	3.4%
	70歳以上 (n=107)	21.5%	12.1%	57.9%	36.4%	50.5%	39.3%	21.5%	0.0%	4.7%	7.5%
男性	全体 (n=336)	30.7%	17.9%	57.1%	43.8%	44.3%	29.8%	20.8%	0.6%	3.3%	1.2%
	18～29歳 (n=32)	28.1%	18.8%	56.3%	56.3%	43.8%	31.3%	15.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代 (n=42)	31.0%	16.7%	66.7%	35.7%	42.9%	38.1%	26.2%	0.0%	2.4%	0.0%
	40歳代 (n=52)	32.7%	25.0%	51.9%	44.2%	48.1%	23.1%	21.2%	0.0%	3.8%	0.0%
	50歳代 (n=60)	20.0%	11.7%	61.7%	48.3%	40.0%	20.0%	21.7%	1.7%	6.7%	0.0%
	60歳代 (n=61)	26.2%	14.8%	50.8%	42.6%	54.1%	36.1%	24.6%	1.6%	0.0%	0.0%
	70歳以上 (n=89)	40.4%	20.2%	57.3%	40.4%	39.3%	31.5%	16.9%	0.0%	4.5%	4.5%

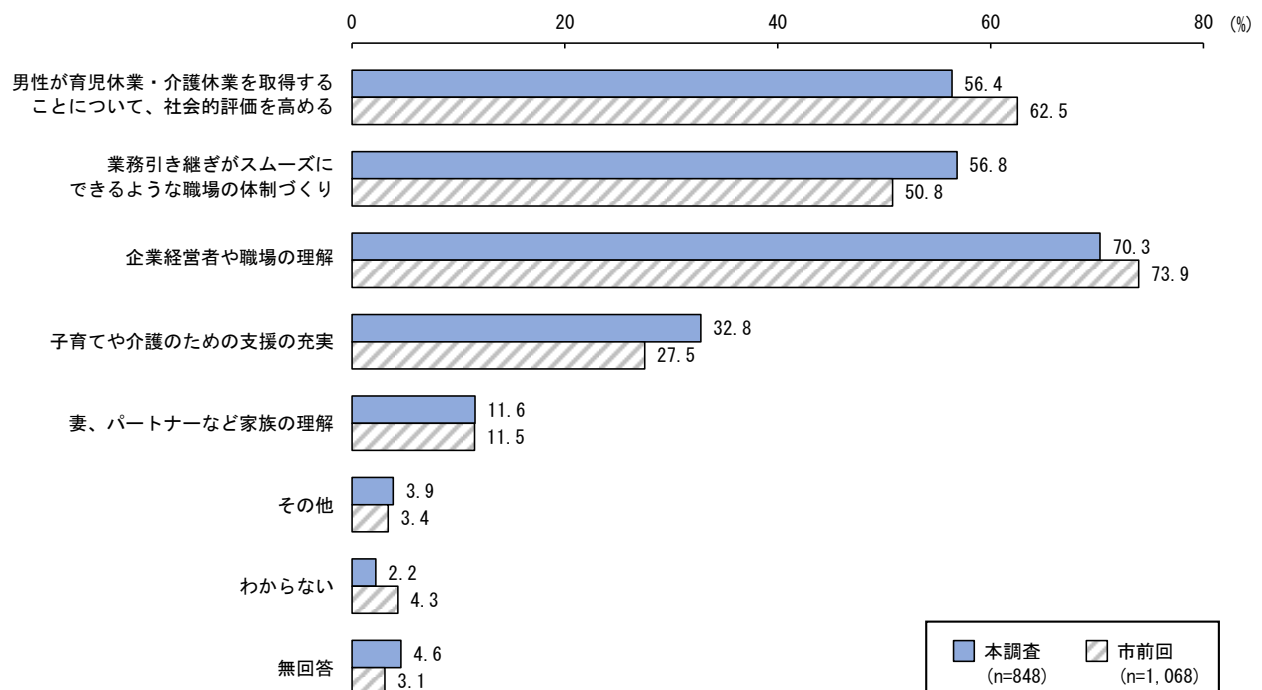
第1位	第2位	第3位
-----	-----	-----

問 19 今後、男性が育児休業や介護休業をとりやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。
 [〇は3つまで]

「企業経営者や職場の理解」が70.3%と最も高く、次いで、「業務引き継ぎがスムーズにできるような職場の体制づくり」が56.8%、「男性が育児休業・介護休業を取得することについて、社会的評価を高める」が56.4%となっている。

前回調査と比較すると、「業務引き継ぎがスムーズにできるような職場の体制づくり」が6.0ポイント増加、「子育てや介護のための支援の充実」が5.3ポイント増加している。一方、「男性が育児休業・介護休業を取得することについて、社会的評価を高める」が6.1ポイント減少、「企業経営者や職場の理解」が3.6ポイント減少している。

【男性による育児休業や介護休業の取得促進に必要なこと】



性・年代別でみると、男女ともに全体で「企業経営者や職場の理解」が最も高く、女性では74.5%、男性では64.0%となっている。また、男性の40歳代では、「業務引き継ぎがスムーズにできるような職場の体制づくり」、「企業経営者や職場の理解」が最も高くなっている。

【男性による育児休業や介護休業の取得促進に必要なこと】

		男性が 取得することについて、 社会的評価を高める	業務 引き継ぎがスムーズに できるような職場の 体制づくり	企業 経営者や職場の 理解	子育 てや介護のた めの支援の充 実	妻、 パートナ ーなど家族 の理解	そ 他	わ か ら な い	無 回 答
女性	全体 (n=491)	56.8%	58.9%	74.5%	29.9%	12.6%	3.9%	2.2%	4.5%
	18～29歳 (n=35)	62.9%	60.0%	71.4%	34.3%	11.4%	5.7%	2.9%	0.0%
	30歳代 (n=55)	65.5%	67.3%	78.2%	21.8%	5.5%	5.5%	1.8%	5.5%
	40歳代 (n=82)	52.4%	72.0%	73.2%	26.8%	9.8%	4.9%	1.2%	4.9%
	50歳代 (n=125)	56.0%	56.8%	76.8%	24.0%	12.8%	4.8%	2.4%	2.4%
	60歳代 (n=87)	59.8%	54.0%	78.2%	40.2%	14.9%	4.6%	0.0%	3.4%
	70歳以上 (n=107)	52.3%	50.5%	69.2%	33.6%	16.8%	0.0%	4.7%	8.4%
男性	全体 (n=336)	56.5%	54.2%	64.0%	37.2%	10.1%	4.2%	2.4%	4.2%
	18～29歳 (n=32)	78.1%	43.8%	71.9%	40.6%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代 (n=42)	71.4%	54.8%	59.5%	33.3%	9.5%	4.8%	0.0%	4.8%
	40歳代 (n=52)	57.7%	67.3%	67.3%	36.5%	11.5%	9.6%	0.0%	0.0%
	50歳代 (n=60)	33.3%	48.3%	61.7%	28.3%	10.0%	6.7%	5.0%	5.0%
	60歳代 (n=61)	52.5%	60.7%	59.0%	37.7%	13.1%	1.6%	3.3%	4.9%
	70歳以上 (n=89)	59.6%	49.4%	66.3%	43.8%	6.7%	2.2%	3.4%	6.7%

第1位	第2位	第3位
-----	-----	-----

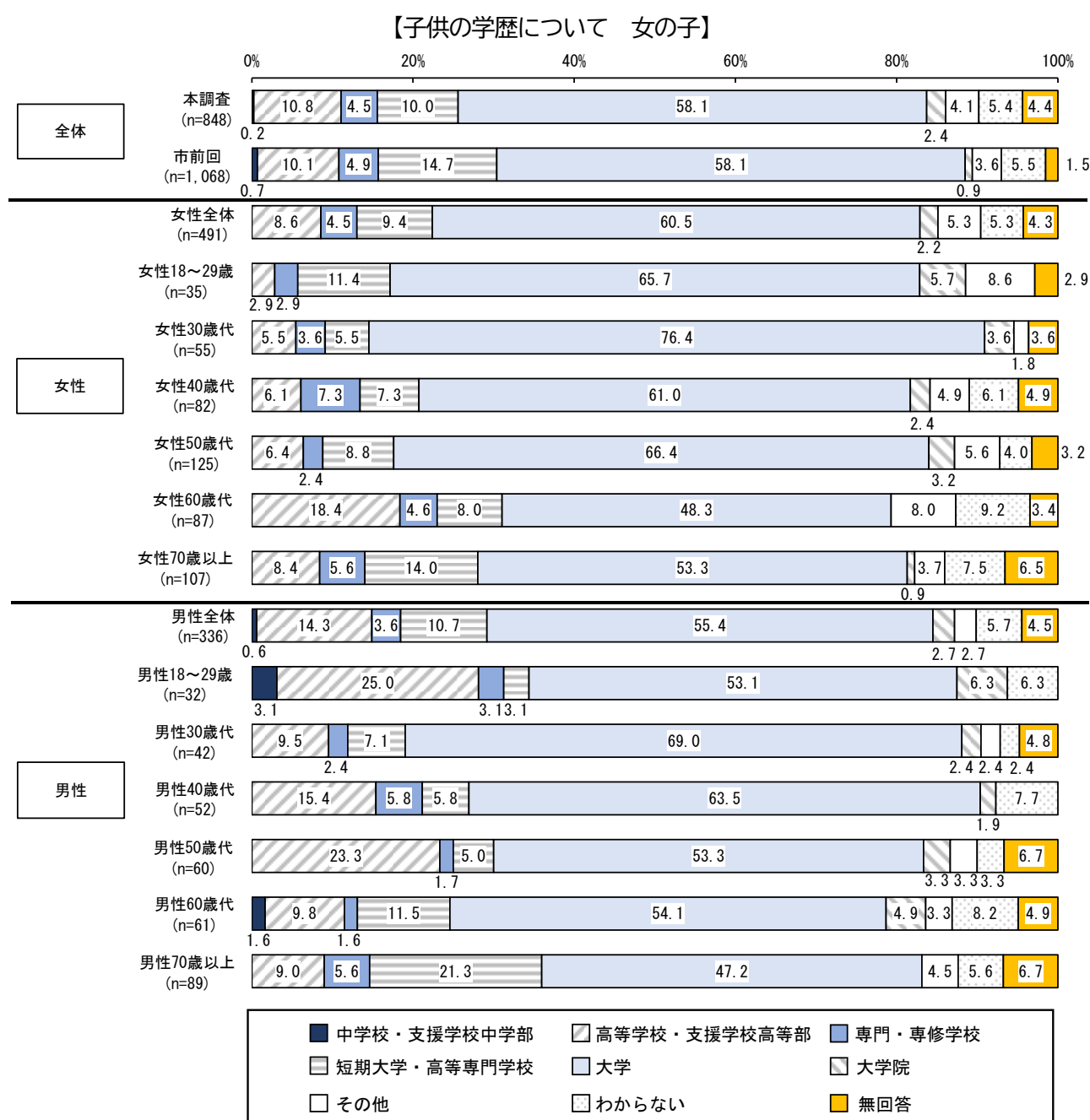
4. 教育について

問 20 一般的に子供には、どの程度の学歴が必要だと思いますか。女の子、男の子、どちらについてもお答えください。[〇はそれぞれ1つ]

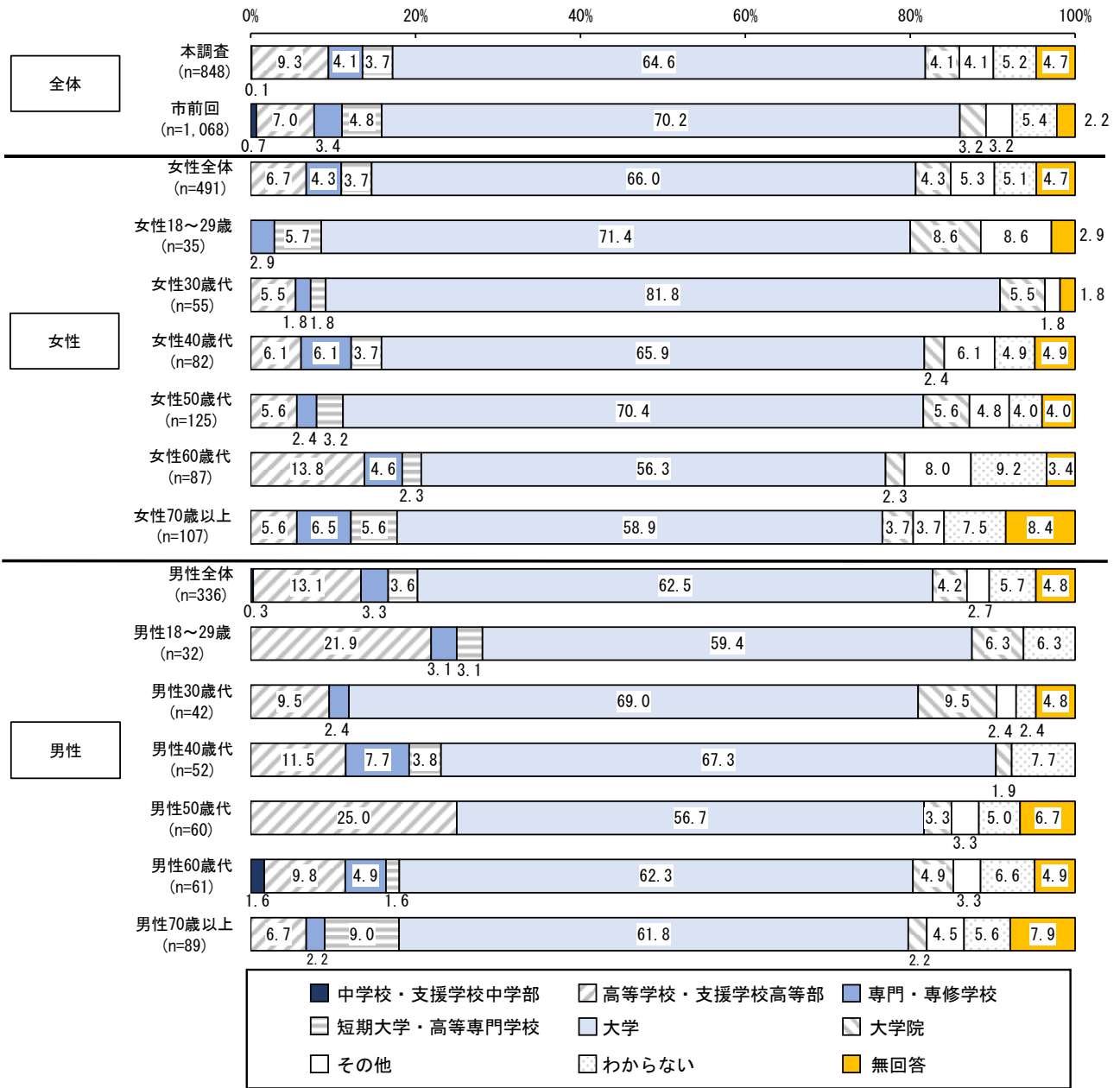
「大学」が最も高く、「女の子」については58.1%、「男の子」については64.6%となっている。

前回調査と比較すると、「女の子」の「大学」では、変化はなく同等となっているが、「男の子」の「大学」では、5.6ポイント減少している。

性・年代別でみると、女性、男性ともに「大学」が最も高く、「女の子」については女性では60.5%、男性では55.4%、「男の子」については女性では66.0%、男性では62.5%となっている。また、「女の子」、「男の子」とともに、「大学」は女性、男性とも30歳代の割合が最も高くなっている。



【子供の学歴について 男の子】



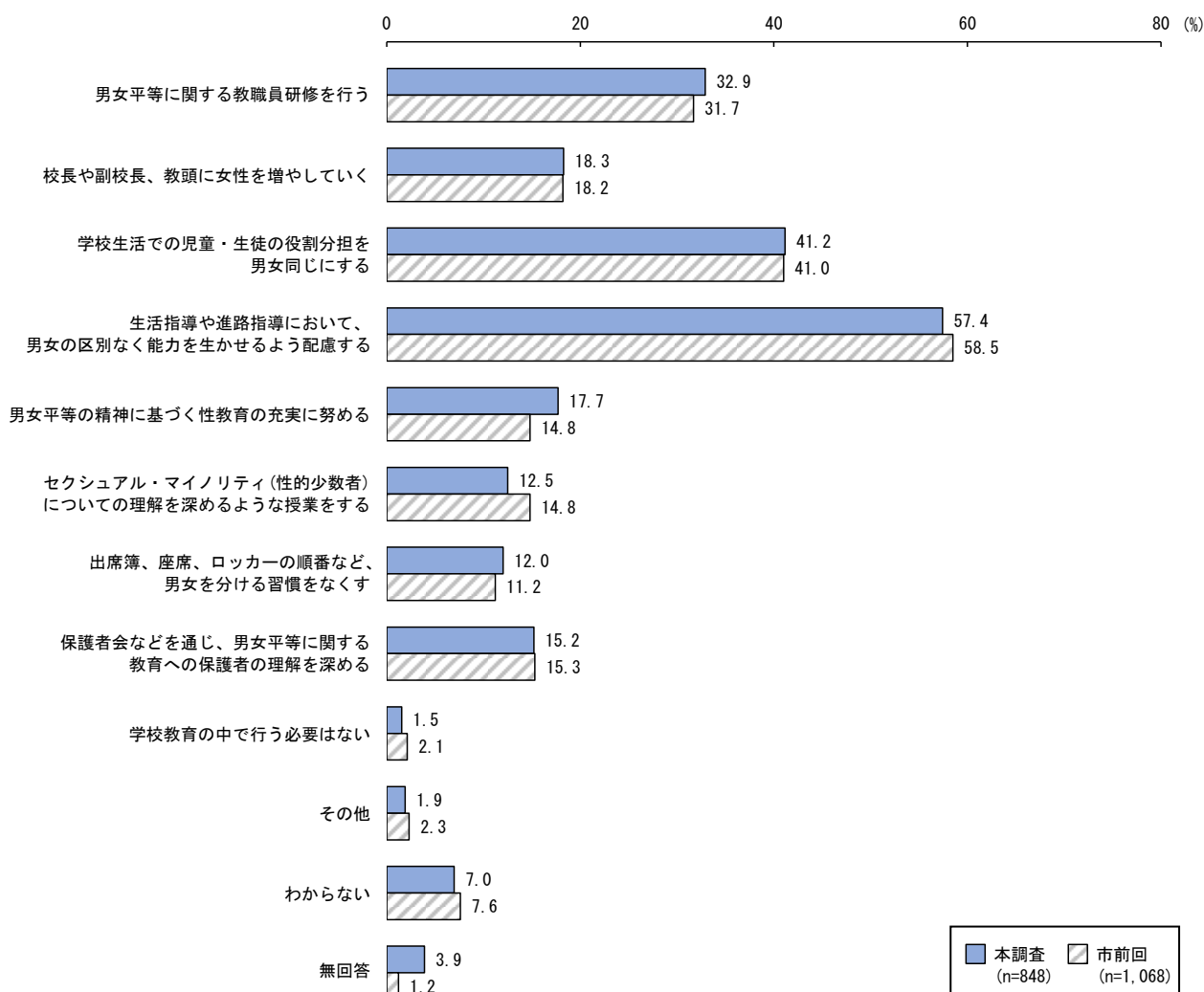
問 21 男女共同参画を推進していくために、学校、特に小・中・高等学校等でどのようなことが必要だと思いますか。[〇は3つまで]

「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」が57.4%と最も高く、次いで、「学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする」が41.2%、「男女平等に関する教職員研修を行う」が32.9%となっている。

前回調査と比較すると、「男女平等の精神に基づく性教育の充実に努める」が2.9ポイント増加、「男女平等に関する教職員研修を行う」が1.2ポイント増加している。

一方、「セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)についての理解を深めるような授業をする」が2.3ポイント減少、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」が1.1ポイント減少している。

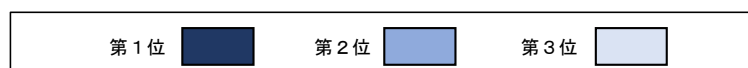
【学校で必要と考える取り組み】



性・年代別でみると、男女ともに全体で「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」が最も高く、女性では60.1%、男性では52.7%となっている。また、男性の40歳代、50歳代では、「学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする」が最も高くなっている。

【学校で必要と考える取り組み】

		男女平等に関する教職員研修を行う	校長や副校長、教頭に女性を増やしていく	学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する	男女平等の精神に基づく性教育の充実に努める	セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）について の理解を深めるような授業をする	出席簿、座席、ロッカーの順番など、 男女を分ける習慣をなくす	保護者会などを通じ、 男女平等に関する教育への保護者の理解を深める	学校教育の中で行う必要はない	その他	わからない	無回答
女性	全体 (n=491)	31.4%	19.3%	40.9%	60.1%	18.7%	14.1%	13.2%	14.5%	0.4%	2.6%	6.9%	3.9%
	18～29歳 (n=35)	22.9%	22.9%	22.9%	60.0%	22.9%	31.4%	14.3%	14.3%	0.0%	5.7%	2.9%	2.9%
	30歳代 (n=55)	36.4%	25.5%	49.1%	67.3%	21.8%	9.1%	21.8%	12.7%	0.0%	1.8%	1.8%	1.8%
	40歳代 (n=82)	22.0%	20.7%	46.3%	47.6%	22.0%	23.2%	23.2%	12.2%	1.2%	1.2%	8.5%	4.9%
	50歳代 (n=125)	33.6%	20.8%	36.8%	59.2%	19.2%	12.0%	13.6%	13.6%	0.8%	5.6%	5.6%	2.4%
	60歳代 (n=87)	29.9%	18.4%	41.4%	65.5%	16.1%	17.2%	5.7%	17.2%	0.0%	1.1%	9.2%	2.3%
	70歳以上 (n=107)	37.4%	13.1%	43.0%	62.6%	15.0%	3.7%	6.5%	15.9%	0.0%	0.9%	9.3%	7.5%
男性	全体 (n=336)	36.3%	16.4%	40.5%	52.7%	16.4%	10.1%	10.7%	17.3%	3.0%	0.9%	7.1%	3.9%
	18～29歳 (n=32)	31.3%	3.1%	28.1%	62.5%	37.5%	28.1%	25.0%	18.8%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%
	30歳代 (n=42)	35.7%	19.0%	35.7%	59.5%	21.4%	9.5%	9.5%	19.0%	2.4%	0.0%	0.0%	4.8%
	40歳代 (n=52)	40.4%	19.2%	50.0%	46.2%	21.2%	13.5%	11.5%	13.5%	3.8%	1.9%	3.8%	0.0%
	50歳代 (n=60)	30.0%	11.7%	41.7%	40.0%	11.7%	6.7%	8.3%	8.3%	8.3%	0.0%	8.3%	5.0%
	60歳代 (n=61)	37.7%	16.4%	39.3%	52.5%	6.6%	9.8%	13.1%	13.1%	3.3%	3.3%	8.2%	4.9%
	70歳以上 (n=89)	39.3%	21.3%	41.6%	58.4%	13.5%	4.5%	5.6%	27.0%	0.0%	0.0%	12.4%	5.6%



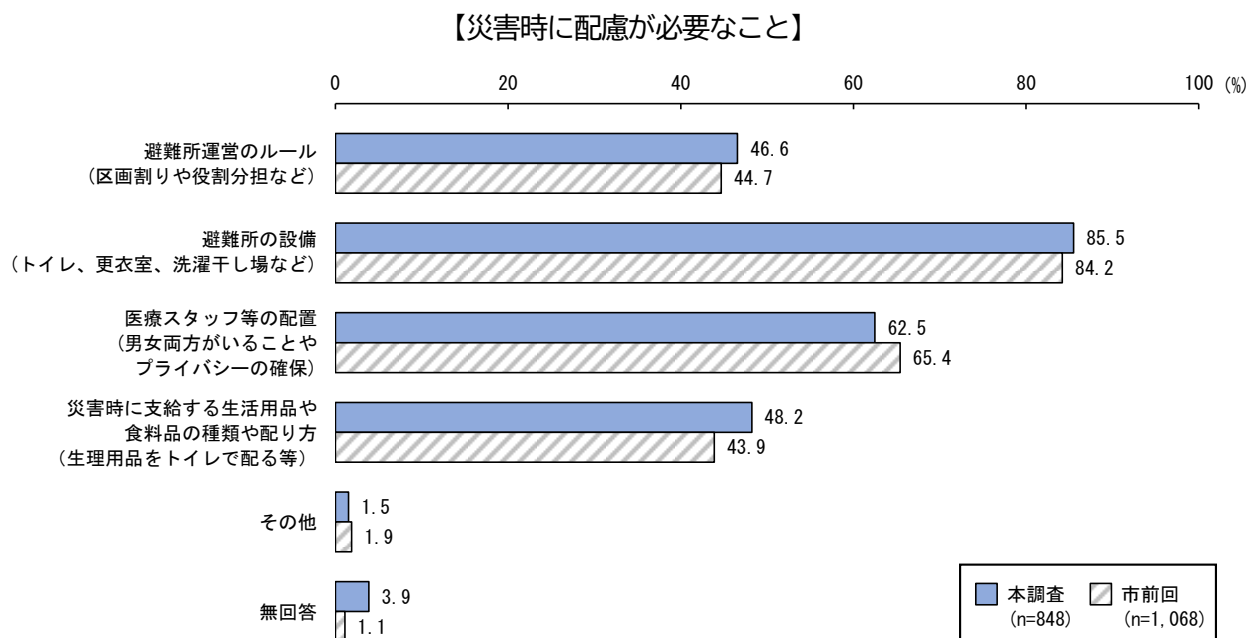
5. 防災対策・災害復興対策について

問 22 災害時において、性別や年齢などによる違いや多様性に配慮するために必要なことは、どのようなことですか。[〇は3つまで]

「避難所の設備（トイレ、更衣室、洗濯干し場など）」が85.5%と最も高く、次いで、「医療スタッフ等の配置（男女両方がいることやプライバシーの確保）」が62.5%、「災害時に支給する生活用品や食料品の種類や配り方（生理用品をトイレで配る等）」が48.2%となっている。

前回調査と比較すると、「災害時に支給する生活用品や食料品の種類や配り方（生理用品をトイレで配る等）」が4.3ポイント増加、「避難所運営のルール（区画割りや役割分担など）」が1.9ポイント増加、「避難所の設備（トイレ、更衣室、洗濯干し場など）」が1.3ポイント増加している。

一方、「医療スタッフ等の配置（男女両方がいることやプライバシーの確保）」は2.9ポイント減少している。



性・年代別でみると、男女ともに全体、全年代で「避難所の設備（トイレ、更衣室、洗濯干し場など）」が最も高く、女性では86.6%、男性では83.9%となっている。

【災害時に配慮が必要なこと】

		避難所運営のルール (区画割りや役割分担など)	避難所の設備 (トイレ、更衣室、洗濯干し場など)	医療スタッフ等の配置 (男女両方がいることやプライバシーの確保)	災害時に支給する生活用品や食料品の種類や配り方 (生理用品をトイレで配る等)	その他	無回答
女性	全体 (n=491)	43.6%	86.6%	65.4%	49.9%	2.0%	3.7%
	18～29歳 (n=35)	42.9%	80.0%	48.6%	57.1%	2.9%	0.0%
	30歳代 (n=55)	40.0%	89.1%	69.1%	60.0%	1.8%	1.8%
	40歳代 (n=82)	50.0%	89.0%	62.2%	52.4%	0.0%	4.9%
	50歳代 (n=125)	46.4%	87.2%	63.2%	46.4%	4.8%	2.4%
	60歳代 (n=87)	42.5%	86.2%	67.8%	47.1%	1.1%	2.3%
	70歳以上 (n=107)	38.3%	85.0%	72.0%	46.7%	0.9%	7.5%
男性	全体 (n=336)	52.1%	83.9%	57.4%	44.6%	0.9%	4.2%
	18～29歳 (n=32)	50.0%	75.0%	68.8%	53.1%	3.1%	0.0%
	30歳代 (n=42)	61.9%	78.6%	50.0%	52.4%	0.0%	4.8%
	40歳代 (n=52)	59.6%	92.3%	51.9%	46.2%	0.0%	0.0%
	50歳代 (n=60)	50.0%	85.0%	5.0%	31.7%	1.7%	5.0%
	60歳代 (n=61)	54.1%	83.6%	54.1%	41.0%	1.6%	4.9%
	70歳以上 (n=89)	43.8%	84.3%	70.8%	48.3%	0.0%	6.7%

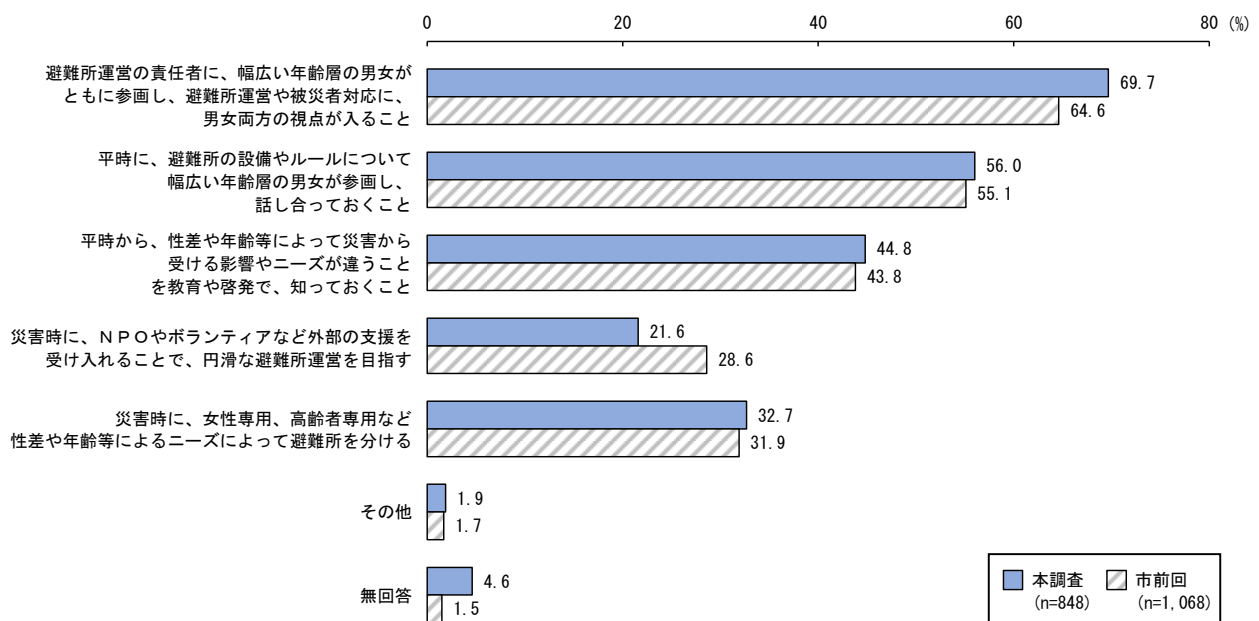
第1位	第2位	第3位
-----	-----	-----

問 23 問 22 で○をつけたことを実現するために、平時や災害時に必要なことは、どのようなことですか。
 [○は3つまで]

「避難所運営の責任者に、幅広い年齢層の男女がともに参画し、避難所運営や被災者対応に、男女両方の視点が入ること」が 69.7%と最も高く、次いで、「平时に、避難所の設備やルールについて幅広い年齢層の男女が参画し、話し合っておくこと」が 56.0%、「平时から、性差や年齢等によって災害から受ける影響やニーズが違うことを教育や啓発で、知っておくこと」が 44.8%となっている。

前回調査と比較すると、多くの項目で割合は増加しているが、「災害時に、NPOやボランティアなど外部の支援を受け入れることで、円滑な避難所運営を目指す」は 7.0 ポイント減少している。

【災害時に必要な配慮を実現するために必要なこと】



性・年代別でみると、男女ともに全体で「避難所運営の責任者に、幅広い年齢層の男女がともに参画し、避難所運営や被災者対応に、男女両方の視点が入ること」が最も高く、女性では69.2%、男性では71.4%となっている。また、男性の18～29歳は、「平時から、性差や年齢等によって災害から受ける影響やニーズが違うことを教育や啓発で、知っておくこと」が最も高く、60歳代は、「平时に、避難所の設備やルールについて幅広い年齢層の男女が参画し、話し合っておくこと」が最も高くなっている。

【災害時に必要な配慮を実現するために必要なこと】

		避難所運営の責任者に、幅広い年齢層の男女が参画し、避難所運営や被災者対応に、男女両方の視点が入ること	平时に、幅広い年齢層の男女が参画し、話し合っておくこと	平时から、性差や年齢等によって災害から受ける影響やニーズが違うことを教育や啓発で、知っておくこと	災害時に、NPOやボランティアなど外部の支援を受け入れることで、円滑な避難所運営を目指す	災害時に、女性専用、高齢者専用など性差や年齢等によるニーズによって避難所を分ける	その他	無回答
女性	全体 (n=491)	69.2%	55.0%	45.0%	24.0%	35.2%	1.6%	4.3%
	18～29歳 (n=35)	68.6%	51.4%	45.7%	2.9%	40.0%	2.9%	0.0%
	30歳代 (n=55)	65.5%	56.4%	49.1%	25.5%	34.5%	3.6%	3.6%
	40歳代 (n=82)	67.1%	54.9%	56.1%	12.2%	35.4%	0.0%	4.9%
	50歳代 (n=125)	68.8%	57.6%	52.0%	32.0%	33.6%	1.6%	3.2%
	60歳代 (n=87)	70.1%	55.2%	46.0%	28.7%	33.3%	2.3%	2.3%
	70歳以上 (n=107)	72.9%	52.3%	25.2%	26.2%	37.4%	0.9%	8.4%
男性	全体 (n=336)	71.4%	58.0%	45.2%	17.9%	28.0%	2.4%	4.8%
	18～29歳 (n=32)	65.6%	50.0%	68.8%	12.5%	28.1%	6.3%	3.1%
	30歳代 (n=42)	71.4%	59.5%	50.0%	23.8%	14.3%	2.4%	4.8%
	40歳代 (n=52)	76.9%	55.8%	40.4%	15.4%	28.8%	3.8%	0.0%
	50歳代 (n=60)	70.0%	48.3%	40.0%	11.7%	30.0%	0.0%	6.7%
	60歳代 (n=61)	62.3%	65.6%	37.7%	19.7%	24.6%	3.3%	4.9%
	70歳以上 (n=89)	77.5%	62.9%	46.1%	21.3%	34.8%	1.1%	6.7%

第1位



第2位



第3位



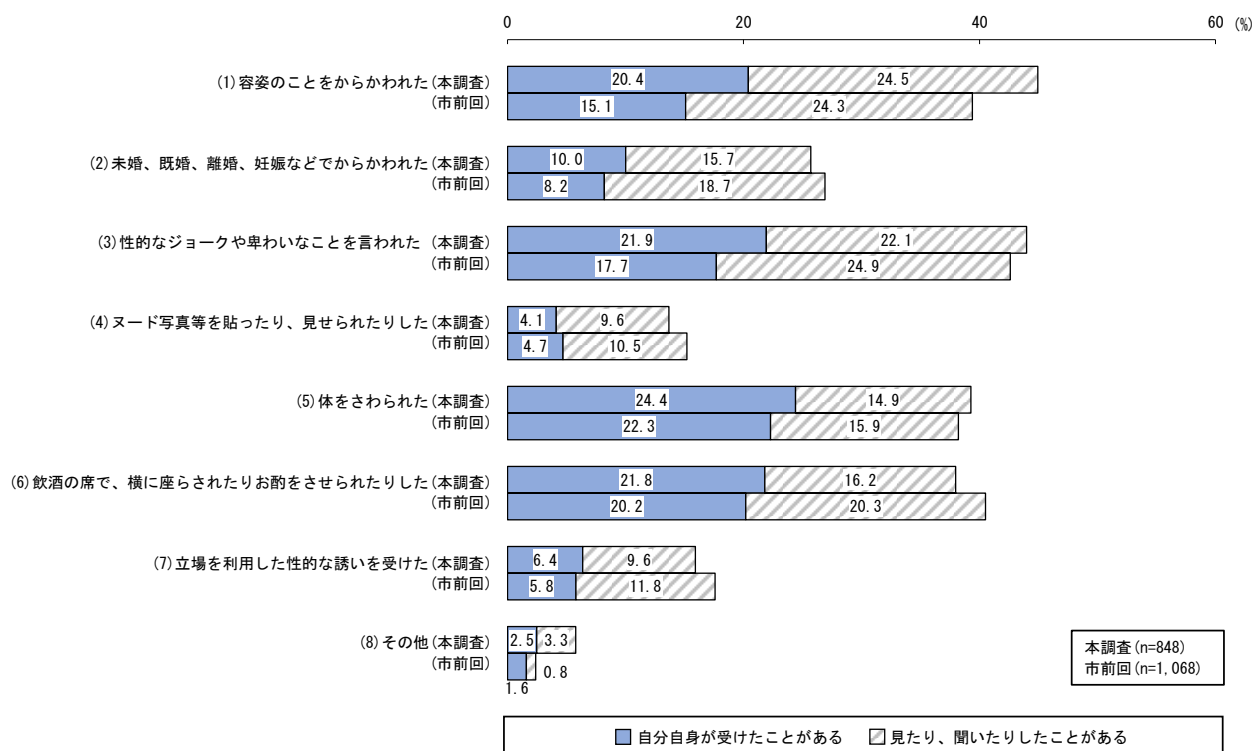
6. セクシュアル・ハラスメントや配偶者等からの暴力について

問 24 あなたは、今までにセクシュアル・ハラスメントを見聞きしたり、あるいは自分自身が受けた事がありますか。また、それはどのような内容でしたか。〔〇はいくつでも〕

「自分自身が受けたことがある」では、「(5)体をさわられた」が24.4%と最も高く、次いで、「(3)性的なジョークや卑わいなことを言われた」が21.9%、「(6)飲酒の席で、横に座らされたりお酌をさせられたりした」が21.8%となっている。「見たり、聞いたりしたことがある」では、「(1)容姿のことをからかわれた」が24.5%と最も高く、次いで、「(3)性的なジョークや卑わいなことを言われた」が22.1%、「(6)飲酒の席で、横に座らされたりお酌をさせられたりした」が16.2%となっている。

前回調査と比較すると、多くの項目で「自分自身が受けたことがある」が増加しているが、「(4)ヌード写真等を貼ったり、見せられたりした」は0.6ポイント減少している。

【セクシュアル・ハラスメントに関する被害経験 (1)～(8)】

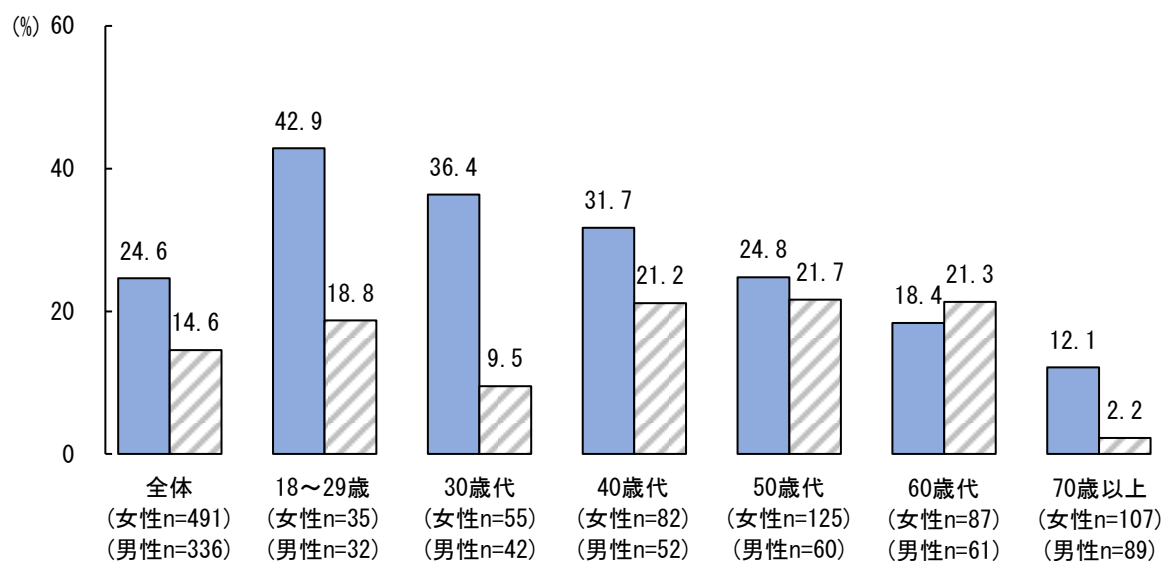


性・年代別でみると、「自分自身が受けたことがある」は、すべての項目で男性全体より女性全体が高くなっている。

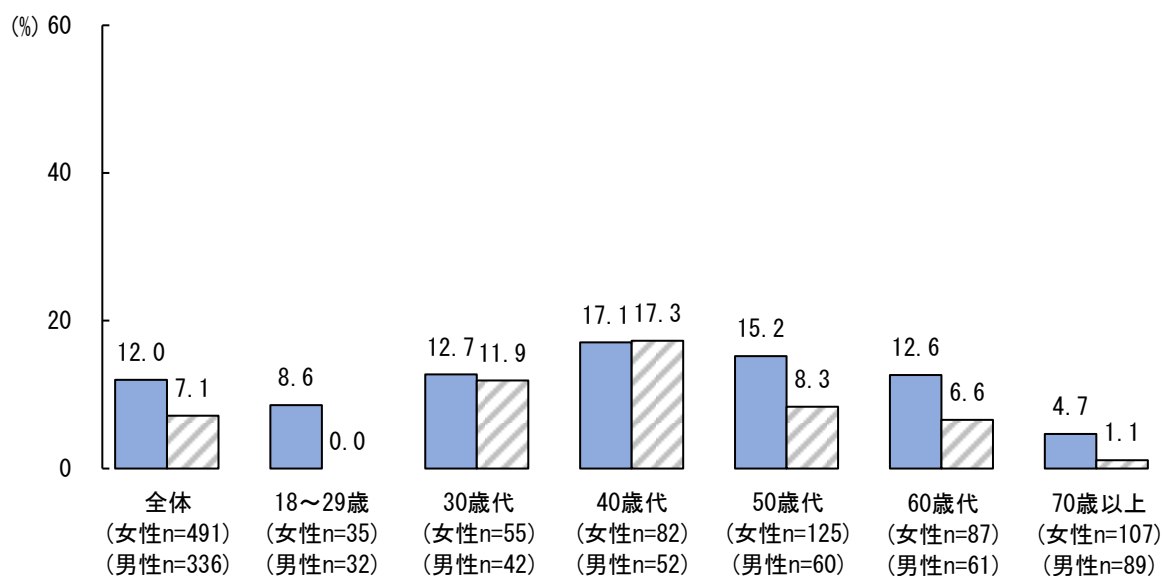
一方、「(4)ヌード写真等を貼ったり、見せられたりした」、「(6)飲酒の席で、横に座らされたりお酌をさせられたりした」では、18～29歳の男性の割合が、女性の割合より高くなっている。また、「(1)容姿のことをからかわれた」、「(4)ヌード写真等を貼ったり、見せられたりした」の60歳代男性、「(2)未婚、離婚、妊娠などでからかわれた」の40歳代男性の割合も、女性の割合より高くなっている。

【セクシュアル・ハラスメントに関する被害経験で、「自分自身が受けたことがある」の割合】

(1)容姿のことをからかわれた

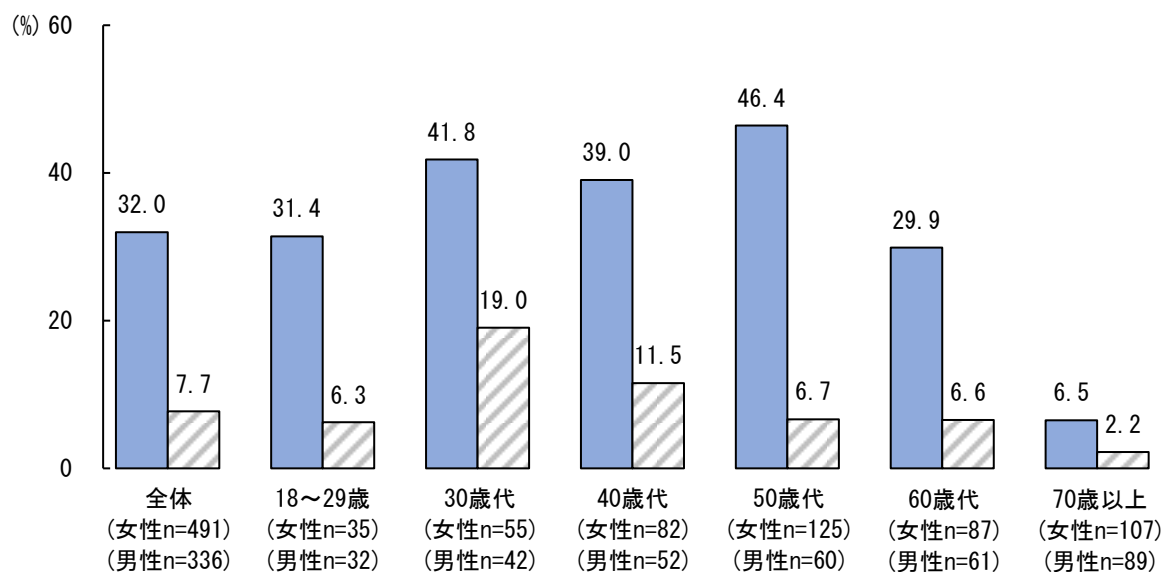


(2)未婚、既婚、離婚、妊娠などでからかわれた

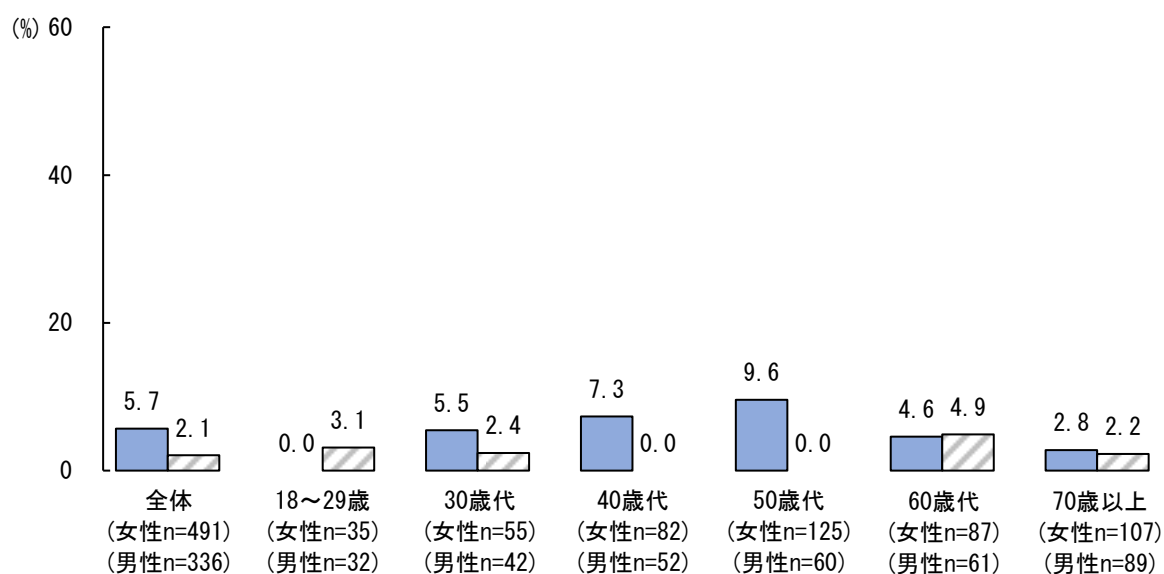


■ 女性 ■ 男性

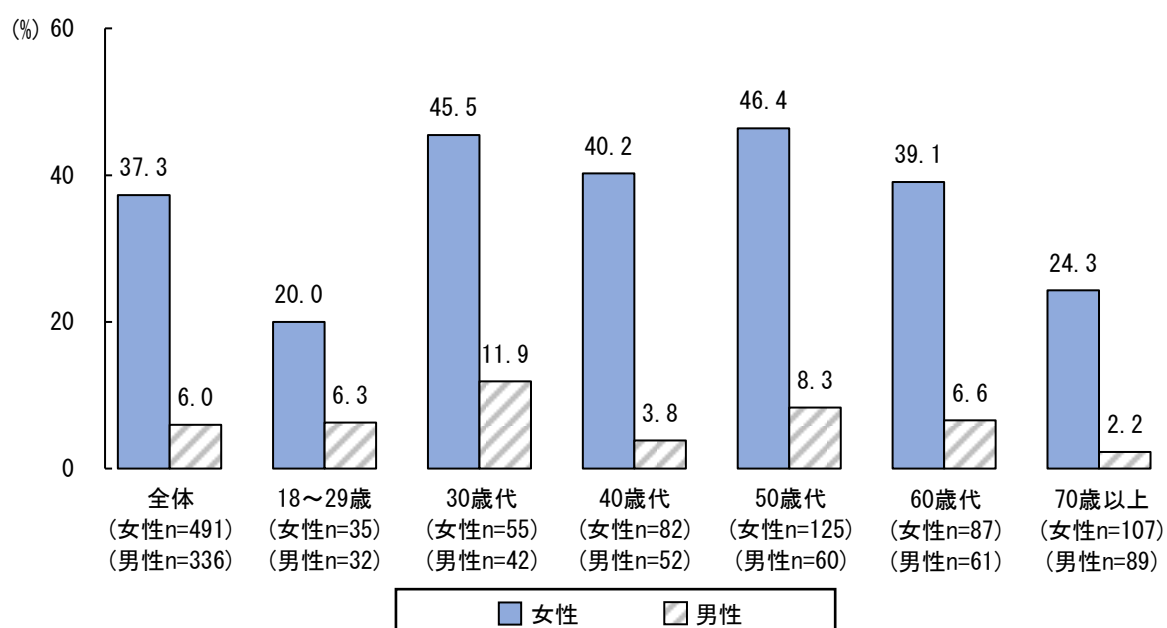
(3)性的なジョークや卑わいなことを言われた



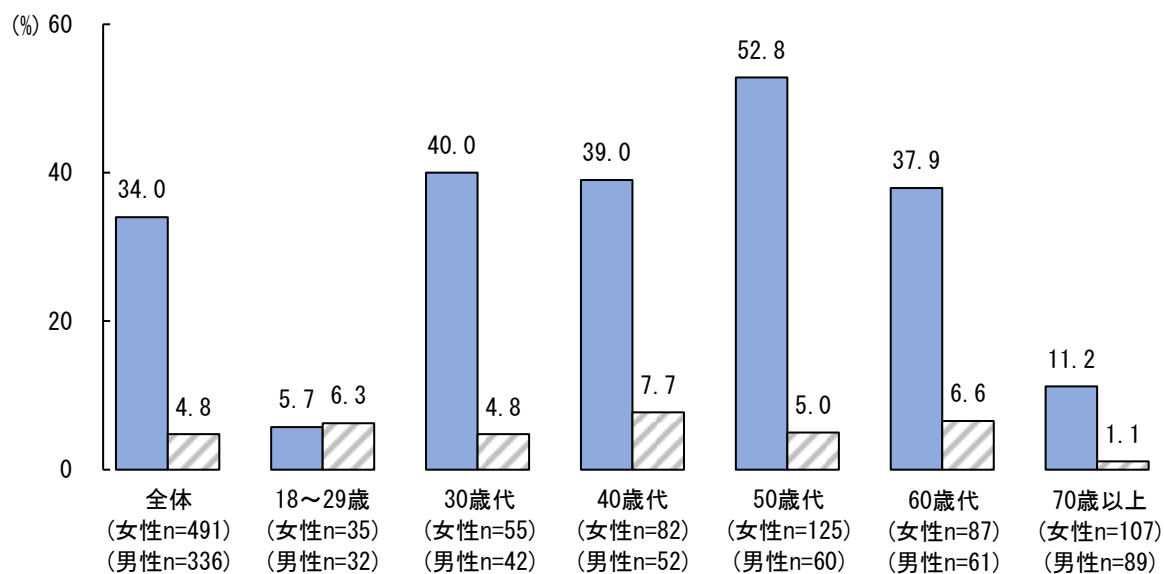
(4)ヌード写真等を貼ったり、見せられたりした



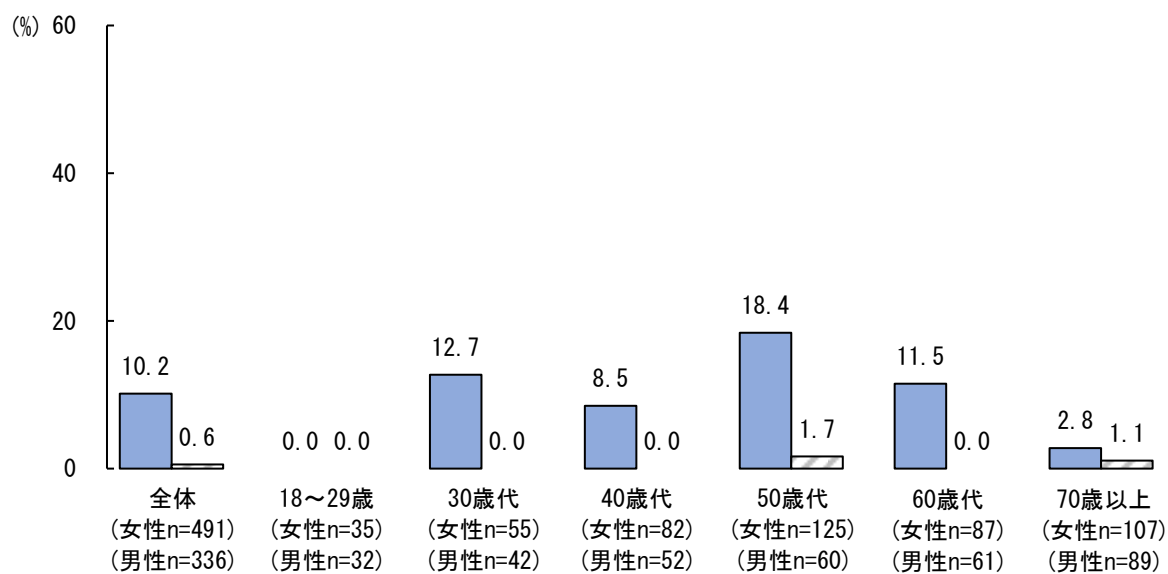
(5)体をさわられた



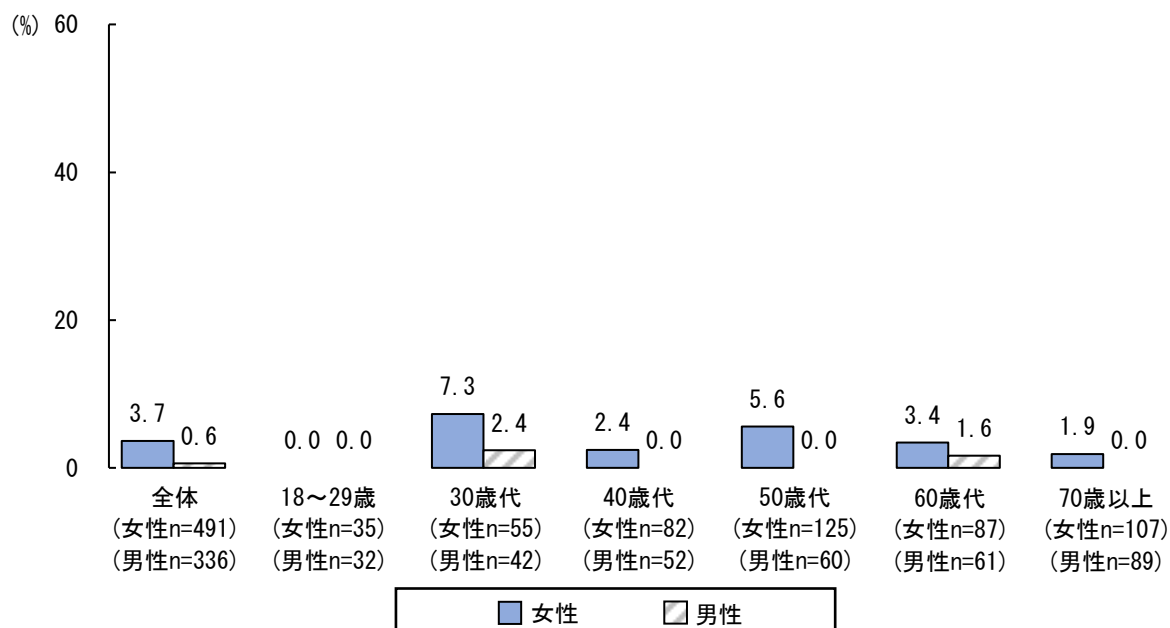
(6) 飲酒の席で、横に座らされたりお酌をさせられたりした



(7) 立場を利用した性的な誘いを受けた



(8) その他



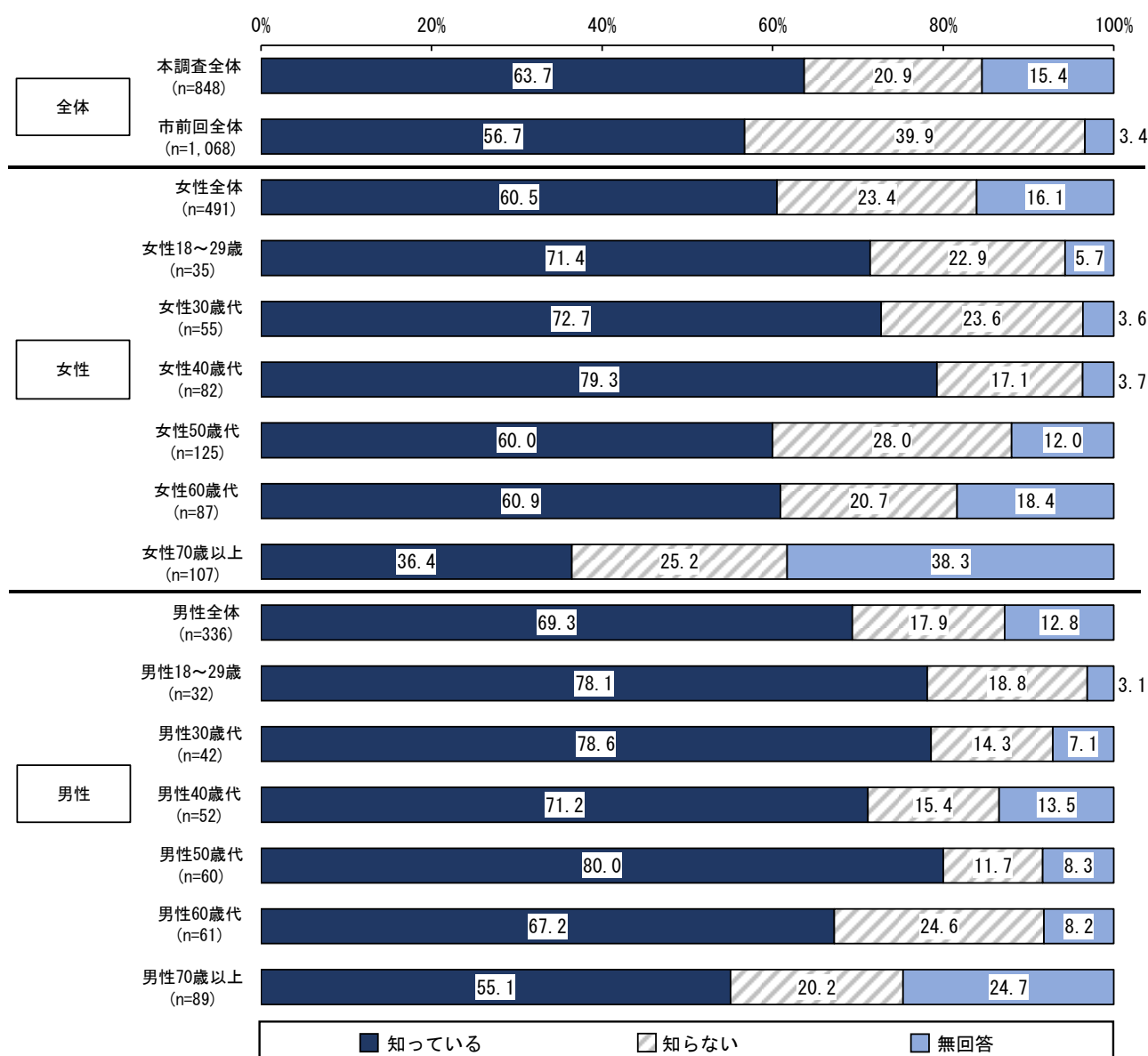
問 25 あなたは、セクシュアル・ハラスメントが同性間でも成立することを知っていますか。[○は1つ]

「知っている」が63.7%、「知らない」が20.9%となっている。

性・年代別でみると、男女ともに全体で「知っている」が高く、女性では60.5%、男性では69.3%となっている。「知っている」は、女性の40歳代で79.3%と最も高く、男性の50歳代で80.0%と最も高くなっている。

前回調査と比較すると、「知っている」が7.0ポイント増加し、「知らない」が19.0ポイント減少している。

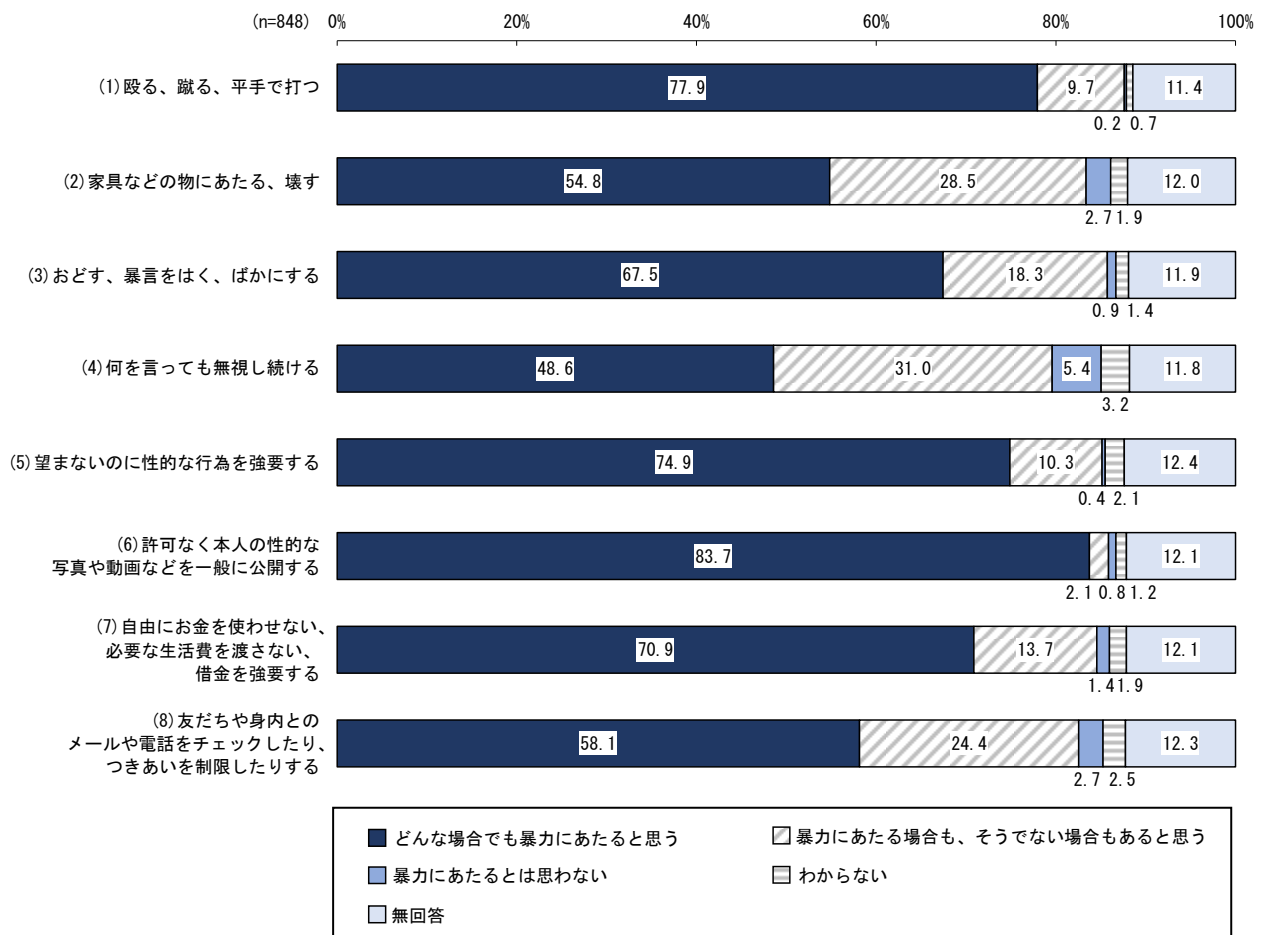
【同性間でのセクシュアル・ハラスメント】



問 26 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。
それぞれについて、あなたの考えに近いものに○をつけてください。
〔(1)～(8)それぞれに、○は1つ〕

「どんな場合でも暴力にあたると思う」では、「(6)許可なく本人の性的な写真や動画などを一般に公開する」が83.7%と最も高く、次いで、「(1)殴る、蹴る、平手で打つ」が77.9%、「(5)望まないのに性的な行為を強要する」が74.9%となっている。

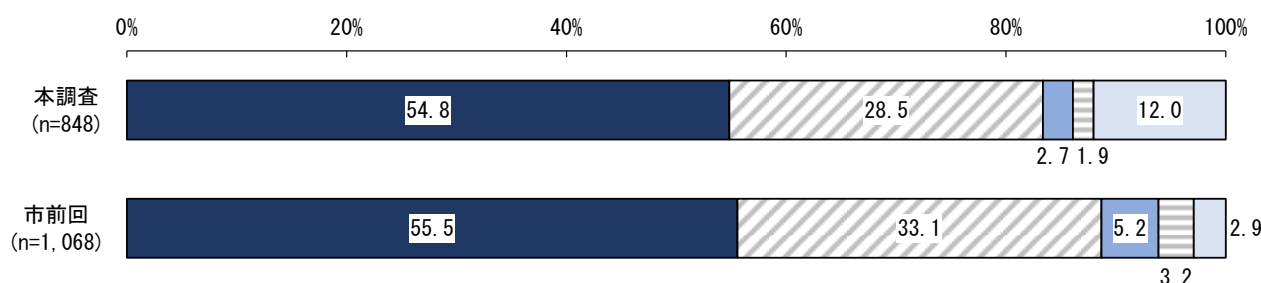
【配偶者・パートナー間の暴力と考えられること (1)～(8)】



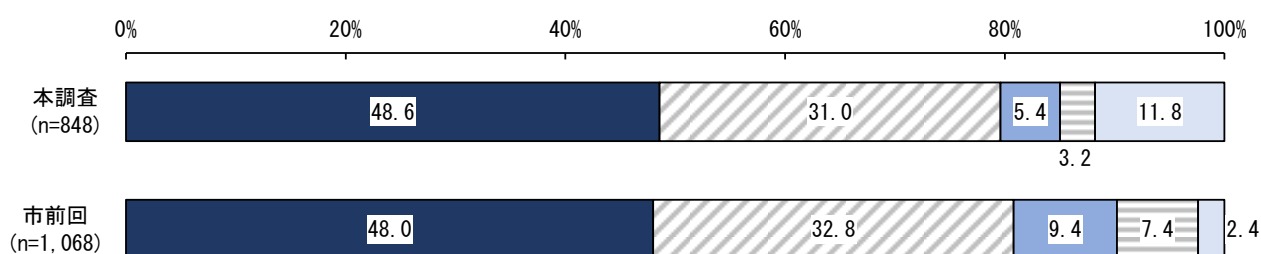
前回調査と比較すると、すべての項目で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」、「暴力に当たるとは思わない」の割合が減少している。

【配偶者・パートナー間の暴力と考えられること】

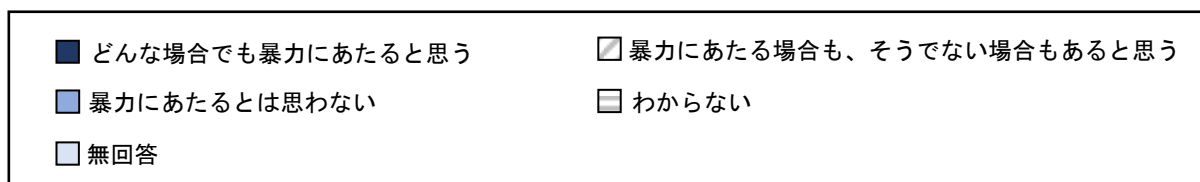
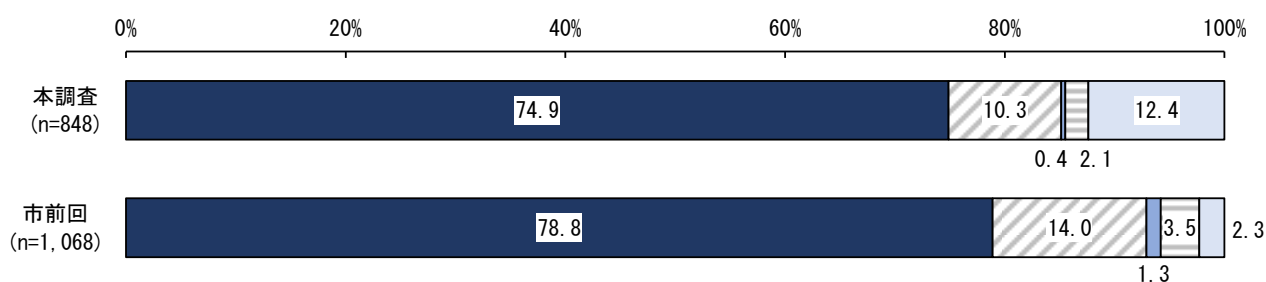
(2)家具などの物にあたる、壊す



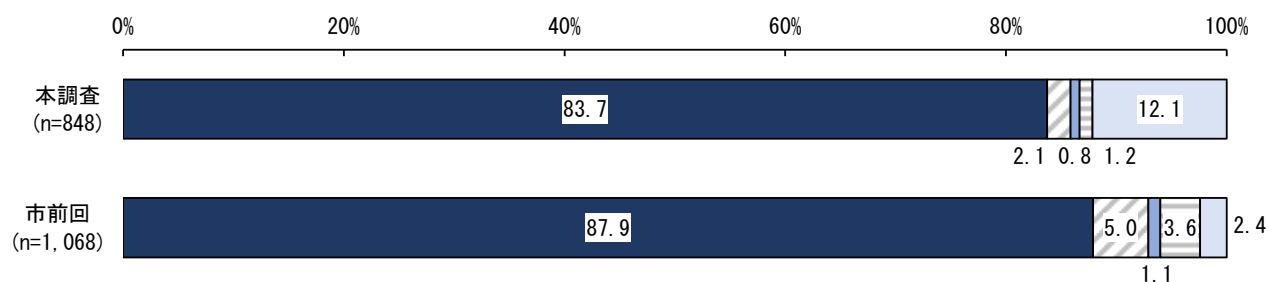
(4)何を言っても無視し続ける



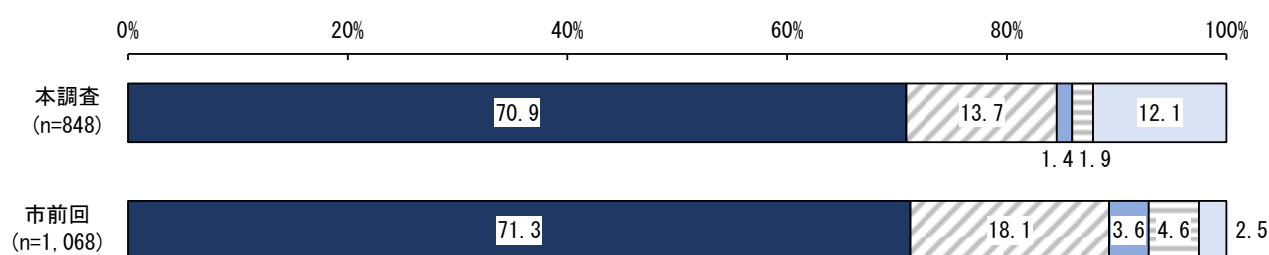
(5)望まないのに性的な行為を強要する



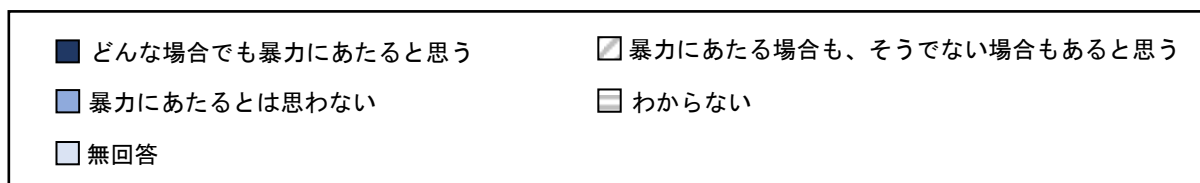
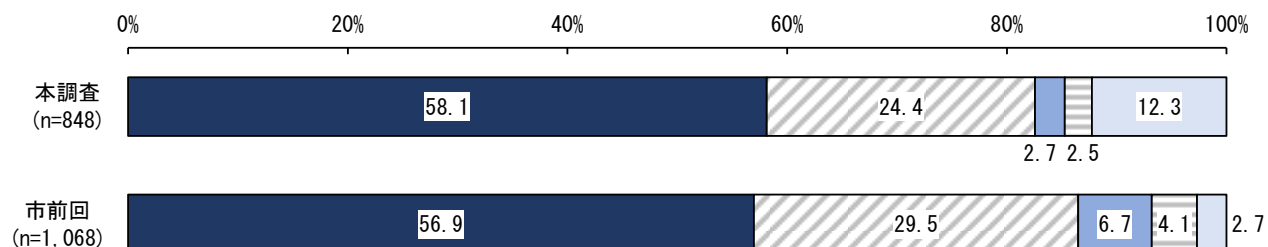
(6)許可なく本人の性的な写真や動画などを一般に公開する



(7)自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要する



(8)友だちや身内とのメールや電話をチェックしたり、つきあいを制限したりする

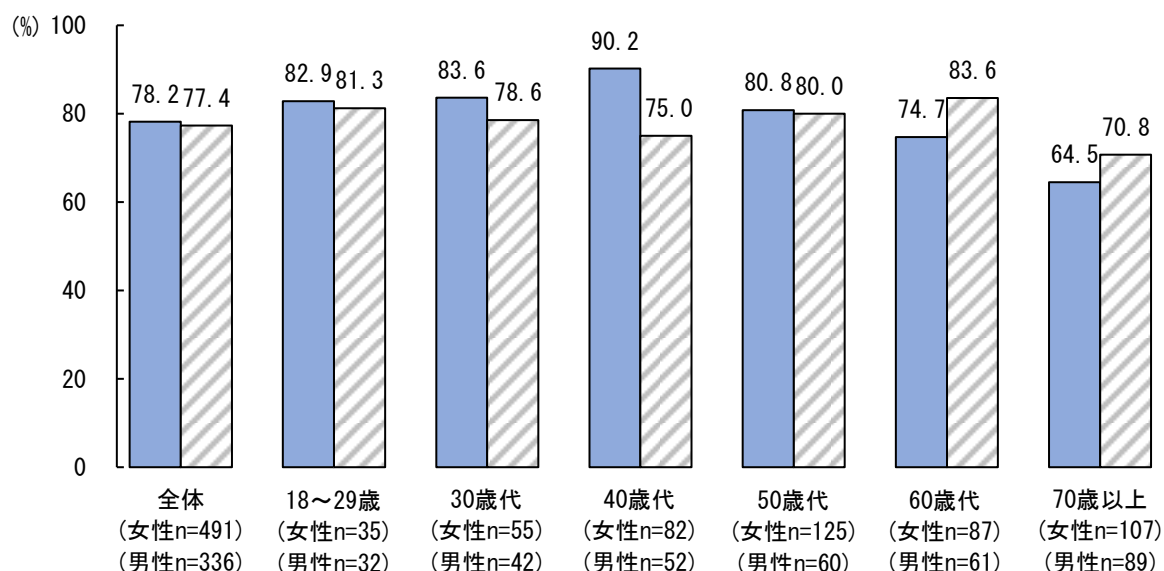


※「(1)殴る、蹴る、平手で打つ」、「(3)おどす、暴言をはく、ばかにする」は前回調査の選択肢と異なるため省略。

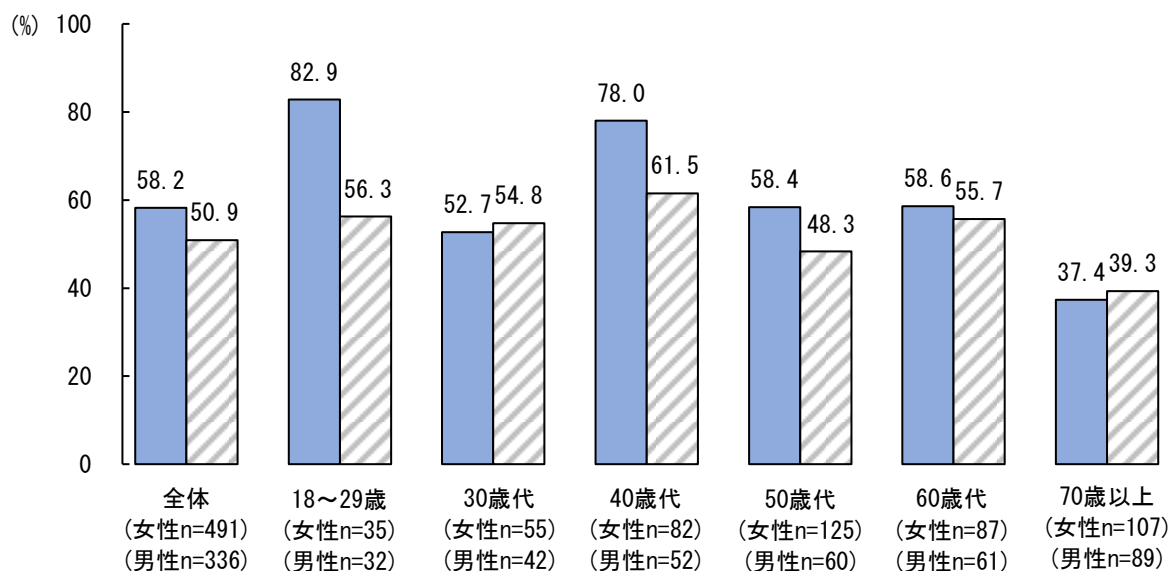
「どんな場合でも暴力にあたると思う」を性・年代別でみると、多くの項目で男性全体より女性全体が高くなっている。中でも、「(8)友だちや身内とのメールや電話をチェックしたり、つきあいを制限したりする」では12.7ポイント差となっており、特に差が大きくなっている。

【配偶者・パートナー間の暴力と考えられることで「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合】

(1)殴る、蹴る、平手で打つ

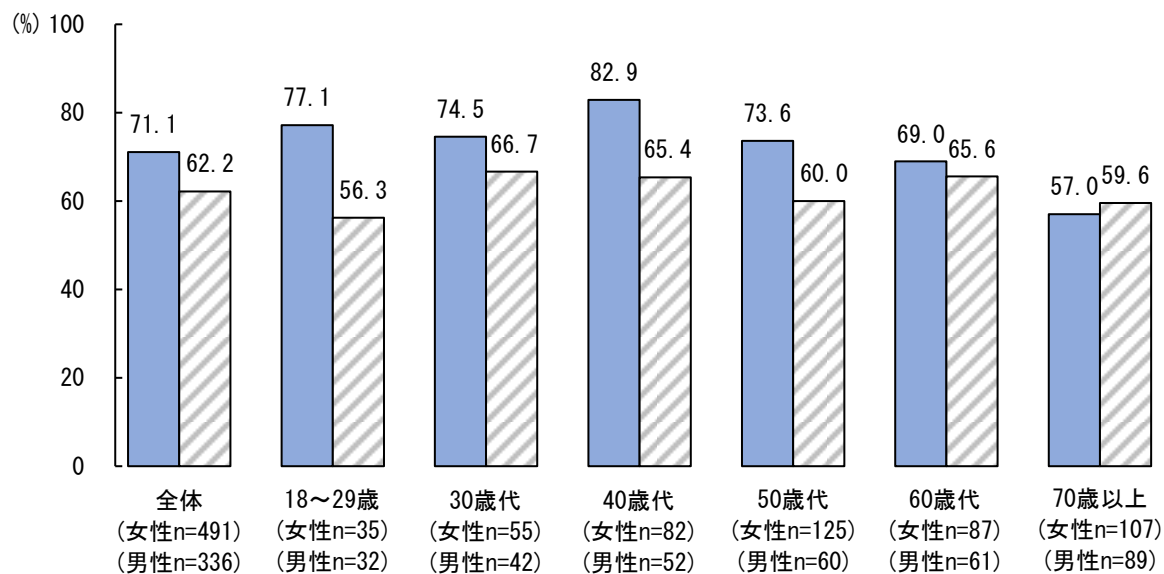


(2)家具などの物にあたる、壊す

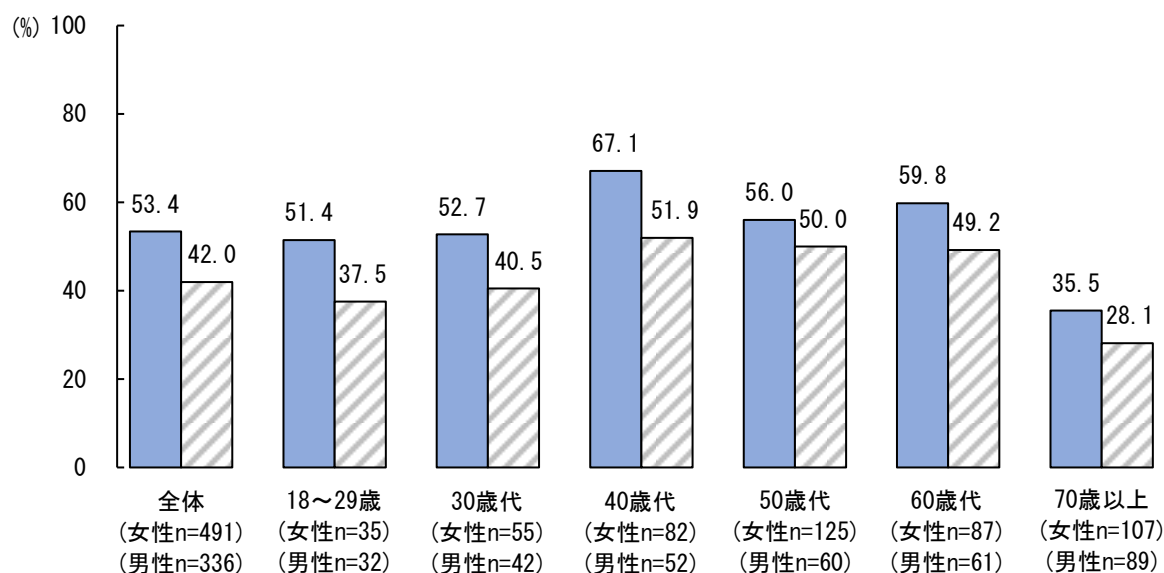


■ 女性 ■ 男性

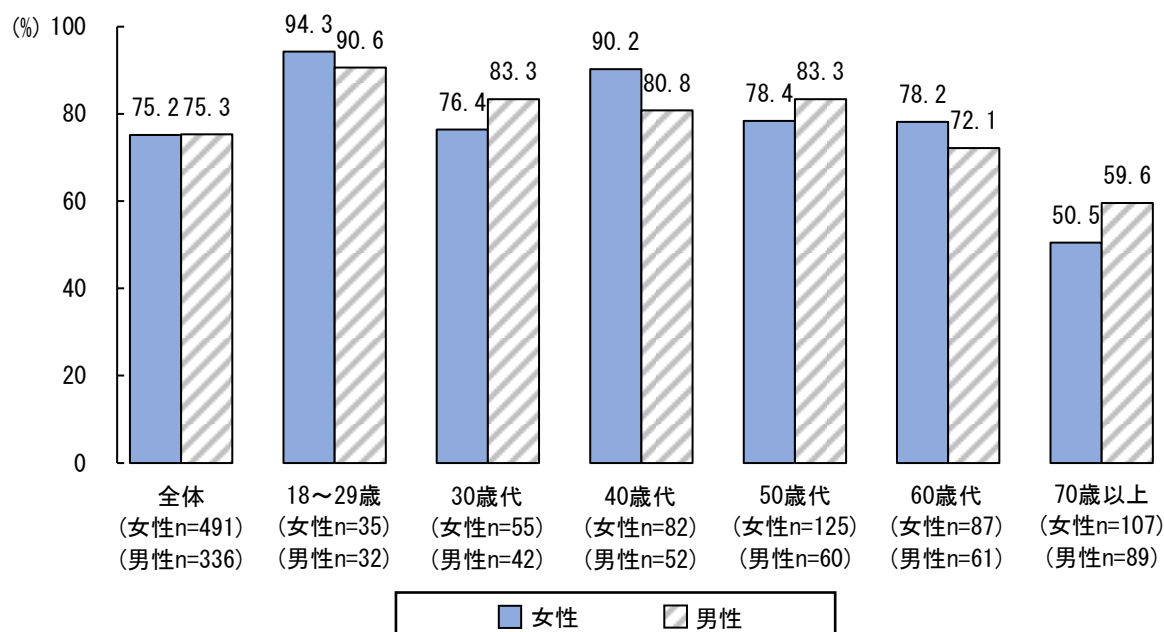
(3)おどす、暴言をはく、ばかにする



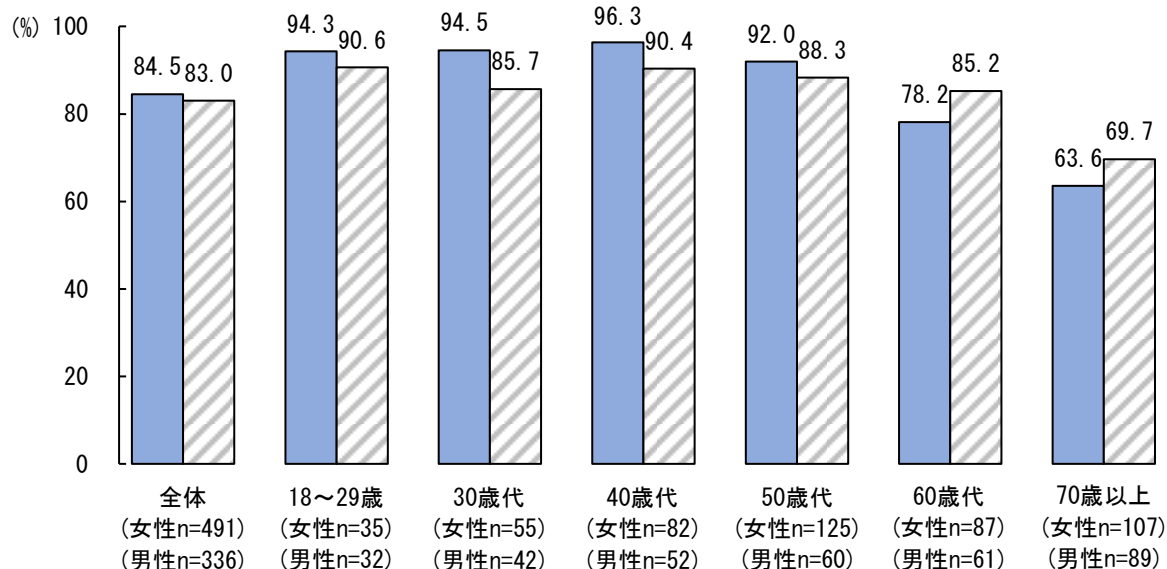
(4)何を言っても無視し続ける



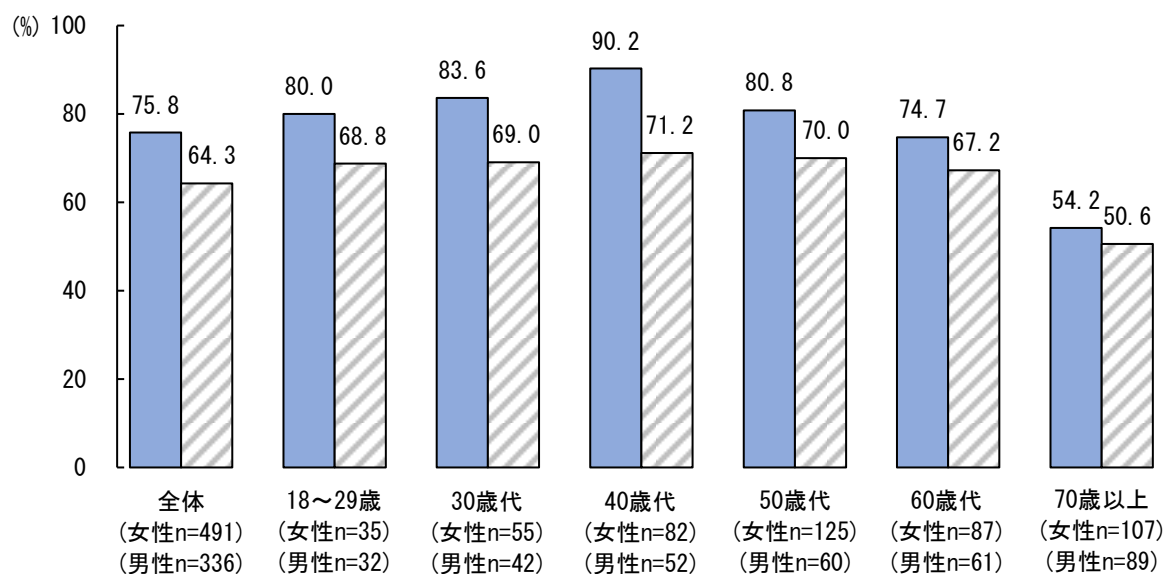
(5)望まないのに性的な行為を強要する



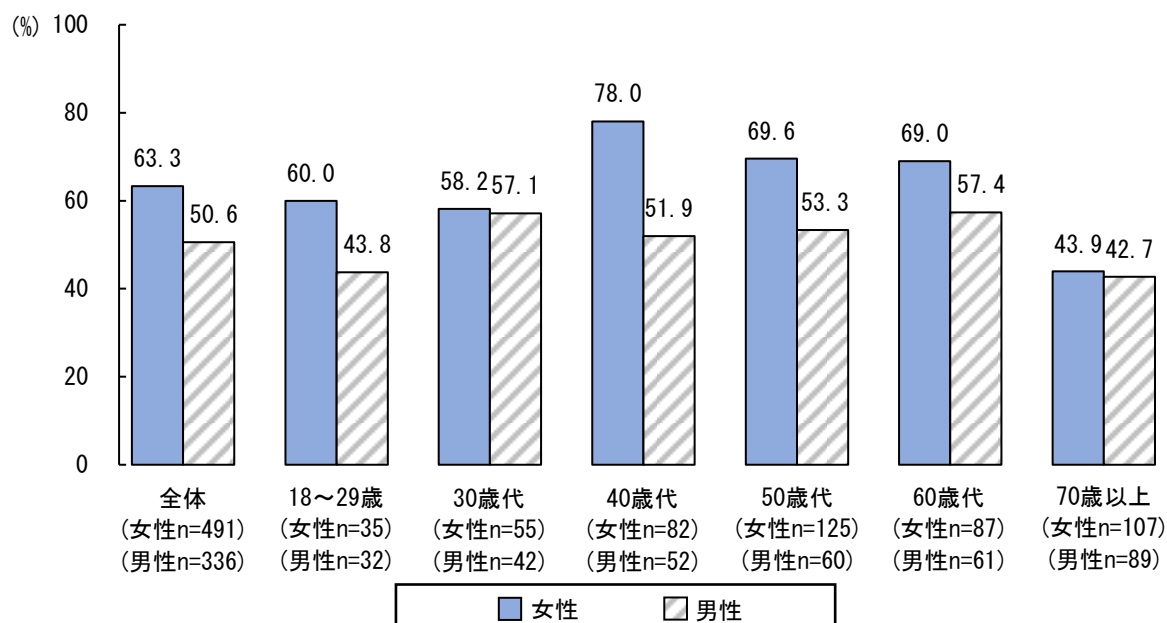
(6) 許可なく本人の性的な写真や動画などを一般に公開する



(7) 自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要する



(8) 友だちや身内とのメールや電話をチェックしたり、つきあいを制限したりする

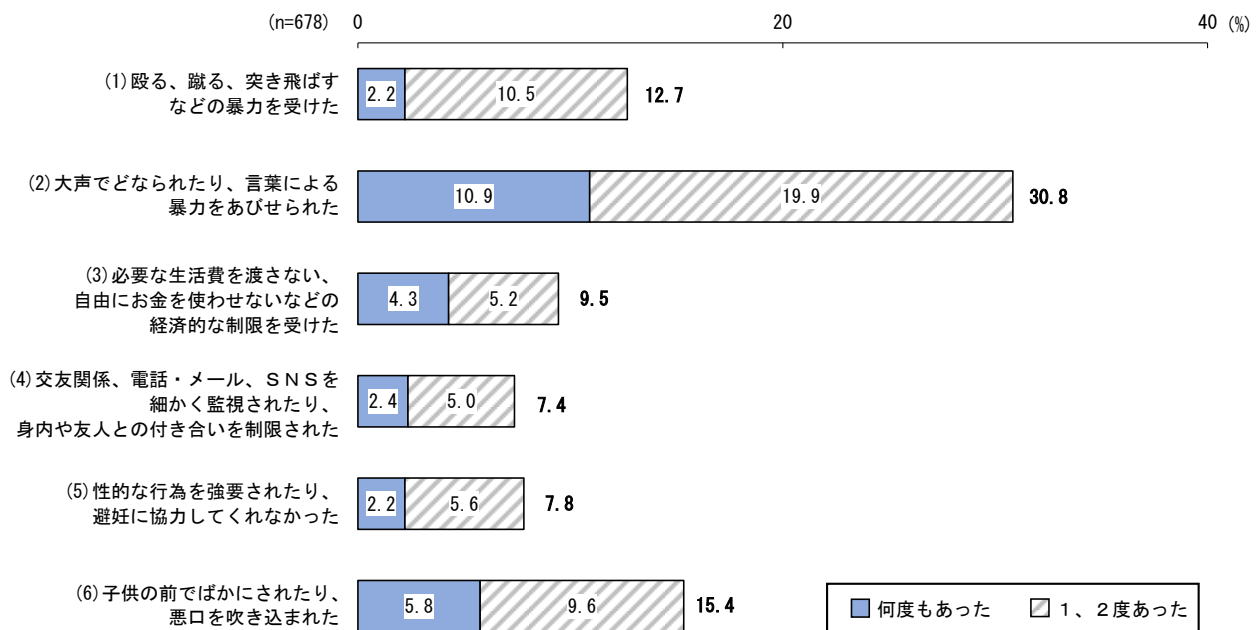


問 27 あなたはこれまでに、配偶者から次のようなことをされたことがありますか。

〔(1)～(6)それぞれに、○は1つ〕

配偶者（事実婚や別居中を含む）がいる（いた）方へたずねたところ、「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた『あった』は、「(4)大声でどなられたり、言葉による暴力をあびせられた」が30.8%と最も高く、次いで、「(6)子供の前でばかにされたり、悪口を吹き込まれた」が15.4%、「(1)殴る、蹴る、突き飛ばすなどの暴力を受けた」が12.7%となっている。

【配偶者からされたこと (1)～(6)】

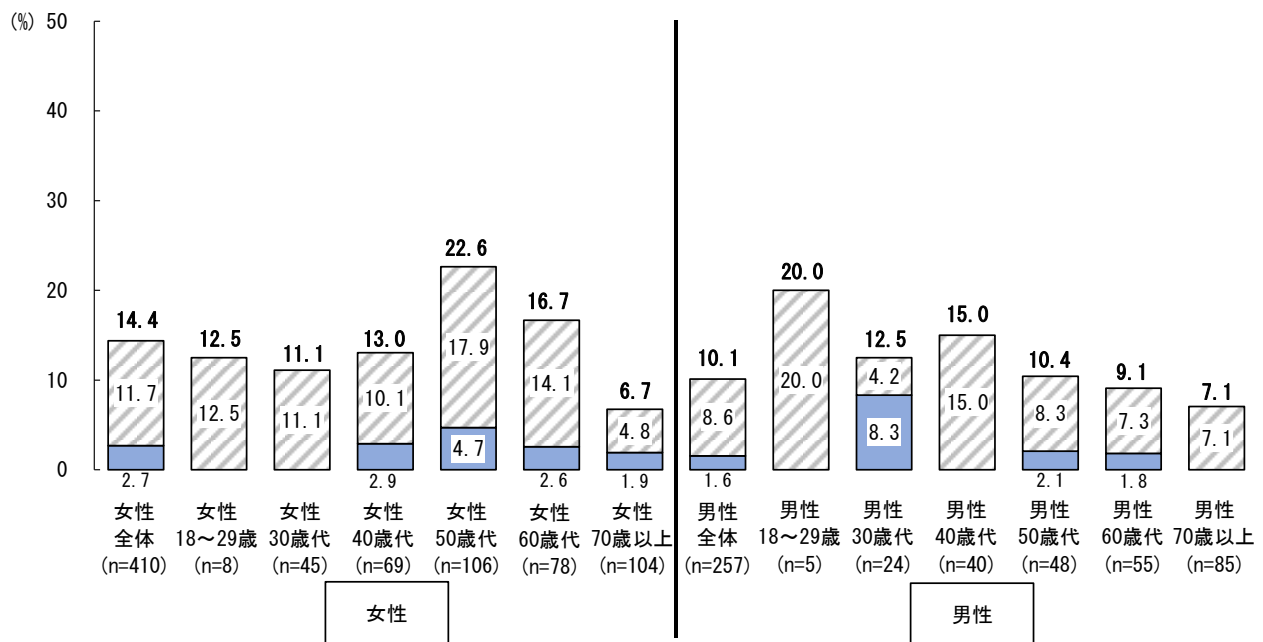


「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた『あった』を性・年代別でみると、「(4)交友関係、電話・メール、SNSを細かく監視された」を除くすべての項目で、男性全体より女性全体が高くなっている。中でも、「(3)必要な生活費を渡さない、自由にお金を使わせないなどの経済的な制限を受けた」(7.5ポイント差)、「(5)性的な行為を強要されたり、避妊に協力してくれなかった」(8.4ポイント差)での差が大きくなっている。

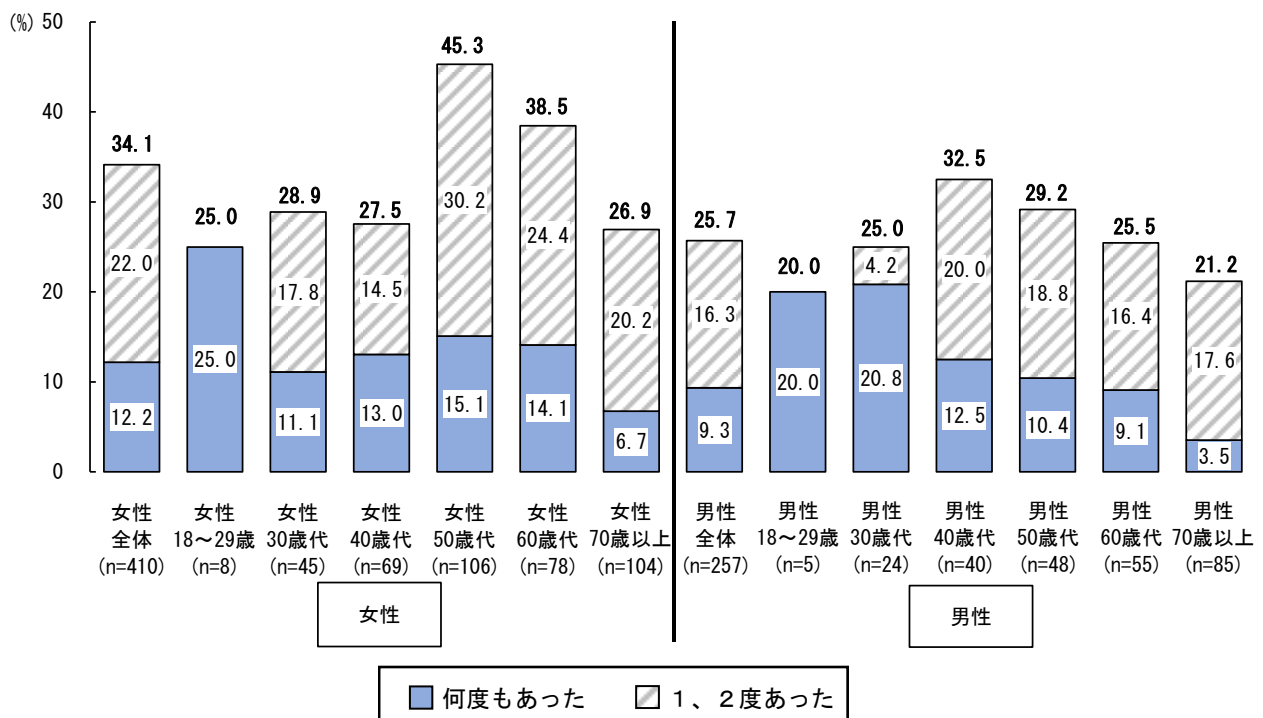
また、「(4)交友関係、電話・メール、SNSを細かく監視された」は、18～29歳の男性で40.0%と高くなっている。

【配偶者からされたことで「何どもあった」、「1、2度あった」の割合】

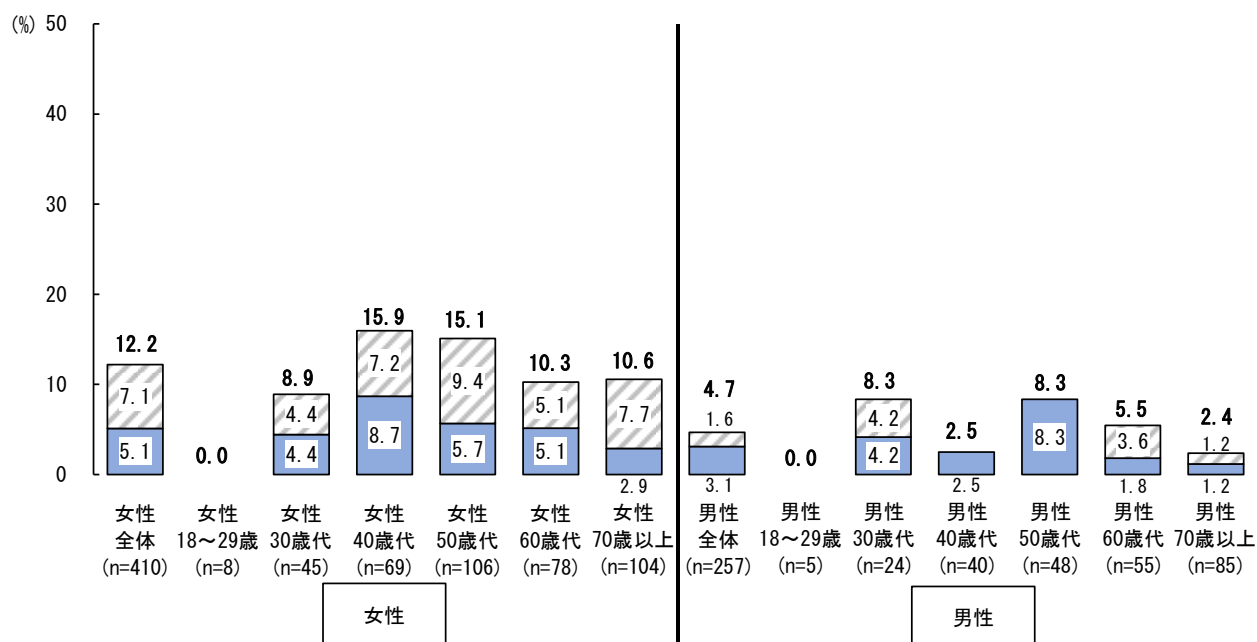
(1) 殴る、蹴る、突き飛ばすなどの暴力を受けた



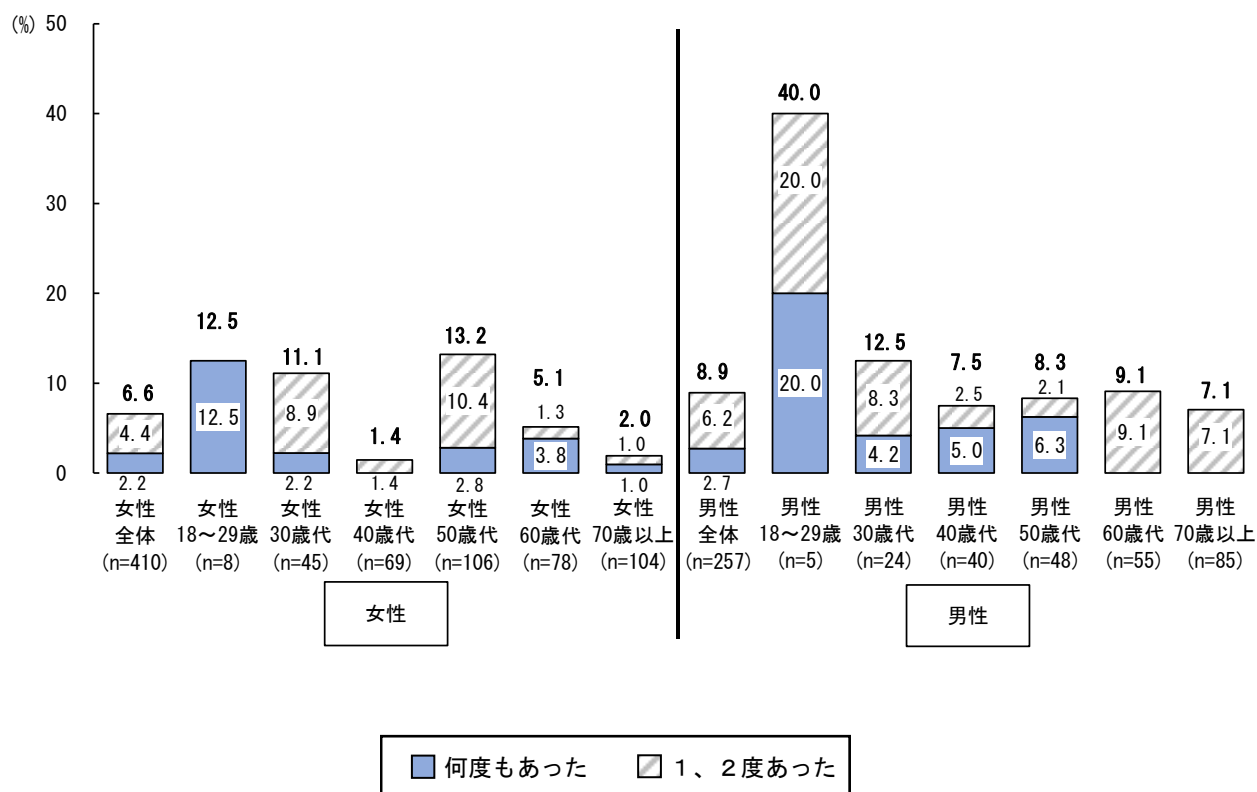
(2) 大声でどなられたり、言葉による暴力をあびせられた



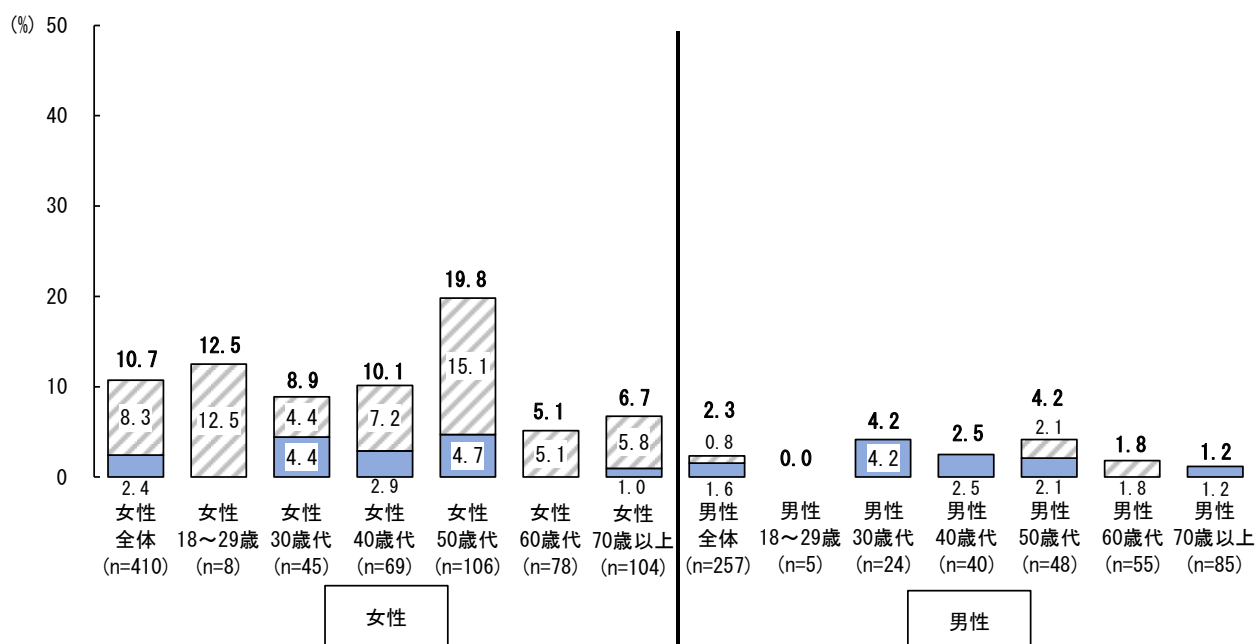
(3)必要な生活費を渡さない、自由にお金を使わせないなどの経済的な制限を受けた



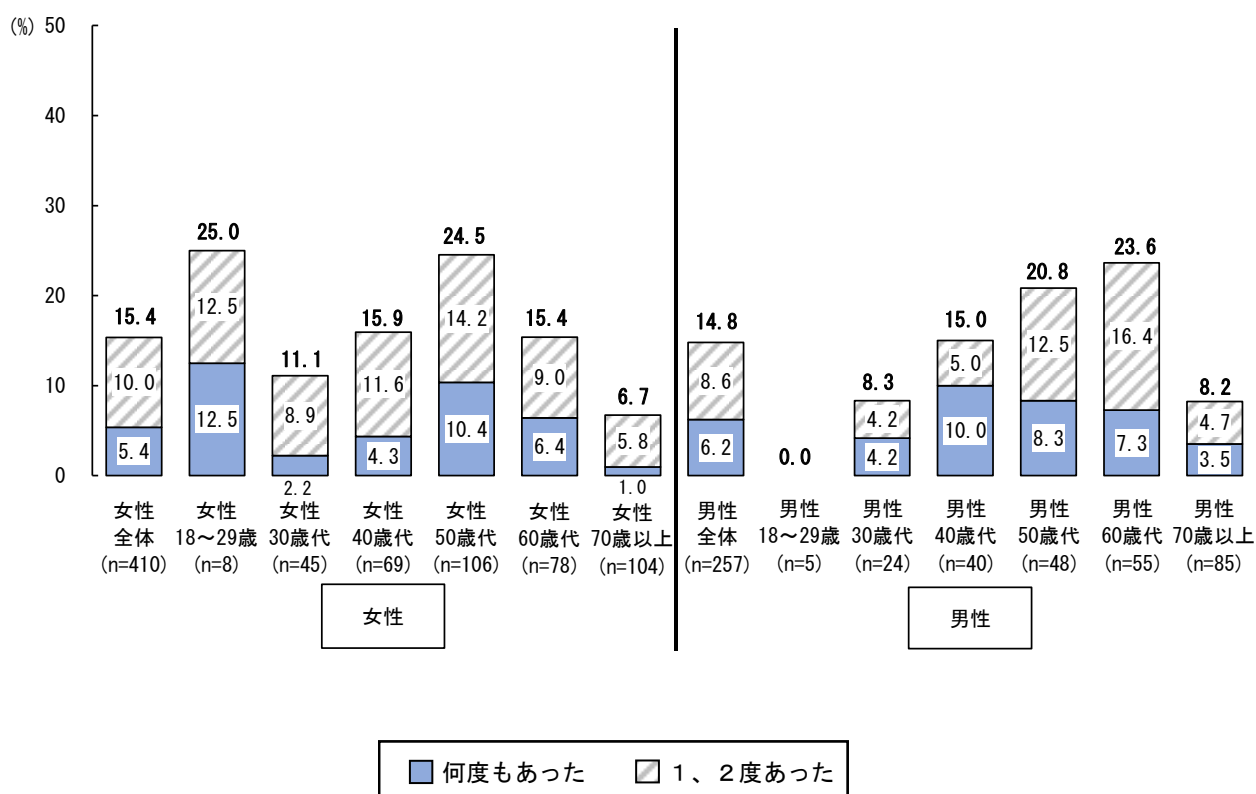
(4)交友関係、電話・メール、SNSを細かく監視されたり、身内や友人との付き合いを制限された



(5)性的な行為を強要されたり、避妊に協力してくれなかった



(6)子供の前でばかにされたり、悪口を吹き込まれた

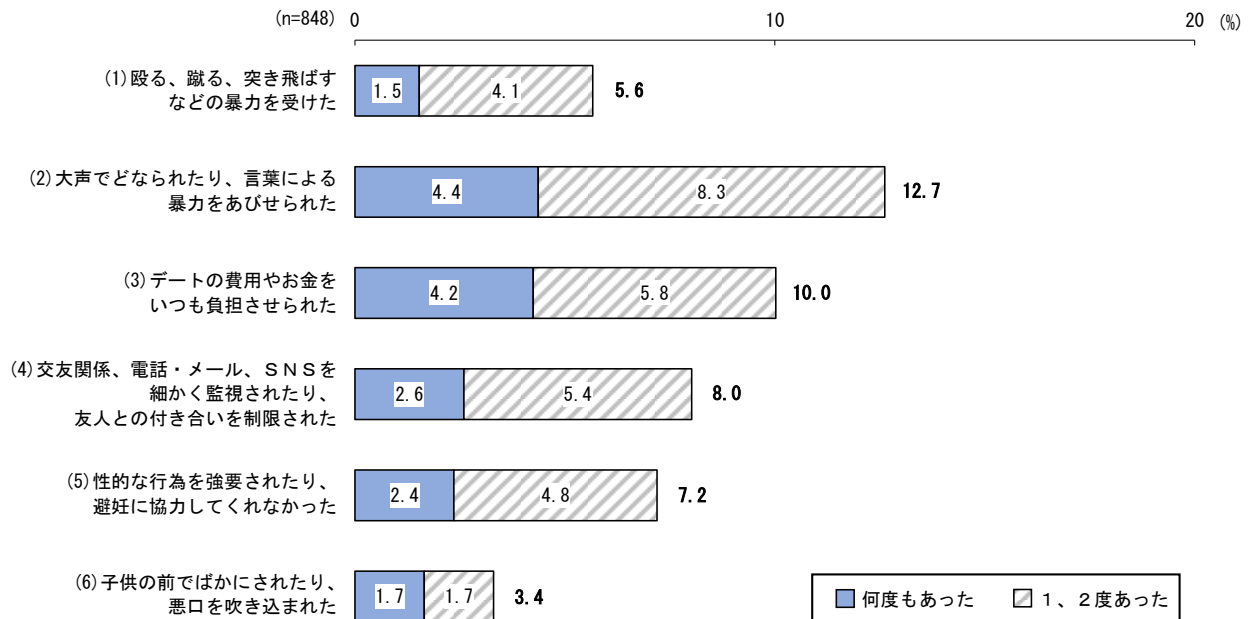


問 28 あなたはこれまでに、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。

[(1)～(6)それぞれに、○は1つ]

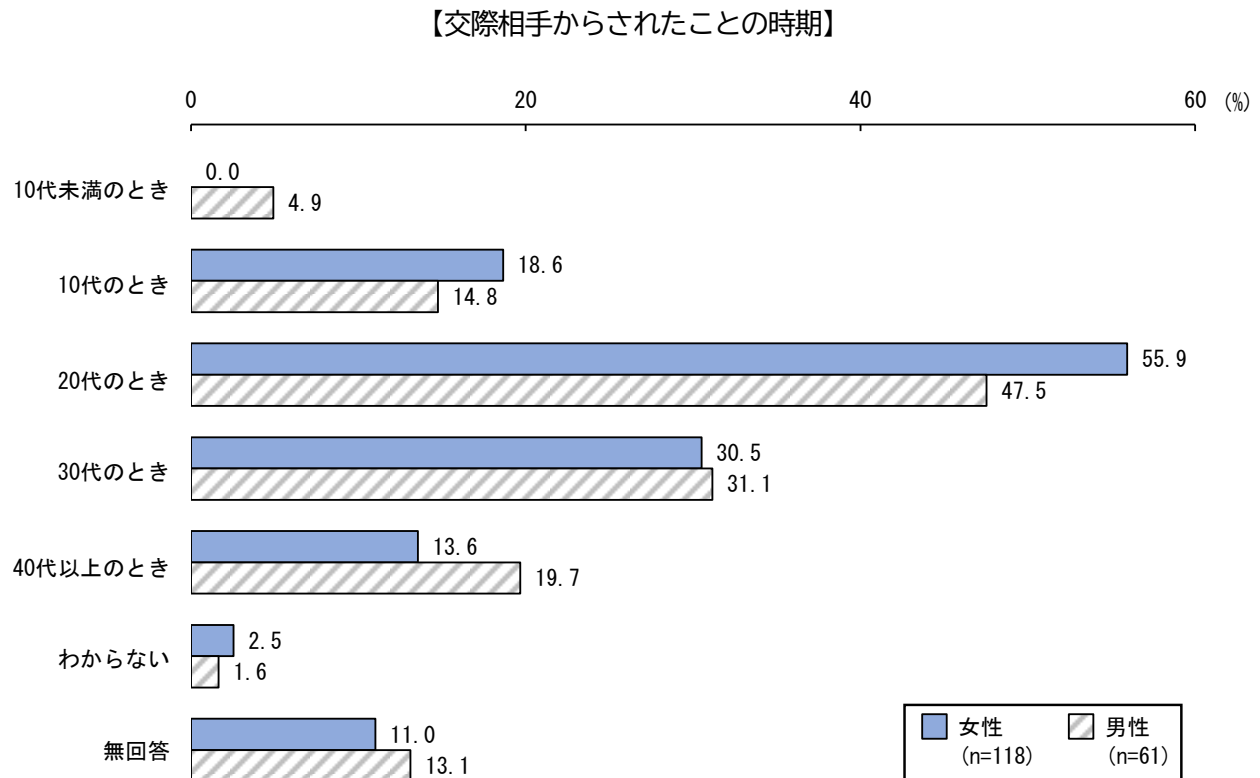
「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた『あった』は、「(4)大声でどなられたり、言葉による暴力をあびせられた」が12.7%と最も高く、次いで、「(3)デートの費用やお金をいつも負担させられた」が10.0%、「(4)交友関係、電話・メール、SNSを細かく監視されたり、友人との付き合いを制限された」が8.0%となっている。

【交際相手からされたこと (1)～(6)】



問 28-1 問 28 で 1 か 2 (☐ 内) を選んだ方におたずねします。そのような行為を受けたのはいつのことですか。[○はいくつでも]

男女とも「20 代のとき」が最も高く、女性では 55.9%、男性では 47.5%となっている。また、「10 代のとき」と「20 代のとき」では、男性より女性の割合が高く、「20 代のとき」では 8.4 ポイント差となっている。

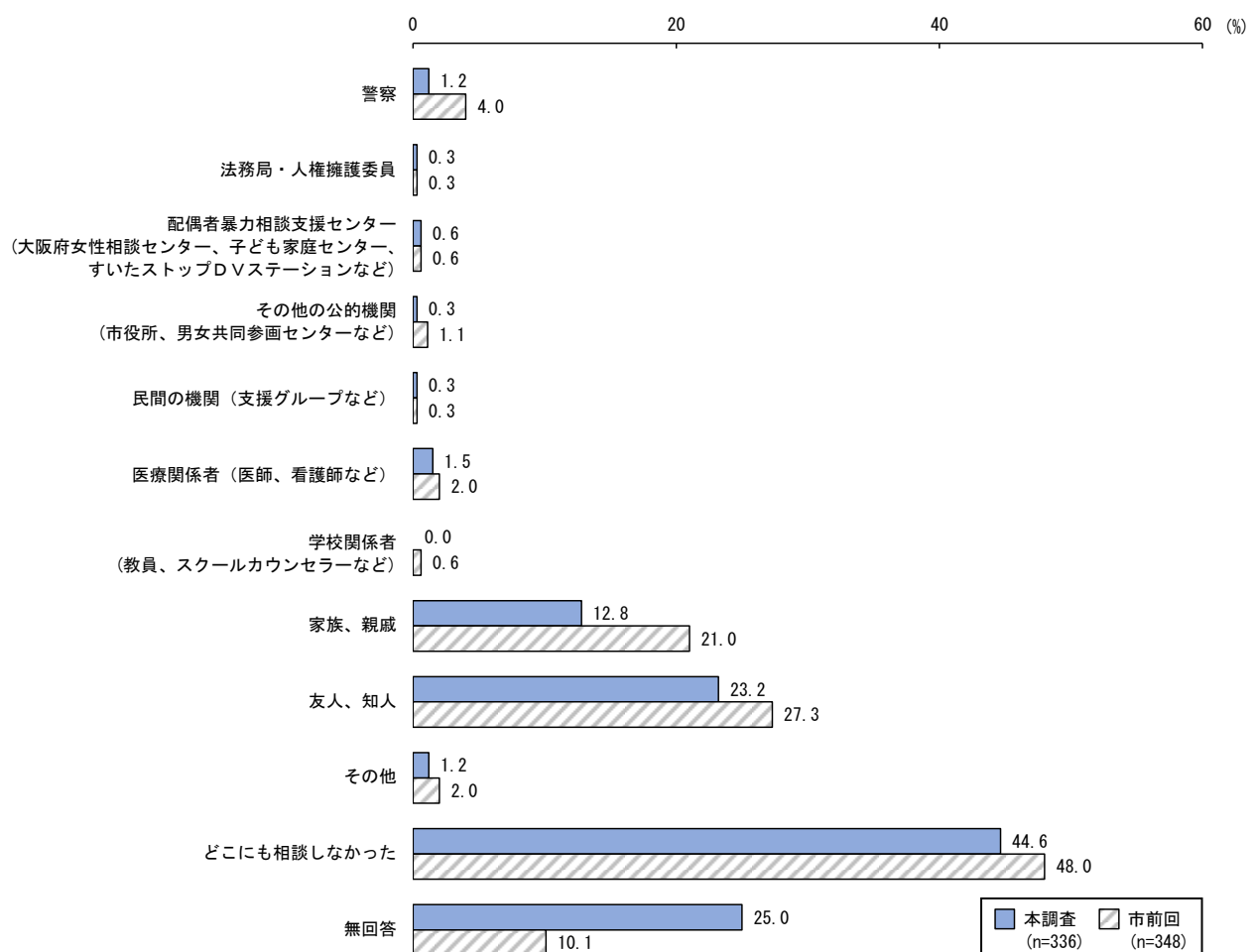


問 29 問 27 または問 28 で、ひとつでも 1 か 2 (☐ 内) を選んだ方におたずねします。そのような行為について、これまでに誰かにうち明けたり、相談したりしましたか。[○はいくつでも]

問 27、問 28 で配偶者や交際相手から何らかの行為を受けたと回答した方に、そのことをうち明けたり、相談した先をたずねたところ、「どこにも相談しなかった」が 44.6%と最も高く、相談した先としては「友人、知人」が 23.2%と最も高く、次いで、「家族、親戚」が 12.8%となっている。

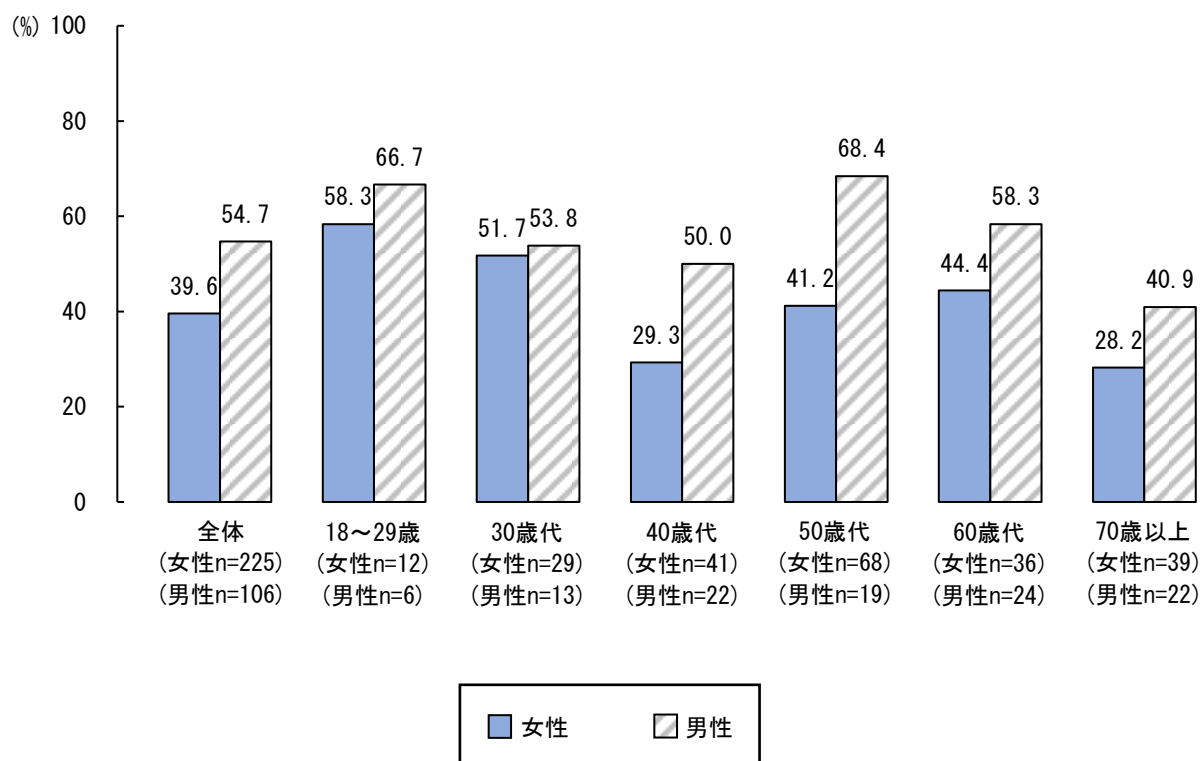
前回調査と比較すると、「どこにも相談しなかった」が 3.4 ポイント減少している。

【配偶者や交際相手からされたことの相談した先】



「どこにも相談しなかった」を性・年代別でみると、女性全体では39.6%、男性全体では54.7%となっている。また、すべての年代で女性より男性の割合が高くなっている。

【「どこにも相談しなかった」の割合】

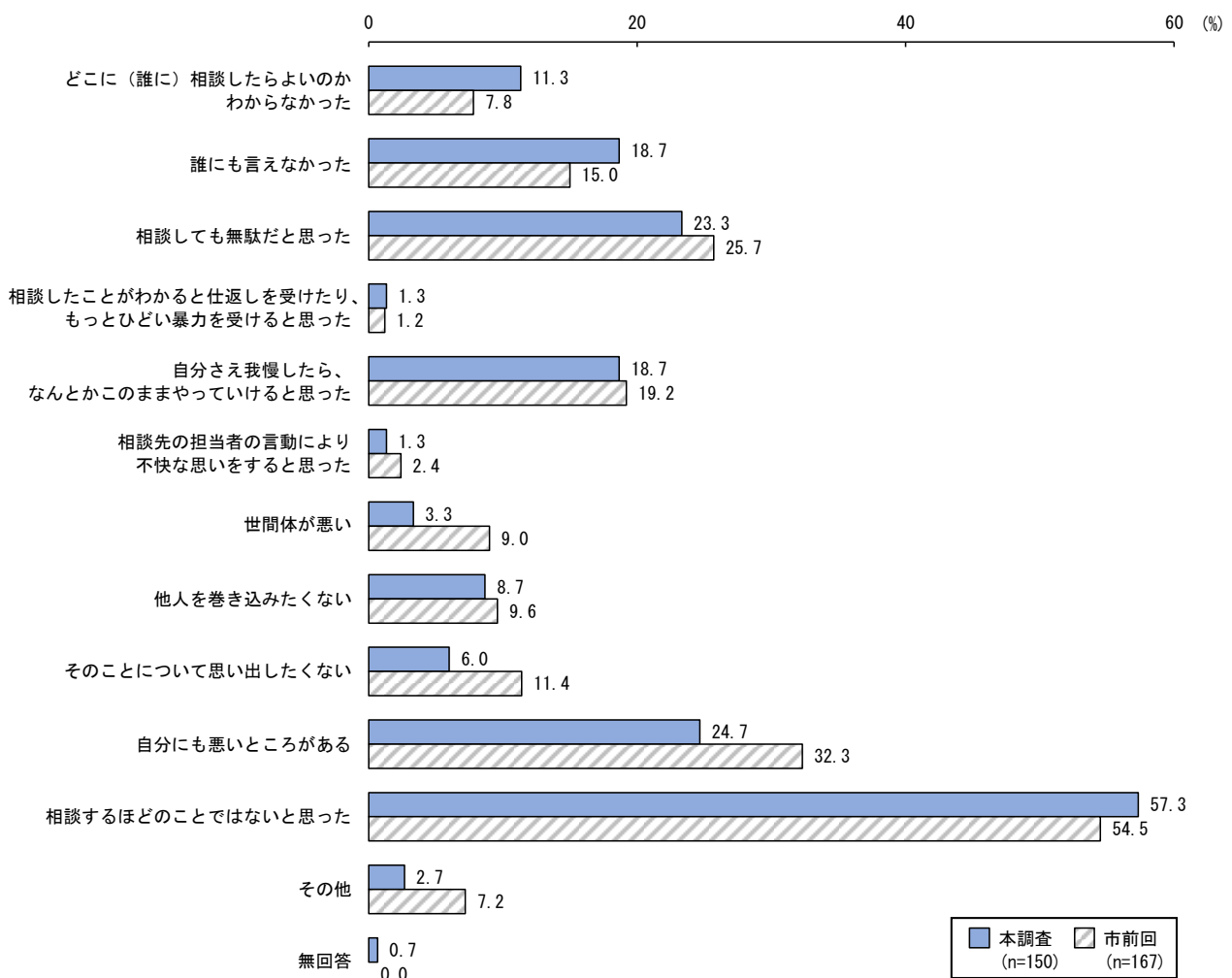


問 29-1 問 29 で「11. どこにも相談しなかった」を選んだ方におたずねします。どこにも相談しなかったのはなぜですか。〔〇はいくつでも〕

「相談するほどのことではないと思った」が 57.3%と最も高く、次いで、「自分にも悪いところがある」が 24.7%、「相談しても無駄だと思った」が 23.3%となっている。

前回調査と比較すると、「誰にも言えなかった」が 3.7 ポイント増加、「どこに（誰に）相談したらよいのかわからなかった」が 3.5 ポイント増加している。一方、「自分にも悪いところがある」が 7.6 ポイント減少、「世間体が悪い」が 5.7 ポイント減少、「そのことについて思い出したくない」が 5.4 ポイント減少している。

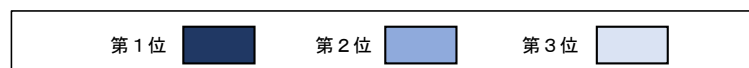
【相談しなかった理由】



性・年代別でみると、男女ともに全体で「相談するほどのことではないと思った」が最も高く、女性では49.4%、男性では70.7%となっている。

【相談しなかった理由】

		どこに（誰に）相談したらよいのかわからなかった	誰にも言えなかった	相談しても無駄だと思った	相談したことがわかると仕返しを受けたり、もつとひどい暴力を受けると思った	自分さえ我慢したら、なんとかこのままやっていけると思った	相談先の担当者の言動により不快な思いをと思った	世間体が悪い	他人を巻き込みたくない	そのことについて思い出したくない	自分にも悪いところがある	相談するほどのことではないと思った	その他	無回答
女性	全体 (n=89)	11.2%	25.8%	24.7%	2.2%	19.1%	1.1%	3.4%	11.2%	6.7%	21.3%	49.4%	4.5%	0.0%
	18～29歳 (n=7)	0.0%	28.6%	42.9%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%	14.3%	14.3%	71.4%	0.0%	0.0%
	30歳代 (n=15)	20.0%	13.3%	6.7%	0.0%	20.0%	0.0%	13.3%	33.3%	0.0%	26.7%	40.0%	13.3%	0.0%
	40歳代 (n=12)	8.3%	25.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	33.3%	50.0%	8.3%	0.0%
	50歳代 (n=28)	14.3%	17.9%	35.7%	3.6%	21.4%	0.0%	3.6%	10.7%	10.7%	21.4%	46.4%	3.6%	0.0%
	60歳代 (n=16)	12.5%	50.0%	31.3%	0.0%	18.8%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	12.5%	56.3%	0.0%	0.0%
	70歳以上 (n=11)	0.0%	27.3%	9.1%	0.0%	45.5%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	18.2%	45.5%	0.0%	0.0%
男性	全体 (n=58)	8.6%	5.2%	20.7%	0.0%	19.0%	1.7%	1.7%	1.7%	3.4%	31.0%	70.7%	0.0%	1.7%
	18～29歳 (n=4)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	30歳代 (n=7)	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	42.9%	85.7%	0.0%	0.0%
	40歳代 (n=11)	9.1%	0.0%	18.2%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	36.4%	81.8%	0.0%	0.0%
	50歳代 (n=13)	23.1%	15.4%	30.8%	0.0%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%	15.4%	23.1%	46.2%	0.0%	0.0%
	60歳代 (n=14)	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	21.4%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	35.7%	71.4%	0.0%	0.0%
	70歳以上 (n=9)	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	11.1%

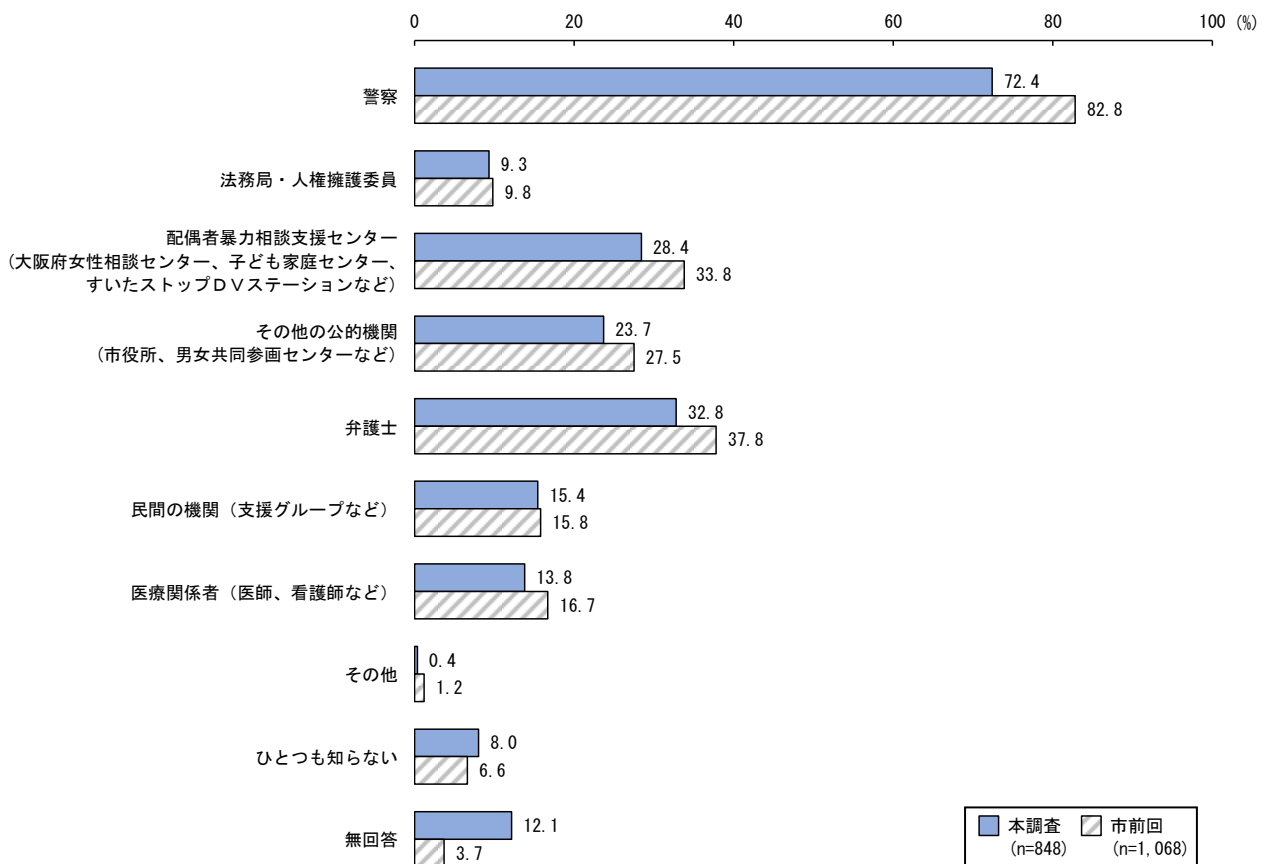


問 30 ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や交際相手などからの暴力）について、あなたが相談できる窓口としてどのようなものを知っていますか。[〇はいくつでも]

「警察」が72.4%と最も高く、次いで、「弁護士」が32.8%、「配偶者暴力相談支援センター(大阪府女性相談センター、子ども家庭センター、すいたストップDVステーションなど)」が28.4%となっている。

前回調査と比較すると、「警察」が10.4ポイント減少、「配偶者暴力相談支援センター(大阪府女性相談センター、子ども家庭センター、すいたストップDVステーションなど)」が5.4ポイント減少、「弁護士」が5.0ポイント減少している。

【DV相談窓口として知っているもの】



性・年代別でみると、男女とも全体で「警察」が最も高く、女性では70.9%、男性では75.9%となっている。

【DV相談窓口として知っているもの】

		警察	法務局・人権擁護委員	配偶者暴力相談支援センター	その他の公的機関	弁護士	民間の機関	医療関係者	その他	ひとつも知らない	無回答
女性	全体 (n=491)	70.9%	5.5%	32.8%	23.0%	31.8%	15.7%	15.1%	0.4%	7.5%	12.4%
	18～29歳 (n=35)	74.3%	2.9%	40.0%	14.3%	37.1%	17.1%	22.9%	5.7%	17.1%	2.9%
	30歳代 (n=55)	76.4%	3.6%	29.1%	20.0%	32.7%	16.4%	23.6%	0.0%	12.7%	3.6%
	40歳代 (n=82)	82.9%	6.1%	51.2%	30.5%	28.0%	17.1%	23.2%	0.0%	2.4%	2.4%
	50歳代 (n=125)	82.4%	7.2%	35.2%	29.6%	40.0%	17.6%	16.0%	0.0%	3.2%	6.4%
	60歳代 (n=87)	59.8%	3.4%	27.6%	21.8%	32.2%	14.9%	11.5%	0.0%	10.3%	19.5%
	70歳以上 (n=107)	53.3%	6.5%	19.6%	15.0%	22.4%	12.1%	3.7%	0.0%	8.4%	29.0%
男性	全体 (n=336)	75.9%	15.2%	22.9%	25.0%	34.2%	14.9%	12.2%	0.3%	8.3%	11.0%
	18～29歳 (n=32)	81.3%	6.3%	31.3%	18.8%	34.4%	15.6%	3.1%	0.0%	3.1%	9.4%
	30歳代 (n=42)	73.8%	4.8%	19.0%	26.2%	31.0%	4.8%	23.8%	0.0%	9.5%	11.9%
	40歳代 (n=52)	80.8%	7.7%	21.2%	26.9%	32.7%	17.3%	9.6%	0.0%	7.7%	7.7%
	50歳代 (n=60)	80.0%	20.0%	25.0%	13.3%	31.7%	20.0%	13.3%	1.7%	8.3%	6.7%
	60歳代 (n=61)	75.4%	14.8%	23.0%	27.9%	32.8%	14.8%	9.8%	0.0%	11.5%	9.8%
	70歳以上 (n=89)	69.7%	24.7%	21.3%	31.5%	39.3%	14.6%	12.4%	0.0%	7.9%	16.9%

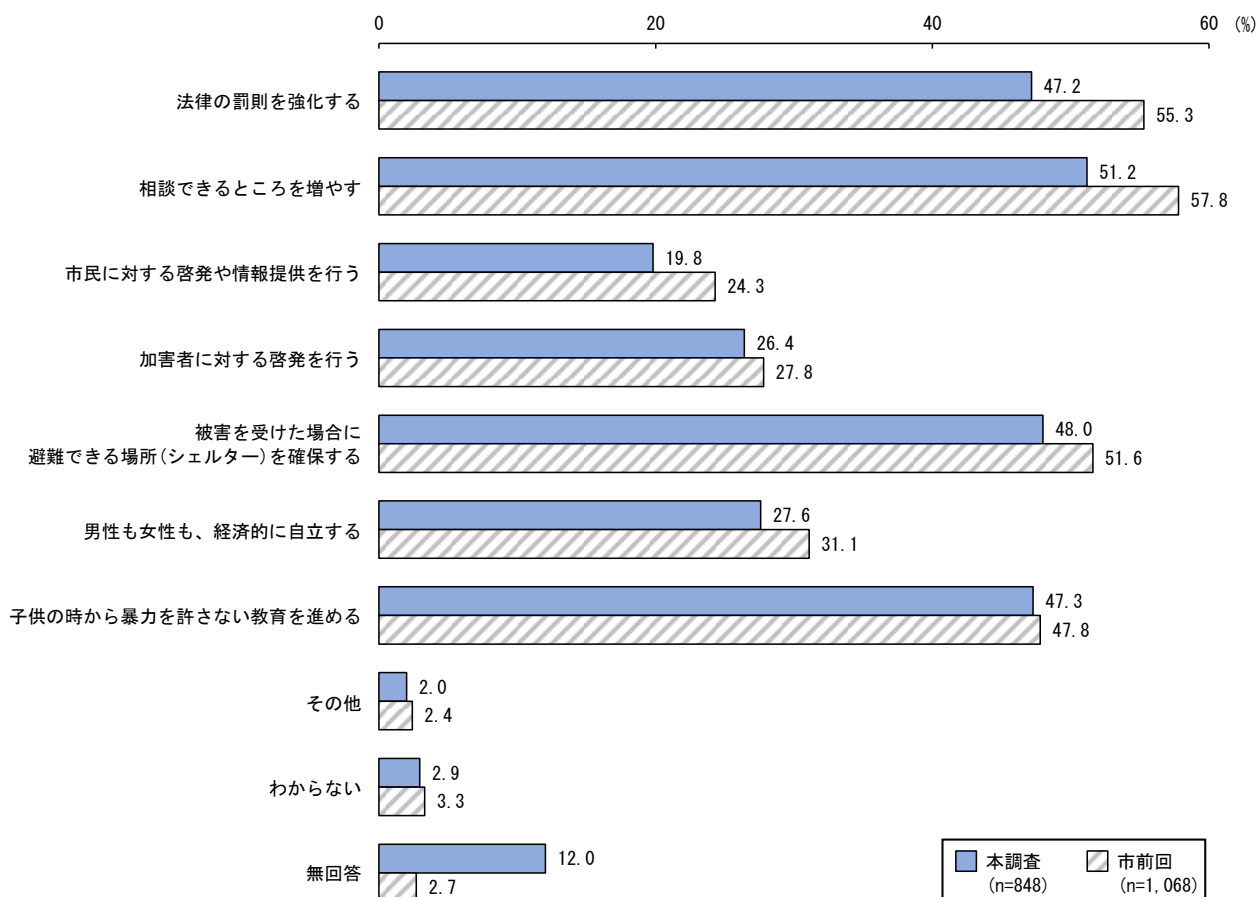
第1位		第2位		第3位	
-----	--	-----	--	-----	--

問31 ドメスティック・バイオレンスを防ぐためには何が必要だと思いますか。[〇はいくつでも]

「相談できるところを増やす」が51.2%と最も高く、次いで、「被害を受けた場合に避難できる場所(シェルター)を確保する」が48.0%、「子供の時から暴力を許さない教育を進める」が47.3%となっている。

前回調査と比較すると、「法律の罰則を強化する」が8.1ポイント減少、「相談できるところを増やす」が6.6ポイント減少、「市民に対する啓発や情報提供を行う」が4.5ポイント減少している。

【DVを防ぐために必要なこと】



性・年代別でみると、女性全体では「相談できるところを増やす」が54.8%と最も高く、男性全体では「法律の罰則を強化する」が50.0%と最も高くなっている。また、女性の30歳代、40歳代、50歳代では「被害を受けた場合に避難できる場所(シェルター)を確保する」が最も高く、女性の50歳代、60歳代では「子供の時から暴力を許さない教育を進める」が最も高くなっている。

【DVを防ぐために必要なこと】

		法律の罰則を強化する	相談できるところを増やす	市民に対する啓発や情報提供を行う	加害者に対する啓発を行う	被害を受けた場合に避難できる場所(シェルター)を確保する	男性も女性も、経済的に自立する	子供の時から暴力を許さない教育を進める	その他	わからない	無回答
女性	全体 (n=491)	45.2%	54.8%	19.3%	31.6%	52.3%	31.8%	51.9%	2.2%	2.2%	12.4%
	18～29歳 (n=35)	45.7%	54.3%	17.1%	31.4%	48.6%	34.3%	51.4%	5.7%	5.7%	2.9%
	30歳代 (n=55)	56.4%	58.2%	14.5%	34.5%	60.0%	47.3%	52.7%	3.6%	1.8%	3.6%
	40歳代 (n=82)	52.4%	53.7%	28.0%	35.4%	64.6%	37.8%	58.5%	4.9%	3.7%	3.7%
	50歳代 (n=125)	45.6%	56.0%	21.6%	36.0%	59.2%	32.0%	59.2%	0.8%	0.0%	7.2%
	60歳代 (n=87)	46.0%	52.9%	16.1%	32.2%	46.0%	23.0%	49.4%	2.3%	2.3%	18.4%
	70歳以上 (n=107)	32.7%	54.2%	15.9%	21.5%	37.4%	25.2%	40.2%	0.0%	2.8%	28.0%
男性	全体 (n=336)	50.0%	46.7%	21.1%	19.6%	42.0%	20.8%	40.8%	1.8%	4.2%	10.7%
	18～29歳 (n=32)	59.4%	46.9%	37.5%	28.1%	37.5%	21.9%	40.6%	6.3%	0.0%	3.1%
	30歳代 (n=42)	42.9%	42.9%	23.8%	14.3%	47.6%	33.3%	33.3%	2.4%	0.0%	11.9%
	40歳代 (n=52)	57.7%	44.2%	19.2%	15.4%	44.2%	25.0%	48.1%	0.0%	3.8%	7.7%
	50歳代 (n=60)	51.7%	53.3%	15.0%	31.7%	43.3%	18.3%	38.3%	1.7%	3.3%	6.7%
	60歳代 (n=61)	52.5%	47.5%	16.4%	8.2%	41.0%	19.7%	31.1%	1.6%	11.5%	9.8%
	70歳以上 (n=89)	42.7%	44.9%	22.5%	21.3%	39.3%	14.6%	48.3%	1.1%	3.4%	18.0%

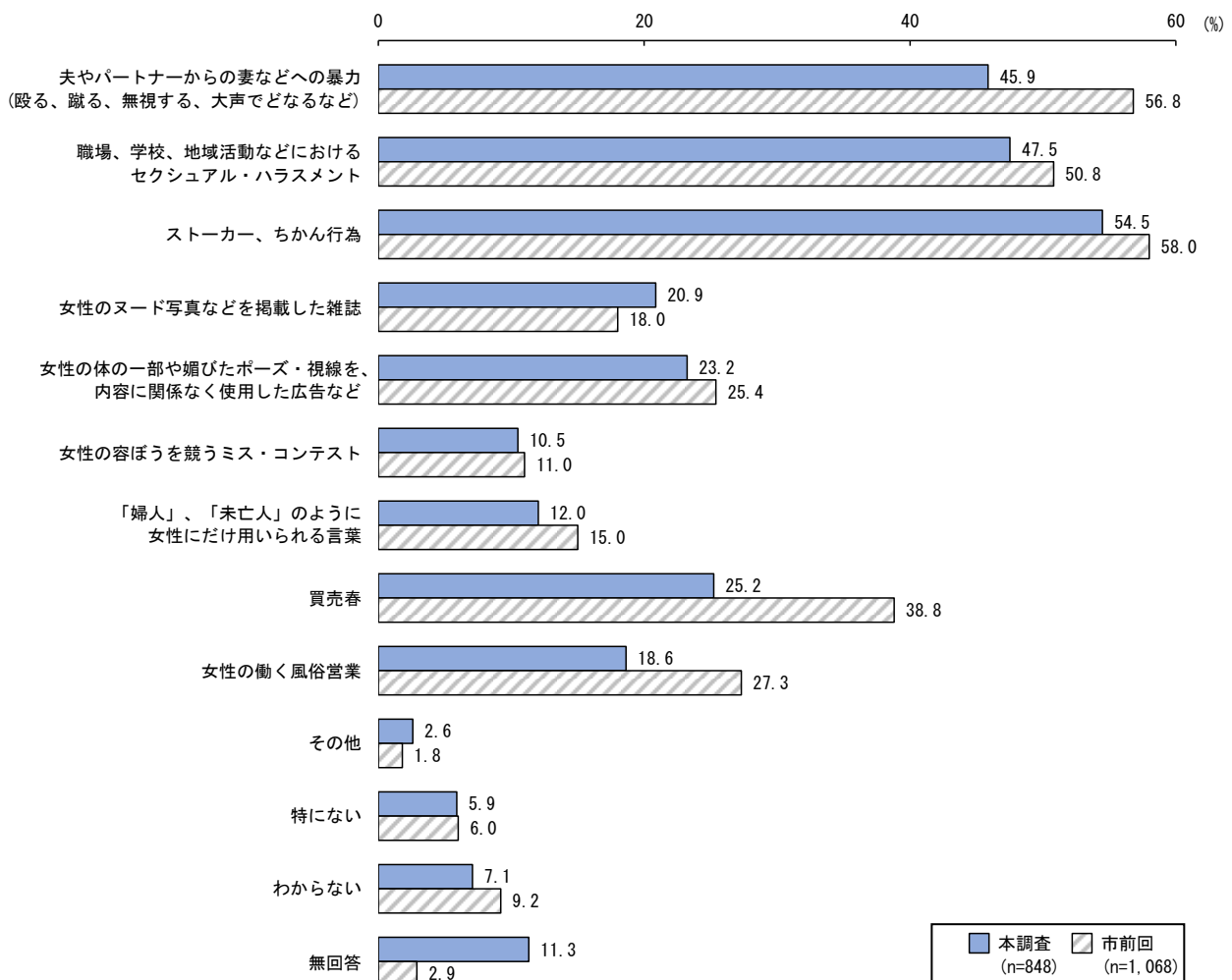
第1位	第2位	第3位
-----	-----	-----

問 32 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。
 [〇はいくつでも]

「ストーカー、ちかん行為」が 54.5%と最も高く、次いで、「職場、学校、地域活動などにおけるセクシュアル・ハラスメント」が 47.5%、「夫やパートナーからの妻などへの暴力(殴る、蹴る、無視する、大声でどなるなど)」が 45.9%となっている。

前回調査と比較すると、「買売春」が 13.6 ポイント減少、「夫やパートナーからの妻などへの暴力(殴る、蹴る、無視する、大声でどなるなど)」が 10.9 ポイント減少、「女性の働く風俗営業」が 8.7 ポイント減少している。

【女性の人権が尊重されていないと感じること】



※「職場、学校、地域活動などにおけるセクシュアル・ハラスメント」については、前回の「学校や職場におけるセクシュアル・ハラスメント」との比較。

性・年代別でみると、男女ともに全体で「ストーカー、ちかん行為」が最も高く、女性では58.2%、男性では50.3%となっている。また、男性の18～29歳、50歳代では「職場、学校、地域活動などにおけるセクシュアル・ハラスメント」が最も高くなっている。

【女性の人権が尊重されていないと感じること】

		夫やパートナーからの妻などへの暴力 (殴る、蹴る、無視する、大声でどなるなど)	職場、学校、地域活動などにおける セクシュアル・ハラスメント	ストーカー、ちかん行為	女性のヌード写真などを掲載した雑誌	女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を、 内容に関係なく使用した広告など	女性の容ぼうを競うミス・コンテスト	「婦人」、「未亡人」のように 女性にだけ用いられる言葉	買春	女性の働く風俗営業	その他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
女性	全体 (n=491)	47.3%	48.9%	58.2%	25.9%	29.9%	11.4%	15.3%	28.7%	21.6%	2.9%	3.5%	6.7%	12.4%
	18～29歳 (n=35)	37.1%	40.0%	68.6%	31.4%	40.0%	14.3%	14.3%	17.1%	20.0%	5.7%	2.9%	8.6%	2.9%
	30歳代 (n=55)	41.8%	61.8%	74.5%	29.1%	27.3%	14.5%	20.0%	25.5%	18.2%	1.8%	0.0%	10.9%	3.6%
	40歳代 (n=82)	51.2%	53.7%	62.2%	20.7%	29.3%	9.8%	17.1%	30.5%	18.3%	1.2%	6.1%	9.8%	2.4%
	50歳代 (n=125)	57.6%	61.6%	66.4%	31.2%	32.8%	10.4%	11.2%	34.4%	25.6%	6.4%	1.6%	4.0%	7.2%
	60歳代 (n=87)	49.4%	46.0%	54.0%	18.4%	26.4%	10.3%	16.1%	23.0%	20.7%	1.1%	4.6%	5.7%	18.4%
	70歳以上 (n=107)	36.4%	29.0%	37.4%	26.2%	28.0%	12.1%	15.9%	30.8%	22.4%	0.9%	4.7%	5.6%	29.0%
男性	全体 (n=336)	44.0%	46.1%	50.3%	14.3%	14.6%	9.5%	7.7%	21.1%	14.6%	2.4%	9.5%	7.4%	9.2%
	18～29歳 (n=32)	25.0%	46.9%	40.6%	12.5%	21.9%	15.6%	12.5%	18.8%	18.8%	0.0%	15.6%	12.5%	3.1%
	30歳代 (n=42)	45.2%	45.2%	57.1%	16.7%	16.7%	14.3%	7.1%	16.7%	9.5%	4.8%	7.1%	0.0%	11.9%
	40歳代 (n=52)	42.3%	48.1%	50.0%	7.7%	11.5%	9.6%	11.5%	13.5%	7.7%	0.0%	17.3%	5.8%	7.7%
	50歳代 (n=60)	43.3%	48.3%	46.7%	11.7%	10.0%	5.0%	3.3%	15.0%	1.7%	1.7%	13.3%	8.3%	6.7%
	60歳代 (n=61)	42.6%	42.6%	50.8%	8.2%	6.6%	3.3%	3.3%	14.8%	6.6%	6.6%	8.2%	9.8%	8.2%
	70歳以上 (n=89)	52.8%	46.1%	52.8%	23.6%	21.3%	12.4%	10.1%	37.1%	33.7%	1.1%	2.2%	7.9%	13.5%

第1位	第2位	第3位
-----	-----	-----

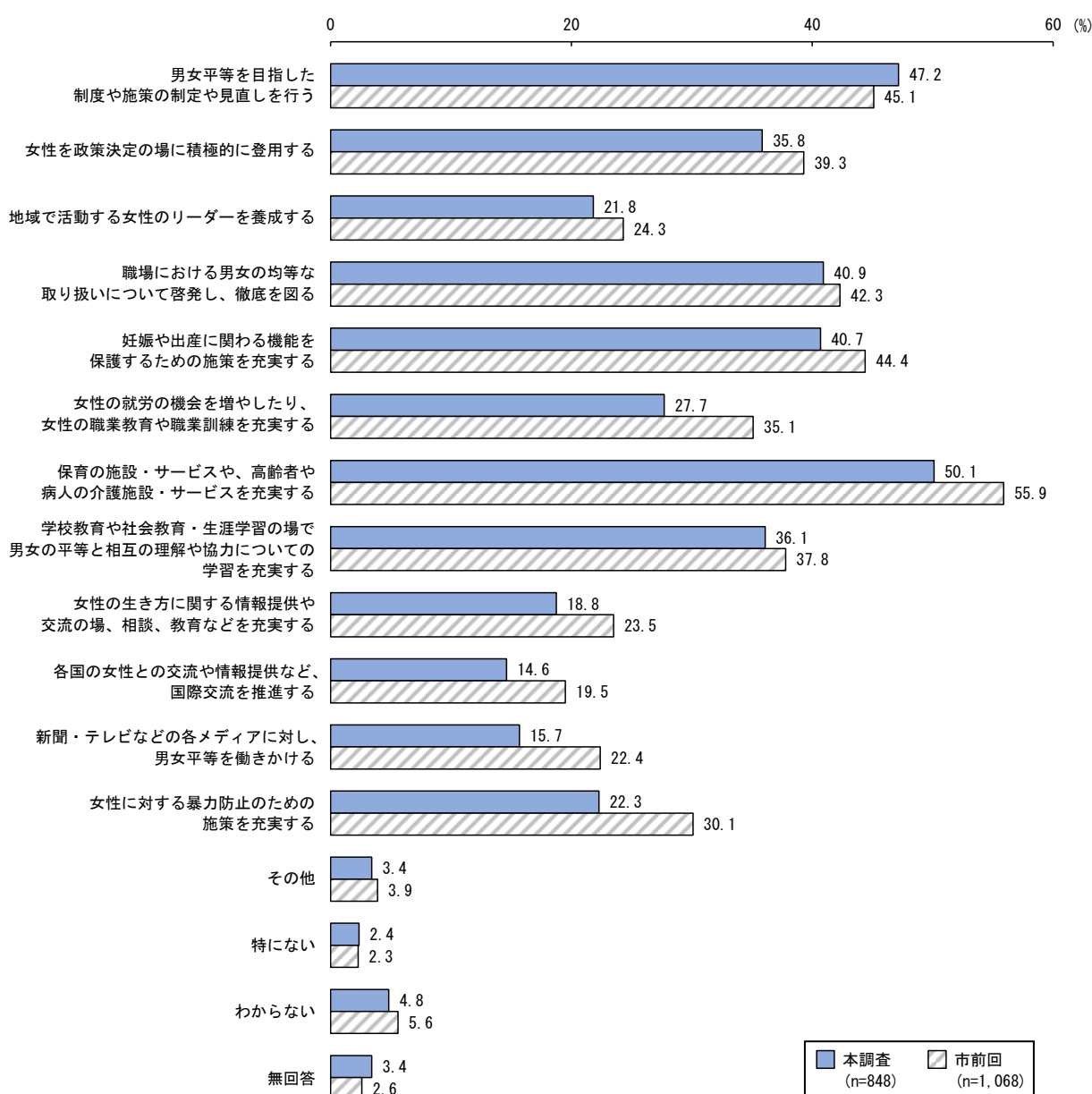
7. 男女共同参画社会の実現について

問 33 この男女共同参画社会を推進していくために、今後どのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。〔〇はいくつでも〕

「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する」が50.1%と最も高く、次いで、「男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う」が47.2%、「職場における男女の均等な取り扱いについて啓発し、徹底を図る」が40.9%となっている。

前回調査と比較すると、「男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う」が2.1ポイント増加しているが、本項目を除くすべての項目で、割合が減少している。

【男女共同参画社会推進のために力をいれていくべきこと】



性・年代別でみると、女性全体では「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する」が60.1%と最も高く、男性全体では「男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う」が48.8%と最も高くなっている。また、男女ともに18～29歳、30歳代では「妊娠や出産に関わる機能を保護するための施策を充実する」が最も高くなっている。

【男女共同参画社会推進のために力をいれていくべきこと】

		男女平等を 目指した制度や 施策の制定や 見直しを行う	女性を政策 決定の場に積 極的に登用す る	地域で活動 する女性のリ ーダーを養成 する	職場におけ る男女の均等 な取り扱いに ついて啓発し 、徹底を図る	妊娠や出産 に関わる機能 を保護するた めの施策を充 実する	女性の就労 の機会を増や したり、女性 の職業教育や 職業訓練を充 実する	保育の施設 ・サービスや 、高齢者や病 人の介護施設 ・サービスを充 実する	学校教育や 社会教育・生 涯学習の場 で男女の平等 と相互の理解 や協力につい ての学習を充 実する	女性の生き 方に関する情 報提供や交流 の場、相談、 教育などを充 実する	各国の女性 との交流や情 報提供など、 国際交流を推 進する	新聞・テレビ などの各メデ ィアに対し、 男女平等を働 きかける	女性に対する 暴力防止のた めの施策を充 実する	その他	特にな い	わから ない	無回 答
女性	全体 (n=491)	46.4%	37.9%	21.6%	42.8%	43.2%	31.6%	60.1%	37.9%	20.2%	15.7%	17.1%	25.5%	3.3%	1.4%	4.3%	3.3%
	18～29歳 (n=35)	37.1%	37.1%	20.0%	34.3%	60.0%	31.4%	42.9%	17.1%	25.7%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	2.9%	5.7%	2.9%
	30歳代 (n=55)	36.4%	43.6%	25.5%	47.3%	65.5%	36.4%	56.4%	34.5%	20.0%	10.9%	10.9%	36.4%	7.3%	0.0%	3.6%	0.0%
	40歳代 (n=82)	50.0%	35.4%	25.6%	39.0%	46.3%	36.6%	63.4%	41.5%	24.4%	15.9%	14.6%	25.6%	4.9%	3.7%	1.2%	1.2%
	50歳代 (n=125)	46.4%	33.6%	18.4%	47.2%	37.6%	26.4%	59.2%	44.0%	13.6%	17.6%	16.8%	24.8%	4.8%	0.8%	4.8%	2.4%
	60歳代 (n=87)	55.2%	40.2%	20.7%	43.7%	42.5%	36.8%	60.9%	36.8%	21.8%	17.2%	17.2%	21.8%	1.1%	1.1%	5.7%	2.3%
	70歳以上 (n=107)	44.9%	40.2%	21.5%	40.2%	30.8%	27.1%	65.4%	37.4%	21.5%	13.1%	21.5%	25.2%	0.9%	0.9%	4.7%	8.4%
男性	全体 (n=336)	48.8%	33.3%	22.9%	39.3%	36.9%	22.3%	36.0%	33.9%	17.0%	12.8%	13.7%	18.5%	3.9%	3.6%	5.4%	3.0%
	18～29歳 (n=32)	43.8%	37.5%	25.0%	37.5%	50.0%	34.4%	28.1%	46.9%	25.0%	12.5%	12.5%	28.1%	0.0%	9.4%	3.1%	0.0%
	30歳代 (n=42)	38.1%	23.8%	16.7%	45.2%	47.6%	16.7%	38.1%	19.0%	19.0%	16.7%	11.9%	9.5%	4.8%	0.0%	7.1%	0.0%
	40歳代 (n=52)	42.3%	28.8%	19.2%	28.8%	34.6%	17.3%	32.7%	25.0%	7.7%	11.5%	11.5%	13.5%	3.8%	9.6%	3.8%	0.0%
	50歳代 (n=60)	41.7%	31.7%	20.0%	33.3%	30.0%	13.3%	30.0%	26.7%	13.3%	6.7%	11.7%	15.0%	3.3%	5.0%	8.3%	1.7%
	60歳代 (n=61)	50.8%	24.6%	21.3%	39.3%	31.1%	14.8%	39.3%	31.1%	16.4%	6.6%	6.6%	18.0%	9.8%	1.6%	6.6%	1.6%
	70歳以上 (n=89)	62.9%	46.1%	30.3%	47.2%	37.1%	34.8%	41.6%	48.3%	21.3%	20.2%	22.5%	24.7%	1.1%	0.0%	3.4%	9.0%

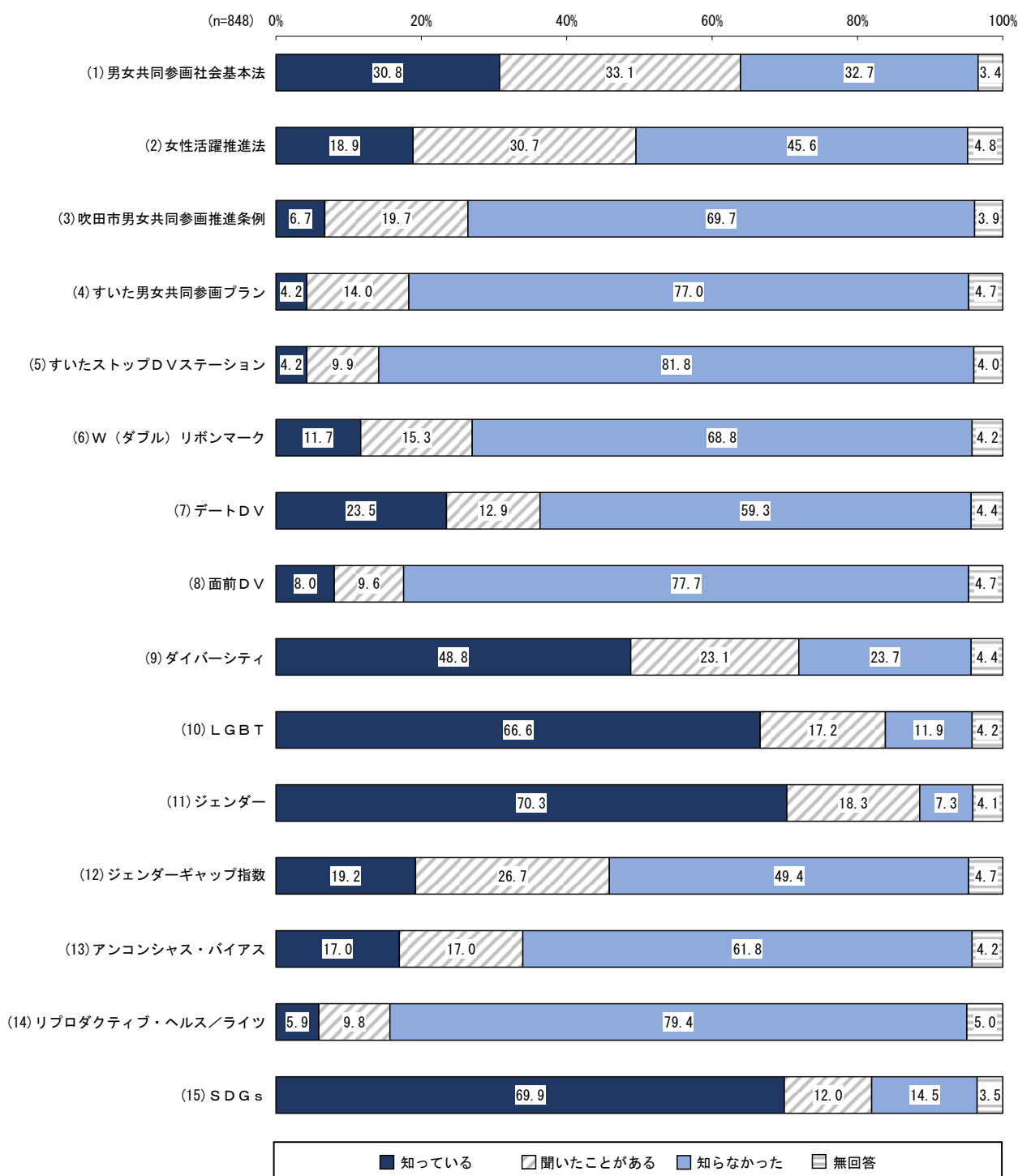
第1位	第2位	第3位
-----	-----	-----

問 34 次の「ことがら」や「ことば」を知っていますか。[(1)～(15)それぞれに、○は1つ]

「知っている」では、「(11)ジェンダー」が70.3%と最も高く、次いで、「(15)SDGs」が69.9%、「(10)LGBT」が66.6%、「(9)ダイバーシティ」が48.8%、「(1)男女共同参画社会基本法」が30.8%となっている。

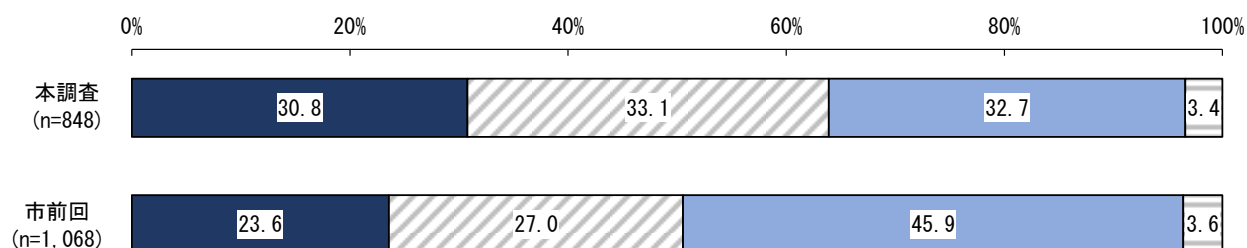
「知らなかった」では、「(5)すいたストップDVステーション」が81.8%と最も高く、次いで、「(14)リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」が79.4%、「(8)面前DV」が77.7%となっている。

【「ことば」や「ことがら」の認知度 (1)～(15)】

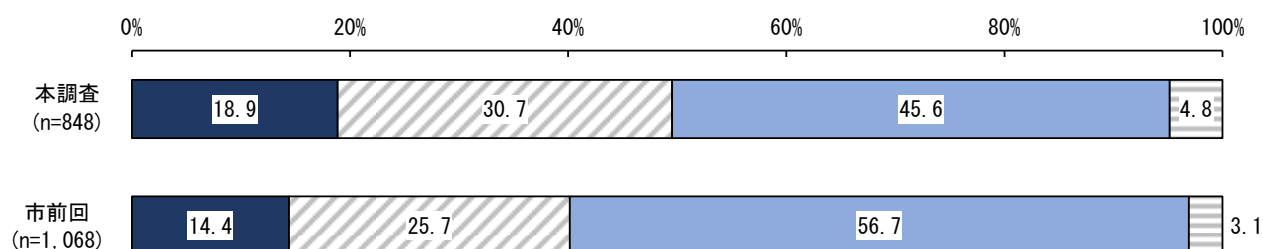


前回調査と比較すると、多くの項目で「知っている」の割合が増加している。特に、「(15)SDGs」については、40.8ポイントと大きく増加し、「(12)ジェンダーギャップ指数」が14.4ポイント増加、「(9)ダイバーシティ」が12.5ポイント増加、「(13)アンコンシャス・バイアス」が11.7ポイント増加している。

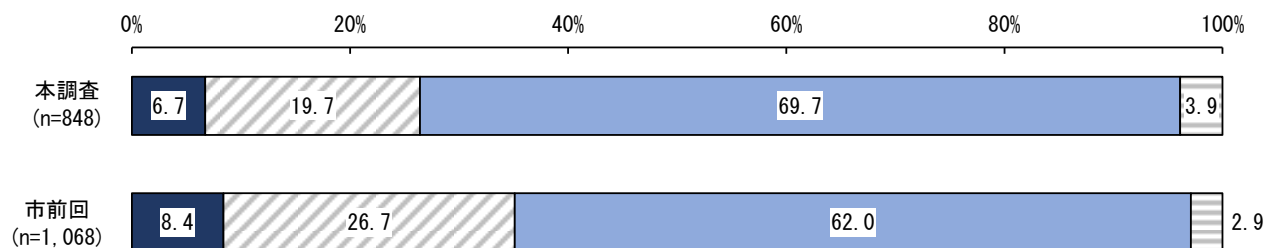
(1)男女共同参画社会基本法



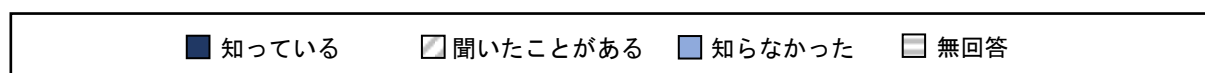
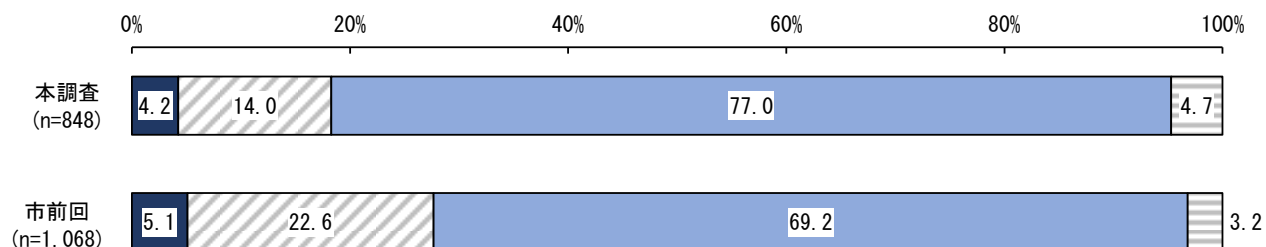
(2)女性活躍推進法



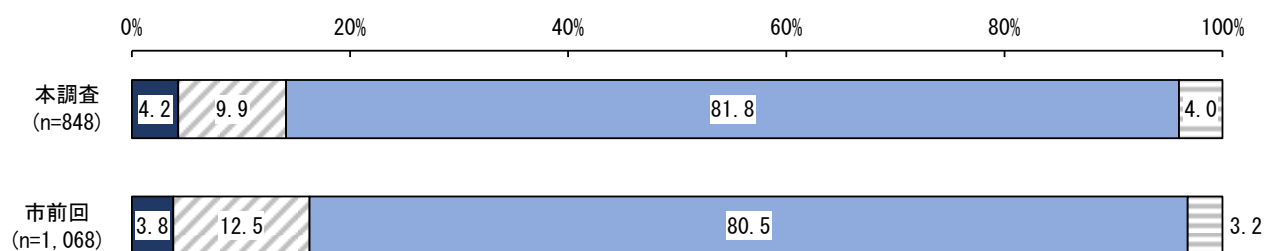
(3)吹田市男女共同参画推進条例



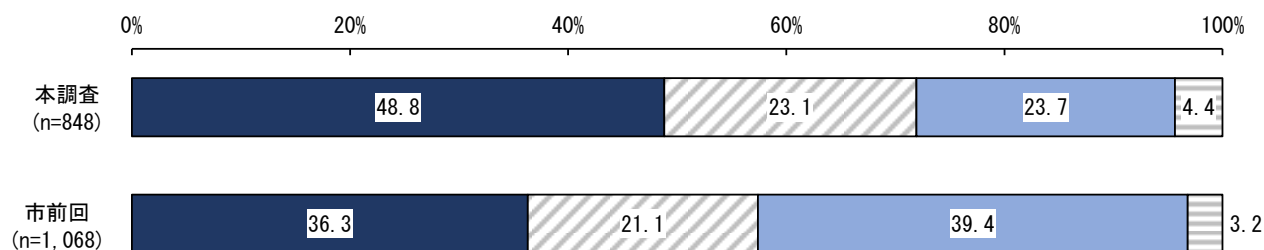
(4)すいた男女共同参画プラン



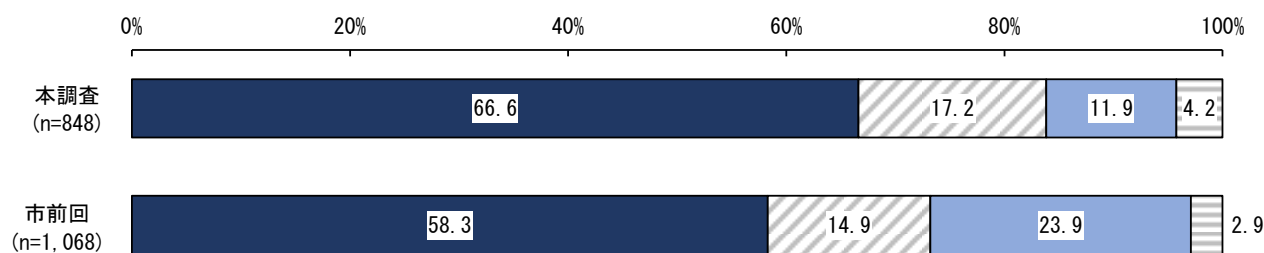
(5) すいたストップDVステーション



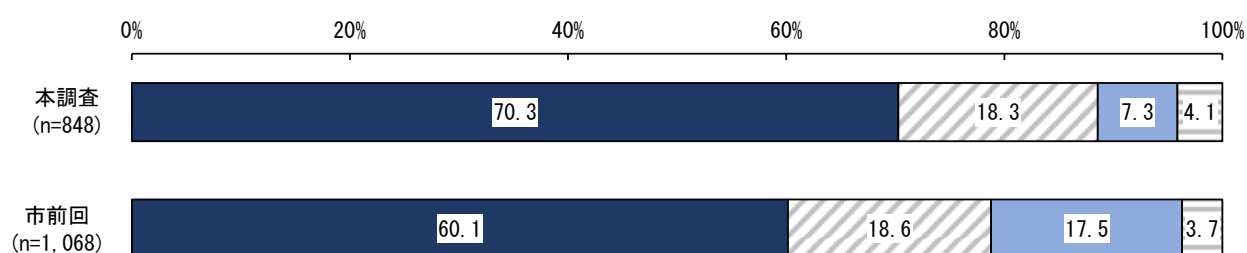
(9) ダイバーシティ



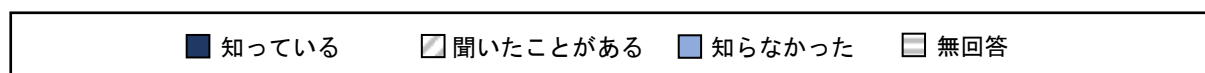
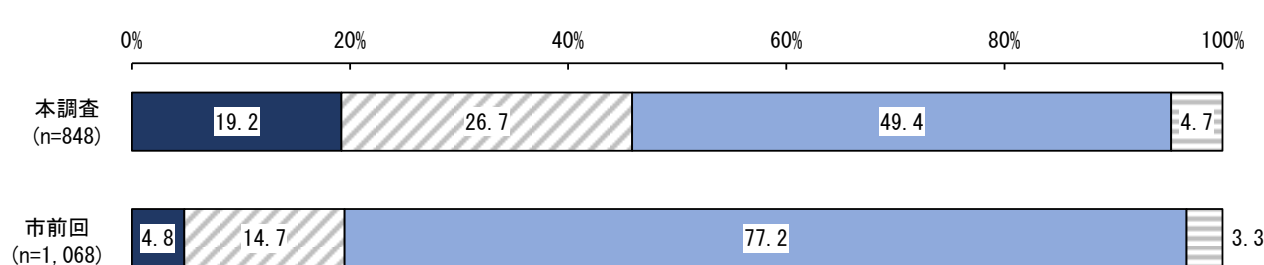
(10) L G B T



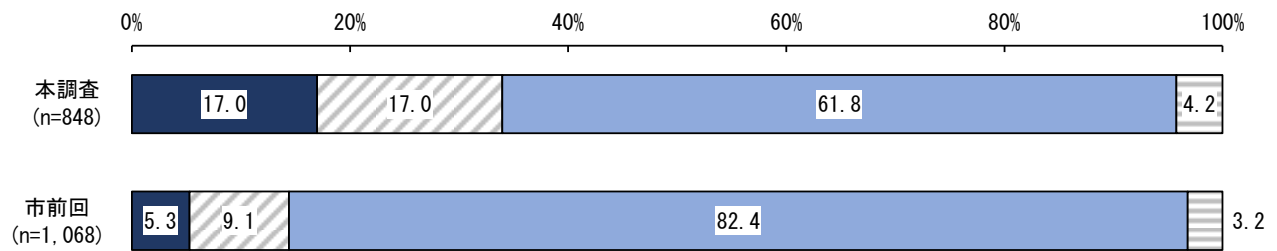
(11) ジェンダー



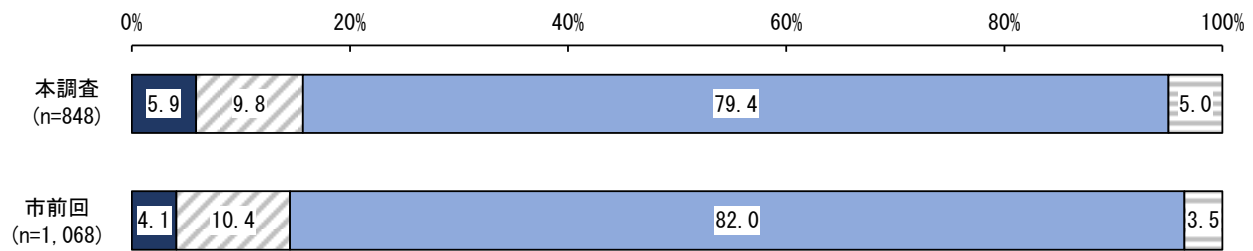
(12) ジェンダーギャップ指数



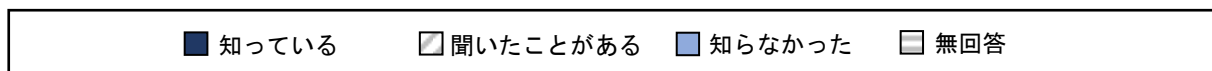
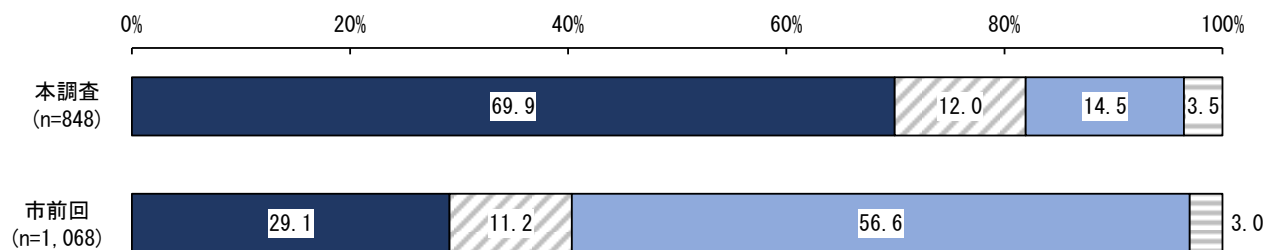
(13) アンコンシャス・バイアス



(14) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ



(15) SDGs



※「(6)W (ダブル) リボンマーク」、「(7)デートDV」、「(8)面前DV」は前回調査項目にないため省略。

8. 吹田市立男女共同参画センター デュオについて

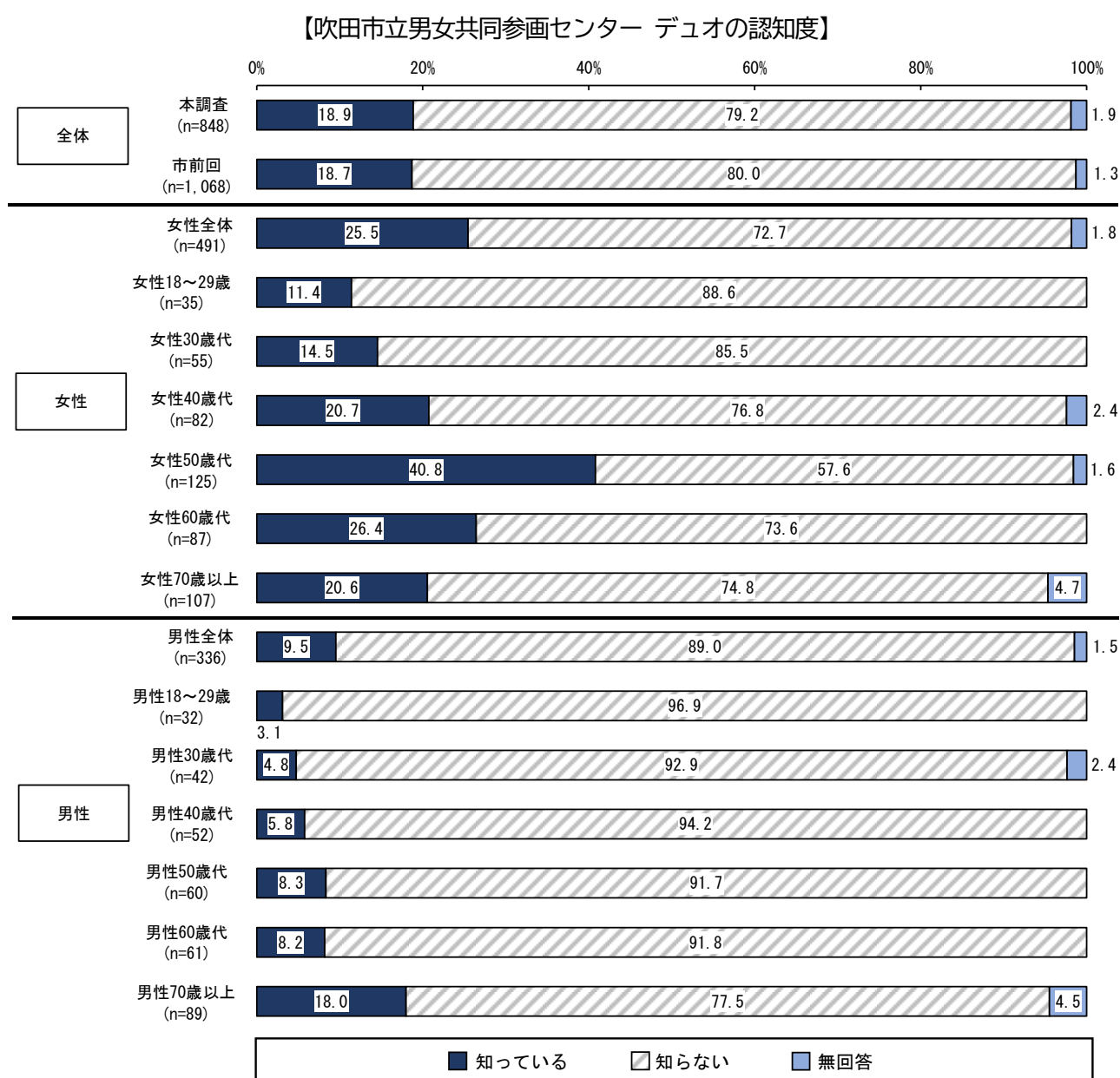
問 35 あなたは、「吹田市立男女共同参画センター デュオ」を知っていますか。[○は1つ]

「知っている」が18.9%、「知らない」が79.2%となっている。

前回調査と比較すると、「知っている」が0.2ポイント増加し、「知らない」が0.8ポイント減少している。

性・年代別にみると、「知っている」は、女性全体では25.5%、男性全体では9.5%となっている。また、「知っている」は、女性では50歳代が40.8%と最も高く、男性では70歳以上が18.0%と最も高くなっている。

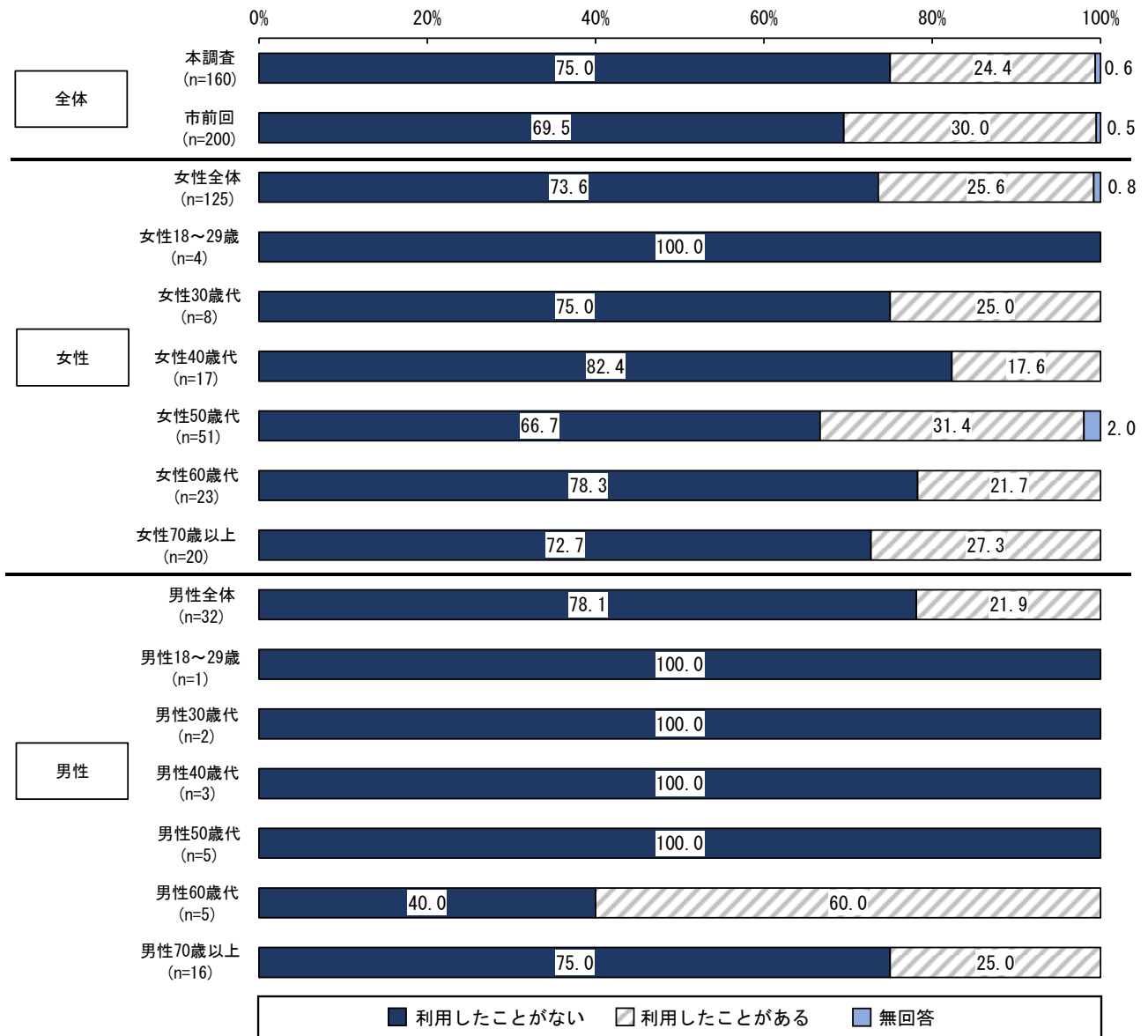
一方、「知らない」は男性18～29歳から60歳代まで、90.0%以上の割合となっている。



問 35-1 あなたは、「吹田市立男女共同参画センター デュオ」を利用したことがありますか。
[○は1つ]

「利用したことがない」が75.0%、「利用したことがある」が24.4%となっている。
前回調査と比較すると、「利用したことがない」が5.5ポイント増加している。

【吹田市立男女共同参画センター デュオの利用経験】

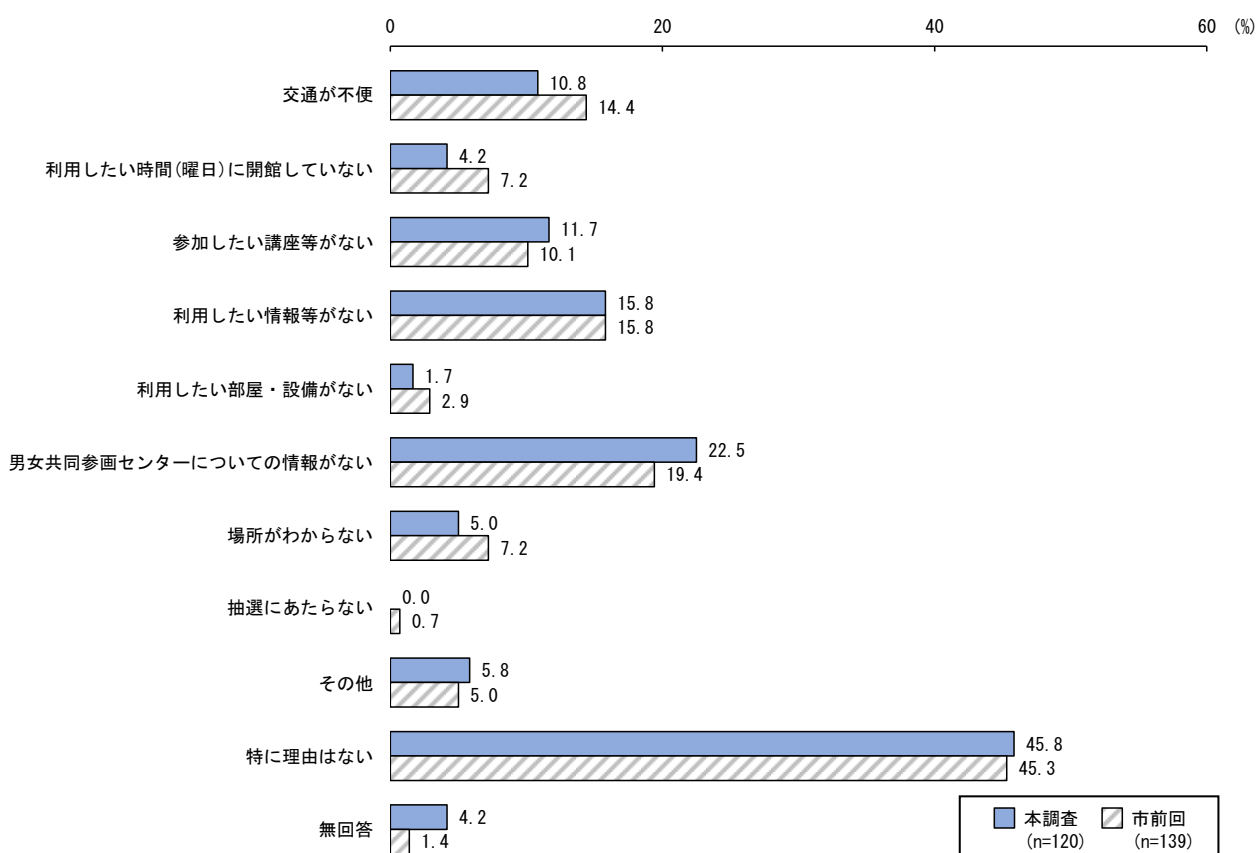


問 35-2 利用したことがないのは、なぜですか。[○はいくつでも]

「特に理由はない」を除くと、「男女共同参画センターについての情報がない」が22.5%と最も高く、次いで、「利用したい情報等がない」が15.8%、「参加したい講座等がない」が11.7%となっている。

前回調査と比較すると、「男女共同参画センターについての情報がない」が3.1ポイント増加し、「参加したい講座等がない」が1.6ポイント増加している。一方、「交通が不便」が3.6ポイント減少、「利用したい時間(曜日)に開館していない」が3.0ポイント減少、「場所がわからない」が2.2ポイント減少している。

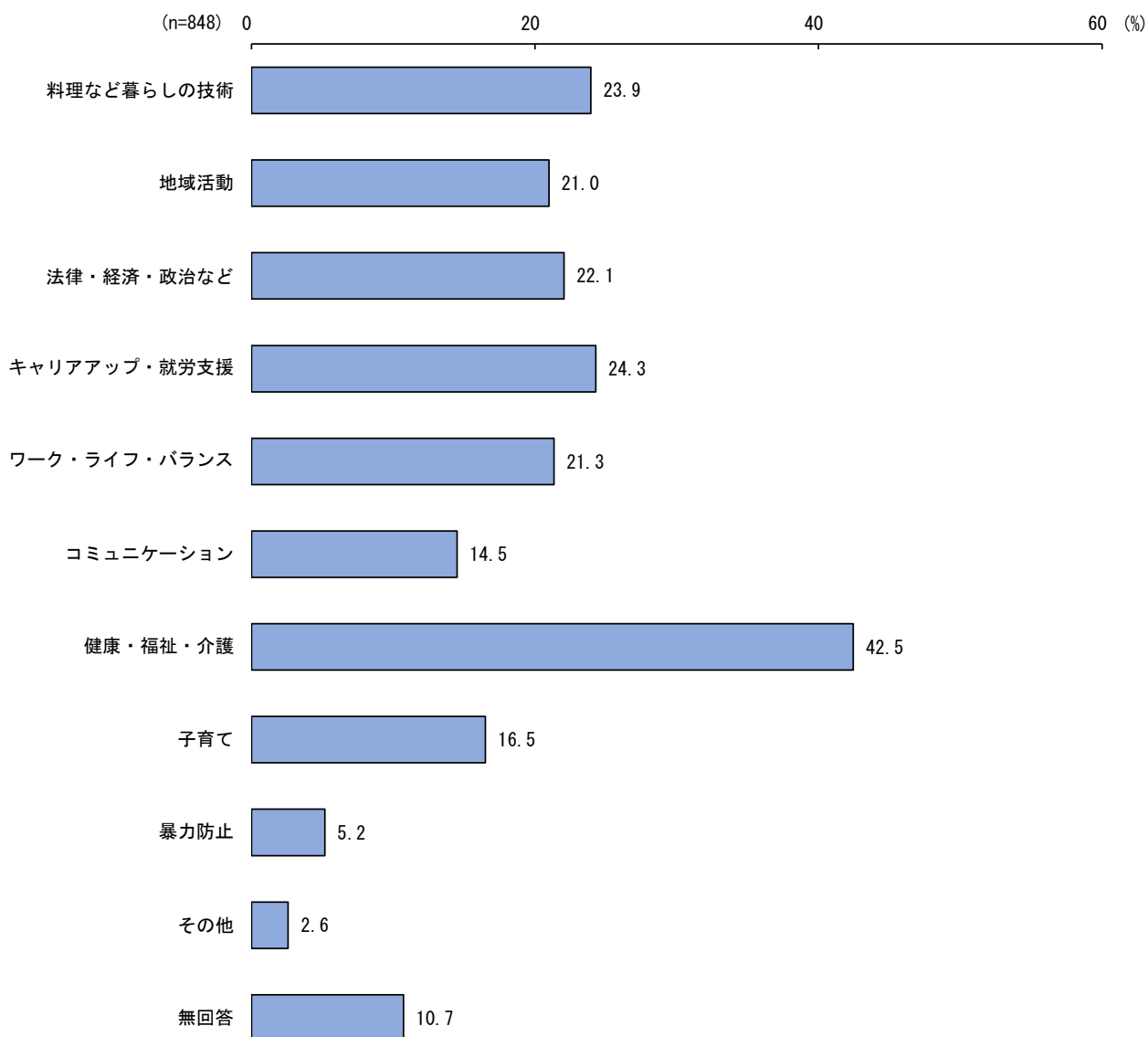
【吹田市立男女共同参画センター デュオを利用したことがない理由】



問 36 「吹田市立男女共同参画センター デュオ」ではさまざまな講座を開催しています。次のテーマの中で、今後実施してほしいテーマがあれば選んでください。[○は3つまで]

「健康・福祉・介護」が42.5%と最も高く、次いで、「キャリアアップ・就労支援」が24.3%、「料理など暮らしの技術」が23.9%となっている。

【吹田市立男女共同参画センター デュオの講座で実施してほしいテーマ】



性・年代別でみると、男女ともに全体で「健康・福祉・介護」が最も高く、女性では45.2%、男性では37.8%となっている。男女ともに30歳代で「子育て」が高くなっている。「料理など暮らしの技術」は全体では3番目に高いが、性・年代別では第1位なのは女性の18～29歳のみとなっている。

【吹田市立男女共同参画センター デュオの講座で実施してほしいテーマ】

		料理など暮らしの技術	地域活動	法律・経済・政治など	キャリアアップ・就労支援	ワーク・ライフ・バランス	コミュニケーション	健康・福祉・介護	子育て	暴力防止	その他	無回答
女性	全体 (n=491)	26.5%	16.5%	21.2%	26.5%	21.4%	13.6%	45.2%	17.5%	4.7%	1.6%	11.6%
	18～29歳 (n=35)	37.1%	14.3%	31.4%	34.3%	28.6%	8.6%	31.4%	34.3%	8.6%	2.9%	5.7%
	30歳代 (n=55)	25.5%	10.9%	16.4%	30.9%	34.5%	20.0%	14.5%	58.2%	5.5%	0.0%	9.1%
	40歳代 (n=82)	19.5%	12.2%	17.1%	41.5%	30.5%	15.9%	34.1%	28.0%	6.1%	1.2%	11.0%
	50歳代 (n=125)	21.6%	14.4%	24.0%	34.4%	24.8%	13.6%	51.2%	8.8%	2.4%	1.6%	8.0%
	60歳代 (n=87)	36.8%	19.5%	26.4%	18.4%	17.2%	11.5%	56.3%	4.6%	10.3%	1.1%	10.3%
	70歳以上 (n=107)	26.2%	23.4%	15.9%	7.5%	4.7%	12.1%	57.9%	3.7%	0.0%	2.8%	20.6%

男性	全体 (n=336)	20.5%	27.4%	23.8%	21.1%	21.7%	14.9%	37.8%	15.8%	5.7%	4.2%	9.5%
	18～29歳 (n=32)	28.1%	21.9%	18.8%	31.3%	28.1%	25.0%	18.8%	31.3%	3.1%	0.0%	9.4%
	30歳代 (n=42)	26.2%	11.9%	21.4%	26.2%	23.8%	14.3%	21.4%	40.5%	4.8%	4.8%	11.9%
	40歳代 (n=52)	19.2%	17.3%	32.7%	26.9%	21.2%	11.5%	28.8%	28.8%	9.6%	5.8%	7.7%
	50歳代 (n=60)	20.0%	30.0%	16.7%	20.0%	31.7%	10.0%	26.7%	11.7%	6.7%	5.0%	8.3%
	60歳代 (n=61)	24.6%	26.2%	24.6%	21.3%	18.0%	11.5%	47.5%	1.6%	3.3%	8.2%	8.2%
	70歳以上 (n=89)	13.5%	41.6%	25.8%	12.4%	14.6%	19.1%	58.4%	3.4%	5.6%	1.1%	11.2%

第1位	第2位	第3位
-----	-----	-----

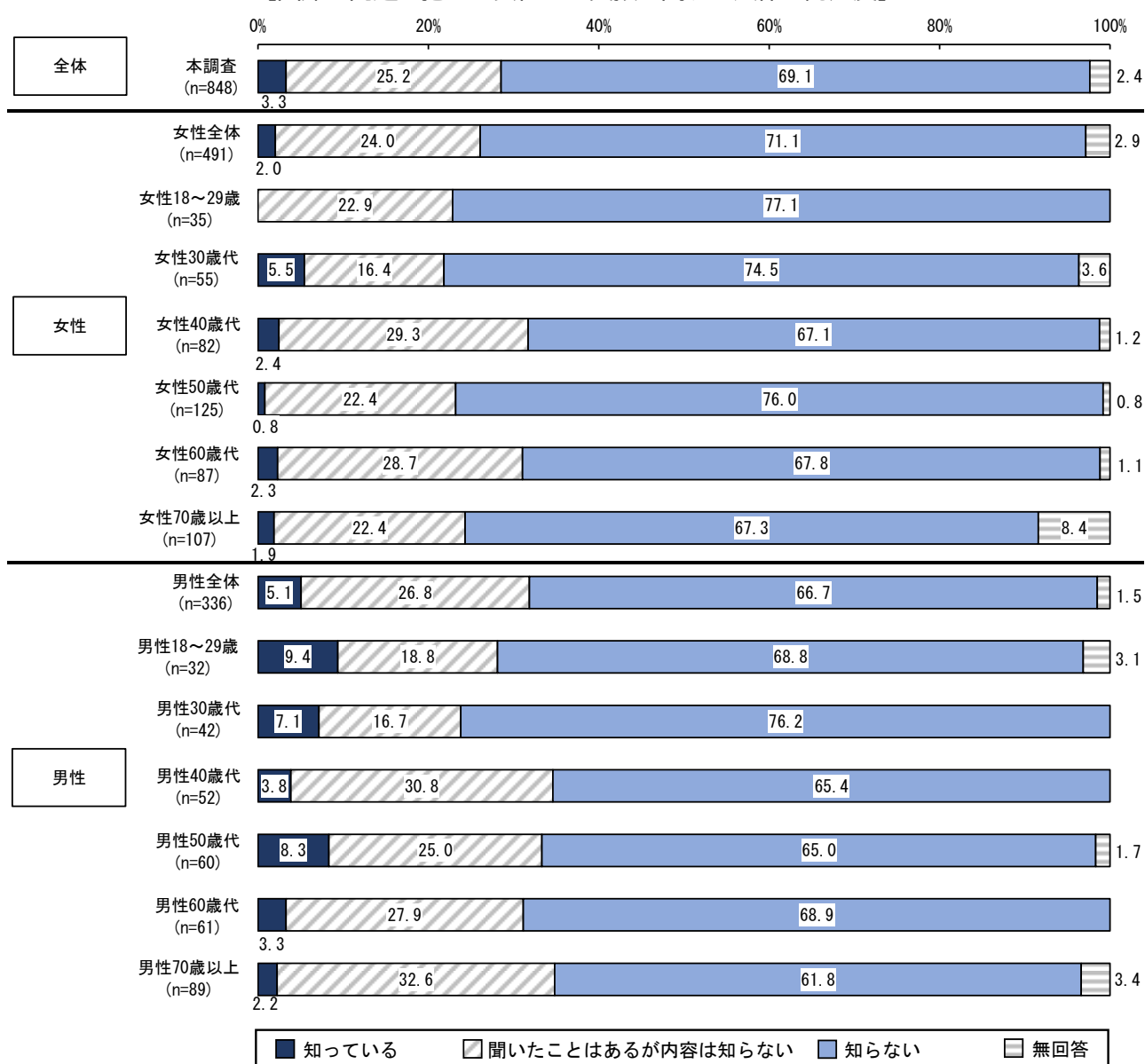
9. 困難な問題を抱える女性への支援について

問 37 あなたは、困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（女性支援法）が施行されたことを知っていますか。[○は1つ]

「知っている」が3.3%、「聞いたことはあるが内容は知らない」が25.2%、「知らない」が69.1%となっている。

性・年代別でみると、「知っている」は女性全体では2.0%、男性全体では5.1%となっており、男性の18～29歳が9.4%と最も高くなっている。また、「知っている」の割合はすべての年代で、女性より男性が高くなっている。

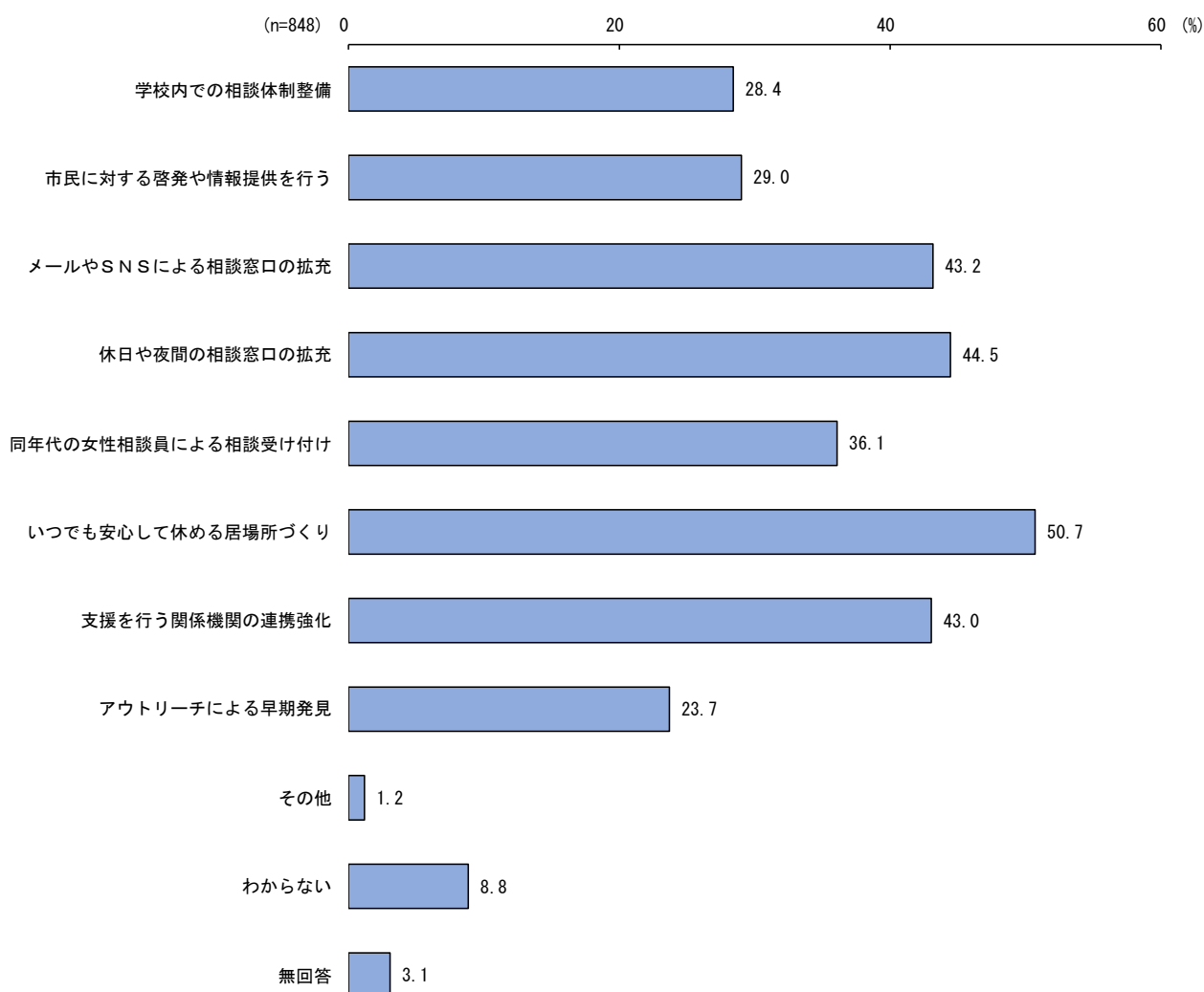
【困難な問題を抱える女性への支援に関する法律の認知度】



問 38 困難な問題を抱える女性が、支援につながりやすい体制をつくるために、必要だと思う取り組みは何ですか。[○はいくつでも]

「いつでも安心して休める居場所づくり」が50.7%と最も高く、次いで、「休日や夜間の相談窓口の拡充」が44.5%、「メールやSNSによる相談窓口の拡充」が43.2%となっている。

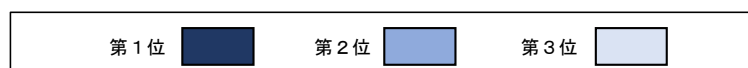
【困難な問題を抱える女性を支援するための必要な取り組み】



性・年代別でみると、男女ともに全体で「いつでも安心して休める居場所づくり」が最も高く、女性が54.8%、男性が44.9%となっている。男女ともに40歳代では「メールやSNSによる相談窓口の拡充」が最も高くなっている。

【困難な問題を抱える女性を支援するための必要な取り組み】

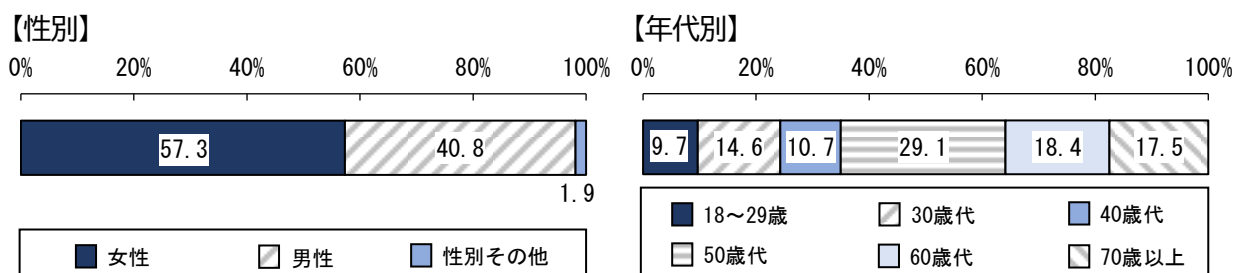
		学校内での相談体制整備	市民に対する啓発や情報提供を行う	メールやSNSによる相談窓口の拡充	休日や夜間の相談窓口の拡充	同年代の女性相談員による相談受け付け	いつでも安心して休める居場所づくり	支援を行う関係機関の連携強化	アウトリーチによる早期発見	その他	わからない	無回答
女性	全体 (n=491)	28.5%	25.9%	44.4%	46.2%	37.7%	54.8%	44.6%	26.9%	1.6%	8.4%	3.3%
	18～29歳 (n=35)	34.3%	14.3%	60.0%	51.4%	54.3%	54.3%	28.6%	28.6%	0.0%	8.6%	0.0%
	30歳代 (n=55)	32.7%	21.8%	56.4%	52.7%	41.8%	63.6%	30.9%	32.7%	1.8%	7.3%	3.6%
	40歳代 (n=82)	35.4%	26.8%	57.3%	50.0%	28.0%	54.9%	40.2%	29.3%	2.4%	9.8%	2.4%
	50歳代 (n=125)	33.6%	28.0%	52.8%	48.0%	37.6%	53.6%	49.6%	32.0%	1.6%	4.8%	0.8%
	60歳代 (n=87)	25.3%	24.1%	36.8%	52.9%	44.8%	57.5%	52.9%	25.3%	2.3%	8.0%	0.0%
	70歳以上 (n=107)	15.9%	29.9%	19.6%	30.8%	31.8%	49.5%	47.7%	16.8%	0.9%	12.1%	10.3%
男性	全体 (n=336)	28.6%	33.9%	41.4%	42.3%	33.6%	44.9%	41.7%	19.3%	0.6%	9.2%	2.4%
	18～29歳 (n=32)	37.5%	25.0%	53.1%	46.9%	40.6%	59.4%	28.1%	25.0%	0.0%	0.0%	3.1%
	30歳代 (n=42)	33.3%	23.8%	38.1%	50.0%	35.7%	59.5%	19.0%	21.4%	0.0%	4.8%	2.4%
	40歳代 (n=52)	26.9%	26.9%	50.0%	32.7%	34.6%	32.7%	48.1%	26.9%	0.0%	13.5%	1.9%
	50歳代 (n=60)	18.3%	31.7%	46.7%	46.7%	33.3%	41.7%	41.7%	10.0%	0.0%	11.7%	0.0%
	60歳代 (n=61)	18.0%	36.1%	37.7%	42.6%	26.2%	45.9%	44.3%	14.8%	3.3%	9.8%	0.0%
	70歳以上 (n=89)	38.2%	46.1%	32.6%	39.3%	34.8%	41.6%	51.7%	21.3%	0.0%	10.1%	5.6%



10. 自由意見

男女共同参画に関することで、吹田市へのご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

自由意見の回答は 93 人(10.9%)で、性・年代別の内訳は以下のとおりである。



意見は延べ 103 件あり、その内容から 8 のグループに大分類し、さらにそれぞれのグループ内で分類を行い、取りまとめた。

分類番号	項目	件数
1	男女平等について	18
2	働くことについて	8
3	教育について	5
4	ハラスメントや暴力について	3
5	男女共同参画社会の実現について	15
6	吹田市立男女共同参画センター デュオについて	3
7	アンケートについて	21
8	その他	30
計		103

1. 男女平等について … 18 件

- ・無理に推し進めるものではない、全てが平等である必要はない (3)
- ・平等にすることで弊害も出てくる (2)
- ・年配層の意識改革が必要である (2)
- ・性別による固定的な役割分担意識をなくすべき (2)
- ・均等にすることが男女平等ではない (2)
- ・性的マイノリティも含めた性差別のない社会を実現することが必要 (2)
- ・随分、男女平等に時代が変わったと感じる (1)
- ・性差による得意不得意はあり、得意な方が担当すればよい (1)
- ・能力に応じて管理者となる社会が平等であり、平等のために女性管理者を増やすのは違う (1)
- ・施策や法律を作っても意識が追いついていないと意味がない (1)
- ・本来、生物学的に女性の方が強い立場にある (1)

2. 働くことについて … 8 件

- ・子育てをしながら働くことができる環境の整備や子育て支援の制度が必要 (5)
- ・子供の急病時などに父親も急に休める職場が増えれば互いに子育てをしている意識も高まる (1)
- ・時短労働などでもしっかり収入があることが大切 (1)
- ・企業が労働者をどう扱っているのかを見直す必要がある (1)

3. 教育について … 5 件

- ・子供の頃から学ぶことが大切 (4)
- ・強く生きるための自律を育む教育に力を入れてほしい (1)

4. ハラスメントや暴力について … 3 件

- ・男女間だけでなく同性の間でのモラハラ、パワハラも沢山あり深刻だと感じる (1)
- ・今の若い人は「～ハラスメント」を乱用して自分の問題や欠点に向き合おうとしていない (1)
- ・相談しても家庭の問題として本気で聞いてくれない (1)

5. 男女共同参画社会の実現について … 15 件

- ・性別にかかわらず、個人として能力を発揮し、互いを尊重できる社会になればよい (7)
- ・収入や人間関係が充足していることが必要 (2)
- ・女性が育児と自己実現を両立できる世界を望む (1)
- ・女性議員が増えてほしい (1)
- ・女性リーダーが中心に企画すればよいと思う (1)
- ・男女共同参画という言葉が時代に合っていない (1)
- ・女性の社会進出には賛成だが、出生率の低下への影響が気になる (1)
- ・昔ながらの考え方で育ってきた人は社会や時代が変わっても変わらないと思う (1)

6. 吹田市立男女共同参画センター デュオについて … 3 件

- ・今の 30、40 代の女性に男女共同参画センター「デュオ」のことを知ってほしい (1)
- ・男女共同参画センターの在り方について議論が必要 (1)
- ・センターの利用方法などを全く知らない (1)

7. アンケートについて … 21 件

- ・質問項目、用語、アンケートの構成に違和感がある (11)
- ・アンケートを機に知らなかったことを知ることができた (2)
- ・アンケートの結果を施策に反映してほしい (2)
- ・質問項目が多すぎる (2)
- ・アンケートで意識を啓発してもらい真剣に考えなくてと思った (1)
- ・アンケートの結果により、男女平等、男女共同参画の発展に繋がればと願う (1)
- ・アンケート用紙が大きいので封筒に入れ難い (1)
- ・このようなアンケートに時間を取られたくない (1)

8. その他 … 30 件

- ・市の施策についての要望 (9)
- ・他施策に関すること (8)
- ・自分自身のこと (5)
- ・その他 (8)

11. アンケートの結果からわかる傾向や課題について

■男女の平等や地域生活について■

問6の各分野における男女の地位について、「平等である」と答えた人の割合は、「法律や制度の上」と「慣習やしきたり」を除く6つの項目で前回調査より減少している。性別にみると、すべての項目で女性より男性の割合が高くなっている。

問8の「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」を合わせた『同感しない』人の割合は、前回調査より5.8ポイント高い73.6%となっている。

一方で、問9の家庭内の仕事の担当のうち「生活費を得る（稼ぐ）」では、「全て夫の担当」と「主に夫の担当」を合わせた『夫の担当が望ましい』と考える人の割合が51.0%と半数を超えている。また、「食事のしたくをする」や「乳幼児の世話をする」では、「全て妻の担当」と「主に妻の担当」を合わせた『妻の担当が望ましい』と考える人の割合がそれぞれ44.4%、39.3%と高くなっており、問8とは矛盾する結果となっている。

問10の家事に要する時間、育児に要する時間について、男性の「1時間～3時間未満」、「3時間～5時間未満」、「5時間以上」では平日よりも休日の割合が高く、休日には男性が家事や育児に参加している傾向が見受けられる。

■働くことについて■

問14の女性が職業を持つことについて、「職業を持ち、結婚や出産に関わらず仕事を続ける」が前回調査では44.1%と最も高かったが、本調査でも51.8%と最も高く、7.7ポイント増加し半数を超える結果となった。また、問18の再就職を希望する女性に必要なことについて、前回調査と比べ、多くの項目で必要と考える人の割合が増加しており、女性がより社会で活躍できるよう、柔軟な勤務制度等の働きやすい職場環境の整備や、職場、家族・パートナーの理解が求められている。

問16の職場における性別による差について、前回調査と比べ、すべての項目で「男性の方が優遇されている」が減少し、「平等である」が増加している。中でも「働き続けやすい雰囲気」が6.2ポイント、「仕事の内容」が5.5ポイント増加しており、社会状況や意識の変化がみられる。

問19の男性による育児休業や介護休業の取得促進に必要なことについて、複数の項目で必要と考える人の割合が半数を超えており、「企業経営者や職場の理解」では70%を超える結果となった。男性、女性とともに育児や介護に参加できる環境を整えていくことも重要な取り組みの一つであると考えられる。

■教育について■

問20の子供の学歴について、女の子、男の子ともに「大学」が最も高くなっており、前回調査と比べると同等の結果であった。また、女の子の「短期大学・高等専門学校」が4.7ポイント減少し、「大学院」が1.5ポイント増加、男の子の「短期大学・高等専門学校」も1.1ポイント減少し、「大学院」が0.9ポイント増加しており、女の子、男の子ともに「短期大学・高等専門学校」が減少し、「大学院」が増加している。

■防災対策・災害復興対策について■

問 22 の災害時に配慮が必要なことについて、「避難所の設備」が 85.5%と最も高く、男女ともに全年代で最も高くなっている。また、問 23 の災害時に必要な配慮を実現するために必要なこととして、「避難所運営の責任者に、幅広い年齢層の男女が共に参画し、避難所運営や被災者対応に、男女両方の視点が入ること」が最も高くなっており、防災分野への女性の参画拡大が求められている。

■セクシュアル・ハラスメントや配偶者等からの暴力について■

問 24 のセクシュアル・ハラスメントに関する被害経験について、「自分自身が受けたことがある」の割合を性別にみると、すべての項目で男性より女性が高くなっている。中でも、「体をさわられた」や「飲酒の席で、横に座らされたりお酌をさせられたりした」では約 30 ポイント差であった。一方で、年代別にみると、男性の割合が高くなっている項目が複数あり、性別に関係なく被害があることが見受けられる。

問 29 の配偶者や交際相手から何らかの暴力を受けた際に被害を相談した先では、「どこにも相談しなかった」が最も高く、44.6%となっている。問 30 のDVの相談窓口として知っているものについて、「警察」を除くすべての項目で半数以下となっていることから、このような相談窓口の周知を図り、被害者の早期の支援につなげていく必要がある。

■男女共同参画社会の実現について■

男女共同参画に関する「ことば」や「ことがら」について、前回調査と比較すると、多くの項目で「知っている」が増加の傾向にある。中でも、「SDGs」は 40.8 ポイントと大きく増加し、「ジェンダーギャップ指数」が 14.4 ポイント、「ダイバーシティ」が 12.5 ポイント、「アンコンシャス・バイアス」が 11.7 ポイント増加した。

未だ「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた認知度が 10%台となっている項目もあるため、今後も引き続き、男女共同参画社会の実現に向けた啓発に取り組む必要がある。

■吹田市立男女共同参画センター デュオについて■

吹田市立男女共同参画センター デュオについて、認知度は前回調査と比較してほぼ横ばいである。

また、問 36 の吹田市立男女共同参画センター デュオの講座で実施してほしいテーマについて、「健康・福祉・介護」が 42.5%と最も高く、性別にみても男女ともに全体で最も高くなっている。

市民が興味のある講座を充実し、さまざまな媒体や活動を通じて広報を行い、更なる利用促進を図っていくことが必要であると考えられる。

■困難な問題を抱える女性への支援について■

令和 6 年 4 月 1 日に施行された「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」について、「知っている」人の割合は 3.3%と低くなっている。

困難な問題を抱える女性を支援するための必要な取り組みについては、「いつでも安心して休める居場所づくり」や「休日や夜間の相談窓口の拡充」、「メールやSNSによる相談窓口の拡充」が高くなっている。

今後は、制度や相談窓口について更なる周知を行うとともに、困難な問題を抱える女性が適切な支援を受けられる体制を整備する必要があると考えられる。

男女共同参画に関する市民意識・実態調査

調査へのご協力をお願い

平素は市政に対し、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

この調査は、今後の男女共同参画施策を進めていく上での基礎資料として活用するために、男女共同参画に関する市民の皆様のお考えをお尋ねするものです。調査結果を目的外に使用することはありません。

また、男女共同参画社会基本法に基づく市の施策の進捗状況を確認する調査であるため、「男性」「女性」としてお聞きしていますが、その他の性が存在しないと認識しているものではありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、ぜひご協力くださいますようお願いいたします。

令和6年(2024年)8月

吹田市

<ご回答にあたってのお願い>

- ◇この調査票は、吹田市に住む18歳以上の方2,000人(男女各1,000人)を無作為に選び、お送りしています。
- ◇無記名ですので、どなたの答えかわからないようになっています。率直に、思うままをお答えください。回答内容についてあなたにご迷惑をおかけすることはありません。
- ◇あて名のご本人がお答えください。(病気などの理由でご本人が回答できない場合は、ご家族などに代理で記入または入力していただくか、下記までご相談ください。)
- ◇質問ごとに、記載している方法に従ってご回答ください。お答えが「その他」にあてはまる場合は、()に具体的にご記入ください。

回答の方法は、(1)調査票での回答と(2)インターネットでの回答の2種類からお選びください。

(1) 調査票での回答

- ◇ボールペンやえんぴつなどでハッキリとお書きください。
- ◇記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、**9月17日(火)**までにポストにご投函ください。

(2) インターネットでの回答

- ◇右下の二次元コードを読み取るか、下記のURLを入力すると、回答画面にアクセスできます。
- ◇IDとパスワードを入力してから、回答を開始してください。なお、IDとパスワードについて、重複回答を防ぐためのものであり、個人が特定されることはありません。

URL	https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/suitadanjo/survey/		
ID		パスワード	



この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

吹田市 市民部 人権政策室 電話：06-6384-1461(直通) FAX：06-6368-7345

あなた自身のことについておたずねします (統計的な分析に必要なためおたずねします)

問1 あなたの性別をお答えください。[○は1つ]

- | | | | |
|--------|--------|----------------|-----------|
| 1. 男 性 | 2. 女 性 | 3. 1、2のどちらでもない | 4. 答えたくない |
|--------|--------|----------------|-----------|

※本調査は、男女共同参画や男女の平等に関する意識などを調査するため、性別をご回答いただいています。
戸籍上の区分に関わらず、ご自身の性自認に基づいてご記入ください。

問2 あなたの年代をお答えください。[○は1つ]

- | | | | |
|----------|----------|-----------|----------|
| 1. 10 歳代 | 2. 20 歳代 | 3. 30 歳代 | 4. 40 歳代 |
| 5. 50 歳代 | 6. 60 歳代 | 7. 70 歳以上 | |

問3 あなたは結婚等※していますか。[○は1つ]

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 結婚している | 2. 結婚していない |
| 3. 結婚後、離別した | 4. 結婚後、死別した |
| 5. その他 () | |

※事実婚を含み、配偶者・パートナーがいること。

問4 あなたの家族構成についてお答えください。[○は1つ]

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 自分ひとりだけ | 2. 夫婦またはカップル |
| 3. 自分と子供 | 4. 配偶者と子供 |
| 5. 配偶者と親 | 6. 親と配偶者と子供 |
| 7. 祖父母と親と配偶者 | 8. 配偶者と子供と孫 |
| 9. その他 () | |

問5 あなたとあなたの配偶者・パートナーの職業をお答えください。

配偶者・パートナーがいない方は、ご自身の欄だけ記入してください。[○はそれぞれ1つ]

ご自身の職業 (○は1つ)	配偶者・パートナーの職業 (○は1つ)
1. 会社、団体、官公庁などの正社員・正職員	1. 会社、団体、官公庁などの正社員・正職員
2. 会社、団体、官公庁などの非正規職員（契約社員、派遣社員、パート、アルバイトなど）	2. 会社、団体、官公庁などの非正規職員（契約社員、派遣社員、パート、アルバイトなど）
3. 自営業主または家族従業員	3. 自営業主または家族従業員
4. 家事専業	4. 家事専業
5. 学生	5. 学生
6. 無職(家事専業を除く)	6. 無職(家事専業を除く)
7. その他()	7. その他()

男女の平等や地域生活についておたずねします

問6 次の各分野において男女の地位は、どの程度平等になっていると思いますか。
 [(1)～(8)それぞれに、○は1つ]

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
(1) 家庭生活の場では	1	2	3	4	5	6
(2) 職場では(賃金や待遇など)	1	2	3	4	5	6
(3) 地域活動の場では	1	2	3	4	5	6
(4) 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
(5) 政治の場では	1	2	3	4	5	6
(6) 法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
(7) 慣習やしきたり(冠婚葬祭など)では	1	2	3	4	5	6
(8) 社会全体として	1	2	3	4	5	6

問7 次のような結婚・育児についての意見をどう思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。[(1)～(6)それぞれに、○は1つ]

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
(1) 結婚は必ずしも、しなくてもよい	1	2	3	4	5
(2) 結婚生活がうまくいかなかったら離婚してもよい	1	2	3	4	5
(3) 夫と妻が別姓を名乗ってもよい	1	2	3	4	5
(4) 結婚しても必ずしも子供をもつ必要はない	1	2	3	4	5
(5) 子供の数や産む時期を決めるにあたっては、女性の主体的な意見を尊重した方がよい	1	2	3	4	5
(6) 3歳までは、母親が家庭で子育てすべきという考えにはこだわらない	1	2	3	4	5

問8 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。[○は1つ]

1. 同感する	2. どちらかといえば同感する
3. どちらかといえば同感しない	4. 同感しない
5. わからない	

問9 次の家庭内の仕事について、どのように担当するのが望ましいとお考えですか。

配偶者・パートナーがいない方も、仮にいと想定してお答えください。

〔(1)～(10)それぞれに、○は1つ〕

	全 て 妻 の 担 当	主 に 妻 の 担 当	夫 と 妻 が 同 じ 程 度 に 担 当	主 に 夫 の 担 当	全 て 夫 の 担 当	そ の 他 の 人 が 主 に 担 当	わ か ら な い
(1) 生活費を得る（稼ぐ）	1	2	3	4	5	6	7
(2) 掃除・洗濯をする	1	2	3	4	5	6	7
(3) 食事のしたくをする	1	2	3	4	5	6	7
(4) 日々の家計を管理する	1	2	3	4	5	6	7
(5) 子供の教育としつけをする	1	2	3	4	5	6	7
(6) 乳幼児の世話をする	1	2	3	4	5	6	7
(7) 老親や病身者の介護や看護をする	1	2	3	4	5	6	7
(8) 親戚づきあいをする	1	2	3	4	5	6	7
(9) 近所づきあいをする	1	2	3	4	5	6	7
(10) 高額の買い物を決定する	1	2	3	4	5	6	7

問10 1日のうちであなたが仕事(在宅就労を含む)を除く時間で、家事、育児、介護に要する平均時間は、それぞれどのくらいですか。〔○はそれぞれ1つ〕

(1) 家事

平日（○は1つ）	休日（○は1つ）
1. なし	1. なし
2. 1時間未満	2. 1時間未満
3. 1時間～3時間未満	3. 1時間～3時間未満
4. 3時間～5時間未満	4. 3時間～5時間未満
5. 5時間以上	5. 5時間以上

(2) 育児

平日（○は1つ）	休日（○は1つ）
1. なし	1. なし
2. 1時間未満	2. 1時間未満
3. 1時間～3時間未満	3. 1時間～3時間未満
4. 3時間～5時間未満	4. 3時間～5時間未満
5. 5時間以上	5. 5時間以上

(3) 介護

平日（○は1つ）	休日（○は1つ）
1. なし	1. なし
2. 1時間未満	2. 1時間未満
3. 1時間～3時間未満	3. 1時間～3時間未満
4. 3時間～5時間未満	4. 3時間～5時間未満
5. 5時間以上	5. 5時間以上

問11 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域活動」「個人生活」の優先度についてお答えください。

あなたの希望とあなたの現実（現状）について、1番と2番はどれですか。

[]内に数字を記入]

あなたの希望

第1に を優先したい

第2に を優先したい

あなたの現実（現状）

第1に が優先されている

第2に が優先されている

↑

1. 仕事 2. 家庭生活 3. 地域活動 4. 個人生活

問12 あなたが、今後、社会・地域活動に参加しようとする時、何かさまたげになるようなことがありますか。〔〇は3つまで〕

1. 仕事が忙しく、時間がない
2. 家事・育児が忙しく、時間がない
3. 子供の世話を頼めるところがない
4. 親や病人の介護を頼めるところがない
5. 自分の健康や体力に自信がない
6. 身近なところに活動する場所がない
7. 経済的な余裕がない
8. 配偶者や家族の理解が得られない
9. 職場の上司や同僚の理解が得られない
10. 自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない
11. その他（ ）
12. 特にさまたげになることはない
13. わからない

問 13 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。[〇は3つまで]

1. 男女の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
2. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること
3. 夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと
4. 労働時間の短縮や休業制度の充実などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
5. 子供の頃から家事、育児、介護などを体験する機会を増やすこと
6. 男性が参加しやすい料理教室や子育て講座などを充実すること
7. その他（ ）
8. 特に必要ない

働くことについておたずねします

問 14 一般に、女性が職業を持つことについて、次のどれが望ましいと思いますか。[〇は1つ]

1. 職業を持ち、結婚や出産に関わらず仕事を続ける
2. 結婚や出産を機にいったん退職し、育児が一段落したら、再び職業を持つ
3. 結婚を機に退職し、後は職業を持たない
4. 出産を機に退職し、後は職業を持たない
5. 職業を持たなくてよい
6. その他（ ）
7. わからない

問 15 令和4年度の「管理職（課長相当職以上）に占める女性の割合」は12.7%※でしたが、女性管理職の割合を増やすために、どのようなことが必要だと思いますか。[〇は3つまで]

※出典：令和4年度雇用均等基本調査(厚生労働省)

1. 家庭（育児・介護等）とキャリアアップの両立に向けた研修の実施
2. 男性の育児休業や時短勤務の推進、保育環境の整備など、女性が働きやすい環境を整備
3. 管理職の負担軽減
4. 異動希望申告制度などを活用した人事配置によるキャリア形成の支援
5. 女性に対する評価・給与制度の見直し
6. 女性管理職の割合を増やす必要はない
7. その他（ ）
8. わからない

問 16 (働いている方に) あなたの今の職場では、性別によって差があると思いますか。
 (働いていない方に) 一般に、職場では、性別によって差があると思いますか。
 [(1)～(9)それぞれに、○は1つ]

	男性の方が 優遇されている	女性の方が 優遇されている	平等である	わからない
(1) 募集・採用	1	2	3	4
(2) 賃金	1	2	3	4
(3) 仕事の内容	1	2	3	4
(4) 昇進・昇格	1	2	3	4
(5) 管理職への登用	1	2	3	4
(6) 能力評価(業績評価・人事考課など)	1	2	3	4
(7) 研修の機会や内容	1	2	3	4
(8) 働き続けやすい雰囲気	1	2	3	4
(9) 育児休業・介護休業などの取得のしやすさ	1	2	3	4

問 17 出産・子育て・介護などの理由で、女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。[○は3つまで]

1. 育児休業・介護休業制度の充実 2. 企業経営者や職場の理解 3. 労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入 4. 子育てや介護のための支援の充実 5. 夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加 6. その他 () 7. わからない
--

問 18 出産・子育て・介護などで仕事を辞めた後、再就職を希望する女性が、再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。[○は3つまで]

1. 就職情報や職業紹介などの相談機関の充実 2. 技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実 3. 育児や介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及 4. 企業経営者や職場の理解 5. 労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入 6. 育児や介護のための施設やサービスの充実 7. 夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加 8. その他 () 9. わからない

問 19 今後、男性が育児休業や介護休業をとりやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。〔〇は3つまで〕

1. 男性が育児休業・介護休業を取得することについて、社会的評価を高める
2. 業務引き継ぎがスムーズにできるような職場の体制づくり
3. 企業経営者や職場の理解
4. 子育てや介護のための支援の充実
5. 妻、パートナーなど家族の理解
6. その他 ()
7. わからない

教育についておたずねします

問 20 一般的に子供には、どの程度の学歴が必要だと思いますか。女の子、男の子、どちらについてもお答えください。〔〇はそれぞれ1つ〕

女の子 (〇は1つ)	男の子 (〇は1つ)
1. 中学校・支援学校中学部 2. 高等学校・支援学校高等部 3. 専門・専修学校 4. 短期大学・高等専門学校 5. 大学 6. 大学院 7. その他 () 8. わからない	1. 中学校・支援学校中学部 2. 高等学校・支援学校高等部 3. 専門・専修学校 4. 短期大学・高等専門学校 5. 大学 6. 大学院 7. その他 () 8. わからない

問 21 男女共同参画を推進していくために、学校、特に小・中・高等学校等でどのようなことが必要だと思いますか。〔〇は3つまで〕

1. 男女平等に関する教職員研修を行う
2. 校長や副校長、教頭に女性を増やしていく
3. 学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする
4. 生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する
5. 男女平等の精神に基づく性教育の充実に努める
6. セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)についての理解を深めるような授業をする
7. 出席簿、座席、ロッカーの順番など、男女を分ける習慣をなくす
8. 保護者会などを通じ、男女平等に関する教育への保護者の理解を深める
9. 学校教育の中で行う必要はない
10. その他 ()
11. わからない

防災対策・災害復興対策についておたずねします

問 22 災害時において、性別や年齢などによる違いや多様性に配慮するために必要なことは、どのようなことですか。〔〇は3つまで〕

1. 避難所運営のルール（区画割りや役割分担など）
2. 避難所の設備（トイレ、更衣室、洗濯干し場など）
3. 医療スタッフ等の配置（男女両方がいることやプライバシーの確保）
4. 災害時に支給する生活用品や食料品の種類や配り方（生理用品をトイレで配る等）
5. その他（ ）

問 23 問 22 で〇をつけたことを実現するために、平時や災害時に必要なことは、どのようなことですか。〔〇は3つまで〕

1. 避難所運営の責任者に、幅広い年齢層の男女がともに参画し、避難所運営や被災者対応に、男女両方の視点が入ること
2. 平時に、避難所の設備やルールについて幅広い年齢層の男女が参画し、話し合っておくこと
3. 平時から、性差や年齢等によって災害から受ける影響やニーズが違うことを教育や啓発で、知っておくこと
4. 災害時に、NPOやボランティアなど外部の支援を受け入れることで、円滑な避難所運営を目指す
5. 災害時に、女性専用、高齢者専用など性差や年齢等によるニーズによって避難所を分ける
6. その他（ ）

次のページからは「ハラスメント」や「暴力」について、ややデリケートな内容をおたずねします。
このような内容について不快感や不安感を感じられる方は、これらの設問には回答せず、13 ページの間 33
まで進んでください。

セクシュアル・ハラスメントや配偶者等からの暴力についておたずねします

問 24 あなたは、今までにセクシュアル・ハラスメントを見聞きしたり、あるいは自分自身が受けた事がありますか。
また、それはどのような内容でしたか。〔〇はいくつでも〕

	自分が受けた ことがあ	聞いたこと がある	見たこと ない
(1) 容姿のことをからかわれた	1	2	3
(2) 未婚、既婚、離婚、妊娠などでからかわれた	1	2	3
(3) 性的なジョークや卑わいなことを言われた	1	2	3
(4) ヌード写真等を貼ったり、見せられたりした	1	2	3
(5) 体をさわられた	1	2	3
(6) 飲酒の席で、横に座らされたりお酌をさせられたりした	1	2	3
(7) 立場を利用した性的な誘いを受けた	1	2	3
(8) その他〔差し支えなければ具体的にお書きください〕 ()	1	2	3

問 25 あなたは、セクシュアル・ハラスメントが同性間でも成立することを知っていますか。〔〇は1つ〕

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問 26 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。それぞれについて、あなたの考えに近いものに〇をつけてください。
〔(1)～(8)それぞれに、〇は1つ〕

	どんな場合でも暴力 にあたると思う	暴力にあたる場合 も、そうでない場合 もあると思う	暴力にあたると思 わない	わからない
(1) 殴る、蹴る、平手で打つ	1	2	3	4
(2) 家具などの物にあたる、壊す	1	2	3	4
(3) おどす、暴言をはく、ばかにする	1	2	3	4
(4) 何を言っても無視し続ける	1	2	3	4
(5) 望まないのに性的な行為を強要する	1	2	3	4
(6) 許可なく本人の性的な写真や動画などを一般に公開する	1	2	3	4
(7) 自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要する	1	2	3	4
(8) 友だちや身内とのメールや電話をチェックしたり、つきあいを制限したりする	1	2	3	4

配偶者（事実婚や別居中を含む）がいる（いた）方におたずねします。

配偶者がいたことがない方は問 28 へお進みください。

問 27 あなたはこれまでに、配偶者から次のようなことをされたことがありますか。

〔(1)～(6)それぞれに、○は1つ〕

	何度もあつた	あつた 1、2度	ない まったく	わからない
(1) 殴る、蹴る、突き飛ばすなどの暴力を受けた	1	2	3	4
(2) 大声でどなられたり、言葉による暴力をあびせられた	1	2	3	4
(3) 必要な生活費を渡さない、自由にお金を使わせないなどの経済的な制限を受けた	1	2	3	4
(4) 交友関係、電話・メール、SNSを細かく監視されたり、身内や友人との付き合いを制限された	1	2	3	4
(5) 性的な行為を強要されたり、避妊に協力してくれなかった	1	2	3	4
(6) 子供の前でばかにされたり、悪口を吹き込まれた	1	2	3	4

交際相手がいる（いた）方におたずねします。

交際相手がいたことがない方は問 30 へお進みください。

問 28 あなたはこれまでに、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。

〔(1)～(6)それぞれに、○は1つ〕

	何度もあつた	あつた 1、2度	ない まったく	わからない
(1) 殴る、蹴る、突き飛ばすなどの暴力を受けた	1	2	3	4
(2) 大声でどなられたり、言葉による暴力をあびせられた	1	2	3	4
(3) デートの費用やお金をいつも負担させられた	1	2	3	4
(4) 交友関係、電話・メール、SNSを細かく監視されたり、友人との付き合いを制限された	1	2	3	4
(5) 性的な行為を強要されたり、避妊に協力してくれなかった	1	2	3	4
(6) 子供の前でばかにされたり、悪口を吹き込まれた	1	2	3	4

問 28-1 問 28 で 1 か 2 (☐ 内) を選んだ方におたずねします。

そのような行為を受けたのはいつのことですか。[○はいくつでも]

1. 10 代未満のとき
2. 10 代のとき
3. 20 代のとき
4. 30 代のとき
5. 40 代以上のとき
6. わからない

問 29 問 27 または問 28 で、ひとつでも 1 か 2 (☐ 内) を選んだ方におたずねします。

そのような行為について、これまでに誰かにうち明けたり、相談したりしましたか。

[○はいくつでも]

1. 警察
2. 法務局・人権擁護委員
3. 配偶者暴力相談支援センター
(大阪府女性相談センター、子ども家庭センター、すいたストップDVステーションなど)
4. その他の公的機関(市役所、男女共同参画センターなど)
5. 民間の機関(支援グループなど)
6. 医療関係者(医師、看護師など)
7. 学校関係者(教員、スクールカウンセラーなど)
8. 家族、親戚
9. 友人、知人
10. その他 ()
11. どこにも相談しなかった ☐ → 問 29-1 へ

問 29-1 問 29 で「11. どこにも相談しなかった」を選んだ方におたずねします。

どこにも相談しなかったのはなぜですか。[○はいくつでも]

1. どこに(誰に)相談したらよいのかわからなかった
2. 誰にも言えなかった
3. 相談しても無駄だと思った
4. 相談したことがわかると仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った
5. 自分さえ我慢したら、なんとかこのままやっていけると思った
6. 相談先の担当者の言動により不快な思いをと思った
7. 世間体が悪い
8. 他人を巻き込みたくない
9. そのことについて思い出したくない
10. 自分にも悪いところがある
11. 相談するほどのことではないと思った
12. その他 ()

この後の質問からは、再度全員におたずねします。

問 30 ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や交際相手などからの暴力）について、あなたが相談できる窓口としてどのようなものを知っていますか。〔〇はいくつでも〕

1. 警察
2. 法務局・人権擁護委員
3. 配偶者暴力相談支援センター
（大阪府女性相談センター、子ども家庭センター、すいたストップDVステーションなど）
4. その他の公的機関（市役所、男女共同参画センターなど）
5. 弁護士
6. 民間の機関（支援グループなど）
7. 医療関係者（医師、看護師など）
8. その他（ ）
9. ひとつも知らない

問 31 ドメスティック・バイオレンスを防ぐためには何が必要だと思いますか。〔〇はいくつでも〕

- | | |
|---------------------------------|--------------------|
| 1. 法律の罰則を強化する | 2. 相談できるところを増やす |
| 3. 市民に対する啓発や情報提供を行う | 4. 加害者に対する啓発を行う |
| 5. 被害を受けた場合に避難できる場所（シェルター）を確保する | 6. 男性も女性も、経済的に自立する |
| 7. 子供の時から暴力を許さない教育を進める | 8. その他（ ） |
| 9. わからない | |

問 32 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。〔〇はいくつでも〕

1. 夫やパートナーからの妻などへの暴力（殴る、蹴る、無視する、大声でどなるなど）
2. 職場、学校、地域活動などにおけるセクシュアル・ハラスメント
3. ストーカー、ちかん行為
4. 女性のヌード写真などを掲載した雑誌
5. 女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を、内容に関係なく使用した広告など
6. 女性の容ぼうを競うミス・コンテスト
7. 「婦人」、「未亡人」のように女性にだけ用いられる言葉
8. 買売春
9. 女性の働く風俗営業
10. その他（ ）
11. 特にない
12. わからない

男女共同参画社会の実現についておたずねします

「男女共同参画社会」とは、男女が、お互いにその人権を尊重しながら、性別にかかわらず、社会のあらゆる分野に共に参画し、責任も分かち合い、個性と能力を十分に発揮できる社会をいいます。

問 33 この男女共同参画社会を推進していくために、今後どのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。〔〇はいくつでも〕

1. 男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う
2. 女性を政策決定の場に積極的に登用する
3. 地域で活動する女性のリーダーを養成する
4. 職場における男女の均等な取り扱いについて啓発し、徹底を図る
5. 妊娠や出産に関わる機能を保護するための施策を充実する
6. 女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する
7. 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する
8. 学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
9. 女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などを充実する
10. 各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する
11. 新聞・テレビなどの各メディアに対し、男女平等を働きかける
12. 女性に対する暴力防止のための施策を充実する
13. その他（ ）
14. 特にない
15. わからない

問 34 次の「ことがら」や「ことば」を知っていますか。
 [(1)～(15)それぞれに、○は1つ]

	知 っ て い る	あ る 聞 い た こ と が	知 ら な か つ た
(1) 男女共同参画社会基本法	1	2	3
(2) 女性活躍推進法	1	2	3
(3) 吹田市男女共同参画推進条例	1	2	3
(4) すいた男女共同参画プラン	1	2	3
(5) すいたストップDVステーション(DV相談室)	1	2	3
(6) W (ダブル) リボンマーク	1	2	3
(7) デートDV	1	2	3
(8) 面前DV	1	2	3
(9) ダイバーシティ (多様性)	1	2	3
(10) LGBT (セクシュアル・マイノリティの総称のひとつ)	1	2	3
(11) ジェンダー (社会的、文化的性差)	1	2	3
(12) ジェンダーギャップ指数 (男女間の格差を健康、教育、経済、政治の4分野の指標を用いて測定した指数)	1	2	3
(13) アンコンシャス・バイアス (無意識・無自覚の差別や偏見)	1	2	3
(14) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康と権利)	1	2	3
(15) SDGs (持続可能な開発目標)	1	2	3

吹田市立男女共同参画センター デュオについておたずねします

「吹田市立男女共同参画センター デュオ」は、男女共同参画の推進に関する施策を実施し、市民及び事業者による男女共同参画の推進に関する取り組みを支援するための拠点施設です。

問 35 あなたは、「吹田市立男女共同参画センター デュオ」を知っていますか。〔〇は1つ〕

1. 知っている

2. 知らない ……→ 問 36 へ

問 35-1 あなたは、「吹田市立男女共同参画センター デュオ」を利用したことがありますか。
〔〇は1つ〕

1. 利用したことがない

2. 利用したことがある ……→ 問 36 へ

問 35-2 利用したことがないのは、なぜですか。〔〇はいくつでも〕

1. 交通が不便

2. 利用したい時間(曜日)に開館していない

3. 参加したい講座等がない

4. 利用したい情報等がない

5. 利用したい部屋・設備がない

6. 男女共同参画センターについての情報がない

7. 場所がわからない

8. 抽選にあたらない

9. その他 ()

10. 特に理由はない

問 36 「吹田市立男女共同参画センター デュオ」ではさまざまな講座を開催しています。

次のテーマの中で、今後実施してほしいテーマがあれば選んでください。〔〇は3つまで〕

1. 料理など暮らしの技術

2. 地域活動

3. 法律・経済・政治など

4. キャリアアップ・就労支援

5. ワーク・ライフ・バランス

6. コミュニケーション

7. 健康・福祉・介護

8. 子育て

9. 暴力防止

10. その他 ()

困難な問題を抱える女性への支援についておたずねします

困難な問題を抱える女性の福祉の増進を図るため、令和6年4月1日に「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」（女性支援法）が施行されました。一人一人のニーズに応じた支援を行い、安心して、かつ、自立して暮らせる社会の実現を目指すための法律です。

問 37 あなたは、困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（女性支援法）が施行されたことを知っていますか。[○は1つ]

- | | | |
|---------|--------------------|--------|
| 1.知っている | 2.聞いたことはあるが内容は知らない | 3.知らない |
|---------|--------------------|--------|

問 38 困難な問題を抱える女性※が、支援につながりやすい体制をつくるために、必要だと思う取り組みは何ですか。〔○はいくつでも〕

※法律では、「困難な問題を抱える女性」とは、性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性その他の様々な事情により日常生活又は社会生活を円滑に営む上で困難な問題を抱える女性（そのおそれのある女性を含む。）と定義されています。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 学校内での相談体制整備 | 2. 市民に対する啓発や情報提供を行う |
| 3. メールやSNSによる相談窓口の拡充 | 4. 休日や夜間の相談窓口の拡充 |
| 5. 同年代の女性相談員による相談受け付け | 6. いつでも安心して休める居場所づくり |
| 7. 支援を行う関係機関の連携強化 | 8. アウトリーチ※による早期発見 |
| 9. その他（ ） | 10. わからない |

※訪問、巡回など積極的に対象者がいる場所に出向いて働きかけること。

男女共同参画に関することで、吹田市へのご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

最後までアンケートにご回答いただきまして、誠にありがとうございました。



吹田市 イメージキャラクター
すいたん

令和6年度（2024年度）
男女共同参画に関する市民意識・実態調査
報告書

令和7年（2025年）1月

吹田市 市民部 人権政策室
〒564-8550 大阪府吹田市泉町1丁目3番40号